

設置の趣旨等を記載した書類

目 次

① 設置の趣旨及び必要性	p.2
② 学部・学科等の特色	p.10
③ 学部・学科等の名称及び学位の名称	p.13
④ 教育課程の編成の考え方及び特色	p.14
⑤ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	p.29
⑥ 多様なメディアを高度に利用して、 授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画	p.34
⑦ 企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	p.34
⑧ 取得可能な資格	p.36
⑨ 入学者選抜の概要	p.37
⑩ 教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色	p.41
⑪ 研究の実施についての考え方、体制、取組	p.42
⑫ 施設、設備等の整備計画	p.44
⑬ 管理運営	p.49
⑭ 自己点検・評価	p.51
⑮ 情報の公表	p.52
⑯ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	p.60
⑰ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	p.62

① 設置の趣旨及び必要性

1. 本学の教育理念と教育目標及び教育方法

文京学院大学は、「自立と共生」を建学の精神とする学校法人文京学院が、その理念を高等教育の場で実現するために設立したものである（2022年4月1日に法人名称を文京学園から文京学院に変更）。2024年に学校法人文京学院は創立100周年、文京学院大学は33周年を迎えた。2014年の90周年の際には、2001年に制定した「文京学院大学21世紀ビジョン」及び2014年に制定した「文京学園90周年ビジョン」【資料1】をまとめたものとして、大学の将来構想「B'sVision2024」【資料2】を発表した。

100周年に向けて「B'sVision2024」にて掲げられた4つのビジョンは、「国際化に対応した地球市民の育成」「ストレス耐性を持った人材の育成」「永久サポート大学」及び「教育力日本一」の実現である。これは、建学の精神「自立と共生」にもとづき、ストレス耐性を持ち（精神的に自立し）、地球市民として（グローバルに共生できる）活躍できる人材の育成を目指すものである。さらに、卒業後も継続して教育の場を提供する「永久サポート大学」の実現を図ることも示されている。これらのビジョンを達成するために、「教育改革戦略」「研究活動戦略」「学生支援戦略」「国際化戦略」「入試広報戦略」「キャリア支援戦略」「地域連携戦略」「経営戦略」「運営戦略」の9つの重点戦略を策定し、取組を進めてきた。

2024年10月に迎えた100周年式典では、新たに「B's Vision 2029」【資料3】を発表した。ここでは、「B's Vision 2024」の成果を検証した上で、建学の精神を2つのミッション「ひとやものと協働しながら社会で自立できる人材の育成」「志（こころざし）ある人に学びの機会と可能性を提供」としてメッセージ化している。1つ目のミッションは、概念、ことば、人がつくった道具、AI等を媒介して、目的を達成するために働きかけ、見知らぬ他者ともコミュニケーションをとりながら問題解決ができる人材の育成が含まれる。また、2つ目のミッションには、対面授業、オンライン授業やコンテンツなどを効果的に併用し、学びの機会と可能性を拡大する教育方法で、キャリアの構成・再構成を支援することが含まれている。そして、引き続き、教育力日本一を目指して、4つの方針「地球市民の育成」「ストレス耐性の高い人材の育成」「学ぶ喜びのある教育環境の提供」「生涯にわたる学修のサポート」を掲げた。

「ヒューマン・データサイエンス学部」の開設は、「B's Vision 2029」のもとで示された2つのミッションの実現に向けて、既存の外国語学部、経営学部、人間学部、保健医療技術学部の経験知にデータサイエンス・AI活用を組み合わせて総合知を生み出す学びの場を新たに創出しようとするものである。

2. 設置の社会的必要性

（1）社会的必要性

日本は、少子高齢化、労働力不足、地方の過疎化、医療・介護負担の増大、気候変動対応、災害リスク、経済格差、サイバーセキュリティなど多くの社会課題を抱えている。これらの課題解決には、ビッグデータ解析やAIによる推論などのIT技術の活用が期待されている。

2016年1月に閣議決定された「第5期科学技術基本計画」においては、「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」として「Society 5.0」が提唱された【資料4】。2021年3月に閣議決定された「第6期科学技術・イノベーション基本計画」では、Society 5.0の未来社会像を「持続可能性と強靭性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ（well-being）を実現できる社会」と表現している【資料5】。

これは、（3）本学における必要性で後述するように、我々が新学部で目指す「人と人、人と地域、人と自然が共生する社会創造」と密接に関係している。さらに、内閣府が2022年3月に示した「『総合知』の基本的考え方及び戦略的に推進する方策」によれば、Society 5.0 の実現に向け、「人文・社会科学の厚みのある「知」の蓄積を図るとともに、自然科学の「知」の融合による、人間や社会の総合的理解と課題解決に資する「総合知」の創出・活用」と、「社会実装に向けた具体的な手段も見出し、社会の変革をもたらすこと」が求められている【資料6】。その具体的な手段として上述の通りデータサイエンス・AI活用が重要視されており、本学のヒューマン・データサイエンス学部設置はこの社会的要請に応えるものである。

（2）人材の必要性

経済産業省「IT人材需給に関する調査（2019年4月）」によれば、少子高齢化による労働人口の減少に加え、技術の進展によりIT分野で求められるスキルや能力が高度化・多様化していることから、2030年には最大約79万人のIT人材が不足すると予測されている【資料7】。また、独立行政法人情報処理推進機構の「DX白書2023」によると、日本企業ではDXを推進する人材の不足が深刻化している。特に、DXを担う人材が「大幅に不足している」と回答した企業の割合は、2021年度の30.6%から2022年度には49.6%へ増加した。また、DXを推進するために必要なスキルや知識を備えた人材についても同様の傾向が見られ、「大幅に不足している」とした企業の割合は30.5%から51.7%へと拡大している。一方、米国では同じ調査において、「人材の量が大幅に不足している」との回答が2021年度の20.9%から2022年度には3.3%へと大幅に減少しており、日本とは対照的な結果となった。この違いの背景には、日本におけるDXの取り組みが広がる一方で、それを担う人材の育成や確保が追いついていないことがあると分析されている【資料8】。

このような背景から、我が国におけるIT人材の育成と確保が急務となっている。

（3）本学における必要性

日本が抱える社会課題の多くは、意思決定や最適化問題に転換することが可能であり、その意味ではデータによる意思決定手法から大きな利益を得ることができると考えられる。しかし、デジタル情報技術の活用は高い収益性を目指す商業分野に偏っており、持続可能な社会課題、とりわけ環境、自然、健康といった分野に充分に応用されているとは言えない。もとより、これらの分野に必要な様々な非言語データの種類やその測定手法自体が少なく、普及に至っていない。本学部では、環境、自然、健康の分野を扱う教育課程を設置するが、その中で非言語データ測定に使用する機器の作製やGIS（Geographic Information System：地理情報システム）などのツール活用もカリキュラムに含めることで、それらの課題の解決の糸口を提供し、内閣府による「総合知」創出の方策につなげることができるを考える。

本学の既存の保健医療技術学部、人間学部、外国語学部、経営学部においては、それぞれの学部の学びの対象である心身の健康、地域開発、環境保全、国際協力、ビジネス分野の社会課題解決に必要な基礎及び専門的知識の伝授に努めてきた。そこで、新学部では、既存4学部の教育・研究活動で培ったドメイン知識に、データサイエンスやAI（機械学習）を応用し、社会課題解決につなげる文理融合型教育を行うことが必要であると着想した。

具体的には、新学部ではSociety5.0に掲げられた「人間中心社会」の実現に向け、既存学部がこれまで

で取り組んできた領域を踏まえ、「個々人の心身の健康、地域における人々と環境との共存、人々の多様な価値観の受容」といった観点から社会課題の解決に寄与するべきと考えた。それらの領域に結び付く3つのドメインとして、「ヘルスケア（Healthcare）」「地域づくり（Regional Development）」「異文化間コミュニケーション（Intercultural Communication）」ドメインを設定する。具体的には、「ヘルスケア」ドメインでは、一人ひとりの心と身体の健康の理解のために必要な基礎知識、さらに健康の維持・促進のための様々なデータ指標の活用を扱う。また「地域づくり」ドメインでは、地域の社会構造と自然環境を含む「持続可能な地域運営」にフォーカスし、住民参加・環境保全・経済振興施策を扱う。最後に「異文化間コミュニケーション」では、異なる文化背景をもつ人々の間での言語・非言語コミュニケーションや比較文化を通して、人々の多様な価値観受容を扱う。以上の3ドメインを設置することで、個人の課題から地域社会、さらには多様な文化との共生に至るまで、さまざまな視点で「人間中心社会」の実現への寄与を目指す。そのために、教育研究の方針として、ドメインの経験知にデータサイエンス・AI活用を「掛け合わせる」ことで、データにもとづいた社会課題の効果的な解決策を提供することを目標とする。

これらのドメインの研究テーマについて、総合知による社会課題解決の提案を目的としたデータサイエンス・AI活用例としては以下が考えられる。

【ヘルスケア（Healthcare）ドメイン】

嚥下機能障害の判定⇒機械学習による画像認識

ウェアラブル端末を用いた時系列バイタルデータの取得と心理指標比較⇒時系列感性・意味波形モデルによる感性遷移の評価

【地域づくり（Regional Development）ドメイン】

産業廃棄物不法投棄のフィールド調査⇒時空間データベースによる解析

特定地域における防災計画⇒防災シミュレーション

地域コミュニティのネットワーク調査⇒ソーシャルダイナミクスによるコミュニティモデル構築

特定地域における人口減少の要因分析と解決案⇒人口動態シミュレーション

【異文化間コミュニケーション（Intercultural Communication）ドメイン】

地域文化財のデジタルアーカイブ化とバーチャル観光資源としての活用⇒VR技術

多言語発信メディアにおける視聴傾向の分析とコンテンツ改善提案 ⇒ アクセスログ解析・機械学習

文学・歴史・報道記事など人文社会学の分析⇒テキストマイニング・トピックモデルによる分析

新学部においては、「社会課題発見」と「データサイエンス・AI活用」をつなげる人材の養成を目的とするため、これらの例に見られる研究教育に取り組む必要がある。

なお、これらのドメイン設定の妥当性を示す一例として、Stanford University における該当の研究所のWebサイトおよびOECDのWebサイトを【資料9】にて示す。

3. 養成する人材像及び教育目標

(1) 養成する人材像

本学部において養成する人材像は、建学の精神「自立と共生」の下、「人と人、人と地域、人と自然が共生する社会創造」に寄与できる人である。その人材養成のために提供する教育・研究の方向性は、「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」ドメインの社会課題の理解・把握、その解決におけるデータサイエンス・AIの活用が主眼となる。また、その教育・研究の推進においては、既存4学部で連携実績のある企業、NPO、自治体や新たに連携を結ぶIT・DX企業などの協力を得る。更に、社会課題に対して様々なステークホルダーとのプロジェクトの立案やマネジメント経験を、学生に提供し、その成果をコミュニティに提案することが社会への還元として必要である。

以上の教育・研究によって身につけられる力を具体的に述べると、

- ① 社会の課題を発見し、その課題を解決するための適切なデータサイエンス・AI活用手法が分かる
 - ② 社会課題解決に適切なデータを取得し、その分析が可能な能力を有す
 - ③ 社会課題に直面する人々やフルデータサイエンティスト¹により構成されるプロジェクトのマネジメントに寄与できる
- とまとめられる。これらを養成する人材が身につけるべき資質として明確にすれば、

社会課題発見スキル × データサイエンス・AI活用スキル × プロジェクトマネジメントスキル
の3つの資質にもとづき、解決策を提案できる能力を持った人材を養成することと換言できる。

(2) 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

学生が卒業までに修得するべき知識・能力を含めた「学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）」について、ここでは、最初に本学の全学部学科統一のディプロマ・ポリシーを記す。なお、大学全体の3つのポリシーは、【資料10】の通りである。

<全学部学科統一ディプロマ・ポリシー>

1. 自己を確立し、多様な背景をもつ他者に共感的にかかわり、社会に貢献することができる。
2. 幅広い教養と専門分野における知識・技能を身につけ、それに基づいて自己を表現し他者と意見交換ができる。
3. 環境の変化に柔軟に対応し、チームで協働することができる。
4. 問題を発見して情報を収集し、その解決に向け努力することができる。
5. 自らの目標をもち、それを達成するために考え主体的に学習することができる。

これにもとづいて、本学部のディプロマ・ポリシーを下記の通り定める。

¹ データサイエンティストのスキルレベル 2021年版. データサイエンティスト協会. <https://www.datascientist.or.jp/common/docs/skilllevel_cps.pdf>, (2025-02-13).

<ヒューマン・データサイエンス学部ディプロマ・ポリシー>

本学部では、下記の DP1～DP4 に定められた能力を修得し、所定の卒業要件を満たした者に、卒業を認定して学位を授与する。

DP1：基本的な教養を身につけており、「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」の 3 つのドメインについて、社会課題を理解・把握できる

DP2：課題を客観的・論理的に解決するためにデータサイエンス・AI を活用できる

DP3：様々なステークホルダーと、課題解決プロジェクトの策定及びマネジメントに寄与することができる

DP4：実社会の課題に対して、データサイエンス・AI を用いて解決策を提案できる

ここで、本学部のディプロマ・ポリシーと全学部学科統一ディプロマ・ポリシーとの関係について補足する。まず、DP3 と DP4 は、「1. 自己を確立し、多様な背景をもつ他者に共感的にかかわり、社会に貢献することができる」ことを目的として設けられた。また、DP1、DP2 及び DP3 は「2. 幅広い教養と専門分野における知識・技能を身につけ、それに基づいて自己を表現し他者と意見交換ができる」を、本学部の扱うドメイン知識とデータサイエンス分野で読み替えたものである。続いて、DP3 は、「3. 環境の変化に柔軟に対応し、チームで協働することができる」ことを目標として記述している。更に、DP1 と DP3 は、「4. 問題を発見して情報を収集し、その解決に向け努力することができる」ことにつながるものである。最後に、DP3 と DP4 を達成することで、「5. 自らの目標をもち、それを達成するために考え主体的に学習することができる」資質が育まれる。

以上の説明を図示したものが表 1 である。

表 1 全学統一 DP とヒューマン・データサイエンス学部 DP との対応

全学統一 DP	ヒューマン・データサイエンス学部 DP
1	DP3、DP4
2	DP1、DP2、DP3
3	DP3
4	DP1、DP3
5	DP3、DP4

次に、文部科学省が設定する「学習成果」についての参考指針²を基に、このディプロマ・ポリシーの詳細及び修得すべき能力を「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「統合的な学習経験と創造的思考力」の 4 つの学士力との対応で述べる。まず、DP1 は、「(DP1-1) 基本的な教養知識を理解している」「(DP1-2) 3 つのドメインに関する基礎的な知識を理解している」「(DP1-3) 1 つまたは複数のドメインについて社会課題を把握できる」から構成され、学士力としては、「知識・理解」に相当する。次に、DP2 は、「(DP2-1) 数量的分析スキル」「(DP2-2) 情報処理能力（データ分析含む）」「(DP2-3) 論理的

²文部科学省. 学士課程共通の「学習成果」に関する参考指針.<https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu10/siryo/attach/1335215.htm>, (2024-07-15).

思考力」「(DP2-4) 問題解決手順」をそれぞれ身につけることであり、学士力としては、「汎用的技能」に含まれる。また、DP3 の実現に必要な力は、「(DP3-1) コミュニケーション力、経営学の基礎知識及びマネジメントスキル」「(DP3-2) 与えられた課題の背景を理解する能力」「(DP3-3) 課題解決に適したデータを収集する力」「(DP3-4) 社会的責任」「(DP3-5) 生涯学習力」と分類され、学士力としては、「態度・志向性」と対応する。最後に、DP4 は、「(DP4-1) ドメイン知識をもとに社会課題を発見できる」「(DP4-2) データサイエンス・AI を活かして、課題解決案を作成できる」「(DP4-3) 課題解決案の妥当性を検討できる」「(DP4-4) 課題解決案の成果を発信できる力を身につけている」といった詳細に分けられ、これらは学士力「統合的な学習経験と創造的思考力」を培うものである。

以上を整理したものを表 2 に示す。

なお、これらの学士力については、「④教育課程の編成の考え方及び特色」で後述するように、量的・質的評価の双方から評価を行う。

表 2 DP の詳細と修得すべき 4 つの学士力の対応

本学部 DP	詳細	学士力
DP1	(DP1-1) 基本的な教養知識を理解している (DP1-2) 3 つのドメインに関する基礎的な知識を理解している (DP1-3) 1 つまたは複数のドメインについて社会課題を把握できる	知識・理解
DP2	(DP2-1) 数量的分析スキルを身につけている (DP2-2) 情報処理能力（データ分析含む）を身につけている (DP2-3) 論理的思考力を身につけている (DP2-4) 問題解決手順を身につけている	汎用的技能
DP3	(DP3-1) コミュニケーション力、経営学の基礎知識及びマネジメントスキルを身につけている (DP3-2) 与えられた課題の背景を理解する能力を身につけている (DP3-3) 課題解決に適したデータを収集する力を身につけている (DP3-4) 社会的責任を身につけている (DP3-5) 生涯学習力を身につけている	態度・志向性
DP4	(DP4-1) ドメイン知識をもとに社会課題を発見できる (DP4-2) データサイエンス・AI を活かして、課題解決案を作成できる (DP4-3) 課題解決案の妥当性を検討できる (DP4-4) 課題解決案の成果を発信できる力を身につけている	統合的な学習経験 と創造的思考力

(3) 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

本学部では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教育課程編成・実施方法（カリ

キュラム・ポリシー）を下記の通り定める。

CP1:社会課題の理解に必要な知識を修得するための科目を配置する

CP2:データサイエンス・AIの基礎から応用までを修得するための科目を配置する

CP3:プロジェクトマネジメント手法及び経営学の基礎知識を修得するための科目を配置する

CP4:データサイエンス・AIを活用して社会課題の解決案を策定するための実践的な科目を配置する

なお、カリキュラム・ポリシーの詳しい説明は「④教育課程の編成の考え方及び特色」にて後述する。

(4) 入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

本学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成・実施方法（カリキュラム・ポリシー）ならびに高校学習指導要領で示される「学力の3要素」①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性・多様性・協働性を踏まえ、入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）を下記のように定める。

AP1：[知識・技能]

AP1-1 高等学校までに修得すべき国語・英語・数学・情報・地理歴史など基礎的な学力を身につけている

AP1-2 文章や資料の内容を正しく理解し、自分の考えをわかりやすく説明する力を備えている

AP2：[思考力・判断力・表現力]

課題を理解し、データを活用して解決策を見出すことに挑戦し、その内容やアイデアを自分の言葉で表現してみたいという意欲を持つ

AP3：[主体性・多様性・協働性]

自ら進んで学ぶ姿勢を持ち、様々な関係者と積極的にコミュニケーションを取り課題解決に向けて取り組む意欲を備えている

【補足】本学部の入学後にデータサイエンスやAI活用方法の学びを深める上で、数学の素養が必要となるため、入学前教育、リメディアル教育、段階的に学べるようカリキュラムを整備してサポート体制を整えている。これにより特定の理工系分野に限定することなく、幅広い人文社会学系分野に関心や背景を持つ学生の学びも支援する。

なお、アドミッション・ポリシーと、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの関係については「⑨入学者選抜の概要」にて後述する。

(5) 養成する人材像と3つのポリシーの関係

ここでは、以上に挙げた養成する人材像、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとアドミッ

ション・ポリシーとの関係について説明する。

まず、養成する人材像と DP の関係を説明する。養成する人材像「人と人、人と地域、人と自然が共生する社会創造」に寄与できる人材に必要な資質としては、本学部では①「社会課題発見スキル」、②「データサイエンス・AI 活用スキル」、③「プロジェクトマネジメントスキル」を身につけて、その応用として④「解決策を提案できる能力」が必要であると考える。そこで、最初の項目である①社会課題発見スキルについては、DP1 に示すように社会課題の理解の基礎となる基本的な教養を身につけることから始め、「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」の 3 つのドメインについて、ドメイン知識の基礎及び学生自身が関心をもったドメインについての知識を掘り下げ、社会課題を把握することを目標に設定した。次に、②データサイエンス・AI 活用スキルの修得であるが、具体的には統計学を中心とした数学、情報処理分野、中でも機械学習など AI アルゴリズムを中心にデータマイニング、IoT データにもとづく分析、時空間データ分析など言語・非言語データ活用方法の習得とそれぞれのドメインの課題解決にむけた実践的応用が重要視されるため、DP2 としてその目標をまとめた。また、社会課題の解決には、その課題に直面している現場の関係者を含む多様なステークホルダーとの連携、意思決定の支援、実装支援、及びコンプライアンス運用が求められる。そのためには、DP3 としてこれらを包含した③プロジェクトマネジメントスキルの修得を提示した。最後に、DP4 に示すように、これら 3 つのスキルを、実社会の課題について適用し、検討・考察を重ねながら解決策を提案し、その提案に対して受けたフィードバックをもとに改善することを学修の最終目標としている。

次に、DP と CP の関係について述べる。まず、CP1 は、DP1 に含まれる「基本的な教養」及び「『ヘルスケア』『地域づくり』『異文化間コミュニケーション』のドメイン知識」をカリキュラムの視点でまとめたものである。次に、CP2 には、DP2 に示す社会課題解決のために必要となるデータサイエンスの手法や AI 活用方法の修得をカリキュラムとして設置する方針を示している。また、プロジェクトのマネジメントには、課題解決のためにステークホルダーとコミュニケーションできる能力と経営学の基礎的知識及びプロジェクトの進捗管理のためのスキルが必要であり、これらは学士力に示した能力に関わるものであることから、DP3 を踏まえ CP3 を設定している。以上の通り、CP1～CP3 により各 DP1～DP3 への到達に必要な科目・実践活動がカリキュラムに配置されるが、CP4 の示す通り、それらカリキュラムの学修成果・実践経験を、ゼミと卒業研究を通して実社会の課題にも適用し、解決策を検討することで DP4 の実現をはかる。

最後に、CP と AP の関係について説明する。まず、CP1 に従って設置される社会科学科目や人文科学科目、CP2 に従って配置される STEM 科目を理解するためには、高等学校までに修得すべき国語・英語・数学・情報・地理歴史などの基礎的な知識、思考力、判断力、表現力等が必要となるため、AP1 及び AP2 として設定されている。また、CP3 に従って配置される実践的なプロジェクトの推進や CP4 に従って実社会の課題を理解・把握し解決案策定に向かうためには、主体性・多様性・協働性が必要となるため AP3 として明記した。

なお、以上の養成する人材像、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、及びアドミッション・ポリシーの関係は、「カリキュラムマップ」【資料 11】に示している。

(6) ヒューマン・データサイエンス学部の研究対象とする中心的な学問分野

本学部が研究対象とする中心的学問分野は、統計学、機械学習・深層学習アルゴリズムに代表されるデ

ータサイエンス・AI 活用の社会課題への適用およびそれらの社会実装に必要なプロジェクトマネジメント手法を包含する応用情報学であり、学問分野としては工学分野となる。ここで、応用情報学とは、情報技術を他の学問分野や社会課題に応用し、実社会の問題解決に資する知識と技術を体系的に探究する学問領域を指す【資料 12】。

なお、この応用情報学の対象として、「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」ドメインの社会課題を扱う。

② 学部・学科等の特色

本学部では、建学の精神「自立と共生」を念頭に「人と人、人と地域、人と自然が共生する社会創造」に寄与できる人材の養成を目標にしている。そのために、「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」の 3 つのドメインでの知識授与、実践的活動及びデータサイエンスに関する教育・研究を促進、さらに様々なステークホルダーとのプロジェクトマネジメント能力の育成が社会に対する重要な役割であると考えている。これらの役割を踏まえ、本学部の特色は下記の 4 つの項目にまとめられる。

- ①文理融合型教育
- ②社会課題とデータサイエンスの適合性を考慮したドメイン別教育
- ③社会課題発見スキル、プロジェクトマネジメントスキル修得のための PBL 教育
- ④「社会課題発見スキル×データサイエンス・AI 活用スキル×プロジェクトマネジメントスキル」を実現するゼミナール・卒業研究

以下、これら 4 つの特色について詳述する。

1. 文理融合型教育

第 1 の特色は、人文・社会科学的な視点から社会課題を理解・把握し、その解決に向けたデータの収集・処理・分析手法や AI 活用法などの工学的手法を学ぶ文理融合型の教育を提供する点である。特筆すべき点は、「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」といった多様な分野を 1 つの学部内で学び、社会課題に取り組めることである。したがって、入学者は文系・理系を問わず、広く社会課題の解決に情熱・興味・関心を持つ人を対象とし、卒業時には、広い視野で社会課題を理解・把握・発見する力と、データにもとづく合理的な意思決定・課題解決に貢献できる力を備えた人材を育成することを目指す。

具体的には、1~2 年次を中心に「データサイエンス科目」でデータサイエンスの基本的な手法やその応用を学び、同時に「ヒューマン・ドメイン科目」(定義は、「③ 学部・学科等の名称及び学位の名称」で後述する) で 3 つのドメイン「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」の基礎知識を幅広く学ぶ。また、後述のように社会課題解決に向け 3 年次の「実践科目」のうち「ドメインとデータ解析演習」科目で 3 つのドメインにおいてデータ解析手法を活用し課題解決につなげるための知識を学ぶ。4 年次の「卒業研究」では、社会課題への解決策の提案とデータサイエンス・AI 活用を組み合わせる研究を行う。これにより文理融合を明確にカリキュラムとして提供している。

2. 社会課題とデータサイエンスの適合性を考慮したドメイン別教育

本学の既存 4 学部は、これまで産学官連携で社会貢献を行ってきた。その経験を生かし、「ヘルスケア」「地域づくり」そして「異文化間コミュニケーション」の 3 つのドメインを設定し、ドメイン別知識の習得と各ドメインに適合したデータサイエンス教育を提供する点が第 2 の特色である。

ドメイン別に適合するデータサイエンス科目・実践科目を挙げると下記の表 3 の通りである。データサイエンス手法の理論を中心に学ぶ科目に加えて、「ドメインとデータ解析演習」は後述する通り各ドメインの事例とともに実践的なデータ分析を行う科目である。

表 3 ドメイン別に適合するデータサイエンス科目・実践科目

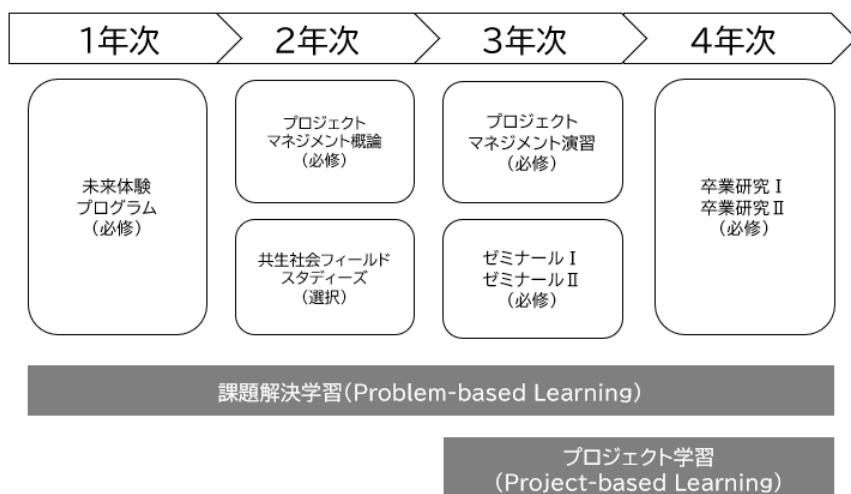
ドメイン	データサイエンス科目・実践科目
ヘルスケア	「ヒューマンデータ可視化法」「音声解析概論」「画像解析概論」「自然言語解析概論」「IoT とヒューマンデータ」「トピックモデル概論」 「ドメインとデータ解析演習 A」（トピックモデル） 「ドメインとデータ解析演習 B」（画像解析） 「ドメインとデータ解析演習 C」（音声解析） 「ドメインとデータ解析演習 D」（LLM） 「ドメインとデータ解析演習 F」（IoT とヘルスケア）
地域づくり	「シミュレーション論」「自然言語解析概論」「時空間データ分析」「IoT と GIS」 「ドメインとデータ解析演習 E」（GIS） 「ドメインとデータ解析演習 D」（LLM） 「ドメインとデータ解析演習 G」（IoT とまちづくり）
異文化間コミュニケーション	「音声解析概論」「自然言語解析概論」「トピックモデル概論」 「ドメインとデータ解析演習 A（トピックモデル）」 「ドメインとデータ解析演習 C（音声解析）」 「ドメインとデータ解析演習 D（LLM）」

3. 社会課題発見スキル、プロジェクトマネジメントスキル修得のための PBL 教育

第 3 の特色は、社会課題発見スキルとプロジェクトマネジメントスキルの習得を目的とした PBL 型教育を配置している点である。PBL 型教育は「課題解決型学習 (Problem Based Learning)」と「プロジェクト型学習 (Project Based Learning)」から構成される。1 年次には課題解決型学習 (Problem Based Learning) として、「未来体験プログラム」を必修科目として配置する。社会課題の解決を目指す地域企業、NPO 及びその支援を行う ICT 企業等を招き、実在する課題のケースを題材に、学生は実社会における課題の発見からデータの収集、分析、解決に向けたプロセスを、現場での体験やディスカッション等と組み合わせながら体験する。課題解決プロセスの見本を示すことで、学生は社会課題を理解・把握するこ

との必要性や ICT 活用及びデータサイエンス・AI 活用の重要性を理解する。2 年次には選択科目として同じく課題解決型学習 (Problem Based Learning) の「共生社会フィールドスタディーズ」を配置し、希望者は長期間にわたる企業等での実習を通じ、社会課題の理解・把握・発見からデータサイエンス・AI 活用の必要性を理解することができる。2 年次後期には必修科目「プロジェクトマネジメント概論」において、社会課題の解決に向けたプロジェクトのマネジメント方法の基礎を身につける。その上で、3 年次にはプロジェクト型学習 (Project Based Learning) として必修科目「プロジェクトマネジメント演習」を配置し、2 年次までに学んだデータサイエンスの基礎とプロジェクトマネジメント手法を応用し、プロジェクトをチームで推進する実践的な学びを行う。このプロジェクトでは連携する企業や NPO を招き、解決すべき課題に対して、データの収集、分析、解決に向けた仮説の設定までをグループで検討し、企業等からのフィードバックを得ながら最終発表を行う。このように、本学部では 1 年次必修科目「未来体験プログラム」と 2 年次必修科目「プロジェクトマネジメント概論」及び 3 年次必修科目「プロジェクトマネジメント演習」を通して、学生が社会課題の発見から解決策の提示までのプロジェクト推進を経験できるカリキュラムを提供している。補足として、図 1 に本節で記した PBL 教育の配置を示す。

図 1 社会課題発見スキル、プロジェクトマネジメントスキル修得のための PBL 教育の配置



4. 「社会課題発見スキル×データサイエンス・AI 活用スキル×プロジェクトマネジメントスキル」を実現させるゼミナール・卒業研究

第 4 の特色として、本学部では「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」のドメインにおいて社会課題を発見し、データサイエンス・AI を活用して課題の分析や解決策を提示する力を養うため、学生が選択したドメインの研究テーマとデータサイエンス・AI を統合させたゼミナールを配置する。具体的には、3 年次から所属するゼミの指導教員が専門とする各ドメインに関する知識を身につける。更に、該当のドメインに対して応用が可能なデータサイエンス・AI 手法の活用を STEM 教育担当の教員が支援する。最終学年では、ゼミナールでの学びにプロジェクトマネジメント科目から得た知見も加えて、個人またはチームで設定した課題についての卒業研究に取組む。これにより、学生は実社会で直

面する複雑な課題に対して、データの収集から分析を行い、解決策を提示する力を身につける。

現代の社会課題は完全に分割することはできず、相互に複雑に絡み合っているため、本学部では、どのドメインのゼミを選択した学生も、他のドメインの担当専門教員の助言を受けることが可能なオープンな研究推進体制も提供する。そのための調整は、学部長及びドメイン担当主任が担当する。

③ 学部・学科等の名称及び学位の名称

学部名：ヒューマン・データサイエンス学部	Faculty of Human-centered Data Science
学科名：ヒューマン・データサイエンス学科	Department of Human-centered Data Science
学位名：学士（ヒューマン・データサイエンス）	Bachelor of Human-centered Data Science

本学部は、「①設置の趣旨及び必要性」の「3. (1) 養成する人材像」で記した通り「人と人、人と地域、人と自然が共生する社会創造」に寄与できる人材の養成を目指している。本学部が示す社会像は、Society 5.0 構想が掲げる『人間中心社会』を、本学の建学の精神にもとづき解釈したものである。具体的に、本学部・学科が対象とする分野としては、「②学部・学科等の特色」の「2.社会課題とデータサイエンスの適合性を考慮したドメイン別教育」で示したように「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」ドメインである。これらのドメインでのデータ利活用は、下記のように人間中心社会という視点での共生や持続可能性を促進するものである。

- ① 心や体の健康上の課題に対処するデータサイエンス手法の新たな進歩
- ② 持続可能性課題にデータサイエンスを適用する新しい研究
- ③ 人文社会分野の文献やデータ分析による人間精神生活の理解

こういった社会課題に焦点を当て、データサイエンスおよびAIを用いて人間の意思決定を支援する取り組みは、北米の高等教育機関での導入が見られ、“Human-centered Data Science”という新たな学問体系が構築されつつある^{3,4}。本学部の学部学科名称「ヒューマン・データサイエンス学部ヒューマン・データサイエンス学科」は、この“Human-centered Data Science”的概念に着想を得たものである。従って、学部名の英語表記は「Faculty of Human-centered Data Science」、学科名は「Department of Human-centered Data Science」とする。

なお、「ヒューマン・データサイエンス」は「ヒューマンデータ＝身体に関するデータ」とは異なる概念であることを明確にするため、「ヒューマン」と「データサイエンス」の間に中点「・」を付す。

次に、学位の名称について説明する。本学部として解釈する人間中心社会の実現への寄与は、本学部が養成する人材像として示した3つの資質「社会課題発見スキル」「データサイエンス・AI活用スキル」「プロジェクトマネジメントスキル」を統合的に身につけることによって実現される。そこで、本学部が示す社会課題の範囲を明確にするために、上述の①～③に示した人間中心社会の実現のために理解・把握す

³ Cecilia Aragon, Shion Guha, Marina Kogan, Michael Muller and Gina Neff. Human-Centered Data Science. The MIT Press, 2022, p.200.

⁴ University of Tront. “Human-Centred Data Science”. <<https://ischool.utoronto.ca/master-of-information/human-centred-data-science/>>, (2025-06-19).

るべき社会課題のドメイン（「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」）を、「ヒューマン・ドメイン」と定義づけることとする。すなわち、本学部の教育課程における学位取得には「ヒューマン・ドメイン科目」「データサイエンス科目」「プロジェクトマネジメント科目」から必要単位を修得し、「実践科目」においてそれらを実践し統合することが必要である。換言すれば、本学部の学位を修得することは、本学が定義する「ヒューマン・ドメイン」について、データサイエンス・AI の活用による社会課題解決の提案ができる人材であることを保証するものである。このような観点から、学位の名称を「学士（ヒューマン・データサイエンス）」とする。英語表記は、「Bachelor of Human-centered Data Science」である。

ここで、学位の分野が工学関係である点について補足説明する。次章「④教育課程の編成の考え方及び特色」に記す教育課程から示すと、データサイエンス科目区分において「情報処理・計算・データ分析」「システム化」「情報倫理・情報社会」の知識・技能を修得する科目を配置していることに加え、実践科目区分における「ドメインとデータ解析」では、具体的なドメインの事例に対してデータ解析手法を適用する実践的スキルを養う科目を配置している。さらに、プロジェクトマネジメント科目区分では、課題解決型学習やプロジェクト型学習、経営学の基礎に関する科目を通じて、データサイエンス・AI の活用スキルを実社会で実装するためのプロジェクト推進能力を育成する科目を配置している。最終的には、社会課題に対する解決策を提案する力を身につける「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」を4年次に配置し、その研究に対し基幹教員（工学博士及び理学博士）がデータの収集・分析に関する質保証を行う。以上により、本学部の教育課程には、応用情報学として必要な研究内容が含まれており、学位の分野が工学以外ではないことが示される。

④ 教育課程の編成の考え方及び特色

1. 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）と教育課程の概要

本学部では、養成する人材像の教育目標及び学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を定めるとともに、教育課程を基礎学力及び幅広い教養を培う「大学特別科目」「教養科目」「キャリア・インターンシップ科目」「学科基礎科目」、データサイエンスの基礎から応用を学ぶ「データサイエンス科目」、ドメインに関する知識を学ぶ「ヒューマン・ドメイン科目」、プロジェクトマネジメントスキルを学ぶ「プロジェクトマネジメント科目」そしてこれまで学んだことを掛け合わせ実践する「実践科目」に分類する。

具体的な教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）及び教育課程の概要は下記の通りである。

<教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）>

本学部では下記の通り、【教育課程の編成の考え方】、【教育方法の考え方】に従って教育課程を編成し、後述する【評価方法の考え方】で示す各成果物へのフィードバックも行うことでカリキュラムの理解促進をはかる。

まず、【教育課程の編成の考え方】は、「①設置の趣旨及び必要性」の3. 養成する人材像及び教育目標、(3) 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）で概要を述べたように、

CP1:社会課題の理解に必要な知識を修得するための科目を配置する

CP2:データサイエンス・AI の基礎から応用までを修得するための科目を配置する

CP3:プロジェクトマネジメント手法及び経営学の基礎知識を修得するための科目を配置する

CP4:データサイエンス・AI を活用して社会課題の解決案を策定するための実践的な科目を配置する

である。下記にて、それぞれの CP の概略を述べる。

CP1：本学部の養成する人材像の教育目標及びディプロマ・ポリシーの DP1「知識・理解」を達成するため、「大学特別科目」「教養科目」「キャリア・インターンシップ科目」区分で共生社会、英語、基本的な教養、キャリアデザインなどの基礎的な教養を身につける。また、「学科基礎科目」区分の「初年次演習Ⅰ」「初年次演習Ⅱ」にてアカデミックレポートの書き方やアカデミックリテラシー等の大学での学びへの基礎を整える他、「データサイエンスへのいざない」ではアートを題材にデータサイエンスを学ぶために必要となる数学やプログラミングの基礎を振り返り、大学での学びに必要となる自学自習能力および学習言語能力を修得する。「ヒューマン・ドメイン科目」区分の「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」では 3 つのドメインに関する社会課題を理解・把握するための基本的知識を身につける。

CP2：DP2「汎用的技能」を達成するため、「データサイエンス科目」区分の科目を通じて、データサイエンスに必要な数学、統計学、情報学、データ分析の基礎から応用までを 1 年次から 3 年次にかけて体系的に学習し、身につけられるようとする。「データサイエンス科目」区分はさらに「データサイエンス」「データエンジニアリング」「AI」「数理・統計」から構成される。なお、本学部では数学的素養に不安のある学生も無理なく学べるよう、入学前教育および 1 年前期にリメディアル科目「基礎数学」を配置し、基礎力の補完とスムーズな導入を図っている。さらに、「データサイエンスへのいざない」「ドメインとデータサイエンス」などの初学者向け科目と連携させることで、データサイエンス・AI に必要な数学的思考を段階的に育成する体制を整えている。

CP3：ディプロマ・ポリシーの DP3「態度・志向性」を達成するため、「プロジェクトマネジメント科目」区分の「プロジェクトマネジメント」にて 1 年次に課題解決型学習（Problem Based Learning）科目「未来体験プログラム」を配置する。この科目によって、社会課題解決に向けて ICT 等を活用する企業の取り組みを体験・理解することで、データサイエンス・AI 活用手法の学修意欲の向上をはかる。2 年次には、必修科目「プロジェクトマネジメント概論」を配置し、様々なステークホルダーにより構成されるプロジェクトを管理する手法を学ぶ。また、3 年次にプロジェクト型学習（Project Based Learning）の必修科目「プロジェクトマネジメント演習」を配置する。この科目では、学生は実社会の事例の学習を通して主体的・能動的に社会課題を理解し、プロジェクトマネジメントに必要な態度・志向性を身につける。また、「経営学基礎」科目では、社会課題解決の実効性やその実装の継続性を確保するために必要な経営学の基礎知識を学ぶ科目を配置する。

CP4：ディプロマ・ポリシーの DP4「統合的な学習経験と創造的思考力」を達成するため、「実践科目」

区分の「ドメインとデータ解析演習」にて、学習したデータサイエンス・AI手法を具体的な各ドメインの事例に適用・分析することで実践的な理解を促進する。実社会の課題を発見するとともに、解決に向けデータ収集・分析の流れを自らが企画・立案し解決案を提案することで、ドメイン知識・データサイエンスを修得する4年間の学びの集大成として「ゼミナール」「卒業研究」を配置する。

【教育方法の考え方】

i) 履修モデルの提示と指導

卒業後の進路を踏まえ、4年間の学びのカリキュラムマップ【資料11】及び履修モデル【資料13】を提示することにより、1~4年次の学びの流れを理解しやすくし、体系的・効果的な履修を支援する。特に3年次からはドメイン別に学びを専門化させていくため、履修に関しては、教務ガイダンスで1年次から説明を行って理解を促進すると同時に、3年には4年次「卒業研究Ⅱ」の中間報告会、最終報告会への参加を推奨する。また、教員はオフィスアワーにて学生への質問等に答える時間を十分確保するよう努力する。

ii) 主体的・能動的な学びを自立して行う人材の育成

1年次の早い段階から実際の社会において課題解決を行う企業等の現場を体験する「未来体験プログラム」を履修することで、学生は実社会における課題発掘や解決までの流れを理解し、3年次のプロジェクト型学習「プロジェクトマネジメント演習」へとスムーズに移行することが可能になる。その結果、4年次の「卒業研究」へと段階的に途切れることなく学修成果が蓄積される教育指導を行うことが可能となり、データサイエンス・AI活用への志向性を有し主体的・能動的な態度で学修を行うことができる人材の育成へとつなげる。

iii) 学修内容、研究内容の学内外への発表の場の提供

3年次の「プロジェクトマネジメント演習」では、複数のクラスに分かれてそれぞれのテーマに応じてプロジェクトを実施する。最終授業においては全クラス合同の最終報告会を開催し、各プロジェクトにおける社会課題の発見から解決策の提案に至るプロセス、及びその学修成果を教職員、学生に対して発表する機会を設ける。また、他学年の学生、学内の教職員、連携先企業・団体の関係者にも参加を呼びかけるオープンな報告会とし、様々な視点からの評価（客観的及び相互的な評価）を得る場とする。

4年次の「卒業研究」においては学生の卒業研究について中間報告会及び最終報告会を実施する。この報告会については、3年次学生は参加を推奨、1・2年次の学生も自由に参加できる形式とし、低学年の学生が自身の希望ゼミや研究テーマを検討する際の参考になるようにする。

iv) ドメイン別教育の相互連携

複数のドメインにまたがる社会課題などを想定して学科科目や卒業研究においては、学部長と3ドメイン担当主任が定期的に集まり、学生の疑問や研究テーマを共有し、効果的な助言などを検討する。

【評価方法の考え方】

本学のアセスメント・ポリシーは、下記の通りである。

文京学院大学アセスメント・ポリシー

(目的)

- (1) 文京学院大学では、各学部・研究科等で定める学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で示された学修成果の到達度を高めるために教学アセスメント（教育に関する各種データ・資料等の収集、分析、点検、評価）を実施する。
- (2) 各学部・研究科等は、学位授与の方針を定める学科、専攻等ごとに、具体的な評価方法等をアセスメント・チェックリストにより明示する。
- (3) 各学部・研究科等は、教学アセスメントを実施するための組織を置く。
- (4) 各学部・研究科等は、教学 I R 室の支援を受けて、教学アセスメントを定期的に実施する。
本学ディプロマ・ポリシーに基づき達成度を測ることを目的に以下のアセスメントは大学共通として実施する

(実施体制)

- (1) 大学の教学アセスメント実施責任者は、教学担当副学長とする。
- (2) 大学全体の教学アセスメントは、全学教務委員会において実施する。

また、大学全体のアセスメント・チェックリストは表4の通りである。全学年で9月・2月に教員による成績評価（客観評価、直接評価）、そしてその成績にもとづいてそれぞれ9~10月、2月~4月にDP到達度チェックとその振り返りを行う。客観評価、直接評価としては、上述の成績評価に加え1・3年次にGPS Academic⁵も実施する。間接評価としては、全学年で10~11月に学修状況調査、卒業時に卒業生アンケートを実施する。

表4 文京学院大学 アセスメント・チェックリスト

名称	実施時期	対象	内容・質問項目等	手法	評価者	結果の活用方法	実施者
成績評価	9月、2月	全学年	GPA	B'sLINK	各授業担当者	クラスアドバイザー 面談等に活用	各学部
DP 到達度 チェック	9-10月、 2-4月	全学年	DP にもとづいた GP の総合評 価	B'sLINK	学生	クラスアドバイザー 面談等に活用	各学部
GPS- Academic	1年:6-7月 3年:4-5月	1、3年	思考力、姿勢・態 度、経験	CBT	学生	クラスアドバイザー 面談等に活用	各学部
学修状況調査	10-11月	全学年	学修状況 授業満足度 学習環境満足度	Forms	学生	教学 IR 室により 分析	学生部・教務 部合同調査
卒業生 アンケート	2-3月	4年	在籍中学修、学修 環境満足度等	Forms	学生	教学 IR 室により 分析	戦略企画・IR 推進室

【補足】 手法については、下記の通りである。

B's LINK：全学で使用している履修登録・成績入力システム

⁵ Benesse i-career. GPS-Academic とは. <https://www.benesse-i-career.co.jp/gps_academic/index.html>, (2025-03-02).

本学部では、以上のアセスメント・ポリシーとアセスメント・チェックリストをもとに、学部独自のディプロマ・ポリシーの到達度の評価方法として PEPA⁶ (Pivotal Embedded Performance Assessment)、すなわち重点科目に埋め込まれたパフォーマンス評価を中心に据える。

具体的には、ディプロマ・ポリシーを構成する学士力の養成を、おおよそ表 5 のように配置するようカリキュラムを設計しており、対応する重点科目の成果物を通して学生の成長の軌跡を評価する。重点科目は、カリキュラム・ポリシーにもとづく学士力に対応した必修科目を中心に設定する（一部、選択科目や検定資格も含む）。

表 5 学士力と対応する科目区分の配当年次

配当年次	学士力
1~2 年次	「知識・理解」「汎用的技能」
3 年次	「汎用的技能」「態度・志向性」
4 年次	「態度・志向性」「統合的な学習経験と創造的思考力」

それぞれの学士力の評価については、下記の手法を採用する。

「知識・理解」「汎用的技能」：客観試験による量的評価、ポートフォリオによるパフォーマンス評価
 「態度・志向性」「統合的な学習経験と創造的思考力」：ポートフォリオ（ショーケース）によるパフォーマンス評価

なお、ポートフォリオ（ショーケース）の活用においては、AAC&U Value Rubric のバリュールーブリック⁷を用いて自己評価や必要に応じて相互評価を行い、教員による客観的評価（成績等）を合わせて、自らの振り返りを行うことでメタ認知の育成も行い、学生自身の生涯学習能力の醸成にも寄与する。具体的なバリュールーブリックはチームワーク、情報リテラシー、生涯学習の基礎とスキル、創造的思考、探求と分析、統合的学習、批判的思考、問題解決力、量的分析リテラシーを選定し、ICT で実装されたポートフォリオ（ショーケース）システムを活用して自己評価及び授業クラスやゼミ生同士による相互評価を行う。

表 6 重点科目と成果物例

学年	知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力
1 年次	「ドメインとデータサイエンス」（レポート（知識確認））、「ヘルスケア入門」、「地域づくり入門」、「異文化間コミュニケーション」	「基礎統計学」（統計検定 2・3 級相当の成績） 「統計検定 3 級」【資格試験・任意】	「未来体験プログラム」（レポート・ショーケース）	

⁶ 中央教育審議会大学分科会.学習成果とその可視化.<https://www.mext.go.jp/kaigisiryo/2019/07/_icsFiles/afieldfile/2019/07/04/1417846_2.pdf>, (2025-03-02).

⁷ American Association of Colleges and Universities. Value Rubrics. <<https://www.aacu.org/initiatives/value-initiative/value-rubrics>>, (2025-03-02).

学年	知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力
	「入門」(レポート(知識確認))			
2年次	「経営学入門」「ヒューマン・ドメイン科目」から履修した科目(レポート(知識確認))	「プログラミングIII」(成果物・ポートフォリオ(ショーケース))、「統計検定2級」【資格試験・任意】	「プロジェクトマネジメント概論」(成果物・ポートフォリオ(ショーケース))、「共生社会フィールドスタディーズ」(プレゼンスライド・ショーケース)【任意】	
3年次		MDASH 応用基礎修了認定(ディプロマ・サプリメント) 「データサイエンス科目」(「⑧取得可能な資格」に記載の各種資格)	「プロジェクトマネジメント演習」(プレゼンスライド・ショーケース)	「ゼミナール」(プレゼンスライド・ポートフォリオ)
4年次			「卒業研究I・II」(卒業研究成果物、ショーケース)	

更に、以上の評価方法設計に従って、個々の科目レベルの到達目標を設定し、シラバスに到達目標、成績評価、評価の方法などを具体的に提示する。これにより、各教員への評価設計思想の浸透を図る。

ここまで述べたアセスメント設計にもとづいて、本学部のアセスメント・チェックの内容を記すと、まず、全学年で9月・2月に教員による成績評価(客観評価、直接評価)、そしてその成績にもとづいてそれぞれ9~10月、2月から4月にDP到達度チェックとその振り返りを行う。また、セメスターごとの成績評価だけでなく、PEPAによる成長過程の評価(質的評価、直接評価)を9月、2月を中心に面談等で隨時実施する。

客観評価、直接評価としては、上述の成績評価に加え1・3年次にGPS-Academicも実施する。また、資格試験も統計検定(2・3級)受験を推奨する。

間接評価としては、全学年で10~11月に学修状況調査、卒業時に卒業生アンケートを実施する。

以上をまとめると、表7アセスメント・チェックリストのように定められる。

表7 ヒューマン・データサイエンス学部 アセスメント・チェックリスト

名称	実施時期	対象	内容・質問項目等	手法	評価者	結果の活用方法	実施者
成績評価	9月、2月	全学年	GPA	B'sLINK	各授業担当者	クラスアドバイザー 面談等に活用	ヒューマン・ データサイエ ンス学部
DP 到達度 チェック	9-10月、 2-4月	全学年	DP にもとづい た GP の総合評 価	B'sLINK	学生	クラスアドバイザー 面談等に活用	ヒューマン・ データサイエ ンス学部
PEPA	9月、2月	全学年	重点科目の質的 評価	ポートフ オリオ・シ ョーケー ス	各クラスアド バイザー ドメイン担当 主任	クラスアドバイザー 面談等に活用	ヒューマン・ データサイエ ンス学部
GPS- Academic	1年:6-7月 3年:4-5月	1、3年	思考力、姿勢・態 度、経験	CBT	学生	クラスアドバイザー 面談等に活用	ヒューマン・ データサイエ ンス学部
資格取得	随時	2・3年生	統計検定	客観試験	学生	クラスアドバイザー 面談等に活用	ヒューマン・ データサイエ ンス学部
学修状況調査	10-11月	全学年	学修状況 授業満足度 学習環境満足度	Forms	学生	教学 IR 室により 分析	学生部・教務 部合同調査
卒業生 アンケート	2-3月	4年	在籍中学修、学習 環境満足度等	Forms	学生	教学 IR 室により 分析	戦略企画・IR 推進室

【補足】 手法については、下記の通りである。

B'sLINK：全学で使用している履修登録・成績入力システム

ポートフォリオ・ショーケース：本学部で使用しているポートフォリオ・ショーケースシステム

<教育課程の概要>

本学部の教育課程は下記の科目区分によって構成される。科目区分構成については、次章で詳述する。

- (A) 大学特別科目
- (B) 教養科目
- (C) キャリア・インターナシップ科目
- (D) 学科基礎科目
- (E) データサイエンス科目
 - データサイエンス
 - データエンジニアリング
 - AI

- 数理・統計
- (F) ヒューマン・ドメイン科目
- ヘルスケア
 - 地域づくり
 - 異文化間コミュニケーション
- (G) プロジェクトマネジメント科目
- プロジェクトマネジメント
 - 経営学基礎
- (H) 実践科目
- ドメインとデータ解析
 - ゼミナール
 - 卒業研究

2. 科目区分と科目構成

「大学特別科目」「教養科目」「キャリア・インターンシップ科目」区分においては、「CP1: 社会課題の理解に必要な知識を修得するための科目を配置する」のもと、人と人、人と地域、人と自然が共生する社会についての基本的な教養を育む。具体的には、共生社会、情報リテラシー、英語、スポーツやその他社会について理解するための教養科目、キャリア科目を配置する。「学科基礎科目」区分においては、「CP1: 社会課題を理解するための知識を修得するための科目を配置する」のもと、大学での学びの準備のため、1年次にアカデミックレポートの書き方等を修得する初年次教育科目、データサイエンスを学ぶための基礎を身につける科目を配置する。次に、「CP2: データサイエンス・AI の基礎から応用までを修得するための科目を配置する」にもとづき、1~3年次を通してデータサイエンス・AI の基礎から応用までを学習する「データサイエンス科目」区分を配置し、データサイエンス技能だけではなく、社会課題の解決に得られたデータをどのように活用していくのかを理解するための基礎知識や学習方法を身につけていく。

「ヒューマン・ドメイン科目」区分では、「CP1: 社会課題の理解に必要な知識を修得するための科目を配置する」にもとづき、本学部が定める3つのドメイン領域についての基礎的な知識を身につけるための科目を配置する。「プロジェクトマネジメント科目」では、「CP3: プロジェクトマネジメント手法及び経営学の基礎知識を修得するための科目を配置する」のもと、実社会に触れる課題解決型の科目から、2年次後期のプロジェクトマネジメントの理論に関する科目、経営学の基礎知識に関する科目、そして3年のプロジェクト型学習であるプロジェクトマネジメント演習科目を配置する。また、3年次からは、「CP4: データサイエンス・AI を活用して社会課題の解決策を策定するための実践的な科目を配置する」の方針のもと、2年次までに身につけたドメイン知識とデータサイエンス技術を統合する「実践科目」区分を設置する。これには、各ドメイン領域でデータ解析の手法を適用する「ドメインとデータ解析演習」を含める。また、社会課題の解決に向けたデータ分析やドメイン知識の応用を通じて、創造的思考力を養い、解決策を提案する力を培うことを目的に、2年に渡って同一教員が担当するゼミナールと卒業研究を配置する。

以上のように、CP1、CP2、CP3により開講される科目においてそれぞれ「社会課題発見スキル」「データサイエンス・AI 活用スキル」「プロジェクトマネジメントスキル」を身につけ、CP4により開講され

る科目においてそれらのスキルを組み合わせ、社会課題に対する解決策を提案する能力を養う科目構成となっている。

カリキュラム・ポリシーと対応する科目区分を、表8に示す。

表8 カリキュラム・ポリシーと対応する科目区分

カリキュラム・ポリシー	対応する科目区分
CP1:社会課題の理解に必要な知識を修得するための科目を配置する	「大学特別科目」 「教養科目」 「学科基礎科目」 「キャリア・インターンシップ科目」 「ヒューマン・ドメイン科目」
CP2:データサイエンス・AIの基礎から応用までを修得するための科目を配置する	「データサイエンス科目」
CP3:プロジェクトマネジメント手法及び経営学の基礎知識を修得するための科目を配置する	「プロジェクトマネジメント科目」
CP4:データサイエンス・AIを活用して社会課題の解決案を策定するための実践的な科目を配置する	「実践科目」

それぞれの科目区分について、詳細は下記の通りである。

なお、科目ごとに対応するディプロマ・ポリシーについては、【資料14】にて示す。

(A) 「大学特別科目」

建学の精神及び共生社会についての理解を深める科目を配置する本区分の科目は、全学部で共通して開講されるものである。

1年次前期には、「人間共生論」を必修科目として配置する。この科目は、共生社会の実現に向けて、人間として大切な「自立と共生」を本学創立者の生き方から学び、グローバルな視野と思想を持つ21世紀の地球市民として成長することを目的とする。具体的には、人権の思想と倫理、人権保障、貧困問題や人と自然の共生思想、生物多様性のメカニズムなどを学ぶ。また、大学の歴史、社会的な役割、行われている教育内容や成果など、自校の特性や現状を学ぶ自校教育を実施する。

(B) 「教養科目」

社会課題を理解するための基本的な教養を身につける科目を配置する。

◆必修科目

「情報リテラシーI」「情報リテラシーII」では、一般的なワープロソフト、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトの活用手法を身につける。「英語I」「英語II」では、データサイエンスに関連したトピックを通じて英語の基礎スキルを身につける。

◆選択科目

多様な視野を身につけるための基本的な教養科目や社会について理解するための教養科目として、「日本国憲法」「法学」「哲学」「ジェンダー論」「経済学」「フィットネス科学」「フィットネス科学演習Ⅰ」「フィットネス科学演習Ⅱ」「ジェンダード・イノベーションと地域社会」「パーソナルファイナンス」「社会調査法Ⅰ」「社会調査法Ⅱ」「社会統計学Ⅰ」「社会統計学Ⅱ」「量的データ分析」「質的データ分析」「社会調査法実践Ⅰ（質的）」「社会調査法実践Ⅱ（質的）」「社会調査法実践Ⅰ（量的）」「社会調査法実践Ⅱ（量的）」を配置する。学生は、自身の興味関心にもとづいて科目を履修する。

(C) 「キャリア・インターンシップ科目」

在学中及び卒業後のキャリアプランが立てられる基礎知識を習得し、卒業後の進路選択に役立てていくことを目的として科目を配置している。これから時代は働きながら学び、長期的な視点をもって自主的、能動的にキャリア形成を行っていくことが必要である。そのためには、在学中に自己分析や適性、収入と生活、職種と働き方などの現状を正しく理解し、就職後の長期間のキャリアデザインを考えておくことが不可欠となる。1年次の「キャリアデザインⅠ」「キャリアデザインⅡ」は必修科目とする。また、選択科目として「キャリア特講Ⅰ」「キャリア特講Ⅱ」を配置し、実務家教員によるキャリア形成のための特別講義を行う。2年次からの「インターンシップ」では60時間以上または10日間以上の企業での実習を通して、学生は仕事や企業、社会への理解を深め、社会人基礎力やビジネスマナーを身につくことができる。

(D) 「学科基礎科目」

1年次の必修科目「初年次演習Ⅰ」「初年次演習Ⅱ」においては、大学での学びに向けた準備としてアカデミックレポートの書き方を学修し、アカデミックリテラシー等を修得する。また、1年次前期必修科目「データサイエンスへのいざない」においては、アートを題材にSTEAM教育や学習言語読解力育成を行う。この科目的内容は、入学前教育でも提供することにより、単位認定も含めた方法で高校から本学部へのスムーズな接続を実現する。

なお、入学前教育においては、後述する総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜のⅡ期までの合格者を中心に、数学への興味を引き立てるアクティブ・ラーニング型学習やPythonなどのプログラミング言語を活用した直観的なアプリ開発経験などを定期的に提供し、高校基礎レベルの数学・情報の知識を確認すると同時に大学での学修モチベーション及び自学自習能力の向上をはかる。また、学習言語読解力の習得⁸など基礎トレーニングも実施する。なお、DP2に相当する学修は、(E)にて後述するように1~2年次のデータサイエンス科目区分で段階的に行う。

(E) 「データサイエンス科目」

社会課題の解決には、データ収集後に行うデータ分析やAI活用が重要となる。本科目区分では、データサイエンスに関連する講義及び演習を体系的に配置している。本学部のデータサイエンス教育プログ

⁸ 新井紀子、菅原真悟、新井庭子.“シン読解力：学習言語の読解力が学力を左右する”.J-stage.<https://www.jstage.jst.go.jp/article/taikaip/83/0/83_293/_pdf/-char/ja>, (2025-01-23).

ラムの特徴は、データサイエンス・AIに関する知識や技能を学修するだけでなく、そこで学んだ知識・技術を活用して、社会の諸課題を発掘し、どのように解決していくのかについて学ぶ「ヒューマン・ドメイン科目」「実践科目」につながる道筋を明確にしている点である。その道筋は、カリキュラムマップ【資料 11】や履修モデル【資料 13】で示している。

「データサイエンス科目」区分は 1~3 年次を通して「データサイエンス」「データエンジニアリング」「AI」及び「数理・統計」の各分野から科目を履修することにより段階的に内容を理解する。

まず、1 年次前半に、必修科目「ドメインとデータサイエンス」を設置して、将来学ぶ 3 つのドメインにおける AI の活用事例やその活用事例の数理的な考え方を学ぶ。これにより、データサイエンス科目区分の学習意義について理解を深める。また、データサイエンスに必須なプログラミング技術については、1 年次前半の早い段階から「プログラミング I・II」にて学習を開始し、続いて 2 年次前半配当「プログラミング III」でその修得を完了する。プログラミング学習を通じて、数学やアルゴリズムの重要性に気付くことで、1 年次後半必修科目「基礎統計学」及び 2 年次必修科目の「統計処理演習」「データサイエンスと線形代数」「データサイエンスと微積分」における統計学・数学の学習モチベーションを向上させることができる。

また、1 年次後半の必修科目「データベースシステム概論」及び 2 年次前半の必修科目「システム設計論」を設置することで、ドメインに関わらず必要となるデータベースシステムの基礎や IT システム仕様策定手法を身につける。

2 年次前半からは、ドメインとデータサイエンスの接続準備のために、各ドメインに汎用的な応用が可能な「シミュレーション論」やバイオメカニクスを学ぶ学生に対して「データサイエンスと物理」を設置する。続いて、2 年次後半からは、本格的にドメインへのデータサイエンス応用を想定して、「音声解析概論」「画像解析概論」「自然言語解析概論」「時空間データ分析」を選択することで、音声、画像、自然言語、地理情報の各データのベクトル空間への射影と AI アルゴリズムの適用方法の基礎知識等を学ぶ。続いて、3 年次前半の必修科目として「データマイニング概論」を履修することで実社会での各 AI アルゴリズムの応用について概略を学び、ゼミや卒業研究につなげることができる。また、ビジネスや人文科学への関心が深い学生は、「トピックモデル概論」も選択可能である。これら 2 年次から 3 年次にかけて配置されているデータサイエンス科目区分の科目を修得することにより、後述する実践科目の 3 年次配当科目「ドメインとデータ解析演習 A~G」へと円滑に接続される。

なお、以上に加えて、発展的な内容として機械学習の設計を学ぶ意欲的な学生は、2 年次後半「ベイズ推定とデータサイエンス」、3 年次前半「ベイズ推定と意思決定」「人工知能（AI）応用 I」、3 年次後半「人工知能（AI）応用 II」も選択可能である。

一方、ウェアラブルデバイスなど「ものづくり」と密接に関係したデータサイエンス応用の側面を学ぶために、1 年次後半配当の「ヒューマンデータエンジニアリング演習 I・II」、2 年次前半配当の「ヒューマンデータ可視化法」、2 年次後半配当の「IoT とヒューマンデータ」及び「IoT と GIS」を設置する。

また、近年、重要視されるサイバーセキュリティの理解を深めるために、2 年次後半「ICT システム論」、3 年次前半「サイバーセキュリティ概論」も配置している。

更に、1 年次後半配当選択科目「データサイエンス特講 I」、2 年次前半配当選択科目「データサイエンス特講 II」を配置し、実務家教員によるタイムリーな講義を通してデータサイエンスが実社会においてどのように活用されているのかを学修することができる。

補足として、STEM 分野、特に数学に関する教育課程の考え方について述べる。厳密な理論体系を重視した従来の数学教育とは異なり、社会課題への応用を重視する本学部では、定理や公式をコンピュータで数値計算を行って可視化することで直観的に理解し、データ分析での数学公式の活用を教育の主眼に据える。重要な点は、統計や機械学習アルゴリズムのプログラミング実装学習（ライブラリ活用）を併行して進めることにより、アジャイル型の教育方法、つまりトライ＆エラーを通じた数学理解の促進をはかることである。以上の基本的教育方針を述べた上で、教育課程を述べれば、数学の基礎知識は、1 年次必修科目「ドメインとデータサイエンス」をはじめ、1 年次後期必修科目「基礎統計学」、2 年次必修科目の「統計処理演習」「データサイエンスと線形代数」「データサイエンスと微積分」の中で順を追って学修する。その際には、行列、ベクトル、微分など機械学習の理解に必要な概念に絞って、計算機科学の視点でプログラミングを通して学習することで、高校時代に数学 I のみ履修した学生にも理解できる教育内容となっている。

(F) 「ヒューマン・ドメイン科目」

3 つのドメイン「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」の社会課題を理解・把握し、ドメインに関する基礎知識を身につける科目である。

1 年次後期に開講される必修科目「ヘルスケア入門」「地域づくり入門」「異文化間コミュニケーション入門」では、各ドメインの社会課題を理解するにあたって必要となる、領域ごとの基礎知識を身につけることを目的とする。具体的には、「ヘルスケア入門」では、ヘルスケアの多面的な概念（身体的・精神的・社会的側面）を理解し、人々が心身ともに健やかに暮らせる社会の実現に向けた社会課題を学ぶ。「地域づくり入門」では、都市・地域社会が直面する多様な社会課題を学ぶ。「異文化間コミュニケーション入門」では、グローバル化が進展する現代社会において、文化的背景の異なる人々が共に生きるために必要な知識と視点を総合的に学ぶ。これにより、すべての学生が 3 つのドメインに関して、社会課題理解の前提となる基礎知識を身につけることができる。これにより、2 年次以降に、どのヒューマン・ドメイン科目を選択しても、基礎的知識を踏まえた上で、学生個人の関心や研究テーマに応じ、より掘り下げた学びが可能となる。

2 年次前期からは、上記の入門科目を踏まえ、ドメインに関してより知識を深める科目を配置し、後述の (H)「実践科目」にて配置される「ドメインとデータ解析演習 A～G」（選択必修科目）及び「ゼミナール I・II」「卒業研究 I・II」に進むための土台となるドメイン知識を修得することができる。3 年次から学生はいずれかのドメインを専門分野とするゼミに入室するため、2 年次は各ドメインから幅広く科目を選択して履修することとし、3 年次からは入室したゼミに応じて、該当するドメインの科目を選択して履修する。

「ヘルスケア」ドメインでは健康に関する社会課題を理解するために「ヘルスプロモーション」を配置する。身体的健康の理解を深めるために「生化学と栄養」「生体検査学」「バイオメカニクス」を、精神的健康について理解を深めるために「心理学概論」「心身測定学」を配置する。さらに、社会的健康に関する理解を深めるために「発達学概論」「リハビリテーション論」を配置する。

「地域づくり」ドメインでは「共生まちづくり論」「地域政策論」「都市論」「家族生活論」において、多角的な視点で地域づくりに関する基礎知識を学ぶ。「国際協力論」「ジェンダーと開発研究」「アジア地域研究」「アフリカ地域研究」では、発展途上国の開発事例を中心に、さらに特定の地域における地域づ

くりについての知識を身につける。加えて、「自然環境保護論」「環境ビジネス論」を配置し、人と自然の関わり、循環型社会、都市と自然環境、さらには環境配慮型ビジネスなどを学ぶことで、持続可能な地域づくりに関する理解を深める。

「異文化間コミュニケーション」ドメインでは、異なる文化的背景を持つ人々について理解するため、「異文化間コミュニケーション」「宗教の世界史」「比較文化論」を配置する。教育的観点から文化の共生を捉るために、「教育社会学概論」「比較教育学」を配置し、あらゆる文化を繋ぐコミュニケーションの手段となるメディアについて学ぶ「メディア概論」「メディアリテラシー」「ソーシャルメディア論」を配置する。

これらのヒューマン・ドメイン科目は、どの順序で履修しても、入門科目で修得した基礎知識に基づいて学びを深めることができるよう設計されている。学生は自身の興味・関心や研究テーマに応じて科目を選択的に履修することで、データサイエンスやAIを活用する社会課題の理解のための基礎的知識を身につけることができる。

(G) 「プロジェクトマネジメント科目」

「プロジェクトマネジメント科目」は「プロジェクトマネジメント」と「経営学基礎」の2つの区分で構成される。

「プロジェクトマネジメント」は「①設置の趣旨及び必要性」の3.(1)養成する人材像で示したプロジェクトマネジメントスキルを身につけるために配置する科目で、「課題解決型学習（Problem Based Learning）」と「プロジェクト型学習（Project Based Learning）」から構成される。

まず課題解決型学習（Problem Based Learning）として、実社会で課題解決に取り組む企業やNPOの現場を体験し、理解する必修科目として、1年次前期に「未来体験プログラム」を配置する。この科目では、ITを活用した社会課題解決に取り組んでいる、あるいは取り組もうとしている企業やNPOの実例を題材とし、現場体験及びキャンパスへ講師を招いた講義を行う。実社会で課題の発見から解決の手順までどのような手法が取られているかを体験的に学修することで、4年次までの本学部での学びが実社会でどのように活きるのかを理解する。授業内では、グループワークを行い、ディスカッション等を通して多様な視点を取り入れ、意見をとりまとめるなどの基本的なコミュニケーション力を身につける。

2年次には選択科目として、同じく課題解決型学習（Problem Based Learning）として「共生社会フィールドスタディーズ」（選択科目・集中）を配置する。約1か月間の企業、NPO、自治体での実習を通して、社会においてどのような課題があり、データサイエンス・AIの活用によりどのような解決が可能かに「気づく」ことを目的とする。企業、NPO、自治体で働く人との協働を通してより実践的なコミュニケーション力と社会的責任を身につけることができる。

課題解決に向けたプロジェクト管理手法を学ぶために、2年次に「プロジェクトマネジメント概論」を必修科目として配置する。ここでは、学生はプロジェクトの立ち上げ、計画・立案、運用の一連のプロセスを円滑に進めるためのマネジメント手法を学ぶ。3年次の必修科目「プロジェクトマネジメント演習」は、課題を解決するプロジェクトの一連の流れを学修するプロジェクト型学習（Project Based Learning）の演習科目である。取り扱うテーマや題材に応じて学生がグループに分かれ、社会課題の選定、プロジェクトの策定とマネジメント、課題に応じたデータ収集・分析法の選択、課題解決に向けた解決策の提示（プレゼンテーション）に至る一連の流れを、連携先企業・団体及び担当教員のアドバイスを受けながら

展開する。プロジェクトは原則キャンパス内で取り組むことになるが、テーマによっては連携先の現場等で実習を行う場合もある。学生は2年次までに身につけたデータサイエンスとプロジェクトマネジメントの知識を実践的に活用することが目標である。

「経営学基礎」区分では、現代社会におけるあらゆる課題解決の実装・持続に不可欠な経営学に関する知識・スキルを身につける科目を配置する。これらの科目の知識は、営利企業のみならず、NPOや自治体、地域活動など、さまざまな組織体に共通する基盤的知識となる。まず、2年次前期に必修科目「経営学入門」を配置し、プロジェクトを推進する前提となる経営学を理解するための基礎知識を身につける。具体的には、会計論や事業戦略の基本、組織の社会的責任のあり方等を取り扱う。2年次後期からは、選択科目として「事業戦略論」「マーケティング概論」「企業会計I」「企業会計II」「DXマネジメント概論」を配置する。

(H) 「実践科目」

●ドメインとデータ解析

選択必修科目として「ドメインとデータ解析演習A～G」が配置され、学生はドメインごとに必要とされるデータ解析手法を修得することができる。具体的には、トピックモデル、画像解析、音声解析、LLM（大規模言語モデル）、GIS（地理情報システム）、IoTとヘルスケア、IoTとまちづくりについて、親和性の高いドメインの具体的な事例を用いながらデータ解析を行う演習形式の授業を行う。ここでは、2年次または3年次までに「ドメイン科目」で身につけた社会課題を理解・把握する力を基に適切なデータサイエンス・AIを活用する。これにより、学生は実社会においてデータを収集し解析した上で、それを根拠に課題解決案を作成するための手法を身につけることができる。

なお、それぞれのデータ解析演習科目については、各科目の履修条件を表9の通り設定することにより、理論を身につけた上で実践科目に進むことができるようとする。

表9 ドメインとデータ解析演習科目と履修条件

科目名	データ解析手法	履修条件 (記載の科目を単位修得すること)
ドメインとデータ解析演習A	トピックモデル	「トピックモデル概論」
ドメインとデータ解析演習B	画像解析	「画像解析概論」
ドメインとデータ解析演習C	音声解析	「音声解析概論」
ドメインとデータ解析演習D	LLM（大規模言語モデル）	「自然言語解析概論」
ドメインとデータ解析演習E	GIS（地理情報システム）	「時空間データ分析」
ドメインとデータ解析演習F	IoTとヘルスケア	「IoTとヒューマンデータ」
ドメインとデータ解析演習G	IoTとまちづくり	「IoTとGIS」

●ゼミナール・卒業研究

3年次前後期には、必修科目として「ゼミナールI」「ゼミナールII」が配置されている。「ゼミナール」は4年次の必修科目「卒業研究」につながる科目であり、学生は担当教員の指導のもと、教員の専門分野を中心に研究テーマを見つけ、社会課題の分析に取り組む。4年次の「卒業研究I」「卒業研究II」では、

データの収集・分析を行い、解決策を提案するまでの一連の研究を遂行する力を育成する。なお、学生は個人またはチームで卒業研究に取組む。

「データサイエンス科目」「ヒューマン・ドメイン科目」「プロジェクトマネジメント科目」及び「実践科目」の「ドメインとデータ解析演習」科目は全て「卒業研究」に必要とされる知識・技能修得につながるよう編成されており、学生はそれまでの学びを統合して課題の設定から研究に取組む。「卒業研究」は、学内外の関係者を交えた中間報告会、最終報告会を経て振り返りを行うことで修了となる。

3. 主要授業科目の考え方

「①設置の趣旨及び必要性」の3.(1)養成する人材像に記したように、養成する人材像から、身につけるべき3つのスキルが導かれ、それらがディプロマ・ポリシー、学士力とカリキュラム・ポリシーへと反映されている。また、APはCPに合わせて高校時代に身につけて欲しい資質を学力3要素と照らし合わせて示されている。ここで、下記の通りCPを再掲する。

CP1:社会課題の理解に必要な知識を修得するための科目を配置する

CP2:データサイエンス・AIの基礎から応用までを修得するための科目を配置する

CP3:プロジェクトマネジメント手法及び経営学の基礎知識を修得するための科目を配置する

CP4:データサイエンス・AIを活用して社会課題の解決案を策定するための実践的な科目を配置する

主要授業科目は、CPの各項に対して設置された必修科目を中心に配当学年での履修・単位修得が必要な科目で構成した。詳細は表10に記す。

表10 DP、CP及び学士力と対応する主要授業科目対応表

DP	DP1	DP2	DP3	DP4
CP	CP1	CP2	CP3	CP4
学士力	知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力
1年次	「キャリアデザインI」「キャリアデザインII」「ドメインとデータサイエンス」「ヘルスケア入門」「地域づくり入門」「異文化間コミュニケーション入門」	「プログラミングI」「プログラミングII」「基礎統計学」「データベースシステム概論」「機械学習入門」	「未来体験プログラム」	
2年次		「プログラミングIII」「システム設計論」「機械学習応用」	「プロジェクトマネジメント概論」「経営学入門」	

DP	DP1	DP2	DP3	DP4
CP	CP1	CP2	CP3	CP4
学士力	知識・理解	汎用的技能	態度・志向性	統合的な学習経験と創造的思考力
3年次		「データマイニング概論」	「プロジェクトマネジメント演習」	「ゼミナールⅠ」「ゼミナールⅡ」「ドメインとデータデータ解析演習 A～G」
4年次				「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」

4. 授業時間、単位数の考え方

1年間の授業期間及び単位の計算方法に関しては、文京学院大学学則「第8章 教育課程及び履修方法等」に従う。

(1年間の授業期間)

第16条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(単位の計算方法)

第17条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義については、15時間から30時間までの範囲で大学が定める授業時間をもって1単位とする。
- (2) 演習については、15時間から30時間までの範囲で大学が定める授業時間をもって1単位とする。
- (3) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で大学が定める授業時間をもって1単位とする。

⑤ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1. ゼミナール、卒業研究の指導方法及び選定方法

2年次後期開始後に、3年次に所属するゼミナールを決定する。ゼミナールと卒業研究は同一の教員が担当するため、ゼミナールが決定すると同時に卒業研究の指導教員も決定することとなる。学生には、ゼミ選定を視野に入れながら 2年次からのヒューマン・ドメイン科目及びデータサイエンス科目の履修計画を行うよう、1年次のうちからクラスアドバイザーの教員が丁寧に指導する。クラスアドバイザーは、原則として「初年次演習Ⅰ・Ⅱ」の担当教員が、2年次まで学生の指導にあたる。

各ゼミナールは1名の教員で指導されるが、学生はゼミナール指導教員のみならず、学部の STEM 教

育担当教員に適宜データ解析等の指導を得ることができる教育体制とする。具体的には、STEM 教育担当教員が所属する情報教育委員会において、学生の研究テーマに応じたデータ分析手法の助言と審査、必要に応じた指導を行う体制を整備する。ゼミナール指導教員、STEM 教育担当教員等の分担は【資料 15】、情報教育委員会による卒業研究への審査実施要領案については【資料 16】に示す。

1 ゼミナールの定員人数は最大 12 名とし、計 14 ゼミを開講する。各指導教員はいずれかのドメインに所属するが、一部のゼミは複数ドメインにまたがったテーマを扱う場合もある。なお、各ゼミは、入室にあたって、該当するヒューマン・ドメイン科目やデータサイエンス科目の履修条件が課される。ゼミ入室時に単位取得条件を定める場合と、ゼミ入室後に履修を条件とする場合があり、各条件についてゼミナールごとに設定し、ガイダンス等で周知する。「ゼミナール・卒業研究 履修の手引き(案)」は【資料 17】の通りである。

ゼミナールの配属は、志望理由書、面談、2 年次までの履修状況、成績等を総合的に評価し決定する。受け入れ人数を超過したゼミナールを希望し、受入られなかった学生は第 2 次志望、あるいは第 3 志望以降のゼミナールで選抜を実施し、配属を決定する。

2. 卒業要件

本学部の卒業要件は、4 年以上の在籍期間と、表 11 の条件を満たし修得単位数が 124 単位以上であることの要件とする。科目区分ごとの必修科目単位数、選択必修科目単位数、自由選択科目単位数は表 11 に示す。

表 11 科目区分ごとの卒業要件単位数

科目区分	卒業要件単位数			合計
	必修	選択必修	自由選択	
大学特別科目	2	0		
教養科目	4	4		
キャリア・インターンシップ科目	4	0		
学科基礎科目	6	0		
データサイエンス 科目	データサイエンス	12		16
	データエンジニアリング	4		
	AI	4		
	数理・統計	8		
ヒューマン・ ドメイン科目	ヘルスケア	2		20 ※2
	地域づくり	2		
	異文化間コミュニケーション	2		
プロジェクト マネジメント科目	プロジェクトマネジメント	6	0	
	経営学基礎	2	0	

科目区分		卒業要件単位数			合計
		必修	選択必修	自由選択	
実践科目	ドメインとデータ解析	0	4		
	ゼミナール	4	0		
	卒業研究	8	0		
合計		70	38	16	124 単位以上

※1 「データサイエンス」区分より 4 単位以上とする(但し「データサイエンス特講 I・II」は対象外)

※2 「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」の選択科目より、それぞれ 4 単位以上とする

選択必修及び自由選択科目について補足すると、まず教養科目では、必修科目に加え、選択必修科目として 4 単位を修得することとする。データサイエンス関連では、必修 28 単位に加え、選択必修 10 単位の修得が必要であり、そのうち「データサイエンス」区分から 4 単位以上を修得することを要件とする(「データサイエンス特講 I・II」は除く)。ヒューマン・ドメイン科目では、必修 6 単位に加え、選択必修科目を 20 単位とし、その際各ドメインから 4 単位以上を修得することとする。「実践科目」区分の「ドメインとデータ解析」は、選択必修科目として 2 科目 4 単位を修得する。自由選択の 16 単位は、各区分で要件単位を超えて修得した単位を加算する。

3. 授業の方法と学生数の設定

本学部の授業科目は講義、演習、実習、または講義と演習、講義と実習を併用して実施する。演習科目はグループ学習やディスカッション等のアクティブ・ラーニング手法、またコンピュータや機器等を用いた演習を通して知識・技術の定着を図ることを目的としている。1 クラスあたりの学生数について、講義科目は原則 1 クラスあたりの人数を 110 名と定めるが、アクティブ・ラーニング等を取り入れる場合には別途定員数を定める場合がある。他、1 クラスあたりの学生数を定める科目は表 12 の通りである。

表 12 1 クラスあたりの学生数（上限）を定める科目

科目名	1 クラスあたり学生数 (上限)
「初年次演習 I」「初年次演習 II」「ゼミナール I」「ゼミナール II」「卒業研究 I」「卒業研究 II」	12 名
「プロジェクトマネジメント演習」	20 名
「ドメインとデータ解析演習 A～G」	22 名
「情報リテラシー I」「情報リテラシー II」「プログラミング I」「プログラミング II」「プログラミング III」	40 名

科目名	1 クラスあたり学生数 (上限)
「機械学習入門」「機械学習応用」 「基礎統計学」「統計処理演習」 「データサイエンスと線形代数」「データサイエンス と微積分」	

4. 配当年次

科目の配当年次について、1年次では大学特別科目、教養科目、キャリア・インターンシップ科目、学科基礎科目、データサイエンス科目、ヒューマン・ドメイン科目の入門科目及び課題解決型のプロジェクトマネジメント科目の履修を通して、一般的な教養や大学の学びに順応する力を身につけながら、データサイエンスとドメイン知識の学びへのモチベーションを向上させ基礎知識を修得させる。2年次からはデータサイエンスの実践的知識を学び、ヒューマン・ドメイン科目の「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」科目を学生の関心に応じて選択的に履修することで、社会課題の理解・把握やデータの解析時に必要となる、ドメインの基礎知識を修得する。また2年次にプロジェクトマネジメントの手法を講義形式で学ぶことで、3年次からの実践科目に繋げる。3年次からは、それまで学んだデータサイエンスの知識とドメインの知識、プロジェクトマネジメントスキルを掛け合わせるための実践科目を配当している。

5. 履修科目登録単位数の上限 (CAP 制)

履修科目登録単位数の上限設定については、大学設置基準と単位制度の趣旨を踏まえ、年間 49 単位で設定する。ただし、前学期までに履修した科目の平均が GPA 3.0 以上の成績を修めた学生は次セメスターの単位数上限以上の科目を登録し履修できる。また履修規程において、CAP 制の対象外とする科目（「初年次演習 I」「初年次演習 II」「共生社会フィールドスタディーズ」「インターンシップ」）を提示する。事前事後の学習時間を確保することで、単位制度の実質化を図る。

6. 履修指導・学習サポート

卒業要件充足に向けた履修計画や、3つのドメインの中からゼミナールを選択する際の科目履修指導などは、各学年で 4 月に実施される履修ガイダンスで全体へ指導するとともに、学生からの質問に対しては、各学年のクラスアドバイザー教員が個別に丁寧に対応する。2年次前期開始時には、3年次から所属するゼミナールの研究内容や進路先などのガイダンスを実施し、ゼミナール選択に向けての履修指導及びゼミナール申込準備を促す。

クラスアドバイザー制度や学生支援グループと教員の情報共有はすでに整備されている。また、オフィスアワーの活用等、学生の個別相談も必要に応じ適宜実施しているため、学生の疑問等への対応を含め履修指導体制も整っている。

2年次選択科目の「共生社会フィールドスタディーズ」及び3年次必修科目「プロジェクトマネジメント演習」については、シラバスとは別に「実施要綱」を学生へ提示の上ガイダンスを実施し、履修方法や実習先の選定、プロジェクトの選択等について指導を行う。それぞれの実施要項案は、【資料 18】、【資料

19】にて示す。

学習のサポートについては、教員がオフィスアワー等を活用し個別の学生指導を行う他、既設の学習サポートセンターを利用させる。学習サポートセンターでは大学での学び方全般に関する相談受付に加えて、数学サポート等の教科別サポートを提供する。

7. 履修モデル

本学部の教育方法、履修指導方法として下記の履修モデルを設定する【資料 13】。各履修モデルにおける、具体的な養成する人材像例は下記の通りである。

履修モデル 1：「ヘルスケア」ドメイン

・人々の心身の健康や生活の質の向上に向けて、データやデジタル技術を活用し、人間の特性に応じた社会のしくみや支援のあり方を提案できる人材

履修モデル 2：「地域づくり」ドメイン

・地域や地球規模の課題を多様な視点から捉え、データに基づいて持続可能な暮らしや環境との共存の方法を提案できる人材

履修モデル 3：「異文化間コミュニケーション」ドメイン

・多様な文化的背景や価値観の違いを理解し、宗教・教育・メディアなどの観点から異文化理解を深めながら、データに基づいた意思決定支援を通じて共生社会のあり方を提案できる人材

8. 本学独自のディプロマ・サブリメント

データサイエンス科目区分の到達度を示すために、必修科目「ドメインとデータサイエンス」：2 単位、「プログラミング I～III」：8 単位、「機械学習入門」：2 単位、「機械学習応用」2 単位、「プロジェクトマネジメント概論」：2 単位の単位取得と後述の「統計検定」（3 級）取得で、本学独自のディプロマ・サブリメント「BGU データサイエンティスト（応用基礎レベル）」を授与する。

なお、本学部では令和 9 年度文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度 応用基礎レベル」に申請予定で準備を進めている。

9. 他大学における授業科目等の履修について

放送大学及び海外の提携大学との単位互換協定にもとづいて、他大学で修得した科目については、30 単位を限度に卒業単位として認定を行う。

10. 多様なメディアを利用する授業科目等の履修について

「大学設置基準」第 25 条第 2 項の方法による授業については、学則の中で修得単位は 60 単位を超えない範囲で卒業に必要な単位とすると定めている。

⑥ 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学では、原則として対面により授業を実施する。ただし、教育効果を考慮し、教育上必要と判断する場合においては多様なメディアを高度に利用して授業を教室以外の場所で履修させることがある。

利用については「多様なメディアを高度に利用して行う授業に関するガイドライン」【資料 20】にあるように、所属学部の教務委員会、全学教務委員会にて、「当該授業におけるメディア授業の適合性、卒業に必要な所定単位数に含めることができるメディア授業科目の修得単位数に上限があることを踏まえて、合理的判断のもとに承認」を受けるプロセスを定めており、効果的にメディア授業を学生に提供できるようになっている。

メディア授業を実施するにあたり、対面授業と同様の教育効果を担保するため、Microsoft Teams や LMS、B's LINK（教務システム）等を使用し、学生間、学生・教員間で映像、音声、文字等による双方向コミュニケーションを行える機会を担保している。また、各教員はオフィスアワーを設定し、授業内容に限らず、履修相談や学修指導を対面で受け付ける体制を構築している。

また、自宅等でインターネット環境が整わない学生等への教育面を考慮し、学内でもメディア授業を履修できる環境も同時に整えている。具体的には、学内の Wi-Fi の整備、学内貸し出し用ノートパソコンの整備、ラーニングコモンズの設置等である。

本学部において、多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる授業として開講するものは「人間共生論」である。

多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる授業に該当しない授業であっても、教育効果を考慮し教育上必要と判断する場合は、反転授業、事後学習教材として MOOC（Massive Open Online Courses）等の活用を行う。具体的には JMOOC で公開されている「統計学入門」を 1 年次後期配当科目「基礎統計学」で活用する。学習者は JMOOC のコンテンツを使用して繰り返し学修することで内容の理解を深め、知識と理解を定着させる構成としている。

⑦ 企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

企業、団体、行政等における実習については、下記の科目で実施する。

	科目区分	授業科目名	配当年次	必修・選択
①	プロジェクトマネジメント科目	未来体験プログラム	1 年次前期	必修
②	プロジェクトマネジメント科目	共生社会フィールドスタディーズ	2 年次通年 (集中)	選択
③	プロジェクトマネジメント科目	プロジェクトマネジメント演習	3 年次前期	必修
④	キャリア・インターンシップ科目	インターンシップ	2・3 年次通年 (集中)	選択

本学部では、1 年次から 3 年次にかけての PBL 型科目⁹の体系的な運営を目的として、「産学官連携委

⁹ ここで「PBL」とは、Problem Based Learning および Project Based Learning の双方を指す。

員会」を設置し、組織的な管理・運営を行う。本委員会は、PBL 型教育の質を確保するため、実習先との連携強化及び単位認定の決定プロセスを統括し、円滑な科目運営を支援する役割を担う。

本委員会は、当該 PBL 科目を担当する基幹教員及び教務グループ職員により構成され、実習先との協議を通じて実習の目的や指導方針を共有し、本学の教育目標に沿った適切な実習環境の確保に努める。また、科目担当の基幹教員以外の教員への支援を行い、授業運営の円滑化を図るとともに、学生の学修状況を把握し、実習中のトラブル対応を含めたフォローバック体制を整備する。さらに、必要に応じて指導・改善を行い、継続的な教育の質向上を図る。これらのことばは、PBL 科目教員向け実施要領【資料 21】としてまとめ、科目担当教員間で周知を行う。

本委員会の設置により、産学官連携を推進しながら、PBL 型教育の体系的な運営と質の保証を図る。

また、各授業科目の実習先の確保の状況、実習先との連携体制、成績評価体制及び単位認定方法は下記の通りである。

1. 「未来体験プログラム」

実習先の確保の状況
実習を行うのは 1 団体であり、実習承諾書は【資料 22】の通りである。
実習先との連携体制
科目担当教員が事前に実習先担当者と打ち合わせを実施し、実習当日の受入、スケジュール、実習内容等について調整を行う。実習当日は担当教員に加えて事務局からのアテンド、他教員が同行することで、学生の実習状況を監督する。問題が発生した場合には、科目担当教員を窓口として、適宜産学官連携委員会が状況の把握や対応の検討、決定を行う。
成績評価及び単位認定方法
実習受入団体は、成績評価及び単位認定には関与しないが、授業内におけるディスカッションへの参加、学生の発表に対するフィードバックを行う形で授業に参画する。

2. 「共生社会フィールドスタディーズ」

実習先の確保の状況
実習受入先及び実習受入承諾書は【資料 23】の通りである。
実習先との連携体制
学部内においては産学官連携委員会が実習先を取りまとめ、科目担当教員へあらかじめ教員向け実施要綱を周知する。科目担当教員は実施要綱に沿って、実習前に実習先担当者と打ち合わせを実施し、実習期間中の受入体制、スケジュール、実習内容等について調整を行う。実習期間中は、実習先担当者と担当教員、教務グループが連絡を取れる体制を整備することで、学生の実習状況を逐次確認できるようにする。問題が発生した場合には、科目担当教員を窓口として、適宜産学官連携委員会が状況の把握や対応の検討、決定を行う。
成績評価及び単位認定方法
実習受入団体は実習期間終了後、所定の評価シートに学生の実習期間の評価を記入し、担当教員に提出する。事前・事後学習における授業参加態度、実習先での出席状況や実習ノート、実習先からの評価、実習報告書や実習報告会の内容をもとに科目担当教員が最終評価案を作成し、産学官連携委員会が承認する。

3. 「プロジェクトマネジメント演習」

実習先の確保の状況
実習受入先及び実習受入承諾書は【資料 24】の通りである。
実習先との連携体制

実習先ごとに担当教員を割り振り、実習内容やスケジューリング、学生の管理方法等について詳細打ち合わせを行う。実習時には必ず担当教員が同行することとし、実習に問題が無いかを監督し適宜学生の指導を行う。実習期間中は、実習先担当者と担当教員、教務グループが連絡を取れる体制を整備することで、学生の実習状況を逐次確認できるようにする。問題が発生した場合には、科目担当教員を窓口として、適宜産学官連携委員会が状況の把握や対応の検討、決定を行う。

成績評価及び単位認定方法

出欠管理、成績評価は担当教員が行う。各グループのプロジェクトマネジメント演習終了後、連携先を含めて実施する報告会では、実習先からフィードバックをもらうことで学生の学びへの振り返りに活かす。

4. 「インターンシップ」

実習先の確保の状況

実習受入先は【資料 25】の通りである。

実習先との連携体制

キャリアセンター及び学部のキャリア委員会担当教員を中心に実習先と連携する。

実習先候補企業・団体等へは毎年度「インターンシップ受入れのお願い」の書面をもって、インターンシップの基本理念、目的、実施要領、条件、実施の際のステップ等を提示する。その上で、概要にご理解いただき該当年度にインターンシップの受入を承諾した実習先と「インターンシップ覚書」を交わし、「インターンシップ詳細シート」をもとに具体的な実習受け入れ期間や受入上限人数等を調整する。必要に応じて、実習前の学生による事前訪問やオリエンテーションを実施し、詳細の調整業務はキャリアセンターが担当する。

実習期間中はキャリアセンター及びキャリア委員会担当教員が実習先と連携し、緊急時やトラブル発生時等にはすぐに連絡が取れる体制となっている。

成績評価及び単位認定方法

学生は実習日ごとに「インターンシップ日誌」を記入し、実習先の担当者へ提出する。実習終了後、実習先の担当者は学生ごとの「成績評価通知書」に成績結果（AA～D）を記入し、本学へ提出する。評価対象は、「マナー態度」「仕事の理解度」「自己啓発」「主体的行動」「仕事の正確性」の5項目とする。

事前学習、実習、事後学習全てに参加したものに対し、授業参加度 40%、事前レポート（学習計画の立案）30%、事後レポート（学習計画の達成度評価）30%で総合的に成績評価を決定する。その際に、実習中の成果物、実習先からの評価を考慮することがある。学部キャリア委員会にて最終評価を決定し、学部の教務委員会、教授会にて承認後、単位認定を行う。

⑧ 取得可能な資格

本学部では、「統計検定」「IT パスポート試験」「基本情報処理技術者試験」「社会調査士」の資格取得を奨励し、それぞれの受験に対応した教育課程を編成している。

「統計検定」「IT パスポート試験」「基本情報処理技術者試験」については、本学部のカリキュラムで学ぶことで、資格取得に必要な知識を身につけることができる。また、「社会調査士」については、指定の科目を履修し、所定の単位を取得することで学位記（卒業証書）授与後に資格を申請することができる。

1. 統計検定¹⁰（民間資格）

一般社団法人日本統計学会が認定し、一般社団法人統計質保証推進協会が実施する、統計に関わる知識や活用力を評価する試験。

資格取得が修了要件ではない。卒業要件に含まれる科目「基礎統計学」「統計処理演習」の履修及び取得により3級以上の取得を目指すことができる。

2. IT パスポート試験¹¹（国家資格）

IT 分野における基礎的な知識を持っていることを証明する国家資格。

資格取得が修了要件ではない。卒業要件に含まれる科目「プログラミング I～II」「ドメインとデータサイエンス」「プロジェクトマネジメント概論」や「ICT システム論」「サイバーセキュリティ概論」の履修により取得を目指すことができる。

3. 基本情報技術者試験¹²（国家資格）

経済産業省が認定している資格で、システムエンジニアやプログラマーの基礎スキルがあることを証明できる国家資格。

資格取得が修了要件ではない。卒業要件に含まれる科目「プログラミング I～II」「ドメインとデータサイエンス」「プロジェクトマネジメント概論」や「ICT システム論」「データベースシステム概論」「サイバーセキュリティ概論」の履修により取得を目指すことができる。

4. 社会調査士¹³（民間資格）

社会調査士協会が認定している資格で、社会調査の基礎スキルを証明できる。

資格取得が修了要件ではない。卒業要件に含まれる科目（「社会調査法 I」「社会調査法 II」「社会統計学 I」「社会統計学 II」、「量的データ分析」または「質的データ分析」のいずれか 1 科目、「社会調査法実践（質的） I」「社会調査法実践（質的） II」または「社会調査法実践（量的） I」「社会調査法実践（量的） II」のいずれかの組み合わせを 2 科目）を履修及び修得し、学位記（卒業証書）授与後に申請することで資格を取得することができる。

⑨ 入学者選抜の概要

1. 入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

本学部では、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーにおいて、①3つのドメインの社会課題の理解、②データサイエンス・AI の活用、③プロジェクトマネジメントへの寄与、④データサイエンス・AI の社会実装への提案力を上げている。これらに従って、カリキュラム・ポリシーでは、社会課題の理

¹⁰ 統計検定. 統計検定協会. <<https://www.toukei-kentei.jp/>>, (2024-07-15).

¹¹ IT パスポート試験. IPA. <<https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/index.html>>, (2024-07-15).

¹² 基本情報技術者試験. IPA. <<https://www.ipa.go.jp/shiken/kubun/fe.html>>, (2024-07-15).

¹³ 社会調査士とは. 社会調査士協会. <https://jasr.or.jp/for_students/what_sr/>, (2024-07-15).

解に必要な知識科目的配置、データサイエンス・AIに関する基礎から応用に至る体系的な教育課程、プロジェクトマネジメント手法と経営学基礎科目的配置、社会課題解決に向けた実践科目的配置を行っている。それぞれの科目修得に必要となる素養を挙げれば、社会課題理解に必要な人文社会学の基礎知識、データサイエンス・AIを学ぶうえで必要な数学的要素（確率・統計・線形代数・微積分など）や情報処理技能（プログラミング、アルゴリズムなど）、プロジェクトマネジメントに必要な知識とコミュニケーションスキル、提案に必要なプレゼンテーション力である。

本学部で受け入れる入学者には、これらの素養を円滑に修得していくために、高校で学ぶ国語・英語・地理歴史に相当する知識を有することが望ましい。また、確率・統計・線形代数・微積分の理解を支える基礎的な数式リテラシーや「情報I」の基礎的知識にも同様に興味・関心があることが望ましい。さらに、主体的な学修・活動やコミュニケーション力修得への意欲も重要視される。

以上の検討を踏まえ、本学部では、高校学習指導要領の「学力の3要素」である①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性・多様性・協働性に照らし合わせて、入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）を下記のように定めている。

AP1：[知識・技能]

AP1-1 高等学校までに修得すべき国語・英語・数学・情報・地理歴史など基礎的な学力を身につけている

AP1-2 文章や資料の内容を正しく理解し、自分の考えをわかりやすく説明する力を備えている

AP2：[思考力・判断力・表現力]

課題を理解し、データを活用して解決策を見出すことに挑戦し、その内容やアイデアを自分の言葉で表現してみたいという意欲を持つ

AP3：[主体性・多様性・協働性]

自ら進んで学ぶ姿勢を持ち、様々な関係者と積極的にコミュニケーションを取り課題解決に向けて取り組む意欲を備えている

【補足】本学部の入学後にデータサイエンスやAI活用方法の学びを深める上で、数学的な素養が必要となるため、入学前教育、リメディアル教育、段階的に学べるようカリキュラムを整備してサポート体制を整えている。これにより特定の理工系分野に限定することなく、幅広い人文社会学系分野に関心や背景を持つ学生の学びも支援する。

これらのAPを各種の入学者選抜で、バランスよく測る計画である。

2. 入学者選抜の実施方法

アドミッション・ポリシーを踏まえ、本学部の入学者選抜の実施方法を下記の通り計画する。

本学部の入試区分は主に「総合型選抜」「学校推薦型選抜」「一般選抜」の3区分とし、個性や適性、意欲などを幅広く評価するために、評価を多元化、複数化し、個々の得意分野での力が発揮できる選抜方法

を用意し、多様な入学者の選抜を計画する。

計画した入学者選抜の目的、募集人数、選考方法を以下に示す。なお、その他の選抜として社会人選抜、帰国子女選抜、外国人留学生選抜も独自の選抜を実施するが、定員は定めない。

(1) 本学の入試区分ごとの目的

「総合型選抜」

本学部に強い関心があり、明確な志望動機を持ち勉学への強い意欲がある、また高等学校やその他での諸活動において活躍した者を受け入れることを目的とする。特に AP3 の主体性・多様性・協働性を重視するもので、書類審査、小論文またはプレゼンテーションの審査及び面接を実施する。

「学校推薦型選抜」

高等学校長が推薦し、高等学校の学習成果により基礎学力を備えた者で、本学部での学びを通して将来の目標を実現するために行動できる者を受け入れることを目的とする。特に AP2 の思考力・判断力・表現力を重視するもので、高等学校の調査書、校長の推薦書、活動報告書、小論文の審査に加えて面接を実施する。

「一般選抜」

一般選抜には、試験名称として「大学入学共通テスト利用選抜」「全学統一選抜」「一般選抜」の 3 種類を用意する。基礎的な知識・学力を評価し、特に AP1 の知識・技能に特化して評価を行う。ただし、学習意欲、多面的で総合的な学力を有する者を受け入れるため、出願時に提出を求める「主体性を持って取り組んだ経験」(150~200 字) も併せて総合的に評価する。

試験名称「大学入学共通テスト利用選抜」では大学入学共通テストの 2 科目及び 3 科目による判定を行う。

試験名称「全学統一選抜」では、英語を必須とし、国語、数学、化学、生物、情報の 5 科目から 1 科目を選択し受験することにより AP1 の基礎的な知識・技能の評価を行う。

試験名称「一般選抜」は、一般選抜 I 期 A 日程においては、2 科目受験の場合は、英語を必須とし、国語、世界史、日本史、数学、化学、生物、情報の 7 科目より 1 科目を選択して受験する。3 科目受験の場合は、英語を必須とし、国語、化学、生物、情報の 4 科目より 1 科目、世界史、日本史、数学の 3 科目より 1 科目を選択して受験する。一般選抜 I 期 B 日程においては、英語、国語、世界史、日本史、数学、情報 6 科目より 2 科目を選択して受験する。一般選抜 II 期においては、英語を必須とし、国語、化学、生物、数学、情報の 5 科目より 1 科目を選択して受験する。一般選抜 III 期においては、数学を必須とし、英語、化学、生物、情報、総合の 5 科目より 1 科目を選択して受験する。

(2) 入試区分ごとの募集人数と選考方法、アドミッション・ポリシーとの対応

入試区分ごとの募集人数と選考方法は、表 13 の通りである。

表 13 入試区分ごとの募集人数と選考方法

入試区分	入試名称	選考方法
総合型選抜	総合型選抜 (募集人数：35名)	<ul style="list-style-type: none"> ・書類審査 ・小論文またはプレゼンテーション ・面接
学校推薦型選抜	学校推薦型選抜 (募集人数：40名)	<ul style="list-style-type: none"> ・書類審査 ・小論文 ・面接
一般選抜	大学入学共通テスト 利用選抜 (募集人数：3名)	<p>【1期 2科目型判定・II期 2科目型判定・III期 2科目型判定】</p> <p>【1期 3科目型判定・II期 3科目型判定・III期 3科目型判定】</p>
	全学統一選抜 (募集人数：13名)	<ul style="list-style-type: none"> ・英語 ・選択科目より（国語、数学、化学、生物、情報）より 1科目
一般選抜	一般選抜 (募集人数：19名)	<p>【一般選抜 I 期 A 日程／2科目または3科目入試】</p> <p>2科目の場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語 ・選択科目（国語、世界史、日本史、数学、化学、生物、情報）より 1科目 <p>3科目の場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語 ・選択科目①（国語、化学、生物、情報より 1科目） ・選択科目②（世界史、日本史、数学より 1科目） <p>【一般選抜 I 期 B 日程／2科目入試】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択科目（英語、国語、世界史、日本史、数学、情報）より 2科目 <p>【一般選抜 II 期／2科目入試】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語 ・選択科目（国語、化学、生物、数学、情報）より 1科目 <p>【一般選抜 III 期／2科目入試】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学 ・選択科目（英語、化学、生物、情報、総合）より 1科目

本学では、入学者選抜において選抜方式ごとに重点を置くアドミッション・ポリシーの要素を定めている。一般選抜では「知識・技能 (AP1)」、学校推薦型選抜では「思考力・判断力・表現力 (AP2)」、総合

型選抜では「主体性・多様性・協働性（AP3）」を特に重視している。それぞれの選抜方式においては、他の要素も適切に評価しつつ、重視する資質に応じた選抜を実施している。本学部における各入試区分とアドミッション・ポリシーの対応は表14の通りである。なお、評価する要素を「○」、特に重視する要素を「◎」で示している。

表14 入試区分とアドミッション・ポリシーの対応

入試区分	AP1 知識・技能	AP2 思考力・判断力・表現力	AP3 主体性・多様性・協働性
総合型選抜	○	○	◎
学校推薦型選抜	○	◎	○
一般選抜	◎	○	○

⑩ 教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色

1. 教育研究実施組織等の編制の考え方

本学部の設置の趣旨、養成する人材像や教育課程編成の考え方にもとづき、それらを達成するが可能な教員編成とする。基幹教員が教育上主要と認める授業科目を主に担当することとし、各専門分野において教育上、研究上、実務上に十分な知識、能力、実績をもつ基幹教員17名を配置する計画としている。

また本学科では3つのドメインにデータサイエンスを掛け合わせ、PBL授業を通じた実践的な教育を行うため、基幹教員をSTEM教員、ドメイン教員、プロジェクトマネジメント担当教員に分類する。基幹教員の一覧及びそれぞれの分担は【資料15】に示す。なお、STEM教育を担いながらドメイン教育も行うなど、複数の役割を担う場合もある。

2. 教員組織の年齢構成

学部開設時点において、教授8名、准教授6名、助教3名である。年齢構成は60代6名、50代7名、40代3名、30代1名と、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成とする。本学教員の定年は満68歳であるが、開設時に定年を超えており、または完成年度までに定年を迎える基幹教員は2名おり、「文京学院大学任期付専任教員就業規則」第1章第2条【資料26】を適用し、特別任用教育指導職として完成年度までの契約を締結することで教育・研究体制を維持する。完成年度以降の定年退職については、後任となる教員を新規採用によって補充を行うため、教員組織の継続性に問題はない。

3. 主要授業科目の担当教員

主要授業科目のうち、キャリア・インターナシップ科目、データサイエンス科目、ヒューマン・ドメイン科目、実践科目の必修科目を中心に基幹教員を配置している。ただし、プログラミングやキャリア科目は、効果的にスキル習得を行うために複数クラスで開講し、基幹教員と基幹教員以外の教員を配置して対応している。また、プロジェクトマネジメント科目は、専門分野と実務現場での最新情報を反映することを視野に入れ一部で基幹教員以外の教員を配置している。

実践科目である「ドメインとデータ解析演習 A～G」は、学問体系に基づく理論的知識よりも、実務経験に基づく具体的な事例を重視することを目的とした科目群である。そのため、当該科目においては、実務におけるデータ分析の経験を有する教員を基幹教員以外からも配置することで、教育目的の達成を図る。一方で、基幹教員以外の教員は教育課程を構成する主要授業科目に対する責任を担うことができない。このため本科目群においては、情報教育委員会が科目運営の指揮・管理を行い、教育課程全体に対する責任を担保する体制を構築する。具体的には「ヒューマン・データサイエンス学部 ドメインとデータ解析演習 A～G 実施要領」【資料 27】を策定し、以下の事項を実施することで、科目の質の維持および円滑な運営を図る。

- ・科目担当教員に対する、当該科目のカリキュラム全体における役割の周知
- ・使用する具体的な事例、サンプルデータ、解析手法の確認および調整
- ・成果物の評価に関する評価ルーブリックの作成、および配布
- ・授業運営上のフォローアップ体制の整備と、発生した問題への対応方針の検討
- ・受講学生への学修支援および情報共有
- ・授業運営に関する振り返りの実施

これらの質を担保するため、情報教育委員会は、データサイエンス等の工学分野に研究業績のある基幹教員を配置する他、外部よりデータサイエンス領域に研究業績や知見を持つアドバイザーを迎える等の体制を整える。

⑪ 研究の実施についての考え方、体制、取組

本学では、学術研究を促進するため「研究助成基本規程」【資料 28】を定め、本学基幹教員による研究に対し助成を行っている。また、その運用については「文京学院大学における各種研究助成費等の取扱に関する規程」【資料 29】を定め、適切に運用している。

規程により実施している助成は、大きく分類して「内部研究費」及び「外部研究費」の 2 つの範囲を用意している。内部研究費は学内の内部資金を用いた研究支援であり、外部研究費は外部資金を用いた研究支援である。具体的に用意している制度は下記の通りである。それぞれの助成額等については各規程にて定めている。

【内部研究費】

- ・個人研究助成制度 - 学術研究のために必要とする研究経費の助成制度。
- ・学会出席等助成制度 - 所属する学会等に出席する場合の経費の助成制度。
- ・共同研究助成制度 - 本学基幹教員を中心とする学内または学外で行う共同研究の助成制度。
- ・学長裁量助成制度 - 学長の裁量により行われる学内の教育改革研究に対する助成制度。
- ・在外研究員助成制度 - 一定期間海外において行う学術研究・調査に対する助成制度。
- ・国内研究員助成制度 - 学位論文の作成等をさせるための助成制度。
- ・出版助成制度 - 学術研究成果の発表を助成・促進するための助成制度。

【外部研究費】

- ・科学研究費助成制度 - 科学研究費の取り扱い等についてその業務を助成する制度。
- ・受託研究助成制度 - 受託研究費の取り扱い等についてその業務を助成する制度。

- ・寄附研究助成制度- 寄附研究の取り扱い等についてその業務を助成する制度。

これらの中で特徴的である制度を以下に説明する。

在外研究員助成制度は、一定の期間海外において、学術研究・調査に従事することを希望する基幹教員の中から、適当と認められた者を在外研究員とする制度であり、基幹教員として原則として勤続 5 年以上の者から選出する。在外研究員の在外期間は、原則として 1 年以内とし、旅費及び滞在費として在外研究費を助成する。これにより、基幹教員の研究活動を促進し、研究・教育水準の向上を図っている。

国内研究員助成制度は、基幹教員の研究活動を促進し大学全体の教育・研究水準の向上を図るため、学位論文の作成等を目的として授業その他の校務を免除し一定期間研究に専念することができる制度である。

出版助成制度は、学位論文を公開するための出版や、専門の学問領域における学術的価値を有する出版に対して助成を行うことで、学術研究成果の発表を助成・促進する制度である。これにより若手研究者の研究活動の促進が期待できる。

学会出席等助成制度は、教員の学会及び研修会への参加が保証されている。ただし、学会出席等により授業を休講とした場合は、補講期間内で補講を行うことが義務付けられており、研究支援と教育的配慮を両立している。

これらの研究支援を適正に実施するために、「文京学院大学総合研究所」内に、「文京学院大学総合研究所学術振興委員会」を組織し、その管理運営を行っている。

文京学院大学総合研究所は、学則 55 条第 2 項により設置される組織であり、組織の目的は「文京学院大学総合研究所規程」【資料 30】に定められており、研究科、学部、学科及び専攻に関する学問の研究、本学基幹教員の学術に関する研究ならびに本学の教育を支援することとしている。

組織運営体制は、所長 1 名（基幹教員が就任）、副所長 4 名（各学部長が兼任）、研究員（各学部基幹教員等）で構成されている。

活動内容としては、設置の目的を達するために、下記の活動を行っている。

- ・各部門の理論的及び実践的研究
- ・教育・研究業績の発表及び刊行
- ・資料の収集、整理及び保存
- ・教育支援、教育環境整備及び地域啓蒙活動

これらの活動の一環として、文京学院大学総合研究所に「学術振興委員会」を置き、前述の研究助成制度の運営を行っている。研究助成制度にて行った研究については、その成果の発表を義務付けており、あわせて共同研究成果の研究発表会も原則毎年 1 回実施している。

また、設置の目標としている教育・研究業績の発表の場として、本学における研究を促進し、その成果を広く社会に公表するため研究紀要を発行している。紀要の発行は、総合研究所紀要、外国語学部紀要、経営論集、人間学部紀要、保健医療技術学部紀要とし、それぞれ毎年 1 回発行を行っている。各学部の紀要については、それぞれの学部が所管する紀要委員会に権限を委譲し、それぞれの学部が所管する図書館を事務局として発行を行っている。ヒューマン・データサイエンス学部においても、研究紀要の発行を実施する。

⑫ 施設、設備等の整備計画

1. 校地、運動場の整備計画

本学部を設置する本郷キャンパスは東京都文京区向丘に位置し、東京メトロ南北線の出口から徒歩 1 分未満と、学生・教職員の通学に便利なだけでなく、企業等を招いた授業展開や、各分野の学会・研究会・学術発表等に活発に利用される等、教育・研究面でも大変利便性の高い都市型キャンパスである。現在、校地としては 13,856.52 m²の面積を有している。

運動用設備として本郷キャンパスにメセナ（大体育館）(959.80 m²)、B's SQUARE（小体育館）(159.40 m²) 等を備えるとともに、充分に広い敷地を確保できる自然に恵まれたふじみ野キャンパス（本郷キャンパスからの移動時間としては 1 時間程度、東武東上線ふじみ野駅からスクールバスで約 7~8 分）に、グラウンド（第 1、第 2、緑ヶ丘合計 35,169.84 m²）、テニスコート、フットサルコート等を備えている。

また、本郷キャンパス内には、植栽等の施されたヴリィエ（中庭）(1,050 m²)、PLAZA（屋上広場）(450 m²) といった空地も備えており、都市型キャンパスではあるが、学生が快適に活動できる環境も備えている。

2. 校舎等施設の整備計画

本学部は、本郷キャンパスに既設されている S 館を中心に、隣接する D 館、C 館を活用する。S 館、D 館、C 館は渡り廊下にてそれぞれ接続されており、一体として運用できる構造となっている。

本学部の特徴的な施設としては、身体データの測定、活用法を学ぶ「三次元動作解析室」、研究結果をラピッドプロトタイピングにて実装を可能とする「ものづくりラボ」、学修結果の発表の場等として使用する「B's Commons」、学習成果・研究成果を形にするために使用する動画・音声撮影の為の「スタジオ」を整備する。

「三次元動作解析室」は、光学反射式三次元動作分析装置を備える。身体動作に関するデータを測定し、動作をデータとして取得する手順、それらを可視化する手順を具体的に体験し、データサイエンスの基礎能力を養う。「プロジェクトマネジメント演習」「ゼミナール I・II」や「卒業研究 I・II」などで活用する。

「ものづくりラボ」は、3D プリンタをはじめとするデジタル系工作機器や簡易なハンドツールを備え、データから得られた結果より、問題を解決するための「もの」を作成し実証する環境を提供する。問題解決のためのラピッドプロトタイピングを実践できることから、「ヒューマンデータエンジニアリング演習 I・II」「IoT とヒューマンデータ」「IoT と GIS」及び、それらの科目担当教員の「ドメインとデータ解析演習」「ゼミナール I・II」や「卒業研究 I・II」で活用される。

「B's Commons」は、開放的な空間にプレゼンテーション用大型液晶 3 面に、小上がりとなったグループディスカッションやグループワークエリアを持つ多目的教室である。グループディスカッションやグループワークを通じ、データの入り口である「三次元動作解析室」と、出口である「ものづくりラボ」を繋ぐ役割を担う。これらの 3 施設は連携を意識し隣接配置としている。また、教育指導の観点から、「三次元動作解析室」「ものづくりラボ」に隣接するように研究室を配置しており、教員による学生指導も意識した配置としている。グループ単位でのプレゼンテーションに適した環境である為、上述の三次元動作解析室やものづくりラボを使用する授業のほか、すべての「初年次演習 I・II」や「ゼミナール I・

II」や「卒業研究 I・II」といったグループ単位でプレゼンテーションを実施する授業での活用が見込まれる。

「スタジオ」では、映像撮影、音声収録が可能な防音区画を設けており、動画や音声コンテンツを制作することができる。ものづくりラボではハードウェアとして出力を行うのに対して、スタジオではソフトウェアとして出力を行う機能を担う。「ゼミナール I・II」や「卒業研究 I・II」での研究成果の出力機能としての利用のほか、「メディアリテラシー」での作品撮影での活用を見込む。そのほかに教員による授業コンテンツの作成における品質向上にも活用する。

また、他に一般の講義室等については、本学部にて専用に使用する講義室を用意するほか、既存学部との共用教室も用意することで十分な施設を整備する。

本学部では、入学者に対して IT デバイスの必携(BYOD)を求める。一定スペック以上の IT デバイスをすでに保有している場合や、各自にて調達可能である場合は、それを利用することとするが、調達が難しい入学者に対しては、在学中の利用に支障のない機器を大学から斡旋販売することで対応を行う。BYOD で持ち込まれた IT デバイスは、学内各所、教室等に設置された充電スペース、学内 Wi-Fi を使用して授業内での活用を行う。ただし、自分自身の IT デバイスが利用できない場合は、コンピュータの貸出(Windows 70 台)も行っており、そのフォローワーク体制も構築されている。

BYOD 端末で対応ができない専用ソフトウェア等を使用する授業等に限り学内の情報教育設備を活用する。本郷キャンパス内には情報教育設備の配置された教室がキャンパス共有設備として配置されている。内訳としては、主に情報処理教育に使用する CTR(Computer Training Room)が 7 教室 (Windows 165 台、Mac 68 台)、e-Learning に対応する音響機器等を備えた ELL(E-Learning Laboratory)が 2 教室 (Windows 112 台)、アクティブ・ラーニング型のコンピュータ利用を前提とした Multimedia Lounge を 1 教室 (Windows 14 台、Mac 13 台)、自習用として学生ラウンジを 1 室(Windows 10 台)用意しており、Windows 301 台、Mac 81 台が利用できる環境にあり、他学部との共用利用であっても十分な環境となっている。

本学部の時間割案及び本郷キャンパス使用予定教室一覧は【資料 31】の通りであり、既存学部含めて教室数には余裕があり、全学の授業運営に支障はない。

研究室は 17 名の基幹教員に対して、14 の個室と 5 名用の共同研究室 1 室を配置する。

大学全体の共有施設としては、既存で整備されている講師控室、図書館を活用する。その他にも、学生ラウンジ (B's Dining (1,090.46 m²))、カフェ (B's カフェ (140.30 m²))、コモンスペース (マルチメディアラウンジ (208.24 m²)・ラーニングコモンズ・Student Hub (41.30 m²) 他) 等、敷地内に学生が休息できるための十分な場所を確保することで、大学教育に相応しいキャンパス環境を整えている。

3. 図書館等の資料及び図書館の整備計画

(1) 図書館の蔵書数など

図書館は、本郷キャンパス、ふじみ野キャンパスそれぞれに、本郷図書館（東京）、ふじみ野図書館（埼玉）が設置されている。両館は平成 20 年度より図書館システムの統合を完了しており、所蔵資料の横断検索が可能となっている。本学学生は両館を自由に使用できるため、これらで検索された資料については、いずれかの館であっても、学生本人が所蔵館に出向き利用・貸借できるほか、図書館間の相互協力業務を通じ、スムーズに資料を最寄り館へ取り寄せることが可能となっている。また、いずれの館で貸し出

された資料であっても、どちらの館からでも返却できる体制となっている。

図書館における蔵書は「(2) 資料の量的整備について」に記載しているが、図書資料 377,892 冊、学術雑誌 475 種を所蔵している。電子ジャーナルも導入されており、和雑誌 1,652 種、洋雑誌 47,313 種【資料 32】が利用可能となっている。そのうち、ヒューマン・データサイエンス学部に関連する領域では、約 8,700 種がフルテキストでの閲覧が利用可能となっている。

(2) 資料の量的整備について

本学図書館は、本郷図書館・ふじみ野図書館の 2 館によって構成されており、本郷図書館は 1964 年、ふじみ野図書館は 1982 年に前身となる短大図書館として開館している。両館は長期間にわたり資料の蓄積を行っており、大学全体として和書 328,107 冊、洋書 49,785 冊を擁している。冊子体による資料提供のほかに電子ジャーナルや国立国会図書館 図書館向けデジタル化資料送信サービス等のオンラインによる資料提供も行い、十分な情報を提供できる体制としている。

これらの様々な方法により提供される情報は、司書によるレンタルサービスにて、利用者の要求に合わせて効率よく提供できる体制も整えている。また、国立情報学研究所の目録所在情報サービス (NACSIS-CAT/ILL) に参加しており、他大学図書館と相互に文献複写や図書貸借ができる体制とし、図書館サービスを補完している。本郷図書館及びふじみ野図書館の蔵書数は表 15 の通りである。

表 15 本郷図書館 及び ふじみ野図書館 蔵書数

△	図書所蔵冊数 (冊)			学術雑誌種数 (種)			電子ジャーナル (種)			AV 資料 (点)
	和書	洋書	小計	和雑誌	洋雑誌	小計	和雑誌	洋雑誌	小計	
本郷 図書館	185,609	34,649	220,258	194	87	281	68	31,032	31,100	4,462
ふじみ野 図書館	142,498	15,136	157,634	175	19	194	1,584	14,699	16,283	5,341
合計	328,107	49,785	377,892	369	106	475	1,652	45,731	47,383	9,803

2024(令和 6)年 5 月 1 日 現在

(3) 図書整備計画について

図書の選書は、「文京学院大学 図書館資料収集・選定方針」【資料 33】にもとづき、教育・研究活動の維持・発展に資するために必要な適切な資料収集、コレクションの構築を主眼に実施している。

選書の実施においては、資料の選定は利用者の資料要求を基本とし、読書・学習・教育研究に資するための図書、大学院、学部、カリキュラムの構成、学問研究の動向に留意し、長期的展望に立って適正な蔵書構成を実現させるため、教員推薦資料、シラバス上に指定された資料の収集を優先的に取り扱っているが、利用者リクエスト資料（学生等からの希望図書）も積極的に購入し、利用者の要求にこたえる体制としている。一方で、図書館資料収集・選定方針には、「対立する学説や多様な見解の存在するテーマに関しては、各立場の資料を幅広く選書」ともあるため、この点を確保するために、図書館司書による図書館選書を行い補完している。また図書館選書には教員推薦資料、利用者リクエスト資料にてカバーされない領域を選書し、大学図書館としてのコレクションバランスを確保し、機能・品位を保つ機能も有して

いる。

本学部では、「データサイエンス」領域に関連して、情報学・情報科学(NDC:007)、統計学(NDC:350)、数学(NDC:410)、コンピュータ科学(NDC:548)のデータサイエンス分野の資料が必要となる。

またその他の領域については、「ヘルスケア」ドメイン領域では、基礎医学 (NDC:491)、臨床医学 (NDC:492)、リハビリテーション (NDC:494)、体育・スポーツ (NDC:780)。「地域づくり」ドメイン領域では、社会学 (NDC:361)、社会史・社会体制 (NDC:362)、社会保障 (NDC:364)、生活・消費者問題 (NDC:365)、労働経済・労働問題 (NDC:366)、家族問題・男性・女性問題・老人問題 (NDC:367)、社会病理 (NDC:368)、自然科学 (NDC:450)、公害・環境工学 (NDC:519)、農学 (NDC:610)。「異文化間コミュニケーション」ドメイン領域では、宗教(NDC:160)国際関係(NDC:319)、社会学(NDC:361)、教育 (NDC:370)、教育学・教育思想 (NDC:371)、教育史・事情 (NDC:372)、教育政策・教育制度・教育行財政 (NDC:373)、学校経営・管理・学校保健 (NDC:374)、教育課程・学習指導・教科別教育 (NDC:375)、幼児・初等・中等教育 (NDC:376)、大学・高等・専門教育・学術行政 (NDC:377)、障害児教育 (NDC:378)、社会教育 (NDC:379)、文化財 (NDC:709)、言語と文化 (NDC:809) 等の資料が必要となる。

本学には、外国語学部・外国語学研究科、経営学部・経営学研究科、人間学部・人間学研究科、保健医療技術学部・保健医療科学研究科・看護学研究科、福祉医療マネジメント研究科を擁しており、従前より「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」ドメインとして取り扱う領域の資料は充実しており、データサイエンス領域を除き、それぞれのドメインに対して 20,000 冊以上の収蔵がある。具体的な各分野の蔵書数は表 16 に示す。

表 16 各分野の蔵書数

「データサイエンス」領域		8,566 冊
内 訳	情報学・情報科学(NDC:007)	6,951 冊
	統計学(NDC:350)	346 冊
	数学(NDC:410)	914 冊
	コンピュータ科学(NDC:548)	355 冊
「ヘルスケア」ドメイン		23,906 冊
内 訳	基礎医学 (NDC:491)	5,561 冊
	臨床医学 (NDC:492)	8,286 冊
	リハビリテーション (NDC:494)	3,053 冊
	衛生学・公衆衛生・予防医学 (NDC:498)	5,240 冊
	体育・スポーツ (NDC:780)	1,766 冊
「地域づくり」ドメイン		22,508 冊
内 訳	社会学 (NDC:361)	6,848 冊
	社会史・社会体制 (NDC:362)	103 冊
	社会保障 (NDC:364)	1,322 冊
	生活・消費者問題 (NDC:365)	1,009 冊

	労働経済. 労働問題 (NDC:366)	3,962 冊
	家族問題. 男性・女性問題. 老人問題 (NDC:367)	6,708 冊
	社会病理 (NDC:368)	877 冊
	地球科学. 地学 (NDC:450)	174 冊
	公害・環境工学 (NDC:519)	1,457 冊
	農学 (NDC:610)	48 冊
	「異文化間コミュニケーション」ドメイン	39,849 冊
内 訳	宗教 (NDC:160)	523 冊
	国際関係 (NDC:319)	1,860 冊
	教育 (NDC:370)	1,671 冊
	教育学. 教育思想 (NDC:371)	4,690 冊
	教育史・事情 (NDC:372)	1,214 冊
	教育政策. 教育制度. 教育行財政 (NDC:373)	1,155 冊
	学校経営・管理. 学校保健 (NDC:374)	1,104 冊
	教育課程. 学習指導. 教科別教育 (NDC:375)	6,188 冊
	幼児・初等・中等教育 (NDC:376)	6,120 冊
	大学・高等・専門教育. 学術行政 (NDC:377)	4,206 冊
	障害児教育 (NDC:378)	2,571 冊
	社会教育 (NDC:379)	1,041 冊
	社会学 (NDC:361)	6,848 冊
	文化財 (NDC:709)	294 冊
	言語と文化 (NDC:809)	364 冊

令和 6 年 5 月 1 日 現在

その為、実施する授業と現在の図書館蔵書の状況に鑑み、ヒューマン・データサイエンス学部新設に当たり、「データサイエンス」領域を中心とし、冊子版 560 冊、電子書籍 351 冊、合計 911 冊 (8,672 千円) 【資料 34】、雑誌 10 種 (162 千円) 【資料 35】を 2025 年度に購入計画をしている。購入した資料はすべて本郷図書館に所蔵する予定である。

また、学部開設に伴う資料購入は学生の利便性向上の観点から電子書籍での導入を優先している。冊子版での図書資料よりも利用しやすく、学修者に対してより十分な資料の提供が可能となると考えている。

(4) 図書館の利用環境

本郷図書館は、本郷キャンパス島田依史子記念館の一角に設置されており、1 階から 4 階の構造で、延べ床面積は 2,289.92 m²、収容可能冊数は約 27 万冊である。一方、ふじみ野図書館は、ふじみ野キャンパス東館 3 階及び学生会館 1 階に設置されており、延べ床面積 1,765 m²、収容可能冊数は約 20.7 万冊である。両図書館の開館時間、閲覧席数、情報検索用端末数、視聴覚機器数は表 17 の通りである。

表 17 両図書館の開館時間、閲覧席数、情報検索用端末数、視聴覚機器数

図書館	延べ床面積	開館時間 (授業開講期間)	閲覧席数	収納可能冊数	情報検索用PC	視聴覚機器数
本郷図書館	2,289.92 m ²	平日：9:00～22:00 土曜：9:00～19:00	277 席	約 27.2 万冊	27 台	10 台
ふじみ野図書館	1,765 m ²	平日：9:05～21:00 土曜：9:05～18:00	298 席	約 20.7 万冊	134 台	13 台

※令和 6 年 5 月 1 日現在

情報検索用端末は、いつでも検索が可能な環境として提供している。また、原則として資料は開架にて排列しており、利用者は自由に資料を手に取って利用することができるようになっている。館内には WiFi が整備されており、紙の資料とデジタル資料等を併用し利用できる環境となっている。

⑬ 管理運営

1. 教員組織の編成に関する方針

本学の管理運営方針は、文京学院大学学則、諸規程ならびに学院で定める大学組織職務権限規程【資料 36】によって、学長、学部長・研究科委員長他各役職者の権限と責任を明確に規定し、この職務権限にもとづき、大学運営は適切に行われている。

学長の選任方法については、大学組織職務権限規程 第 6 条第 2 項で、「学長は、理事会の推薦に基づき理事長が任命する」とされている。文京学院大学学長選考規程【資料 37】 第 4 条においては、「理事会が学長候補者を選考し、学長選考諮問会議の意見を聴いたうえで決定する」と定めており、学長選考諮問会議は第 6 条において、学長、副学長、各学部長及び各研究科委員長、大学事務局長（統括ディレクター）、法人事務局長、理事長が指名する理事 2 名で執り行う事となっており、令和 6 年度においては 19 名で構成されている。学長の任命については、第 7 条で「学長の任命は、理事長が行う」と定めている。

学長の権限については、文京学院大学学則 第 4 条にて「学長は、校務全般を掌り、所属職員を統督する。また、教育研究に関する重要事項については教授会の意見を聞いて決定する。」とあり、これは学校教育法第 92 条第 3 項 「学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。」を定めるものである。ほかに、大学組織職務権限規程 第 52 条にて「学長は、本法人設立の趣旨ならびに建学の精神、理事会で定められた方針ならびに計画を体し、その他規則、規程等に従い大学の業務を管理する責任があり、その遂行に必要な権限を有する。」と職務について明示しているほか、学長裁定規程【資料 38】において、「文京学院大学の教育研究に関する重要な事項が適切かつ効率的に行われるよう学校教育法第 93 条第 2 項第 3 号において学長が定めるべきものとされた事項」を明示している。

学部長の選任方法については、大学組織職務権限規程 第 10 条第 3 項に「学部長は教授のうちから学長の推薦にもとづき理事長が任命する」とあり、規程にもとづき選任している。権限については、文京学院大学学則 第 4 条第 4 項 4 号にて「学部長は、学長を補佐し、当該学部の諸事項を管掌する。」、大学組織

職務権限規程 第 54 条にて「研究科委員長および学部長は、大学の方針、規則、規程ならびに承認された計画に従って当該研究科または学部内の業務を管理する責任があり、その業務の遂行に必要な権限を有する。」と職務について明示している。

2. 全学の管理運営

大学全体の意思決定プロセスを明確にし、管理運営を執行する機関として大学運営会議を設けている。大学運営会議は、文京学院大学学則 第 5 条に「大学は、大学の重要事項を審議するため、大学運営会議を置く。」と大学の最高審議機関として定められている。

大学運営会議は、理事長、学長、副学長、研究科委員長、学部長、教務部長、学生部長、学長補佐、法人事務局長、法人副事務局長、大学事務局長（統括ディレクター）、キャンパスディレクターをもって組織されている。

会議は必要に応じて学長が招集することとなっているが、原則として毎月 1 回の定例にて会議を行っている。定例で実施する会議では、年頭に学長から当該年度の大学運営方針が示される他、大学の理念・目的の実現に向けて学長を補佐する権能を有し、全般的な視野に立って大学全般の重要事項が審議されるとともに、諸課題に対する管理運営方針が確実に実行できているかを確認している。学則その他重要な規則の制定改廃に関する事項、大学院、学部、学科その他重要な研究機関の設置・廃止に関する事項など、大学の重要事項を審議している。

3. 教授会

教授会は文京学院大学学則 第 8 条にて「大学および各学部に、重要事項を審議するため、教授会を必ず置く。」と大学及び各学部に、重要事項を審議する機関として定められている。また、教授会規程にて教授会の詳細について定めている。

本学における教授会は、学長が招集し議長となり、本学の全学部の教授をもって組織すると教授会規程に定められる「全学教授会」と、学部長が招集し議長となり、各学部の教授をもって組織すると教授会規程に定められる「学部教授会」がある。全学教授会は全学的な事案について審議する機関であり、学部教授会は当該学部の事案を審議する機関である。

全学教授会は、教授会規程により教授をもって組織することとなっているが、教授会規程第 2 条第 2 項、「教授会が必要と認める場合は、准教授、助教および助手を加えることができる。」により、助教以上の基幹教員全員が出席している。学部教授会についても、教授会規程第 10 条第 2 項、「教授会が必要と認める場合は、准教授、助教および助手を加えることができる。」により、人事案件を取り扱う場合を除き、助教以上の基幹教員全員が出席している。

全学教授会は、年 3 回(4・9・12 月)実施しており、教授会規程 第 5 条により全学教授会の審議事項を定めている。主に全学での意思統一、大学全体で取り組む課題についての審議である。

学部教授会は、原則として毎月実施しており、教授会規程 第 14 条により学部教授会の審議事項を定めている。主に学生の教育・研究、学生指導に関する議題を中心として審議する。学部教授会の役割は、教育課程、学生指導、教員人事に関する審議を実施し、教育活動を推進していくことにある。教育課程に関する事項は、文京学院大学学則 第 10 条により学部教授会の審議事項として定めている。学部教授会の権限のもとで、各学部の教務委員会がそれぞれの任務を遂行している。学生指導は学生部長のもとで、

各学部の学部学生委員会が行っている。

4. 教授会以外の委員会（全学委員会・各学部委員会等）

全学教授会の下に全学各種委員会、学部教授会の下に学部の各種委員会が設置され、大学運営に係る様々な課題について審議される仕組みとなっている。

全学教授会の下部組織である全学委員会（学部横断で全学部が参加）には、自己点検・評価委員会、内部質保証委員会、全学教員評価委員会、全学教務委員会、全学学生委員会、併設高校連携教育委員会、キャリア戦略会議、学生募集戦略会議、広報委員会、てっぺンフォーラム委員会、キャリアてっぺンフォーラム委員会、五街道ウォーク実行委員会、SLF（Student Leaders Forum）委員会、「新・文明の旅」プログラム実行委員会、国際交流委員会、教学 IR 委員会、GCI 執行委員会、全学教養教育委員会、情報教育研究センター運営委員会、大学入学試験委員会、全学図書館運営委員会、リスク管理委員会、DX 推進センター、まちづくり研究センター、文京学院大学総合研究所等がある。

学部教授会の下には、学部専任教員人事委員会、教務委員会、学部学生委員会、キャリア委員会、入学試験委員会等がある。

⑯ 自己点検・評価

本学の大学としての質を保証することを目的とした内部質保証に関する基本的考え方は、文京学院大学学則 第1条の趣旨を踏まえて、「国際社会に対して本学の大学教育（学士課程・大学院教育）の質保証を行っていくための内部作業に当たることを目的」に（文京学院大学内部質保証委員会規程【資料39】第1条）、学則 第2条に示した「教育研究水準の向上を図り、前条に定める目的および社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行う」という方針にもとづく。上記基本方針を教職員間に共有し、内部質保証に取り組んでいる。

1. 実施方法

全学を対象に内部質保証委員会を組織し、各学部、全学委員会等に分かれ作業部会を構築し、それぞれの作業部会において自己点検・評価ならびにベンチマークに関する事項を実施する。実施に当たっては、あらかじめ PDCA サイクルを定め、それに従い継続して行う。

各作業部会にて判明した改善点等については、内部質保証委員会にて集約し、学長の指揮のもとに適切な改善を実施する。また、自己点検・評価にかかる事項は外部に公表することにより、外部からの評価を得る。

2. 実施体制

内部質保証委員会は、大学教育全般の質の保証、向上及び教育・研究の改善に資する自己点検・評価を掌る組織として、大学各学部から選出した教員、及び職員をもって組織している。委員長は学長が指名により選出される。

内部質保証委員会では、大学教育全般の質の保証、向上及び教育の改善に資する自己点検・評価を実施するために、各学部、全学委員会等に分かれて作業部会を構成する。作業部会は他の部会と連携、調整を

図りながら部会ごとに自己点検・評価ならびにベンチマークに関する事項を遂行する体制としている。自己点検・評価の結果は、原則として年1回、外部評価懇談会へ提示し外部評価委員による評価を受ける。外部評価委員からの評価は、内部質保証委員会により点検・評価を行い、学長に諮る体制としている。

表18 部会一覧

外国語学部作業部会	全学教務委員会作業部会
経営学部作業部会	全学学生委員会作業部会
人間学部作業部会	学生募集戦略作業部会
保健医療技術学部作業部会	併設校高校連携教育作業部会
大学院外国語学研究科作業部会	キャリア戦略作業部会
大学院経営学研究科作業部会	研究推進作業部会
大学院人間学研究科作業部会	教育推進作業部会
大学院保健医療科学研究科作業部会	教育施設等作業部会
大学院看護学研究科作業部会	社会連携・社会貢献作業部会
大学院福祉医療マネジメント研究科作業部会	広報作業部会
	教職課程作業部会

3. 結果の活用・公表及び評価項目等

内部質保証委員会において行われた重要な審議結果については、大学運営会議に報告を行う。報告について改善を要すると認める事項については、学長より大学運営委員会の議を経た上で、委員会等に適切な改善措置を勧告又は命令する体制としている。また、自己点検・評価結果については、本学における教育・研究の改善に資することを目的に、自己点検・評価報告書を公式ホームページで公表している。ここでの点検項目は、全学に関する事項、研究科・学部に関する事項、図書館事項、研究所等に関する事項、学生・就職事項、教務事項、事務局事項等、具体的な内容は、大学理念、建学の精神、教育目標、大学運営、大学組織、各委員会活動、各部署活動等の点検と評価を網羅している。教学関係の点検・評価に関しては、内部質保証委員会で承認された各学部・研究科・委員会のPDCAサイクルについても公開している。

外部評価懇談会については、外部評価委員からの評価については、内部質保証委員会により点検・評価を行い、学長に諮り、改善に向けた施策に対応する体制としており、外部評価懇談会での議事録についても公式ホームページにて公開を行っている。

また、公益財団法人大学基準協会の維持会員（正会員）となり相互評価を受審し、第三者評価を受けている。これにより、大学としての責任を示し、学生・卒業生・保証人の評価を加えることで客観性を確保し、第三者評価を受けることで妥当性を確保している。

⑯ 情報の公表

本学では、学校教育法第113条、学校教育法施行規則第172条の2にもとづき、大学公式ホームページ上で、本学の教育・研究・学生活動、地域や社会への貢献活動等の情報を、広く社会に対して積極的に公表している。公表の内容や発信の方法については大学広報委員会規程及びホームページ掲載規程で定めている。

めている。公表している情報は下記の通りである。

1. 教育研究活動等の状況に関する情報の公表

ア. 大学の教育研究上の目的及び3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に関すること

■教育理念・目標とする人材

トップ>文京学院大学について>文京学院大学の理念・目的

URL : <https://www.bgu.ac.jp/about/philosophy/>

■三つのポリシー

トップ>文京学院大学について>三つのポリシー

URL : <https://www.bgu.ac.jp/about/philosophy/policy/>

イ. 教育研究上の基本組織に関すること

■大学紹介：組織図

トップ>文京学院大学について>組織図

URL : <https://www.bgu.ac.jp/about/overview/organization/>

ウ. 教育研究実施組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

■専任教員数（教員数、職位）

トップ>文京学院大学について>教育研究活動に関する情報公開>

教育研究上の基礎的な情報>(2) 専任教員数及び組織

URL : <https://www.bgu.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/2/2024/06/3a55ab09bd25c448264d08dd4e92f816.pdf>

■経営学部経営コミュニケーション学科 保有学位（学部、学科、研究科）、業績

トップ>経営学部>教員紹介>経営コミュニケーション学科教員紹介一覧

URL : https://www.bgu.ac.jp/business/staff_cat/business-communication/

■経営学部マーケティング・デザイン学科 保有学位（学部、学科、研究科）、業績

トップ>経営学部>教員紹介>マーケティング・デザイン学科教員紹介一覧

URL : https://www.bgu.ac.jp/business/staff_cat/business-marketing/

■外国語学部 保有学位（学部、学科、研究科）、業績

トップ>外国語学部>教員紹介

URL : <https://www.bgu.ac.jp/foreign/staff>

■人間学部コミュニケーション社会学科 保有学位（学部、学科、研究科）、業績

トップ>人間学部>教員紹介>コミュニケーション社会学科教員紹介一覧

URL : https://www.bgu.ac.jp/human/staff_cat/sociology

■人間学部人間福祉学科 保有学位（学部、学科、研究科）、業績

トップ>人間学部>教員紹介>人間福祉学科教員紹介一覧

URL : https://www.bgu.ac.jp/human/staff_cat/human/

■人間学部児童発達学科 保有学位（学部、学科、研究科）、業績

トップ>人間学部>教員紹介>児童発達学科教員紹介一覧

URL : https://www.bgu.ac.jp/human/staff_cat/child/

■人間学部心理学科 保有学位（学部、学科、研究科）、業績

トップ>人間学部>教員紹介>心理学科教員紹介一覧

URL : https://www.bgu.ac.jp/human/staff_cat/psychology/

■保健医療技術学部理学療法学科 保有学位（学部、学科、研究科）、業績

トップ>保健医療技術学部>教員紹介>理学療法学科教員紹介一覧

URL : https://www.bgu.ac.jp/health/staff_cat/physical

■保健医療技術学部作業療法学科 保有学位（学部、学科、研究科）、業績

トップ>保健医療技術学部>教員紹介>作業療法学科教員紹介一覧

URL : https://www.bgu.ac.jp/health/staff_cat/occupational/

■保健医療技術学部臨床検査学科 保有学位（学部、学科、研究科）、業績

トップ>保健医療技術学部>教員紹介>臨床検査学科教員紹介一覧

URL : https://www.bgu.ac.jp/health/staff_cat/clinical/

■保健医療技術学部看護学科 保有学位（学部、学科、研究科）、業績

トップ>保健医療技術学部>教員紹介>看護学科教員紹介一覧

URL : https://www.bgu.ac.jp/health/staff_cat/nursing/

■外国語学研究科

トップ>大学院>教員紹介>外国語学研究科教員紹介一覧

URL : https://www.bgu.ac.jp/graduate-college/staff_cat/foreign/

■経営学研究科 保有学位（学部、学科、研究科）、業績

トップ>大学院>教員紹介>経営学研究科教員紹介一覧

URL : https://www.u-bunkyo.ac.jp/faculty/staff/graduate_college/business/

■人間学研究科 保有学位（学部、学科、研究科）、業績

トップ>大学院>教員紹介>人間学研究科教員紹介一覧

URL : https://www.bgu.ac.jp/graduate-college/staff_cat/human/

■保健医療科学研究科 保有学位（学部、学科、研究科）、業績

トップ>大学院>教員紹介>保健医療科学研究科教員紹介一覧

URL : https://www.bgu.ac.jp/graduate-college/staff_cat/health/

■看護学研究科 保有学位（学部、学科、研究科）、業績

トップ>大学院>教員紹介>看護学研究科教員紹介一覧

URL : https://www.bgu.ac.jp/graduate-college/staff_cat/nursing/

■福祉医療マネジメント研究科 保有学位（学部、学科、研究科）、業績

トップ>大学院>教員紹介>福祉医療マネジメント研究科教員紹介一覧

URL : https://www.bgu.ac.jp/graduate-college/staff_cat/welfare-healthcare/

エ. 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関するこ

■文京学院大学の入学者に関する受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

トップ>文京学院大学について>三つのポリシー

URL : <https://www.bgu.ac.jp/about/philosophy/policy/>

■経営学部の入学者に関する受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

トップ>経営学部>学部紹介

URL : <https://www.bgu.ac.jp/business/introduction>

■外国語学部の入学者に関する受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

トップ>外国語学部>学部紹介

URL : <https://www.bgu.ac.jp/foreign/introduction>

■人間学部の入学者に関する受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

トップ>人間学部>学部紹介

URL : <https://www.bgu.ac.jp/human/introduction>

■保健医療技術学部の入学者に関する受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

トップ>保健医療技術学部>学部紹介

URL : <https://www.bgu.ac.jp/health/introduction>

■経営学研究科の入学者に関する受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

トップ>大学院>経営学研究科

URL : <https://www.bgu.ac.jp/graduate-college/business/>

■外国語学研究科の入学者に関する受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

トップ>大学院>外国語学研究科

URL : <https://www.bgu.ac.jp/graduate-college/foreign/>

■人間学研究科の入学者に関する受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

トップ>大学院>人間学研究科

URL : <https://www.bgu.ac.jp/graduate-college/human/>

■保健医療科学研究科の入学者に関する受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

トップ>大学院>保健医療科学研究科

URL : <https://www.bgu.ac.jp/graduate-college/health/>

■看護学研究科の入学者に関する受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

トップ>大学院>看護学研究科

URL : <https://www.bgu.ac.jp/graduate-college/nursing/>

■福祉医療マネジメント研究科の入学者に関する受入れ方針（アドミッション・ポリシー）

トップ>大学院>福祉医療マネジメント研究科

URL : <https://www.bgu.ac.jp/graduate-college/welfare-healthcare/>

■入学者の数

トップ>文京学院大学について>情報公開>教育研究活動に関する情報公開>

その他（※一部は変更があった場合に随時更新）>(3) 学生の状況>入学者推移

URL : <https://www.bgu.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/2/2024/06/89cb175e4d67ba673176a5cb01525861.pdf>

■収容定員及び在学する学生の数

トップ>文京学院大学について>情報公開>

教育研究活動に関する情報公開>学校法人文京学院の概要>

(2)令和6年度事業計画書 (2. 設置する学校・学部・学科等の入学定員 46 ページ)

URL : https://www.bgu.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/2/2024/06/R5_BGPlan.pdf

■卒業又は修了した者の数

トップ>文京学院大学について>情報公開>教育研究活動に関する情報公開>

修学上の情報等>(2) 卒業(修了)者数、進学者数、就職者数>学部・学科毎の就職率

URL : <https://www.bgu.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/2/2024/05/408741eb9dc73f4045f76dfb89390b88-2.pdf>

■進学者数

トップ>文京学院大学について>情報公開>教育研究活動に関する情報公開>

修学上の情報等>(2) 卒業(修了)者数、進学者数、就職者数>学部・学科毎の院進学率

URL : <https://www.bgu.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/2/2024/05/7f1fe54c2dcd1099cb7e83f5d03e732e.pdf>

■就職者数

トップ>文京学院大学について>情報公開>教育研究活動に関する情報公開>

修学上の情報等>(2) 卒業(修了)者数、進学者数、就職者数>学部・学科毎の就職率

URL : <https://www.bgu.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/2/2024/05/408741eb9dc73f4045f76dfb89390b88-2.pdf>

オ. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関するこ

■経営学部の授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画

経営コミュニケーション学科

トップ>経営学部>経営コミュニケーション学科>カリキュラム

URL : <https://www.bgu.ac.jp/business/business-communication/curriculum/>

マーケティング・デザイン学科

トップ>経営学部>マーケティング・デザイン学科>カリキュラム

URL : <https://www.bgu.ac.jp/business/business-marketing/curriculum/>

トップ>経営学部>学部紹介>電子シラバス

URL : https://portal.bgu.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_21/init

■外国語学部の授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画

トップ>外国語学部>英語コミュニケーション学科>カリキュラム

URL : <https://www.bgu.ac.jp/foreign/english/curriculum/>

トップ>外国語学部>学部紹介>電子シラバス

URL : https://portal.bgu.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_21/init

■人間学部の授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画

トップ>人間学部>コミュニケーション社会学科>カリキュラム

URL : <https://www.bgu.ac.jp/human/human-sociology/curriculum/>

トップ>人間学部>児童発達学科>カリキュラム

URL : <https://www.bgu.ac.jp/human/human-child/curriculum/>

トップ>人間学部>人間福祉学科>カリキュラム

URL : <https://www.bgu.ac.jp/human/human-welfare/curriculum/>

トップ>人間学部>心理学科>カリキュラム

URL : <https://www.bgu.ac.jp/human/human-psychology/curriculum/>

トップ>人間学部>学部紹介>電子シラバス

URL : https://portal.bgu.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_21/init

■保健医療技術学部の授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画

トップ>保健医療技術学部>理学療法学科>カリキュラム

URL : https://www.bgu.ac.jp/health/health_pt/curriculum/

トップ>保健医療技術学部>理学療法学科>カリキュラム

URL : <https://www.u-bunkyo.ac.jp/faculty/health/curriculum.html>

トップ>保健医療技術学部>作業療法学科>カリキュラム

URL : https://www.bgu.ac.jp/health/health_ot/curriculum/

トップ>保健医療技術学部>臨床検査学科>カリキュラム

URL : https://www.bgu.ac.jp/health/health_mt/curriculum/

トップ>保健医療技術学部>看護学科>カリキュラム

URL : https://www.bgu.ac.jp/health/health_nursing/curriculum/

トップ>保健医療技術学部>学部紹介>電子シラバス

URL : https://portal.bgu.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_21/init

■経営学研究科ビジネス・マネジメントコースの授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画

トップ>大学院>経営学研究科>ビジネス・マネジメントコース（夜間・土曜開講）

URL : <https://www.bgu.ac.jp/graduate-college/business/business-management/>

トップ>大学院>経営学研究科>コンテンツ・マネジメントコース（夜間・土曜開講）

URL : <https://www.bgu.ac.jp/graduate-college/business/content-management/>

トップ>大学院>経営学研究科>税務マネジメントコース（夜間・土曜開講）

URL : <https://www.bgu.ac.jp/graduate-college/business/tax-management/>

トップ>大学院>大学院紹介>電子シラバス

URL : https://portal.bgu.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_21/init

■外国語学研究科の授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画

トップ>大学院>外国語学研究科>英語コミュニケーション専攻（夜間開講）

URL : <https://www.bgu.ac.jp/graduate-college/foreign/english-communication/>

トップ>大学院>大学院紹介>電子シラバス

URL : https://portal.bgu.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_21/init

■人間学研究科の授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画

トップ>大学院>人間学研究科>人間学専攻 保育学コース

URL : <https://www.bgu.ac.jp/graduate-college/human/child/>

トップ>大学院>人間学研究科>人間学専攻 社会福祉学コース

URL : <https://www.bgu.ac.jp/graduate-college/human/welfare/>

トップ>大学院>人間学研究科>心理学専攻 臨床心理学コース（第一種指定大学院）

URL : <https://www.bgu.ac.jp/graduate-college/human/clinical/>

トップ>大学院>大学院紹介>電子シラバス

URL : https://portal.bgu.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_21/init

■保健医療科学研究科の授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画

トップ>大学院>保健医療科学研究科>保健医療科学研究科

URL : <https://www.bgu.ac.jp/graduate-college/health/major/>

トップ>大学院>大学院紹介>電子シラバス

URL : https://portal.bgu.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_21/init

■看護学研究科の授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画

トップ>大学院>看護学研究科>看護学研究科

URL : <https://www.bgu.ac.jp/graduate-college/nursing/major/>

トップ>大学院>大学院紹介>電子シラバス

URL : https://portal.bgu.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_21/init

■福祉医療マネジメント研究科の授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画

トップ>大学院>福祉医療マネジメント研究科>福祉医療マネジメント研究科

URL : <https://www.bgu.ac.jp/graduate-college/welfare-healthcare/>

トップ>大学院>大学院紹介>電子シラバス

URL : https://portal.bgu.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_21/init

カ. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

■学修の成果に係る評価

トップ>文京学院大学について>教育研究活動に関する情報公開>

修学上の情報等>(3)学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準>

学修の成果に係る評価

URL : https://www.bgu.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/2/2024/06/gpa_2024.pdf

■卒業又は修了の認定に当たっての基準

トップ>文京学院大学について>教育研究活動に関する情報公開>

修学上の情報等>(3)学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準>

卒業又は修了の認定に当たっての基準

URL: <https://www.bgu.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/2/2024/06/1a76cf233a0101cf6a88d9ec0dc41d2a.pdf>

キ. 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関するこ

トップ>文京学院大学について>アクセス

URL : <https://www.bgu.ac.jp/about/access/>

トップ>文京学院大学について>本郷キャンパスの施設一覧

URL : <https://www.bgu.ac.jp/about/access/hongo/>

トップ>文京学院大学について>ふじみ野キャンパスの施設一覧

URL : <https://www.bgu.ac.jp/about/access/fujimino/>
トップ>学生生活>課外活動紹介（部・同好会・委員会）

URL : <https://www.bgu.ac.jp/students/extracurricular/circle/>
トップ>学生生活>学生自治活動

URL : <https://www.bgu.ac.jp/students/extracurricular/autonomous-activities/>
トップ>学生生活>五街道ウォーク

URL : <https://www.bgu.ac.jp/students/extracurricular/gokaido/>
トップ>学生生活>学生広報委員

URL : <https://www.bgu.ac.jp/students/extracurricular/student-reporter/>
トップ>就職・キャリア

URL : <https://www.bgu.ac.jp/career/>
トップ>研究センター・機関>DX推進センター

URL : <https://www.bgu.ac.jp/dx/>
トップ>研究センター・機関>図書館

URL : <https://www.bgu.ac.jp/library/>
トップ>研究センター・機関>国際交流センター

URL : <https://www.bgu.ac.jp/international/>
トップ>研究センター・機関>情報教育研究センター

URL : <https://www.bgu.ac.jp/it/>
トップ>研究センター・機関>教職課程センター

URL : <https://www.bgu.ac.jp/teaching-profession/>
トップ>研究センター・機関>学習サポートセンター

URL : <https://www.bgu.ac.jp/learning/>
トップ>研究センター・機関>総合研究所

URL : <https://www.bgu.ac.jp/multidiscipline/>
トップ>研究センター・機関>子供英語教育センター（CLEC）

URL : <https://www.bgu.ac.jp/clec/>
トップ>研究センター・機関>文京語学教育研究センター（BLEC）

URL : <https://www.bgu.ac.jp/blec/>
トップ>研究センター・機関>コンテンツ多言語知財化センター

URL : <https://www.bgu.ac.jp/cm/>
トップ>研究センター・機関>臨床心理相談センター

URL : <https://www.bgu.ac.jp/counsel/>
トップ>研究センター・機関>スポーツマネジメント研究所（BSMC）

URL : <https://www.bgu.ac.jp/sports/>
トップ>研究センター・機関>まちづくり研究センター（まちラボ）

URL : <https://www.bgu.ac.jp/machi-labo/>
トップ>研究センター・機関>デザイン・シンキング研究センター（Dラボ）

URL : <https://www.bgu.ac.jp/designthinking/>

トップ>研究センター・機関>保育実践研究センター ふらっと文京

URL : <https://www.bgu.ac.jp/flat/>

トップ>研究センター・機関>地域連携センターBICS

URL : <https://www.bgu.ac.jp/bics/>

トップ>研究センター・機関>心理臨床・福祉センター「ほっと」

URL : <https://www.bgu.ac.jp/hot/>

ク. 授業料、入学科その他の大学が徴収する費用に関すること

トップ>文京学院大学について>教育研究上の基礎的な情報>

(4) 授業料、入学科その他の大学が徴収する費用（令和6（2024）年度）

URL : https://www.bgu.ac.jp/about/wp-content/uploads/sites/2/2024/06/jyugyou_nyuugakuryo.pdf

ケ. 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

トップ>学生生活>学生生活支援

URL : <https://www.bgu.ac.jp/students/support/>

コ. その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果 等）

■設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書

トップ>文京学院大学について>情報公開>大学設置基準に関する情報公開

URL : <https://www.bgu.ac.jp/about/info/installation/>

■自己点検・評価報告書、認証評価の結果

トップ>文京学院大学について>情報公開>大学基準協会による第三者評価の結果について

URL : <https://www.bgu.ac.jp/about/info/evaluation/result/>

■教学 IR センター

トップ>文京学院大学について>情報公開>教学 IR センター

URL : <https://www.bgu.ac.jp/about/info/ir/>

⑯ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

1. ファカルティ・ディベロップメントの実施

教職員は、学士課程教育の実践に直接又は間接に携わり、相互に連携して管理運営等を担うことが求められており、教学経営にあたっては、学士課程教育の実践と管理運営を担う教職員の資質と能力が重要であるとの認識から教職員の職能開発に着目し、ファカルティ・ディベロップメント（FD）やスタッフ・

ディベロップメント（SD）を実施している。

本学では教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職協働の立場から、具体的な内容については資質向上に関する対象や内容を包括的に捉え、双方が資質向上の義務を負っている前提として柔軟に取り組んでいる。また、これらの取り組みは、有識者の講演を基に質疑応答やグループディスカッションを通じて問題点を整理・確認し、方策を出し合う構成となっており、改善・充実に大きな意義をもたらしている。

FD や SD は 文京学院大学 FD・SD 規程 【資料 40】第 2 条にて、下記の目標を定めそれぞれに実施している。

- ・ 教職員が、自立的かつ定期的に自己の教育研究活動や業務を見直すことによって、教職員自身の意識改革を促すとともに、本学の教育研究活動や業務等の活性化とレベルの向上を図る。
- ・ 組織として定期的、総合的に研修を行うことによって、本学全体および学部・学科の教育目標の実現と事務職員の業務課題の改善に資する。
- ・ FD や SD を通じて、社会に対して本学の高等教育機関としての教育研究の質を保証する。
- ・ FD とは、大学および大学院の授業の内容及び方法の改善を図るために組織的な研修及び研究のことをいう。
- ・ SD とは、大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その教職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修のことをいう。

これらの目標を達成するために、FD や SD は下記の取り組みを行っている。

- ・ 学校法人が企画実施する教職員研修会（SD 研修）
- ・ 学校法人が企画実施する職員研修（初任者研修、一般職員研修、中堅職員研修、管理職員研修等）（SD 研修）
- ・ 内部質保証委員会が企画運営する全学 FD 研修
- ・ 各学部で企画運営する学部 FD 研修
- ・ 各研究科で企画運営する研究科 FD 研修

それぞれの取り組みは下記の通りである。

学校法人が企画実施する教職員研修会は、原則として 9 月、12 月の年 2 回実施し、内容は以下を目標として実施している。

- ・ 学院の理念・方針に係わる研修等
- ・ 教員職員の共通の事項についての研修等
- ・ 高等教育機関の環境、情勢など分析・研究に関する研修
- ・ 学内の共通の関心事について内部の発表者による研修
- ・ 中央教育審議会による、2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）（中教審第 211 号）（平成 30 年 11 月 26 日）に沿った研修（学習者本位の教育への転換・多様性と柔軟性の確保・「学び」の質保証の再構築等、答申内容の共通理解の形成のための研修・他大学の取り組み事例の紹介に関する研修／時代額の取り組み状況や学生の現状の共有等に関する研修）

学校法人が企画実施する職員研修は、状況に合わせて年間を通じて具体的に計画し実施するものとし

ており、内容は以下を目標として実施している。

- ・ 学院の理念・方針に係わる研修等
- ・ 教員職員の共通の事項についての研修等
- ・ 高等教育機関の環境、情勢など分析・研究に関する研修
- ・ 学内の共通の関心事について内部の発表者による研修
- ・ 多様な大学改革に関する研修
- ・ 中央教育審議会による、2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）（中教審第211号）（平成30年11月26日）に沿った研修（学習者本位の教育への転換・多様性と柔軟性の確保・「学び」の質保証の再構築等、答申内容の共通理解の形成のための研修・他大学の取り組み事例の紹介に関する研修／時代額の取り組み状況や学生の現状の共有等に関する研修）
- ・ 内部質保証と自己点検・評価に係る研修（3ポリシーを前提とする本学の様々な取組みについて、PDCAサイクルによる検証と評価、改善に関するもの。）
- ・ 学生生活に関わる様々な取組み及び成果の検証・分析、厚生補導に関する研修
- ・ 各部門・部署に必要な知識及び技能を習得させ、その能力及び資質を向上させる研修（総合企画、総務、人事、経理、教務、学生支援、情報教育支援、社会教育支援、研究活動支援その他）
- ・ 各部門における高度な専門的職員の育成を行うための研修

全学FD委員会が企画運営する全学FD研修は、少なくとも年2回以上実施し、内容は以下を目標として実施している。

- ・ 学部の垣根を越えて全学に必要な教育全般に関する研究
- ・ 中央教育審議会 諒問・答申等研究など研究、学士力育成などの研究、アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーについての研究

各学部で企画運営する学部FD研修は、実施は少なくとも年2回以上実施し、内容は以下を目標として実施している。

- ・ 当該学部に必要な教育方法に関する研修
- ・ 学生が主体的に学ぶ学習方法の研究に関する研修
- ・ 教育法の事例研究

それぞれの研修は、定められた範囲についての研修を網羅的に実施し、総体として必要な領域を包括する様に実施している。

⑯ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1. 教育課程内の取組について

1年次の必修科目「キャリアデザインⅠ」においては、交流を通じて自己や他者への意識を高め、クリエイティブな作業を通じて他の受講生や教員との対話を深め、多様な価値観を共有することを学ぶ。そして、同必修科目「キャリアデザインⅡ」においては、進路選択に役立つキャリア理論を理解し、自分の

課題を発見してキャリア形成力を高める。特に、データサイエンス分野や社会での役割について説明できる能力を養い、自己理解を基にキャリアプランを作成することを到達目標とする。

2・3年次の選択科目「インターンシップ」では、夏期休暇中に企業や地域団体での職場体験を通じて、職業観や勤労観を養い、進路に対する考え方を明確化する。学生は事前・事後授業で「働くこと」や「仕事」への理解を深め、適性に気づき、進路選択に役立つ情報を得ることで、将来の大学生活や社会人としての基礎力を養う。

2. 教育課程外の取組について

全学的な就職支援の機関として、文京学院大学キャリアセンターを設けている。同センターは、社会の発展に寄与するこころ豊かな人間を育成する（大学学則第1条）という大学の目的を達成するため、全学部学生に対してキャリア教育の推進を図るとともに、個々の学生の進路、就職等に関する支援を行うものである。教育課程外の取組みは、学部キャリア委員会、センター職員を中心に展開される。

キャリアセンターでは、学生が入学直後から卒業後のキャリアを見据えて学修や課外活動に取り組むことができるよう、入学直後の1年次より全体支援と個別支援を組み合わせた多面的なサポートを段階的に行っている。

全体支援としては、1年次～3年次まで前期・後期の開始時に学年別キャリアガイダンスを実施し、それぞれの年次に必要となるキャリア関連の情報提供を行っている。また1年を通して、学部・学年問わらず希望者が参加することができるマナー講座、就職筆記試験対策講座や公務員試験対策講座、卒業生との交流会、内定学生による相談会等のイベントを開催している。就職活動が本格化する3年次からは、自己理解、業界理解、面接対策等、より就職活動に直結するテーマ別の講座の開催や、企業による見学会や説明会等、企業との接点を拡大するための企画を実施することで、学生のキャリア形成に有益な情報や知識を提供することを強化している。

個別支援では、3年次から所属するゼミナール別にキャリアセンター担当者を配置し、ゼミナール教員と連携して学生の希望や目標、特徴に合わせた就職に関わるアドバイスや企業紹介、就職活動対策支援を卒業まで継続的に行っている。

3. 適切な体制の整備について

1、2で述べた教育課程内、教育課程外での社会的・職業的自立に関する指導を推進するため、キャリアセンター及びヒューマン・データサイエンス学部キャリア委員会を軸として、教務委員会、全学のキャリア戦略会議委員会が有機的に連携しながら教育内容や支援体制を継続的に整備する。

キャリアセンターは、就職に関する調査・企画、各種講座の開催、また就職活動開始時からの学生個人への面談の実施、企業開拓、卒業生の進路状況の把握、企業への支援・協力などの連携を図る。また学生の個別支援にあたっては、学生の所属ゼミナールの担当教員とキャリアセンター職員が密に連携し、学生の希望や目標、特徴に合わせた支援を行っている。

ヒューマン・データサイエンス学部キャリア委員会は、就職支援及びキャリア教育に関する必要事項について審議し、学生の就職（キャリア形成）支援を行うことを目的として、教員から選出された者若干名、キャリアセンター長並びにキャリアセンターマネジャーで組織する。月に1回の委員会を開催し、学生の進路・就職支援、キャリア教育に関する情報を共有し指導する体制を整備する計画である。キャリア科

目に関することは、キャリア委員会から教務委員会へ提案し、教務委員会にて審議を行う。

また本学では、全学としての社会的・職業的自立に関する指導についての方向性や必要事項を策定するため、全学のキャリア戦略会議委員会を設置している。各学部・研究科で行っている支援等の情報を交換し、各機能を有機的に結合していくこと、また最新の就職動向を把握し大学全体の就職率の維持並びに室を向上させるための戦略を策定することを目的としている。委員長、各学部のキャリア委員会委員長、キャリアセンター長、キャリアセンターマネジャーらで構成されている。

以上のように、ヒューマン・データサイエンス学部キャリア委員会、各学部のキャリア委員会、キャリアセンターといった組織が一体となり、組織的に学生の社会的・職業的自立に向けた支援を行う体制となっている。

設置の趣旨等を記載した書類 資料編

目 次

【資料 1】「文京学院大学 21 世紀ビジョン」「文京学園 90 周年ビジョン」	p.3
【資料 2】 B's Vision 2024.....	p.4
【資料 3】 B's Vision 2029.....	p.5
【資料 4】 Society 5.0（内閣府 HP）	p.6
【資料 5】 第 6 期科学技術・イノベーション基本計画（抜粋）	p.7
【資料 6】『総合知』の基本的考え方及び戦略的に推進する方策（抜粋）	p.9
【資料 7】 IT 人材需要に関する調査（2019 年 4 月）（抜粋）	p.10
【資料 8】 DX 白書 2023（抜粋）	p.11
【資料 9】 Stanford University における研究所、OECD の Web サイト	p.13
【資料 10】 大学の教育方針：3 つのポリシー	p.18
【資料 11】 カリキュラムマップ	p.19
【資料 12】 大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参考基準 情報学分野（抜粋）	p.20
【資料 13】 履修モデル.....	p.23
【資料 14】 科目と DP の対応表	p.26
【資料 15】 基幹教員の分担一覧	p.28
【資料 16】 卒業研究におけるテーマ設定及びデータサイエンスの活用に関する審査実施要領(案)	p.29
【資料 17】 ゼミナール・卒業研究 履修の手引き(案)	p.32
【資料 18】 共生社会フィールドスタディーズ実施要項(案)	p.35
【資料 19】 プロジェクトマネジメント演習実施要項(案).....	p.40
【資料 20】 多様なメディアを高度に利用して行う授業に関するガイドライン.....	p.46
【資料 21】 PBL 科目教員向け実施要領(案).....	p.48

【資料 22】未来体験プログラム実習受入承諾書	p.51
【資料 23】共生社会フィールドスタディーズ実習受入先一覧・実習受入承諾書	p.52
【資料 24】プロジェクトマネジメント演習実習受入先一覧・実習承諾書	p.53
【資料 25】インターンシップ受入先一覧	p.54
【資料 26】文京学院大学任期付専任教員就業規則（抜粋）	p.57
【資料 27】ドメインとデータ解析演習 A～G 実施要領(案)	p.59
【資料 28】研究助成基本規程	p.62
【資料 29】文京学院大学における各種研究助成費等の取扱に関する規程	p.64
【資料 30】文京学院大学総合研究所規程	p.81
【資料 31】ヒューマン・データサイエンス学部時間割・本郷キャンパス使用予定教室一覧	p.85
【資料 32】論文データベース一覧	p.101
【資料 33】文京学院大学 図書館資料収集・選定方針	p.102
【資料 34】資料購入予定リスト	p.106
【資料 35】雑誌購入予定リスト	p.131
【資料 36】大学組織職務権限規程	p.132
【資料 37】文京学院大学学長選考規程	p.143
【資料 38】学長裁定規程	p.145
【資料 39】内部質保証委員会規程	p.146
【資料 40】文京学院大学 F D ・ S D 規程	p.149

資料1

「文京学院大学 21世紀ビジョン」（2001 年制定）

1. 本学は、建学の精神である人間としての自立と共生を実現できるようきちんとした人間教育と職業教育を行う。小規模ながら個性と実力を持った教養プラス専門大学である。
2. 学部卒業とともに社会に出る人の支援も惜しまないが、大学院でも勉強できる体制づくりを行う。資格取得と専門職を目指していくつでも学べる開かれた教育機関として、社会人が学びやすい大学院を構築する。また、生涯学習センターではいつでも学ぶことができるよう卒業生を優先的にできるだけ低学費で受け入れる。
3. 先生が、親身で親切、ゼミナールやグループで学生一人一人の天分を伸ばす大学である。したがって、卒業生は常識を身につけており、専門知識もあり、社会からは「まかせて安心な人」といわれる。教職実習、社会貢献実習、福祉実習等を通じて地域貢献も行い、学生にとっても社会との連携を大切にする大学である。
4. 国際化社会に対応し、アジアばかりか英語圏の学生も受け入れるとともに送り出し、交換留学に力を入れる。国際交流が盛んな大学である。
5. 教育は、教職員一人一人の情熱によって行われる。21世紀を担う人を育てる熱い心をもつ集団でありたい。学科、学部、キャンパスを超えて協力し合って教育研究の最大の効果をあげることをめざす。したがって、大いに議論は尽くすが、各部署の利害を超えた大局的判断を「大学運営会議」等で行い、協力体制をとる。

「文京学園90周年ビジョン」（2014 年制定）

有名大規模大学が行うブランド戦略や資格取得を掲げる専門学校のスキル戦略とは別の、文京ならではの人材育成「第三の道」として「ストレス耐性のある人材育成」および「永久サポート大学」を掲げる。

・ストレス耐性のある人材育成

随所対応ができる（適材随所）若者が減少している中、本学卒業生の離職率は全国平均よりかなり低く、誠実さ、協調性・チームで仕事をする能力、コミュニケーション能力、マナーの良さ、規律性・倫理観といったストレス耐性につながる素養を身につけていることを受け、ストレス耐性のある人材育成につなげる。

・永久サポート大学

在学時は当然のこととして、卒業後も永久サポート大学として支援を続けることで、10後にはそれぞれの職場にて中堅管理職クラス（リーダー層）として継続して活躍する人材を目にする割合で増加させる。

目標

- ・教育力日本一。
- ・地球市民を育てる。

B's Vision 2024 では4つのビジョンを掲げ、大学の目指す姿とします。

◆国際化に対応した地球市民の育成

日本人としてのアイデンティティを持ちながら、ダイバーシティを尊重し、共生できるグローバル人材を育成する。グローバル人材が必要とする能力は、コミュニケーション力、時代を読む情報収集能力、物怖じせず他者と関わる力であり、海外での経験を積み国際的視点を養う。

◆ストレス耐性を持った人材の育成

本学の学習成果のひとつとして、学生がそれぞれ自身の現在の知識と技能および将来の目標を認識し、能力も考え方も異なる他者とのコミュニケーションや協働行為に自信をもって参加し、自己の意志を表出でき、問題発見・解決能力を発揮し、また想定した結果が得られない解決困難な課題に対しても、努力し挑戦できる人材を輩出する。

◆永久サポート大学

在学時は当然のこととして、卒業後も学び直しを支援し続けることで、10年後にはそれぞれの職場にて中堅管理職クラス（リーダー層）として継続して活躍する人材を目にする割合で増加させるとともに、学内にいる頃から世代を超えた交流を促進する。大学はすべての文京生や卒業生のライフパートナーである。

◆教育力日本一

教育力とは、社会に役立つ力、すなわち社会の変革や、社会にとっての新たな価値を生み出せる力を授けることと捉え、社会の問題を自らの課題として積極的に関わって自分を作っていくことができ、いなくなると困るような人材を育成することにおいて日本一を目指す。そのための教育体制と環境を整え、ストレス耐性のある人材育成、地球市民の育成、地域社会とともに少子・超高齢化社会を支える人材育成等につなげていく。

文京学院大学中長期計画の概要

建学の精神：	「自立と共生」
ミッション：	ひとやものと協働しながら社会で自立できる人材を育成します / 志(こころざし)ある人に学びの機会と可能性を提供します
B'sビジョン2029：	予測不可能な時代変化の中で、社会の新しい課題を発見し主体的に解決しようと人材を育成するために、大学として以下の4つの方針を掲げ 教育力日本一を目指します
1. 地球市民を育成します 2. ストレス耐性の高い人材を育成します 3. 学ぶ喜びのある教育環境を提供します 4. 生涯にわたる学びをサポートします	
教育	募集
<ul style="list-style-type: none"> ・教養教育プログラム((仮)B's Standard)の設置 (実験会、課題解決学習、初年次・キャリア教育充実) ・外国人受け入れ強化(社会人・18歳・外国人の融合教育含む) ・教育課程編成、授業体制の見直し ・ICTを活用した教育方法の展開 ・学習成果の可視化と個別学習の最適化 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での高大接続(探求学習、ラーニングサポート含む)の実施。 ・戦略的広報計画及び実施体制・組織の整備 ・IR分析に基づく戦略的募集計画及び入試改革の実施
キャリア	社会貢献
<ul style="list-style-type: none"> ・学部横断キャリア基盤教育の設置(初年次から主体的に考え方行動する教育) ・アセスメント結果に基づく体系的個別支援 ・全科目にキャリア形成に必要な能力資質の要素を明示 	<ul style="list-style-type: none"> ・文京区、ふじみ野市における地域貢献活動の促進、地方の連携拡大 ・地域・企業との連携推進機能強化 ・学生ボランティア活動の単位化促進、市民向けプログラムの拡充 ・リスキリング、リカレント教育、履修証明プログラムの検討 ・社会連携・社会貢献活動の情報公開
DX	研究
<ul style="list-style-type: none"> ・教育DXの更なる推進(LMSやポートフォリオによる学修成果可視化、マイクロクレデンシャルによる教育の質保証、個別最適化指導の支援、言語ギャップ解消等) ・学生サービス向上と業務効率化(AIチャットボット、定型業務へのAI活用、データ駆動型意思決定の支援システム基盤の整備) ・デジタル人材育成のための施策立案 	<ul style="list-style-type: none"> ・期間リボットリ化を過去の本学教員の論文に順次拡大 ・産学連携に基づく研究費獲得 ・HPにおける本学教員の研究業績の明示の徹底
教育改革	
<p>ヒューマン・データサイエンス学部の新設 次の時代を見据えた全学の継続的・横断的な教育システムの見直しと改革</p>	
安定的な財務基盤の確立と内部質保証の維持強化	

2029年までの大学のミッション

—建学の精神「自立と共生」を基盤として

ひとやものと協働しながら社会で
自立できる人材を育成します

志(こころざし)ある人に学びの
機会と可能性を提供します

他者との協働性

よく知る人だけでなく見知らぬ他者ともコミュニケーションを取りながら問題解決ができる

志(こころざし)ある人

明確な将来像をもち学ぶ意欲のある人はもちろん、自身のキャリアを探索している人、現在の状況を変えたい、ステップアップしたいと考えている人に、学びの環境と新しい学びを通じた自身のライフキャリアの構成・再構成を支援する

もの(対象物)との協働性

人がつくった道具、ことば、概念、AI等を媒介して、目的を達成するために働きかけることができる

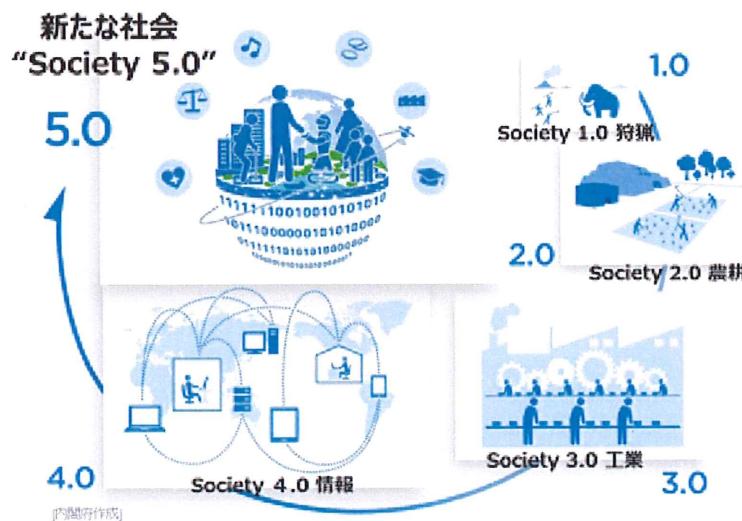
教育方法

対面授業を主体としながら、必要に応じてオンライン授業やコンテンツなどを併用し、学びの機会と可能性を拡大する

Society 5.0

Society 5.0とは

我が国が目指すべき未来社会の姿であり、狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く新たな社会です。第5期科学技術基本計画(平成28年1月22日閣議決定)において、「サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」としてSociety 5.0が初めて提唱されました。第5期科学技術基本計画で提示したSociety 5.0の概念を具体化し、現実のものとするために、令和3年3月26日に閣議決定された第6期科学技術・イノベーション基本計画では、我が国が目指すべきSociety 5.0の未来社会像を「持続可能性と強靭性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ(well-being)を実現できる社会」と表現しています。



Society 5.0の実現に必要なもの

第5期科学技術基本計画において「サイバー空間とフィジタル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」として提唱されたSociety 5.0について、第6期科学技術・イノベーション基本計画では、国内外の情勢変化を踏まえて具体化させていく必要があるとしています。

出典：内閣府.“Society 5.0”.内閣府科学技術政策.
 URL: https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html (閲覧日: 2025年2月13日)

第6期科学技術・イノベーション基本計画（抜粋）

資料5

内閣府 2021年3月閣議決定

はじめに

我々は大きな時代の岐路に立っている。科学技術・イノベーション政策は、今後しばらくはどの国においても、二つの大きな方向を常に見据えながら策定されていくことになるだろう。すなわち、科学技術には、20世紀後半から爆発的に拡大した人間活動に由来する地球規模の危機を克服するための知恵が求められている。その一方で、それぞれの国は、グローバルな協調と調和をうたう様々な国際提言やコンセプトを競い合いながら、自国の競争力強化のための国内改革と科学技術への未来投資の拡大を加速していく。

人口の指数関数的な増加、巨大化する都市環境、大量生産と大量消費に支えられたGDP¹の成長神話、国の制約を凌駕しようとするグローバリゼーションの進展など、「グレートアクセラレーション²」とも呼ばれるこれら20世紀の遺産が、大気中のCO₂やメタンガスの増加、更にプラスチック流出等による海洋汚染を生み出し、異常気象や気候変動、海洋生態系への影響といった地球の危機を作り出している。これこそ「人新世」の現出³という仮説が示す世界的な課題の認識である。また、今や世界は、米中対立の先鋭化など混迷の度を深め、我が国の安全保障をめぐる環境も一層厳しさを増している。第6期科学技術・イノベーション基本計画（以下「第6期基本計画」という。）で掲げる我が国の科学技術・イノベーション政策は、こうしたグローバル課題解決への政策的貢献を企図するものでなければならない。翻って、科学技術・イノベーション政策には、国民の一人ひとりにいかなる恩恵をもたらすのかという国内向けの視座も欠かすことはできない。我が国は、これまで少子高齢化や過疎化の進展といった課題を抱えてきたが、更に近年、深刻化する自然災害、科学技術の国際競争力低下など新たな社会的課題に直面している。また、若者世代の自己肯定感の低さなど次代を担う人材に関する課題も浮き彫りになっている。それらを解決するためには、自然科学のみならず人文・社会科学も含めた多様な「知」の創造と、「総合知」による現存の社会全体の再設計、さらには、これらを担う人材育成が避けては通れない。

グローバル課題への貢献と国内の構造改革という両軸を、どのような政策で調和させることができるのか。第6期基本計画に求められているのは、そのための政策的創案である。

その時に我々が目指すべきは、第5期科学技術基本計画（以下「第5期基本計画」という。）で掲げた「サイバー空間⁴とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」であるSociety 5.0を現実のものとすることであろう。2015年の国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs⁵）の提案に強く共感しながら、そこに「信頼」や「分かち合い」を重んじる我が国独特の価値観を重ね、20世紀の負の遺産を超えた我が国の未来社会像としてSociety 5.0を再提示する。社会や自然との共生のための循環型社会の実現、信頼に基づく市民感覚、三方よしの社会通念、分かち合いの共感性、こうした「ソフトパワー」の価値を、信頼性の高い科学研究や技術力、更には極めて質の高い社会データの存在と結びつけ、我が国の未来社会像としてSociety 5.0を世界に問いかける。加えて、このコンセプトの提言によって、我が国が、この価値観を共有できる国・地域・国際機関等との連携を強め、国際社会にお

¹ 国内総生産（Gross Domestic Product）

² Steffen, W., Broadgate, W., Deutsch, L., Gaffney, O. & Ludwig, C. The trajectory of the Anthropocene: The Great Acceleration. The Anthropocene Review 2: 81-98, doi:10.1177/2053019614564785 (2015)

³ 2000年、ノーベル化学賞受賞者である大気化学者のパウル・クルツェンが、人類が地球環境に及ぼした影響により、地質年代が1万1700年前から現在に至る「完新世」から新たな地質年代である「人新世」に入ったと提唱。2021年2月現在においては、国際的な学術団体による正式な承認には至っていない。

⁴ 多様なサービスのサプライチェーンやコミュニティなどが形成される新たな社会領域

⁵ SDGs: Sustainable Development Goals

ける信頼の要となることを目指す。

こうした基本認識の下、この第6期基本計画では、我が国が目指すべき Society 5.0 の未来社会像を、「持続可能性と強靭性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ（well-being）を実現できる社会」と表現し、その実現に向けた『「総合知による社会変革」と「知・人への投資」の好循環』という科学技術・イノベーション政策の方向性を示した。また、その達成のため、次の5年間で約30兆円の政府研究開発投資を確保し、これを呼び水として官民合わせて約120兆円の研究開発投資を行っていくことを明記した。今後5年間、我々はこの方向性に沿って、果敢に各政策を推進し、社会全体の再設計を成し遂げるとともに、社会からの要請に応じて知のフロンティアの開拓と挑戦する人材の育成に取り組み、そして社会変革を更に加速させるダイナミックな好循環を起こしていく。科学技術とイノベーションの力によって、地域、ジェンダー、言語、文化の多様性を尊重し、互いの自由と信頼という原則を共有できる国々とともに、新たな世界秩序の中でオール・インクルーシブな社会を実現していかねばならない。そして、その中枢の一角を我が国が担っていくべきである。

振り返れば、科学技術は、我が国が戦後の壊滅的状況から復興する際に拠りどころとしたものであった。だとすれば、「人新世」とも言われる地球規模の危機に直面する時代の中で、Society 5.0 を普遍的でグローバルな未来社会像として前面に掲げ、日本国憲法が高々とうたい上げたように、「国際社会において、名譽ある地位を占めたい」。それが第6期基本計画の中心的メッセージである。

出典：内閣府『第6期科学技術・イノベーション基本計画』より抜粋
URL: <https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/6honbun.pdf>

資料6

『総合知』の基本的考え方及び戦略的に推進する方策（抜粋）

内閣府

3-1. 「総合知」の基本的考え方

我が国の科学技術やイノベーションが様々な課題へ適切に対応し、世界に伍していくためには、「総合知」すなわち、多様な「知」が集い、新たな価値を創出する「知の活力」を生むことが不可欠である。多様な「知」が集うとは、属する組織の「矩」を超えて、専門領域の枠にとらわれない多様な「知」が集うことであり、新たな価値を創出することは、安全・安心の確保とWell-beingの最大化に向けた未来像を描くだけでなく、社会実装に向けた具体的な手段も見出し、社会の変革をもたらすことである。これらによって「知の活力」を生むことこそが「総合知」であり、「総合知」を推し進めることができ、科学技術・イノベーションの力を高めることにつながる。

総合知とは

多様な「知」が集い、新たな価値を創出する「知の活力」を生むこと

- ・多様な「知」が集うとは、属する組織の「矩」を超え、専門領域の枠にとらわれない多様な「知」が集うことである。
 - ・新たな価値を創出することは、安全・安心の確保とWell-beingの最大化に向けた未来像を描くだけでなく、社会実装に向けた具体的な手段も見出し、社会の変革をもたらすことである。
- これらによって「知の活力」を生むことこそが「総合知」であり、「総合知」を推し進めることができ、科学技術・イノベーションの力を高めることにつながる。

（参考）科学技術・イノベーション基本法／基本計画における「総合知」

（1）科学技術・イノベーション基本法（令和2年6月24日公布、令和3年4月1日施行）

第3条第6項（抜粋）

- 6 科学技術・イノベーション創出の振興に当たっては、あらゆる分野の科学技術に関する知見を総合的に活用して、次に掲げる課題その他の社会の諸課題への的確な対応が図られるよう留意されなければならない。
- 少子高齢化、人口の減少、国境を越えた社会経済活動の進展への対応その他の我が国が直面する課題
 - 食料問題、エネルギーの利用の制約、地球温暖化問題その他の人類共通の課題
 - 科学技術の活用により生ずる社会経済構造の変化に伴う雇用その他の分野における新たな課題

（2）第6期科学技術・イノベーション基本計画（令和3年3月26日閣議決定）

第1章（抜粋）

2020年の第201回国会において、25年ぶりとなる科学技術基本法の本格的な改正が行われた。（中略）これまで科学技術の規定から除外されていた「人文・社会科学（法では「人文科学」と記載）のみ」に係るもの、同法の対象である「科学技術」の範囲に位置づけるとともに、「イノベーションの創出」を柱の一つに据えた。（中略）今後は、人文・社会科学の厚みのある「知」の蓄積を図るとともに、自然科学の「知」の融合による、人間や社会の総合的理解と課題解決に資する「総合知」の創出・活用がますます重要となる。

第2章（抜粋）

- 人文・社会科学の知と自然科学の知の融合による人間や社会の総合的理解と課題解決に貢献する「総合知」に関して、基本的な考え方や、戦略的に推進する方策について2021年度中に取りまとめる。あわせて、人文・社会科学や総合知に関連する指標について2022年度までに検討を行い、2023年度以降モニタリングを実施する。

第1章 事業概要

1. 背景と目的

(1) 背景

経済産業省が平成28年6月に公表した「IT人材の最新動向と将来推計に関する調査¹」によれば、IT需要が今後拡大する一方で、我が国の労働人口（特に若年人口）は減少が見込まれ、IT人材の需要と供給の差（需給ギャップ）²は、需要が供給を上回り、2030年には、最大で約79万人に拡大する可能性があると試算されている。

IT人材は、我が国のIT産業の産業競争力強化のほか、企業等における高度なIT利活用、デジタルビジネスの進展等を担っている。特にAI(Artificial Intelligence:人工知能)やビッグデータを使いこなし、第4次産業革命に対応した新しいビジネスの担い手として、付加価値の創出や革新的な効率化等により生産性向上等に寄与できるIT人材の確保が重要となっている。

こうした状況を踏まえ、「未来投資戦略2017³（平成29年6月9日閣議決定）」において、第4次産業革命下で求められる人材の必要性・喫緊性を明確化するため、経済産業省、厚生労働省、文部科学省等が連携してIT人材需給を把握する仕組みを早期に構築することとされた。

(2) 目的

上記を踏まえ、本調査分析では、第4次産業革命に対応したIT人材の需給状況を把握する手法について検討を行うとともに、各種条件のもとでの試算を行い、その試算結果を取りまとめた。

¹ 経済産業省「IT人材の最新動向と将来推計に関する調査結果を取りまとめました」
<http://www.meti.go.jp/press/2016/06/20160610002/20160610002.html>

² 本報告書では、需要と供給の差を需給ギャップと略する場合がある。需給ギャップは、需要が供給を上回る（人材不足）場合と供給が必要を上回る（人材余剰）の場合がある。

³ 未来投資戦略2017—Society 5.0の実現に向けた改革—
https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/miraitousi2017_t.pdf

3 DXを推進する人材の「量」「質」

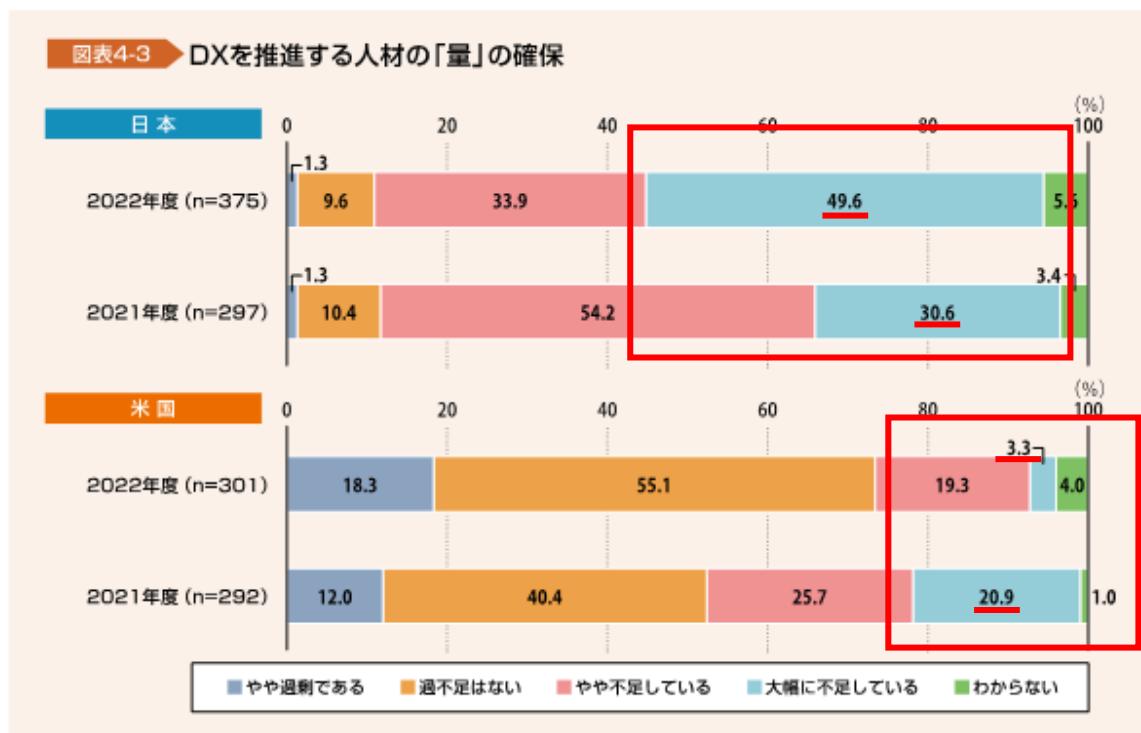
（1）DXを推進する人材の「量」「質」の確保

人材の確保は、DX戦略を推進するうえでの重要な課題である。そのため、自社の人材の充足度を把握し、継続的に人材確保をする必要がある。

DXを推進する人材の「量」の確保について尋ねた結果の経年比較を図表4-3に示す。

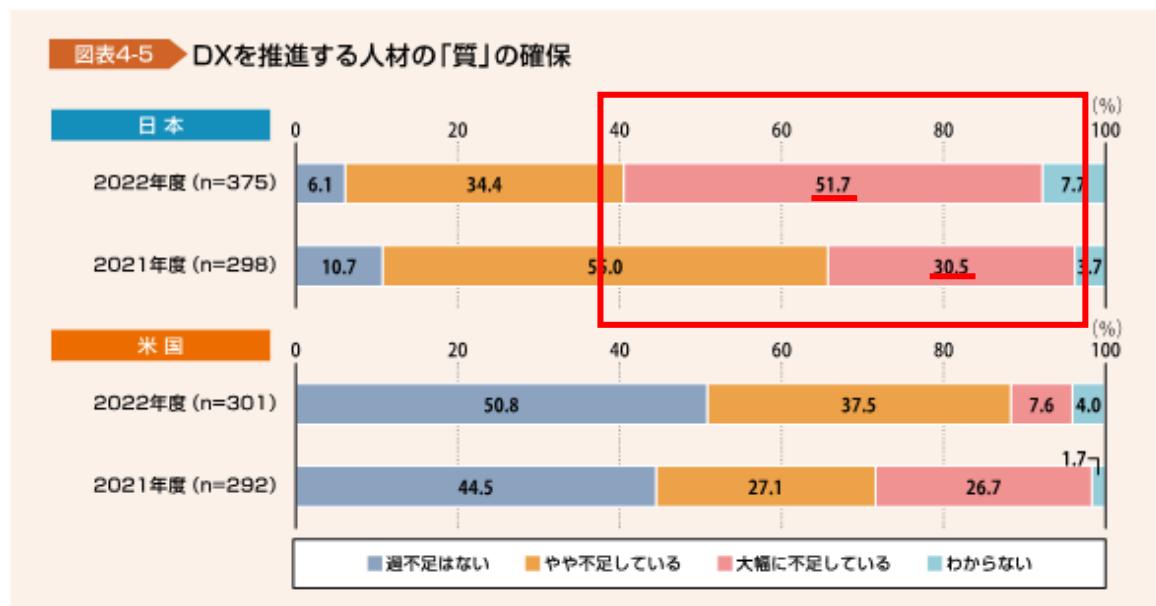
2022年度調査では、DXを推進する人材が充足していると回答した企業は日本が10.9%、米国が73.4%である。「大幅に不足している」が米国では2021年度調査の20.9%から2022年度調査の3.3%と減少する一方、日本では2021年度調査の30.6%から2022年度調査は49.6%と増加し、DXを推進する人材の「量」の不足が進んでいる。

なお、DXを推進する人材が充足している回答とは「やや過剰である」「過不足はない」の合計のことを行う。



DXを推進する人材の「質」の確保について尋ねた結果の経年比較を図表4-5に示す。日本では、「やや不足している」は2021年度調査の55.0%から2022年度調査は34.4%、「過不足はない」は10.7%から6.1%と減少している一方、「大幅に不足している」は2021年度調査の30.5%から2022年度調査は51.7%になり不足が増加している。また、米国では「大幅に不足している」が2021年度調査の26.7%から2022年度調査は7.6%と減少している。

日本企業でDXを推進する人材の「量」「質」の不足が増加した要因としては、この1年でDXに取組む企業の割合が増加し、それに合わせてDXの推進に必要な人材に対するニーズが増えていると考えられる。(第3部第1章2.「日米におけるDXへの取組状況」を参照)



出典：独立行政法人情報処理推進機構（2023）『DX白書』より抜粋
URL:<https://www.ipa.go.jp/publish/wp-dx/gmcbt8000000botk-att/000108041.pdf>



Stanford Data Science for Health Center

Vision: The goal of Data Science for Health is to:

1. Foster a community for data science + health researchers across all the Stanford schools.
2. Create Stanford data assets and infrastructure to broadly enable data science + health research and translation.
3. Catalyze new advances in data science methodology to address health challenges.
4. Provide education, mentoring, and outreach opportunities in health data science.

[Join our mailing list](#) to learn more about SDS and the Health Data Center!

Subscribe

Center Director: James Zou



Core Faculty



Center for Sustainability Data Science

Sustainability is a grand challenge of our time and is a major focus of Stanford's next decade of scholarship and investment. There are many exciting opportunities to advance sustainability science and practice with new data and data science methods, especially at Stanford where there are a large and growing number of faculty, students, and staff who are working on aspects of sustainability.

The mission of the **Center for Sustainability Data Science (SuDS)** is to foster community between the wide range of scholars on campus by building:

- Engaging interactions to inform data scientists of the big questions in sustainability and ensure sustainability scientists are aware of the latest capabilities of data science.
- Accessible mechanisms to engage in this kind of research.

Our goals:

- Catalyze new research that applies data science to topics in sustainability, with an emphasis on early-stage projects across a broad range of applications.
- Engage faculty from both within and outside the new school on climate change and sustainability, spanning all seven schools at Stanford.
- Provide an educational opportunity for data science students to have a meaningful experience that applies their skills to real-world research projects.
- Provide a venue for matching interests between faculty and students in data science and sustainability science.

[Join our mailing list](#) for announcements about upcoming data project assistance, project-based data science capstone courses, and matchmaking events.

Subscribe

Team

Executive Committee

Data Science for Humanity

Our modern era is characterized by massive amounts of data documenting the behaviors of individuals, groups, organizations, cultures, and indeed entire societies. This wealth of data on modern humanity is accompanied by massive digitization of historical data, both textual and numeric, in the form of historic newspapers, literary and linguistic corpora, economic data, censuses, and other government data, gathered and preserved over centuries, and newly digitized, acquired, and provisioned by libraries, scholars, and commercial entities.

Data science methods and approaches allow scholars to act on this mass of data--to enhance our understanding of humanity in all its configurations and activities, and across time and space: from studying individual human behavior to better modeling of human communities, organizations, countries, and societies; from understanding both our current moment and the histories that have brought us here. Data science provides analytical leverage on long-standing questions such as what factors determine economic development and well-being? What leads to well-functioning societies and democracy? Why are some societies plagued by violence, repression, and conflict? Data science opens up new ways of answering these questions because it provides tools to interpret the beliefs and behaviors of people, groups, organizations; it can be leveraged to interpret the cultural and linguistic output of entire cultural periods and peoples; it can help us reason about the causal relationships and the complex motivations of societal and state actors. Both the data itself, and a science to make sense of it, are critical for advances across the social sciences, the humanities, business, education, and law.

Data science for humanity -- not only for the academic study of the humanities and the social sciences, but also for the betterment of humanity itself -- is a deeply interdisciplinary effort. Methods of machine learning, statistical reasoning, natural language processing, classification, textual analysis, and other data science approaches that developed largely (but not exclusively) in the computer science professions, have all become essential tools for scholars and students across the disciplines. This interdisciplinarity has gone both directions: data science itself has benefited from the complex, important, and consequential research questions focused both on the rich history of human cultures and societies, and on the present state of humankind -- in both its triumphs and its troubles. Data science can help diagnose those troubles, and suggest solutions; it offers a new window into the hidden histories and mysterious mechanisms of human cultures.

Contributors

出典 : Stanford University, Stanford Data Scienceより抜粋
URL:<https://datascience.stanford.edu/>

OECD Regional Development Studies

Book series

ISSN: 2789-8008 (Online)

Continues: [OECD Reviews of Regional Innovation](#)



Continues

OECD Reviews of Regional Innovation

Discover

Abstract

Regional development or “place-based” policies are essential to enhance the performance and well-being in all regions. These policies can help reduce regional inequalities, drive efficiencies in public service delivery, support quality infrastructure, boost national performance, enhance resilience and support environmentally sustainable development.

Underpinned by unique granular data at the regional and local levels, the publications in this series consider how regional development is affected by issues such as globalisation, climate change, innovation, digitalisation, demographic change.

These reports and their policy recommendations are relevant to national, regional and local governments, financial institutions, academics, businesses and civil society.

Latest publications

[Place-Based Policies for the Future](#) • 19 May 2025



[Going Granular with Regional and Municipal Fiscal Data](#) • 18 November 2024



[Subnational Public Employment in OECD and EU Countries](#) • 18 November 2024



[Reaching Climate Neutrality for the Hamburg Economy by 2040](#) • 26 January 2024



[A Territorial Approach to Climate Action and Resilience](#) • 6 December 2023



[Enhancing Strategic Planning and Innovation Services](#) • 20 November 2023



[Regions in Industrial Transition 2023](#) • 29 September 2023



[Rethinking Regional Attractiveness in the New Global Environment](#) • 5 July 2023



[Regional Industrial Transitions to Climate Neutrality](#) • 15 February 2023



[Urban-Rural Linkages in Poland](#) • 27 June 2022



Global Compendium of Land Value Capture Policies • 21 June 2022



The Contribution of Migration to Regional Development • 10 March 2022



Regional Innovation in Piedmont, Italy • 16 December 2021



Implications of Remote Working Adoption on Place Based Policies • 22 June 2021



Applying the Degree of Urbanisation • 28 April 2021



See all publications



大学の教育方針：3つのポリシー

■アドミッションポリシー（大学が求める学生像を示した学生受け入れの方針）

本学は、豊かな教養と実学の修得により、自立した人間として共生社会に寄与することのできる資質と能力とを備えた職業人の育成を教育の目標としています。そのため、入学予定者には、これらに必要な下記の資質を備えた人材を求めます。

- 1 高等学校の教育課程を幅広く習得し、これに基づいて読む・書く、聞く・話すことを通して他者とコミュニケーションし、協働することができる
- 2 社会の多様な事象に興味をもち、積極的に情報を整理して、主体的に判断し、表現しようとする態度をもっている
- 3 自らの専門分野の知識・技能に基づいて社会に貢献したいという将来目標と、それを誠実かつ勤勉に学習する意欲をもっている

■カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

豊かな教養を身につけ、自立した人間として共生社会の実現に寄与することのできる資質と能力とを備えた職業人の育成を大学の目的としています。そのため、幅広く教養を学び、その上で深い専門性を磨いていくことを目指しています。これを実現するために、基礎教養科目、専門科目を体系的に履修し、講義、演習、実験、実習など多様な形態で組み合わせたカリキュラムをそれぞれの学部・学科で構成しています。

- 1 大学特別科目として建学の精神など全学生が学ぶべき共通科目を配し、大学への適応や将来設計の基礎としては初年次教育やキャリア教育を行う
- 2 体系的に整備された順次教育型カリキュラムにおいて、理論と実践を両面から学修することにより、専門性の育成をはかる
- 3 学外のフィールドや組織に実践的かつ主体的に参加し他者と協働的な問題解決を体験する、社会参加・実習を取り入れた科目を配置する

■ディプロマポリシー（学位授与の方針）

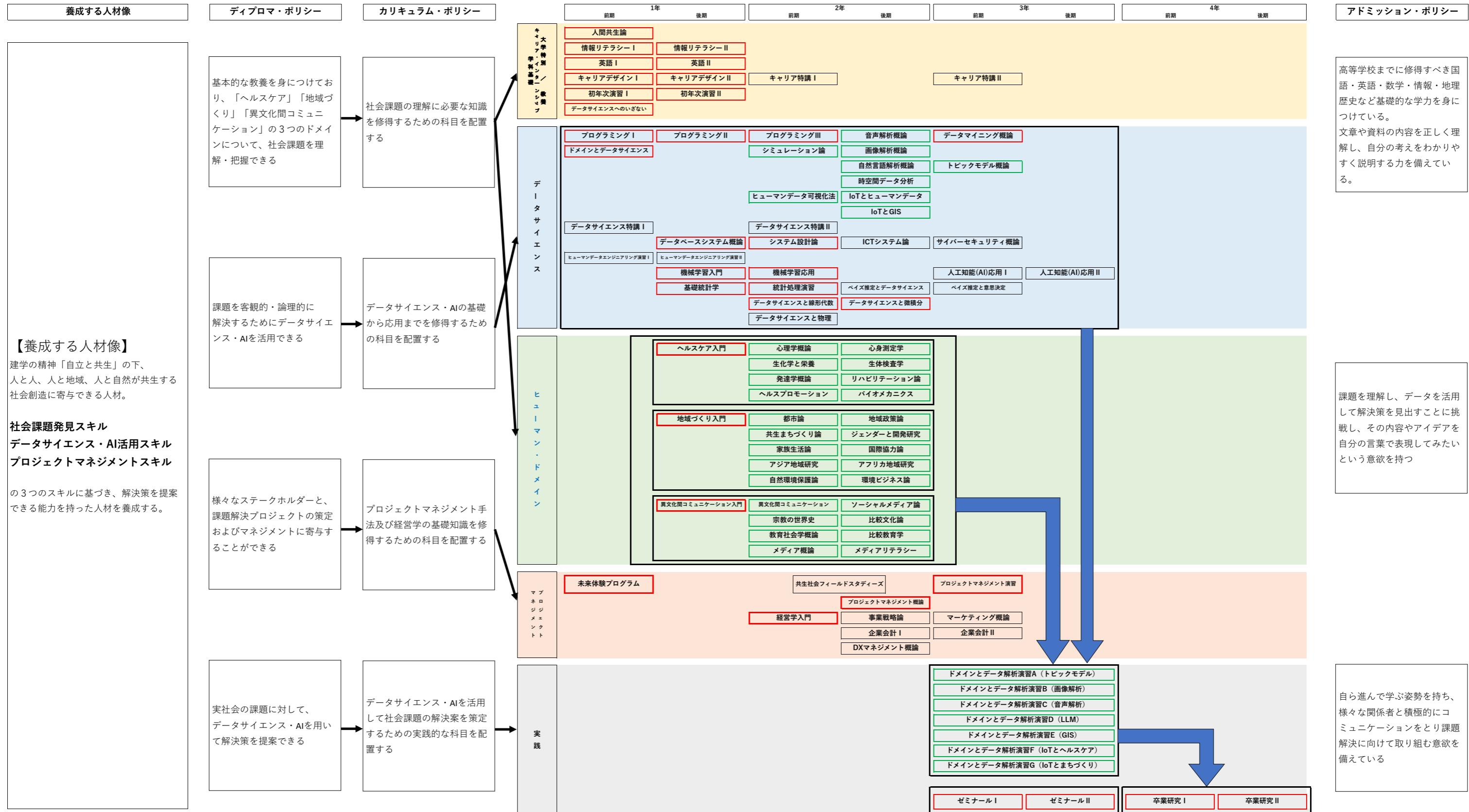
建学の精神である『自立と共生』の理念、「誠実」「勤勉」「仁愛」の校訓に基づき、幅広い教養と倫理観を培い実践的な技能を育みながら、持続可能なグローバル社会に貢献できる人材を育成します。これらを踏まえ、本学は以下の能力を身につけた者に「文京学院大学 学士」の称号を授与します。したがって、本学では以下の能力を身に付けた者に文京学院大学の「学士」を授与する方針です。

- 1 自己を確立し、多様な背景をもつ他者に共感的にかかわり、社会に貢献することができる。
- 2 幅広い教養と専門分野における知識・技能を身につけ、それにに基づいて自己を表現し他者と意見交換ができる。
- 3 環境の変化に柔軟に対応し、チームで協働することができる。
- 4 問題を発見して情報を収集し、その解決に向け努力することができる。
- 5 自らの目標をもち、それを達成するために考え主体的に学習することができる。

文京学院大学 ヒューマン・データサイエンス学部 ヒューマン・データサイエンス学科 カリキュラムマップ

「赤枠：必修」 「緑枠：選択必修」 「黒枠：選択」

教育課程



報告

大学教育の分野別質保証のための
教育課程編成上の参考基準
情報学分野



平成28年（2016年）3月23日

日本学術会議

情報学委員会

情報科学技術教育分科会

要 旨

1 作成の背景

日本学術会議は、文部科学省高等教育局長からの依頼を受け、2010年（平成22年）7月に回答「大学教育の分野別質保証の在り方について」を取りまとめ、同年8月に文部科学省に手交した。同回答においては、大学（学士）専門課程の分野別質保証のための手法として、分野別の教育課程編成上の参考基準を策定することを提案している。日本学術会議では、回答の手交後、引き続きいくつかの分野に関して参考基準の策定を進めてきたが、今般、情報学の参考基準が取りまとめられたことから、同分野に関する教育課程を開設している大学をはじめとして各方面で利用していただけるよう、ここに公表するものである。

2 報告の概要

(1) はじめに

情報技術による社会変動を背景に、情報分野の専門性を涵養する教育への要求は日に日に高まっている中、情報学分野における参考基準の策定は喫緊の課題であった。

(2) 情報学の定義

情報学は、情報によって世界に意味と秩序をもたらすとともに社会的価値を創造することを目的とし、情報の生成・探索・表現・蓄積・管理・認識・分析・変換・伝達に関する原理と技術を探求する学問である。情報学を構成する諸分野は、単に情報を扱うというだけではなく、情報と対象、情報と情報の関連を調べることにより、情報がもたらす意味や秩序を探求している。さらに、情報によって価値、特に社会的価値を創造することを目指している。

情報学は、諸科学との境界において新たな応用分野を恒常に生み出しているが、以上の定義に従えば、これらの応用分野も情報学に含まれるだろう。しかし、ひとまず現時点においては、情報学の専門家となるためには、情報学の最も基本的な中核部分を体系的に学ぶことがきわめて重要である。なぜなら、計算理論から社会情報学に至る学問分野の流れは、決して一つ一つが独立ではなく、互いに密接に関連しているからである。よって本参考基準では、社会情報学までを含む最も基本的な中核部分に焦点をしぼって情報学を記述することにする。すなわち、本参考基準が定義する情報学は、応用分野までも含む広義の情報学ではなく、情報学の中核部分である。

(3) 情報学固有の特性

中核部分に限っても情報学は多くの分野から成り、特に文系と理系に広がっている。情報社会を探求し、よりよい情報社会を築くためには、コンピュータ上で処理される情報と社会におけるコミュニケーションで用いられる情報を、共通に理解し統御するための普遍的な原理が必要である。したがって、それら学問分野の上層に情報一般の原理を

位置づけ、情報学の中核部分を定義することが妥当である。本参照基準では、下記5つの分類（ア～オ）に従って情報学の中核部分を体系化する。ア 情報一般の原理、イ コンピュータで処理される情報の原理、ウ 情報を扱う機械および機構を設計し実現するための技術、エ 情報を扱う人間社会に関する理解、オ 社会において情報を扱うシステムを構築し活用するための技術・制度・組織

情報学とその応用（応用情報学）についての一つの見方として、情報学の中核部分が諸科学に対する「メタサイエンス」であるという考えがある。メタサイエンスとは諸科学全体を覆うサイエンスを意味している。

(4) 情報学を学ぶすべての学生が身に付けることを目指すべき基本的な素養

情報学を学ぶものが獲得すべき基本的な知識を上記のア～オの分類に従い詳述する。
情報学に固有の能力を、情報処理・計算・データ分析、システム化、情報倫理・情報社会の観点からまとめる。また、情報学の学修を通して獲得されるジェネリックスキルを、創造性、論理的思考・計算論的思考、課題発見・問題解決、コミュニケーション、チームワーク・リーダーシップ・チャンス活用、分野開拓・自己啓発の観点からまとめ
る。

(5) 学修方法および評価方法に関する基本的な考え方

情報学の学修方法としては、プログラミング演習に加えて、他の諸科学と同様、講義、実験・演習・実習・ゼミナール、プロジェクト学習などがある。各種の演習の中でも、プログラミングに関連する演習は、情報学の学習の中心に位置づけられ、情報学を学ぶものは必ず体験すべきである。

(6) 専門性と市民性を兼備するための教養教育

情報学を専門に学ぶものが身に付けるべき教養について述べる。情報学が諸科学との境界において新たな応用情報学を生み出し続けるとするならば、情報学を学ぶものは、応用情報学の場に臆さずに出で行くためにも、諸科学に関する幅広い教養を有している必要がある。周辺諸科学の教養は情報学を学ぶものが良き市民として民主的な社会の形成に貢献するためにも重要である。

(7) 専門基礎教育および教養教育としての情報教育

情報学以外の専門課程における基礎教育、さらに、初等中等教育から大学の教養教育に至る教育課程における情報教育について述べている。情報学はメタサイエンスとして、すべての諸科学の基盤の一つと考えられる。したがって、情報学は、情報学を専門に学ぶものに限らず、広く市民が持つべき教養の一部ともなっている。また、情報技術の進歩から新たに生じる諸問題を解決し情報社会を発展させるためには、市民の一人一人が情報技術に関する知識を背景として、情報社会の制度や情報倫理に関する見識を有していかなければならない。

資料13

履修モデル（ヘルスケアドメイン） 黒：必修 紫：選択 数字：単位数

		1年次（44単位）		2年次（44単位）		3年次（22単位）		4年次（14単位）										
大学特別科目	人間共生論	2																
教養科目	情報リテラシーⅠ 英語Ⅰ フィットネス科学	1 1 2	情報リテラシーⅡ 英語Ⅱ	1 1														
キャリア・インターンシップ科目	キャリアデザインⅠ	2	キャリアデザインⅡ	2														
学科基礎科目	初年次演習Ⅰ データサイエンスへのいざない	2 2	初年次演習Ⅱ	2														
データサイエンス科目	プログラミングⅠ ドメインとデータサイエンス ヒューマンデータエンジニアリング演習Ⅰ	4 2 2	プログラミングⅡ データベースシステム概論 ヒューマンデータエンジニアリング演習Ⅱ	2 2 2	プログラミングⅢ ヒューマンデータ可視化法 システム設計論 機械学習入門 基礎統計学	2 2 2 2 2	自然言語解析概論 IoTとヒューマンデータ ベイズ推定とデータサイエンス データサイエンスと線形代数	2 2 2 2	データマイニング概論 トピックモデル概論 ペイズ推定と意思決定	2 2 2	画像解析概論	2				人工知能(AI)応用Ⅰ 人工知能(AI)応用Ⅱ	2 2	
ヒューマン・ドメイン科目	生活・健康理解入門 地域・環境理解入門 ビジネス・文化理解入門	2 2 2			心理学概論 ヘルスプロモーション 教育社会学概論 共生まちづくり論	2 2 2 2	心身測定学 リハビリテーション論 比較教育学 ジェンダーと開発研究	2 2 2 2	生化学と栄養 生体検査学	2 2								
プロジェクトマネジメント科目	未来体験プログラム	2			経営学入門	2	プロジェクトマネジメント概論	2	プロジェクトマネジメント演習	2								
実践科目									ドメインとデータ解析演習F ドメインとデータ解析演習D ドメインとデータ解析演習B	2 2 2	ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2	卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4

卒業要件

- 1) 必修科目は70単位
- 2) 選択必修科目は38単位（教養科目から4単位、データサイエンス科目から10単位、ドメイン科目から20単位、実践科目から4単位）
- 3) 自由選択科目は20単位
- 3) データサイエンス科目から10単位のうち、「データサイエンス」区分より4単位修得すること（但し「データサイエンス特講Ⅰ・Ⅱ」は対象外）
- 4) ドメイン科目から20単位のうち、各ドメイン領域より最低4単位ずつ修得すること

履修モデル（地域づくりドメイン） 黒：必修 紫：選択 数字：単位数

		1年次 (44単位)		2年次 (44単位)		3年次 (26単位)		4年次 (10単位)		
大学特別科目	人間共生論	2								
教養科目	情報リテラシーⅠ 英語Ⅰ 社会調査法Ⅰ	1 1 2	情報リテラシーⅡ 英語Ⅱ 社会調査法Ⅱ	1 1 2						
キャリア・インターナーシップ科目	キャリアデザインⅠ	2	キャリアデザインⅡ	2						
学科基礎科目	初年次演習Ⅰ データサイエンスへのいざない	2 2	初年次演習Ⅱ	2						
データサイエンス科目	プログラミングⅠ ドメインとデータサイエンス データサイエンス特講Ⅰ	4 2 2	プログラミングⅡ データベースシステム概論 機械学習入門 基礎統計学	2 2 2 2	プログラミングⅢ シミュレーション論 システム設計論 機械学習応用 統計処理演習 データサイエンスと線形代数	2 2 2 2 2 2	画像解析概論 時空間データ分析 IoTとGIS データサイエンスと微積分	2 2 2 2	データマイニング概論 自然言語解析概論 トピックモデル概論	2 2 2
ヒューマン・ドメイン科目	生活・健康理解入門 地域・環境理解入門 ビジネス・文化理解入門	2 2 2			心理学概論 家族生活論 都市論 事業戦略論	2 2 2 2	心身測定学 国際協力論 地域政策論 マーケティング概論	2 2 2 2	アジア地域研究 アフリカ地域研究 共生まちづくり論	2 2 2
プロジェクトマネジメント科目	未来体験プログラム	2			経営学入門	2	プロジェクトマネジメント概論	2	プロジェクトマネジメント演習	2
実践科目							ドメインとデータ解析演習E	2	ドメインとデータ解析演習G	2
							ゼミナールⅠ	2	ゼミナールⅡ	2
							卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4

卒業要件

- 1) 必修科目は70単位
- 2) 選択必修科目は38単位（教養科目から4単位、データサイエンス科目から10単位、ドメイン科目から20単位、実践科目から4単位）
- 3) 自由選択科目は20単位
- 3) データサイエンス科目から10単位のうち、「データサイエンス」区分より4単位修得すること（但し「データサイエンス特講Ⅰ・Ⅱ」は対象外）
- 4) ドメイン科目から20単位のうち、各ドメイン領域より最低4単位ずつ修得すること

履修モデル（異文化間コミュニケーションドメイン） 黒：必修 紫：選択 数字：単位数

		1年次（42単位）		2年次（42単位）		3年次（26単位）		4年次（14単位）			
大学特別科目	人間共生論	2									
教養科目	情報リテラシーⅠ 英語Ⅰ ジェンダー論 日本国憲法	1 1 2 2	情報リテラシーⅡ 英語Ⅱ	1 1	ジェンダー・イノベーションと地域社会 パーソナルファイナンス	2 2					
キャリア・インターンシップ科目	キャリアデザインⅠ データサイエンスへのいざない	2 2	キャリアデザインⅡ	2	キャリア特講Ⅰ	2		キャリア特講Ⅱ	2		
学科基礎科目	初年次演習Ⅰ データサイエンスへのいざない	2 2	初年次演習Ⅱ	2							
データサイエンス科目	プログラミングⅠ ドメインとデータサイエンス 機械学習入門 基礎統計学	4 2 2 2	プログラミングⅡ データベースシステム概論 機械学習応用 統計処理演習 データサイエンスと線形代数	2 2 2 2 2	音声解析概論 自然言語解析概論 データサイエンス特講Ⅱ データサイエンスと微積分	2 2 2 2	データマイニング概論 トピックモデル概論 データサイエンス特講Ⅱ ベイズ推定とデータサイエンス	2 2 2 2	画像解析概論 ICTシステム論 サイバーセキュリティ概論 ベイズ推定と意思決定	2 2 2 2	
ヒューマン・ドメイン科目	生活・健康理解入門 地域・環境理解入門 ビジネス・文化理解入門	2 2 2	生化学と栄養 自然環境保護論 異文化間コミュニケーション メディア概論	2 2 2 2	生体検査学 環境ビジネス論 ソーシャルメディア論 メディアリテラシー	2 2 2 2	教育社会学概論 比較教育学	2 2			
プロジェクトマネジメント科目	未来体験プログラム	2	経営学入門	2	プロジェクトマネジメント概論	2	プロジェクトマネジメント演習	2			
実践科目							ドメインとデータ解析演習C ゼミナールⅠ	2	ドメインとデータ解析演習A ゼミナールⅡ	2	
								卒業研究Ⅰ	4	卒業研究Ⅱ	4

卒業要件

- 1) 必修科目は70単位
- 2) 選択必修科目は38単位（教養科目から4単位、データサイエンス科目から10単位、ドメイン科目から20単位、実践科目から4単位）
- 3) 自由選択科目は20単位
- 3) データサイエンス科目から10単位のうち、「データサイエンス」区分より4単位修得すること（但し「データサイエンス特講Ⅰ・Ⅱ」は対象外）
- 4) ドメイン科目から20単位のうち、各ドメイン領域より最低4単位ずつ修得すること

資料14

科目とディプロマ・ポリシーの対応

		知識・理解				汎用的技能				態度・志向性				創造的思考力			
		DP1		DP2													
科目的知識	社会課題を理解・把握できる	課題を客観的・論理的に解決するためにデータサイエンス・AIを活用できる				様々なステークホルダーと、課題解決プロジェクトの策定及びマネジメントに寄与することができる				実社会の課題に対して、データサイエンス・AIを用いて解決策を提案できる							
科目区分	科目名	基本的な教養知識を理解している	3つのドメインに関する基礎的な知識を理解している	1つまたは複数のドメインについて社会課題を把握できる	数量的分析スキルを持つ	情報処理能力(データ分析含む)を持つ	論理的思考力を身につけている	問題解決手順を身につけている	DP3-1:コミュニケーション力・経営学の基礎知識及びマネジメントスキルを持つ	与えられた課題の背景を理解し、自ら能力をもつて取り組む	課題解決に適したデータを収集する力を持つ	社会的責任を身につけている	生涯学習力を身につけている	ドメイン知識をもとに社会課題を発見できる	データサイエンス・AIを活かして、課題解決策を作成できる	課題解決策の妥当性を検討できる	課題解決案の成果を発信できる力を身につけている
大学特別科目	人間共生論	○															
教養科目	情報リテラシーI	○															
	情報リテラシーII	○															
	英語I	○															
	英語II	○															
	日本国憲法	○															
	法学	○															
	哲学	○															
	ジェンダー論	○															
	経済学	○															
	フィットネス科学	○															
	フィットネス科学演習I	○															
	フィットネス科学演習II	○															
	ジェンダー・イノベーションと地域社会	○															
	バーソナルファイナンス	○															
	社会調査法I	○	○	○	○												
	社会調査法II	○	○	○	○												
	社会統計学I	○	○	○	○												
	社会統計学II	○	○	○	○												
	量的データ分析	○	○	○	○												
	質的データ分析	○	○	○	○												
	社会調査法実践(質的)I	○	○	○	○												
	社会調査法実践(質的)II	○	○	○	○												
	社会調査法実践(量的)I	○	○	○	○												
	社会調査法実践(量的)II	○	○	○	○												
キャリア・インターンシップ科目	キャリアデザインI	○															
	キャリアデザインII	○															
学科基礎科目	インターンシップ	○								○	○	○					
	キャリア特講I								○	○	○						
	キャリア特講II								○	○	○						
データサイエンス科目	初年次演習I	○															
	初年次演習II	○															
	データサイエンスへのいざない	○															
データサイエンス科目	プログラミングI		○	○	○	○											
	プログラミングII		○	○	○	○	○										
	プログラミングIII		○	○	○	○	○										
	ドメインとデータサイエンス		○	○	○	○	○										
	シミュレーション論		○	○	○	○	○										
	ヒューマンデータ可視化法		○	○	○	○	○										
	音声解析概論		○	○	○	○	○										
	画像解析概論		○	○	○	○	○										
	自然言語解析概論		○	○	○	○	○										
	時空間データ分析		○	○	○	○	○										
	IoTとヒューマンデータ		○	○	○	○	○										
	IoTとGIS		○	○	○	○	○										
	データマイニング概論		○	○	○	○	○										
	トピックモード概論		○	○	○	○	○										
	データサイエンス特講I		○	○	○	○	○										
	データサイエンス特講II		○	○	○	○	○										
エンジニアリングアーリング	ヒューマンデータエンジニアリング演習I		○	○	○	○	○										
	ヒューマンデータエンジニアリング演習II		○	○	○	○	○										
	データベースシステム概論		○	○	○	○	○										
	システム設計論		○	○	○	○	○										
	ICTシステム論		○	○	○	○	○										
A.I	サイバーセキュリティ概論		○	○	○	○	○										
	機械学習入門		○	○	○	○	○										
	機械学習応用		○	○	○	○	○										
	人工知能(AI)応用I		○	○	○	○	○										
	人工知能(AI)応用II		○	○	○	○	○										
数理・統計	基礎統計学		○	○	○	○	○										
	統計処理演習		○	○	○	○	○										
	データサイエンスと線形代数		○	○	○	○	○										
	データサイエンスと物理		○	○	○	○	○										
	データサイエンスと微積分		○	○	○	○	○										
	ペイズ推定とデータサイエンス		○	○	○	○	○										
	ペイズ推定と意思決定		○	○	○	○	○										

科目とディプロマ・ポリシーの対応

				知識・理解		汎用的技能			態度・志向性			創造的思考力							
				DP1		DP2			DP3			DP4							
				「ヘルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」の3つのドメインについて、社会課題を理解・把握できる			課題を客観的・論理的に解決するためにデータサイエンス・AIを活用できる			様々なステークホルダーと、課題解決プロジェクトの策定及びマネジメントに寄与することができる			実社会の課題に対して、データサイエンス・AIを用いて解決策を提案できる						
科目区分		科目名		基本的な教養知識を理解している	3つのドメインにおける基礎的な知識を理解している	1つまたは複数のドメインについて社会課題を把握できる	数量的分析スキルを身につけていている	情報処理能力(データ分析含む)を身につけている	論理的思考力を身につけている	問題解決手順を身につけている	DP3-1:コミュニケーション力と経営学の基礎知識及びマネジメントスキルを身につけている	与えられた課題の背景を理解する能力を身につけている	課題解決に適したデータを収集する力を身につけている	社会的責任を身につけている	生涯学習力を身につけている	データサイエンス・AIをもとに社会課題を発見できる	データサイエンス・AIを活かして、課題解決策を作成できる	課題解決策の妥当性を検討できる	課題解決策の成果を発信できる力。自身についている
ヒューマン・ドメイン科目	ヘルスケア	ヘルスケア入門	○	○															
		心理学概論	○	○															
		心身測定学	○	○															
		生化学と栄養	○	○															
		生体検査学	○	○															
		発達学概論	○	○															
		リハビリテーション論	○	○															
		バイオメカニクス	○	○															
		ヘルスプロモーション	○	○															
	地域づくり	地域づくり入門	○	○															
		都市論	○	○															
		地域政策論	○	○															
		共生まちづくり論	○	○															
		ジェンダーと開発研究	○	○															
		家族生活論	○	○															
		国際協力論	○	○															
		アジア地域研究	○	○															
	異文化間コミュニケーション	アフリカ地域研究	○	○															
		自然環境保護論	○	○															
		環境ビジネス論	○	○															
		異文化間コミュニケーション入門	○	○															
		異文化間コミュニケーション	○	○															
		ソーシャルメディア論	○	○															
		宗教の世界史	○	○															
		比較文化論	○	○															
マネジメント科目	マネジメント	教育社会学概論	○	○															
		比較教育学	○	○															
		メディア概論	○	○															
		メディアアラブフーズ	○	○															
		未来体験プログラム									○	○	○	○					
		メトロマジックネイ									○	○	○	○		○			
		共生社会フィールドスタディーズ									○	○	○	○					
		プロジェクトマネジメント概論									○	○	○	○					
	経営学基礎	プロジェクトマネジメント演習									○	○	○	○	○	○	○		
		経営学入門									○	○	○	○					
実践科目	データ解析	事業戦略論									○	○	○	○					
		マーケティング概論									○	○	○	○					
		企業会計Ⅰ									○	○	○	○					
		企業会計Ⅱ									○	○	○	○					
		DXマネジメント概論									○	○	○	○					
		データ解析演習A													○	○			
		データ解析演習B													○	○			
		データ解析演習C													○	○			
	ナゼルミ	データ解析演習D													○	○			
		データ解析演習E													○	○			
	研究業	データ解析演習F													○	○			
		データ解析演習G													○	○			
	卒業研究	ゼミナールⅠ													○				
		ゼミナールⅡ													○				
		卒業研究Ⅰ													○	○	○		
		卒業研究Ⅱ													○	○	○		

基幹教員の分担一覧

資料15

教員名	ゼミナール 指導教員	STEM 教員	プロジェクトマネジメント 科目担当教員	担当ドメイン
浜 正樹		○	○	
神作 一実	○			ヘルスケア
飯島 史郎	○	○		ヘルスケア
長野 祐一郎	○	○		ヘルスケア
飯田 開	○		○	ヘルスケア
中山 智晴			○	地域づくり
浅野 俊幸	○	○		地域づくり
仲田 知弘	○	○		地域づくり
甲斐田 きよみ	○			地域づくり
岩館 豊	○			地域づくり
井上 絵理			○	地域づくり
穴太 克則	○	○	○	異文化間 コミュニケーション
渡部 吉昭	○		○	異文化間 コミュニケーション
小山 治	○			異文化間 コミュニケーション
恒吉 僅子	○			異文化間 コミュニケーション
登丸 あすか	○			異文化間 コミュニケーション
貫井 万里	○		○	異文化間 コミュニケーション

資料16

ヒューマン・データサイエンス学部

「卒業研究におけるテーマ設定及びデータサイエンスの活用に関する審査実施要領」(案)

1. 目的

ヒューマン・データサイエンス学部（以下「本学部」）における卒業研究は、学部において体系的に修得した「データサイエンス科目」「ヒューマン・ドメイン科目」「プロジェクトマネジメント科目」等の知識・技能を統合し、データサイエンスおよびAIの活用を通じて社会課題の解決に取り組む実践的教育の集大成として位置づけられる。

本要領に基づく審査（以下「本審査」）は、卒業研究の研究テーマおよび研究計画におけるデータサイエンスの応用の妥当性を事前に確認するとともに、必要に応じて使用手法等に関する助言・指導を行うことで、学修成果の適切な発露と質保証を図ることを目的とする。

本審査は、本学部に設置される情報教育委員会（以下「本委員会」）が実施・運営を担う。

2. 本委員会の構成

本委員会は、以下の構成とする。

- ・教授会により任命された、工学または理学の学位を有する本学部の基幹教員
- ・学習支援本郷グループ マネジャー
- ・本学部教務グループ所属職員
- ・その他、委員長が必要と認めた者

※必要に応じて、専門的知見を有する学内外の教員・研究者を臨時に招聘することができる。

3. 本委員会の役割

本委員会は、卒業研究における研究テーマおよび研究計画（以下「研究テーマ等」）について、以下の事項を担う。

- ・研究テーマ等が、データサイエンスの応用による課題解決型の内容であることを確認する。
- ・適切なデータ解析手法が選定・適用されているかを審査し、不十分な場合は改善指導を行う。
- ・指導教員または本委員会の判断により専門的支援が必要とされる場合、当該分野の知見を有する教員を指定し、支援体制を構築する。
- ・研究テーマ等の適否を判断し、適切と認められる場合には承認を行う。
- ・卒業研究の進捗確認および成果物の内容について適宜確認を行い、必要に応じて修正・助言を行う。

4. 指導教員の役割

卒業研究の指導教員は、以下の事項を担う。

- ・データサイエンスの応用により課題解決を図る内容の研究テーマ等を設定し、学生に対する継続的な研究指導を行うこと。
- ・本委員会と連携し、学生の研究活動が適切に進行するよう支援すること。
- ・教育上の問題が生じた場合には、本委員会と連携し、必要な対応を講じること。

5. 審査および進捗管理の実施方法

(1) 研究テーマ等の事前審査

- ・指導教員は、当該年度の4月中に、卒業研究の研究テーマ等を本委員会に申請する。
- ・本委員会は、必要に応じて審査担当者を指名し、申請内容の審査を行う。
- ・審査の過程において、内容に不明瞭または不適切な点が認められる場合、申請教員への意見聴取を実施する。
- ・データサイエンスの応用が不十分である、または解析手法に妥当性を欠く場合は、具体的な改善提案を添えて再申請を求める。
- ・審査の結果、適切と認められた研究テーマ等については、本委員会により正式に承認する。

(2) 研究進捗の確認および支援

- ・承認済みの研究テーマ等に基づく研究の進捗状況について、7月から9月を目途に指導教員から報告を受け、本委員会にて進捗の妥当性を確認する。
- ・必要に応じて、指導教員の申請または本委員会の判断に基づき、専門的支援を行う教員を指名する。
- ・研究成果物について、1月を目安に内容確認を行い、学部の定める基準を満たす場合は、本委員会において卒業研究としての承認を行う。

(3) 卒業研究の審査体制

- ・最終成果物に対する評価は、指導教員による学修成果の確認に加え、必要に応じて本委員会が指名する教員による確認を行う。
- ・成果物の評価において重大な疑義が生じた場合は、本委員会にて協議のうえ、最終判断を行う。
- ・本委員会の承認をもって、卒業研究として正式に認定する。

6. 振り返りおよび改善

- ・当該年度末（3月）に、本審査全体の実施内容を総括し、次年度以降に向けた改善点の抽出および制度改善案の検討を行う。
- ・「ドメインとデータ解析演習A～G」で行われる学生による振り返り内容を指導教員に共有し、今後の研究テーマ設定・研究計画指導に活用することを促す。

7. 守秘義務および情報管理

審査の実施にあたっては、学内の関連規程・規則を遵守し、個人情報および研究内容に関する情報の適切な管理を徹底する。不利益な取り扱いを防止するとともに、関係者には守秘義務を遵守させるものとする。

8. 庶務

本実施要領に関する庶務業務は、ヒューマン・データサイエンス学部教務グループが所掌する。

以上

附 則

本実施要領は 令和 8 年 4 月 1 日より実施する。

令和10年度

ゼミナール・卒業研究

履修の手引き

文京学院大学
ヒューマン・データサイエンス学部

1. 科目の概要

■ゼミナールⅠ・Ⅱ(3年次前・後期)

この科目では、前期は指導教員の専門分野を軸とし、社会課題を明確化し、研究の流れを理解することを目的とします。学生は、所属ゼミナールの指導教員のもと、それぞれのゼミ活動に取り組みます。文献調査やデータ収集を通じて研究テーマを明確化し、研究の進め方や発表技法を実践的に学びます。さらに、他の学生や教員との議論を重ねることで、批判的思考力やプレゼンテーション能力を高めます。

後期はゼミナールⅠで習得した知識やスキルを基に、より高度な専門研究を進めます。研究事例で取り上げた社会課題解決に向けてのデータ収集や分析の具体的手順・手法の検討を進めます。また、研究の過程で得た知見をゼミ内で発表し、教員や他のゼミ生からのフィードバックを受けることで、研究内容をさらに深めることになります。この授業は、卒業研究または卒業論文の作成に直結しており、成果を論理的に整理し、学術的な形式でまとめるための土台を築きます。

■卒業研究Ⅰ・Ⅱ(4年次前・後期)

この科目では、前期は自ら設定した研究テーマを深く掘り下げるための基盤を築くことを目的とします。学生のみなさんは、指導教員のサポートのもと、1年次～3年次までに学んだ知識やスキルを活かしながら、研究テーマの設定、関連文献の調査、データの収集・分析を進めます。学生や教員からのフィードバックを受けながら、研究計画の方向性を改善・分析・課題解決の提案までの一連の調査を進めることになります。授業では、主体的に課題を解決する力とともに、論理的な考察や効果的なコミュニケーション能力が求められ、「卒業研究Ⅱ」での成果報告や論文作成の基盤を築く重要なステップとなります。

後期は「卒業研究Ⅰ」で学んだ基盤を基に、最終的な研究成果を形にすることを目指します。得られたデータや結果を分析し、それを論理的かつ説得力のある形でまとめ、学術的な形式に沿った卒業研究を完成させます。授業内では、研究の進捗や成果を報告し、教員やゼミ仲間からの意見を取り入れながら内容をブラッシュアップしていきます。最終的には、卒業論文または卒業制作を完成させ、報告会を実施します。

2. 所属ゼミナールの決定方法

ゼミナールの所属は、2年次後期に実施される選抜で決まります。各ゼミナールには指導教員ごとの研究テーマや履修条件がありますので、詳細は別紙「開講予定ゼミナールの公開情報」を参照してください。希望ゼミを検討し、所定の方法でゼミ申込を行います。選抜では、提出された志望理由書、成績評価、単位取得状況、履修状況等を総合的に判断し、所属ゼミを決定します。

3. ゼミナール選抜スケジュール

令和10年度開講ゼミナールの選抜は、次のスケジュールを予定しています。(日程は変更になる場合があります)

ゼミナール説明会:	令和9年〇月〇日 〇:〇～ 場所:〇〇
ゼミナール個別相談期間:	令和9年〇月〇日～〇年〇月〇日 場所:教員の研究室
ゼミナール申込:	令和9年〇月〇日～〇年〇月〇日 所定の志望理由書に記入の上、指定された方法で提出すること
ゼミナール選抜:	令和9年〇月〇日～〇年〇月〇日
選抜結果発表:	令和9年〇月〇日 予定

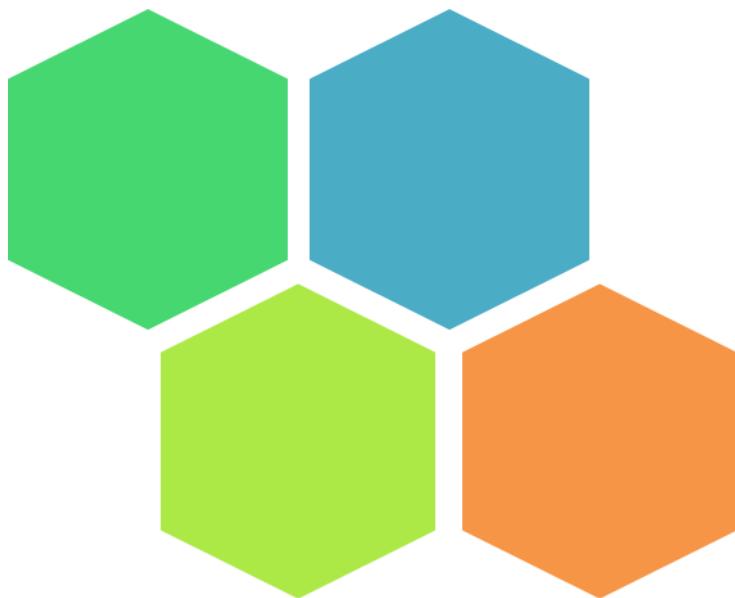
4. 開講予定ゼミナール

ドメイン	担当教員	研究テーマ
ヘルスケア	飯島 史朗	様々な生体情報に基づいた健康管理
ヘルスケア	神作 一実	発達期の作業療法、摂食嚥下リハビリテーション
ヘルスケア	長野 祐一郎	アフェクティブコンピューティング
ヘルスケア	飯田 開	身体データと健康管理
地域づくり	浅野 俊幸	街と空間に基づいた人の行動解析・人流シミュレーション
地域づくり	甲斐田 きよみ	国際協力とジェンダー平等
地域づくり	仲田 知弘	社会経済シミュレーション、AI や統計学を用いたデータサイエンス、学習システムと教育工学
地域づくり	岩館 豊	アーバニズムと都市コモンズについてのハイブリッドエスノグラフィー
異文化間 コミュニケーション	穴太 克則	問題解決への多変量解析・確率モデル・機械学習とその応用
異文化間 コミュニケーション	恒吉 僚子	多文化共生社会
異文化間 コミュニケーション	渡部 吉昭	社会課題とマーケティング
異文化間 コミュニケーション	小山 治	大学教育の職業的レリバンス(意義・有効性)
異文化間 コミュニケーション	登丸 あすか	デジタルメディアとメディアリテラシー
異文化間 コミュニケーション	貫井 万里	異文化理解

共生社会 フィールドスタディーズ

令和 9 年度

実施要項



文京学院大学 ヒューマン・データサイエンス学部

作成日:2025年2月25日

1. 目的

「共生社会フィールドスタディーズ」は、2年次を対象とした、PBL(Problem Based Learning)型授業です。本授業では、職場体験を通じて社会課題を理解・把握し、その解決に向けたデータ・ICT活用の必要性を学ぶことを目的とします。

学生のみなさんは、企業、地方自治体、NPOなど幅広い分野から実習先を選択し、1か月単位での職業体験を行います。この実習を通じて、実社会での課題やデータ・ICTの活用方法に触れることで、今後の学習内容の実践的意義を学びます。

2. 実施時期および期間

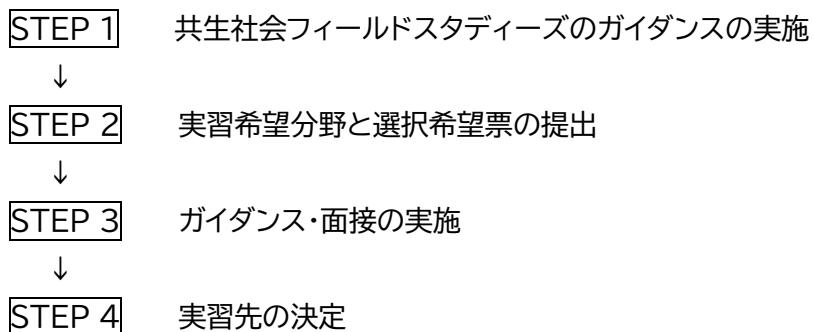
共生社会フィールドスタディーズの実習期間は、原則として2年次の夏期休業中に実施します。期間は原則1ヶ月間(160時間以上)の実習とし、前期の事前学習および後期の事後学習の受講も必須とします。

3. 履修者決定までの流れ

本科目は選択科目であり、所定の手続きや面談を実施後、履修登録期間内に履修可能者を発表します。単位修得状況や成績評価によっては、履修の許可が降りない場合がありますので、必ず事前にガイダンスに参加するようお願いします。

実習先の選定は登録制を原則とし、「実習希望分野」と「選択希望票」を指定の期間内に提出してもらいます。「選択希望票」及び面接等を総合的に勘案して履修者・実習先を決定いたします。実習先の受入可能人数により、一部調整が必要となる場合もあります。実習先決定までの主な流れは次のようになっています。

【実習先の選定方法】



4. 実習内容

実習内容は実習先により異なりますが、その概要は以下の内容から成り立っています。

【予定されている実習内容】

- ①実習先の理念や方針、組織の全体構造や運営に関する基本事項の学習
- ②実習先に必要とされるスキルや職業倫理及び関連法律に関する学習
- ③職種の役割や業務フローに関する学習
- ④職種におけるデータ活用に関する学習
- ⑤実務体験

【具体的な例】

- ①一般事務(PC 操作、資料・データ作成)
- ②施設プログラムの理解と実践
- ③他職種との連携に関わる作業
- ④地元住民との交流業務
- ⑤児童生徒に対する指導・支援
- ⑥屋外を現場とする NPO の諸活動の補助業務
- ⑦社会貢献の実際的活動

※実習期間中は大学指定のポートフォリオシステムに実習内容等を記録し、実習修了後、担当教員に提出しなければなりません。

5. 事前学習および事後学習

実習の展開にあたっては、事前学習と事後学習が用意されています。事前学習の主な内容は、実習先での実習が効果的に実施できるような予備的知識の習得に主眼が置かれています。

事後学習は、実習報告書の作成、実習内容の報告と討論、さらには実習報告発表会の実施などから構成されています。

	事前学習	実習	事後学習
共生社会 FS	前期(後半 7 回)	夏季(8・9 月)	後期(前半 7 回)

6. 評価方法と取得単位数

評価は、実習先より提出された評価、ポートフォリオ、実習の出席状況、実習報告書の内容、討論の内容、実習報告発表会の内容などを総合的に勘案し決定します。ポートフォリオに蓄積された実習計画、調査内容やステークホルダーとのディスカッション記録などの成果物も評価に含めます。取得単位数は事前学習と事後学習を含め、全体で6単位です。

7. 災害補償

実習中の事故等の補償に関しては、既に加入済みの「学生教育研究賠償責任保険(略称:学研賠)」及び総合補償制度「Will 保険」により補填されます。

8. 守秘義務

連携先が個人情報や機微情報を扱うという特殊な環境にあることに鑑み、実習中に知り得た機密事項については、連携先と履修学生との間で守秘に関する誓約書を取り交わしていました。

9. 学生の心得

1. 実習開始前

- ① 実習施設の基本情報(施設名、所在地、電話番号等の確認)を事前に確認する
- ② 交通機関の利用方法や交通費について調べ、実習開始前に通勤計画を立てる
- ③ 通勤には原則として公共交通機関を利用する。天候の乱れ等により、事前に公共交通機関の乱れが予想される場合には、施設に指示を仰ぐこと。

2. 実習中

- ① 実習中は実習をさせていただいているという感謝の気持ちをもち、施設・担当者の指示、指導に従う。
- ② 時間や規則等を守る。病気、その他やむを得ない事情で欠席、遅刻、早退等をする場合には、前日までに担当者に届け出る。なお、突発的事故等により、当日になって連絡せざるを得ないときには、直ちに担当者に連絡する。いずれの場合も、大学へも同時に連絡する。
- ③ 挨拶を励行し、公私の区別をつけた礼節ある行動をする。
- ④ 言葉遣いには十分に注意し、相手の尊厳と人権に配慮したコミュニケーションをとる。
- ⑤ 実習ノートは毎日記録し、担当者に実習状況に関する情報を伝える。
- ⑥ 他者からの助言を謙虚に受け止め、何事にも自発的に取り組む積極的な姿勢を養う。

- ⑦ 自分の興味あることだけを学ぶのではなく、興味や関心を広く持つて自己研鑽に努める
- ⑧ 実習期間中、全日程に出席できるよう自己の健康管理に留意する。極端な睡眠不足は効率的な実習を著しく妨げるとともに、健康を害する原因となる。

3.実習終了時

- ① 担当者による実習評価が記載されているか確認する。
- ② 大学への提出書類について実習指導者の署名・捺印を確認する。
- ③ 実習施設を去る前には関係者へ感謝、御礼を伝える。私物を置き忘れないようにする。

10.特記事項

実習先によっては宿泊を伴う施設である場合もあり、費用や生活環境に若干の差異があります。詳細は具体的な実習先候補が確定次第、情報を提示します。

プロジェクトマネジメント演習
令和10年度
実 施 要 項(案)

文京学院大学
ヒューマン・データサイエンス学部

作成日:2025.2.25

1. プロジェクトマネジメント演習の目的

「プロジェクトマネジメント演習」は、3年次を対象としたPBL(Project Based Learning)型授業であり、社会課題の把握・理解から解決策の立案・試行までを経験することを目指します。地方自治体、企業、NPOなどから提示される課題に対し、少人数のグループで①課題の理解・把握、②データ分析、③解決策の発想・試行のサイクルを繰り返しながら主体的に学びます。ケーススタディの場合は、類似課題の事例を分析し、その知見を活かして解決案を検討します。また、フィールド学習の場合は、現場で得た具体的な情報や課題を基に解決案を検討します。成果は中間報告会でのポスター発表や最終報告会での口頭発表で共有します。具体的に、提案の背景や根拠、分析結果、解決策をまとめた内容を発表します。これにより、課題解決に必要な論理的思考力やデータ活用スキル、チームのマネジメントスキルを修得することを目指します。

2. プロジェクトマネジメント演習の形式とクラス分け方法

プロジェクトマネジメント演習の進め方を大別すると、連携先企業等の現場に赴く「フィールド学習型」と、教室にてプロジェクトを進める「ケーススタディ学習型」、また「フィールド学習型」と「ケーススタディ学習型」を組み合わせた「ハイブリッド型」の3つのタイプがあります。1プロジェクトあたりの定員人数は8名～20名程度で、プロジェクトで扱う内容や進め方によって定員人数が異なります。いずれのタイプでも、指定の授業回は全プロジェクト合同の中間報告会、最終報告会を学内で実施します。

プロジェクトマネジメント演習はプロジェクトごとに取り扱うテーマ・連携先、進め方のタイプが異なります。そのため、開講学期のガイダンス期間に事前説明会を実施し、履修登録期間前に希望プロジェクト申込を受け付けます。プロジェクト配属においては、前学期までの成績をもとに、GPAを含めて担当委員会の総合的な判断でプロジェクトへ振り分けられます。指定期間内にプロジェクト申込を行わなかった場合には、希望するプロジェクトの履修ができない可能性があるのでご注意ください。

3. フィールドプロジェクト演習の実施時期および期間

プロジェクトマネジメント演習は3年次必修科目であり、前期の授業実施期間を通じて開講されます。3年次前期に単位を修得できなかった場合には、4年次前期に履修をしてください。

原則週1回開講される授業ですが、クラスによっては開講時限以外に実習を行う場合もあります。具体的な授業スケジュールは、事前説明会にて提示します。

付与単位は2単位とし、プレゼンテーション(中間報告会・最終報告会)と最終報告書の提出をもって、最終評価がされます。学生の実習時間等の認定は、担当教員が責任を持ち管理します。また、中間報告会、ならびに最終報告会には、出来る限り連携先企業・NPOの同席を求め、活動へのフィードバックを行います。

4. 中間報告会、最終報告会、最終報告書とは

(1) 報告会開催の学生の役割

プロジェクトマネジメント演習を履修した学生自らが、取り組んだ活動内容をわかりやすく工夫して報告する「中間報告会(ポスター発表)」と「最終報告会(口頭発表)」があります。履修学生は、同クラスの履修学生と連携し、学内関係者、連携先企業・NPOの担当者に向けて成果を報告します。

(2)報告会の実施内容

報告会は、中間報告会と学期末の最終報告会の2回開催し、学生がそれまでのプロジェクトの成果概要を報告します。中間報告会では、それまでのプロジェクト演習の進捗を報告し、学内関係者や連携先からフィードバックやアドバイスを頂きます。最終報告会では、プロジェクトの最終成果を報告し、学内関係者や連携先からは最終的なフィードバックを頂いて、将来的な展開の可能性等について講評いただきます。

(3)最終報告書について

最終報告書には、課題のデータ活用方法や課題解決までの論理的なプロセスだけでなく、個人がグループ内で主に取り組んだ内容や貢献した点も含めて記載してください。

(4)成績評価の基準

①グループワークへの取り組み姿勢と振り返りレポート(各回):60%

※ ポートフォリオに蓄積された WBS・ステークホルダーとのディスカッション記録などの成果物も評価に含めます。

②プレゼンテーション(中間報告会・最終報告会)、最終報告書、フィードバックによる振り返り:40%

5. プロジェクトマネジメント演習 進め方

【プロジェクトマネジメント演習 実施に至るまで】

1. 事前説明会の実施

4月のガイダンス期間に説明会を実施し、開講予定プロジェクトと、各プロジェクトで取り扱うテーマ、演習の進め方について概要を説明。学生は、自身の興味関心に応じて希望クラスを検討する。

2. 希望クラス申込

4月履修登録期間前に、指定の Forms より希望プロジェクトを第 1~3 希望まで登録。

3. プロジェクト配属の決定

プロジェクト申込終了後、GPA を含めて担当委員会の総合的な判断で配属プロジェクトを決定。

4. プロジェクト配属の結果発表・履修登録の実施

4月履修登録期間前に、プロジェクト配属の結果を公表、履修登録を行う。

【プロジェクトマネジメント演習 実施中】

1. プロジェクトごとのテーマに基づいてプロジェクトを進行

担当教員の指示に従いながら、与えられたテーマに対してプロジェクトを実施します。

2. 全体中間報告会の開催(1回)

履修学生全員で準備を行い、中間報告会(ポスター発表)を開催します。中間報告会前の7回の授業は、報告会準備、資料作成のための時間に費やします。

3. 全体最終報告会の開催(1回)

履修学生全員で準備を行い、最終報告会(口頭発表)を開催します。最終報告会前の12回の授業は、報告会準備、資料作成のための時間に費やします。

4. 最終報告書の提出(各自)

最終報告会(口頭発表)の内容を踏まえ、各自がグループ内での主に取り組んだ内容、貢献した点を含めて報告書を作成し、提出する。

【プロジェクトマネジメント演習 実施後】

前期成績発表(9月)

成績評価基準による評価を持って、他の履修科目と同様に前期成績発表時に評価を確認してください。

インターンシップ

連携先によっては、インターンシップを受け入れている場合もあります。別途キャリアセンターのガイダンス等に参加し、希望者はインターンシップへ申込してください。

6. 災害補償

実習中の事故等の補償に関しては、既に加入済みの「学生教育研究賠償責任保険(略称「学研賠」)により補填されます。

7. 守秘義務

連携先が個人情報や機微情報を扱うという特殊な環境にあることに鑑み、実習中に知り得た機密事項については、連携先と履修学生との間で守秘に関する誓約書を取り交わしていただきます。

以上

講義内容概要(全クラス共通)

前期	内容
第1回	オリエンテーション:授業の概要
第2回	グループワーク(問題の探索、情報収集)
第3回	グループワーク(計画立案、問題に関する詳細調査)
第4回	グループワーク(データ収集、実態調査)
第5回	グループワーク(データ分析)
第6回	グループワーク(②データ分析)
第7回	ググループワーク(中間報告会準備、ポスター作成)
第8回	中間報告会
第9回	グループワーク(問題解決策の発想)
第10回	グループワーク(問題解決策の試作)
第11回	グループワーク(問題に関する再調査)
第12回	グループワーク(最終報告会準備、プレゼン資料の作成)
第13回	最終報告会(口頭発表)
第14回	最終報告会(口頭発表)

※詳細は、B'sLINKより科目シラバスを参照ください。

各プロジェクト概要

- A)動物の行動データを収集・分析し、行動指標とストレス反応(心拍数)の関係を特定する。データに基づく動物福祉の向上策を提案し、データ分析の基礎から応用を実践的に学ぶ。
- B)ファイナンス指標(株価、日経平均、NYダウ、投資信託、FXなど)の変動パターンを分析し、投資判断におけるデータ活用の課題を特定する。オープンデータを活用して経済指標やニュースデータとの関連性を検討し、簡易的な予測モデルを構築する手法を学ぶ。
- C)廃棄物データの収集・分析を通じて課題を特定し、リサイクル促進や廃棄物削減策を提案する。データ活用力と課題解決力を実践的に学ぶ。
- D)高齢者のスマホ活用状況を調査・分析し、デジタル格差の現状と課題を特定する。スマホ教室の実施を通じて解決策を提案・実践し、デジタル社会への適応支援を行う。
- E)中小企業の業務データや業界分析を通じて経営課題を特定する。DXの視点から解決策を提案し、フィールド学習を通じて実践的なデータ活用力を身につける。
- F)子育て支援に関するデータを収集・分析し、地域における課題を特定する。住民へのヒアリングを通じて現状を把握し、データを活用した効果的な支援策を提案する。
- G)歩数や体組成データを収集・分析し、健康課題を特定する。データに基づく健康改善プログラムを立案・実施し、評価を通じて健康意識の向上とデータ活用の実践的理を深める。
- H)地域の移動データを収集・分析し、住民の移動ニーズを特定する。地域住民との協働を通じて、新たなモビリティサービスを提案・実証し、地域活性化を目的としたまちづくりの計画手法を学ぶ。
- I)GISツールを活用し、地域データの収集・空間解析を通じて課題を特定する。データ分析をもとに解決策を提案し、空間解析スキルと課題解決力を実践的に学ぶ。
- J)地域が抱える産業活性化や犯罪抑止の課題をデータ分析により特定する。DXの視点を取り入れた解決策を立案し、データを活用した地域課題解決の手法を学ぶ。

資料20

多様なメディアを高度に利用して行う授業に関するガイドライン

(目的)

第1条 本ガイドラインは文京学院大学学則第24条14項に基づき行う「多様なメディアを高度に利用して当該授業を行う教室以外の場所で履修させる授業」(以下、メディア授業という。)について必要な事項を定める。

(メディア授業の定義)

第2条 本ガイドラインにおけるメディア授業の定義は別表に定める。

(メディア授業実施における遵守事項)

第3条 メディア授業を実施する場合は、次の各号に掲げる条件を満たさなければならない。

- (1) 受講生の学修状況を把握し、適切な指導を行わなければならない。
- (2) 受講生が教員に質問する機会等、対面授業と同等の学修環境を提供しなければならない。
- (3) カリキュラム、時間割等であらかじめメディア授業を行う科目を明示しなければならない。
- (4) どのようにメディアによる授業を行うかなどの詳細をシラバスに明記しなければならない。

(メディア授業の開講申請)

第4条 メディア授業をしようとするとき、科目設置する学部・GCIの教務委員会で承認を得なければならない。教務委員会は、当該授業におけるメディア授業の適合性、卒業に必要な所定の単位数に上限があることなどを踏まえて承認するものとし、教務委員長は全学教務委員会に対象科目を報告する。なお、複数学部にまたがるメディア授業については、全学教務委員会で審議決定するものとする。

(雑則)

第5条 本ガイドラインに定めるもののほか、メディア授業の実施に関して必要な事項は別に定める。

(改正)

第6条 本ガイドラインの改正は、全学教務委員会の議を経て決定するものとする。

別表 メディア授業の定義、および取り扱い

名称	定義	制限を受ける メディア授業となる条件
対面授業	教員、受講生共に指定された教室内に参集し行う授業をいう。	すべて対象とならない
オンデマンド型 授業	事前録画した動画等をインターネット等で配信し、学生が任意の場所、任意の時間に視聴する授業をいう。MOOCsによる授業を含む。	すべて対象となる
ライブ配信型 授業	インターネット等を利用してテレビ会議システムを利用し、教室外にいる受講生に対して同時双方向に配信する授業をいう。	すべて対象となる

ハイブリッド型授業	対面授業、オンデマンド型授業、ライブ配信型授業等を教育効果の観点から組み合わせ実施する授業をいう。	対面授業との比率で半分を超える場合
ブレンド型授業	対面授業、オンデマンド型授業、ライブ配信型授業等を設備や教員配置等の観点から組み合わせて実施する授業をいう。	対面授業との比率で半分を超える場合
ハイフレックス型授業	対面授業を同時刻にライブ配信型授業として配信する授業を言う。	全授業回数において半分を超えて対面授業での出席を義務付けていない場合
反転型授業	メディア授業を利用し事前学習を行い、実践的な対面授業を実施する授業を言う。反転授業におけるメディア授業は自主学習時間の代替となつてはならない。	事前学習時間が対面授業で行う学習時間の比率で半分を超える場合

附 則

- このガイドラインは、令和7年4月1日から施行する。

資料21

ヒューマン・データサイエンス学部 PBL 科目の教員向け実施要領（案）

1. PBL 科目の目的

本学部では、産学官連携を基盤とし、社会課題の理解・把握とプロジェクトマネジメントスキルを養うことを目的に、PBL（Problem Based Learning/Project Based Learning）型教育を導入している。1年次では、必修科目「未来体験プログラム」を通じて、産学官連携の枠組みのもと、実社会の課題発見から解決に向けたデータ・ICT 活用の基礎を学ぶ。2年次には、選択科目「共生社会フィールドスタディーズ」において長期実習を行い、社会課題の分析やデータサイエンス・AI 活用の必要性を理解する。3年次では、必修科目「プロジェクトマネジメント演習」を通じて、企業、NPO などと協働しながら実践的なプロジェクト活動を行う。チームで課題を設定し、データ収集・分析を経て解決策を検討し、企業等からのフィードバックを受けながら報告書をまとめ最終報告を行う。以上のように、本学部では、産学官連携を活用しながら、1年次から3年次にかけて、社会課題の発見から解決策の提示までを体系的に学べる PBL 型カリキュラムを提供する。

2. 運営体制

■産学官連携委員会の立ち上げ

1年次から3年次にかけての PBL 型カリキュラムの運営にあたり、本学部内に「産学官連携委員会」を設立し、組織的な管理・運営を行う。本委員会は、実習先との連携や単位認定の決定プロセスを担い、教育の質の確保に努める。

■産学官連携委員会の構成

- ・1年次から3年次の PBL 科目を担当する基幹教員
- ・本学部教務グループ職員
- ・委員会が必要に応じて招集した者

■産学官連携委員会の主な役割

産学官連携委員会は、実習の目的や指導方針を実習先と共有し、大学の教育目標に沿った形で実習が適切に進行するよう管理する。また、科目担当の非常勤教員を支援し、円滑な科目運営を図る。さらに、学生の学習状況を把握し、実習中のトラブル対応を含めたフォローアップ体制を整備するとともに、必要に応じて指導・改善を行う。詳細は以下に記載する。

3. 事前学習・事後学習の指導

■事前学習

- ・実習先や業界に関する基礎知識の学習

- ・職業倫理及び関連法律に関する学習
- ・社会課題やデータ活用の事例研究
- ・実習中に期待される役割やマナー（ビジネスマナー、守秘義務等）の確認

■事後学習

- ・実習中に体験した課題・成功事例の振り返りと共有
- ・学内での発表・ディスカッションを通じた成果の整理
- ・実習体験を基にしたレポート提出（課題発見・解決策の提案を含む）
- ・企業等からのフィードバックを活用し、改善点を明確化

4. 教員の役割

■ 実習前

- ・実習施設との事前打ち合わせ（学生の受け入れ日程・プログラム内容確認）
- ・学生へのオリエンテーション実施（施設概要、実習目的、注意事項説明）
- ・実習指導者会議の実施（実習概要の説明、実習指導者と学生との顔合わせ）

■ 実習期間中（「共生社会フィールドスタディーズ」のみ）

実習期間中に最低1回（中間）の巡回訪問を実施し、必要に応じて追加の訪問を行う。各巡回時には、「巡回訪問報告書」を作成し、実習生の状況、課題、必要な指導内容を記録する。巡回訪問報告書は、産学官連携委員会が確認し、指導の質を保証する。

【巡回訪問報告書の確認事項】

- ・学生の学習成果の目的とし、実習状況（姿勢・取り組み内容）の確認
- ・実習指導者との情報共有（学生の課題・支援方法）
- ・必要に応じた助言・調整（学生や指導者に対して）

■ 実習中のサポート

- ・学生や施設からの問い合わせ対応
- ・予期せぬトラブル時の迅速な対応

トラブル発生時の対応フローを以下のように定める。

- ① 実習生は、トラブル発生時に大学の指定窓口（担当教員・産学官連携委員会）へ報告
- ② 担当教員は、実習先と連携し、適切な対応を指示する。
- ③ 重大な問題は、産学官連携委員会が調査し、対策を講じる
- ④ トラブルの対応内容は「トラブル報告書」として大学が記録し、再発防止策を講じる。

※学生向けの事前トラブル対応マニュアルを準備し、対応手順を周知する

※ハラスメントの場合は、別途学内規程に沿って対応する

■ 評価とフィードバック

- ・中間および最終評価の実施
- ・実習ポートフォリオの記載内容の評価の実施
- ・実習報告書・学生の自己評価に基づくフィードバックの提供

5. 実習期間とスケジュール管理

- ・実習開始前に施設側と日程を調整
- ・巡回指導や打ち合わせの日程を適切に配置

6. 教員間の連携

- ・実習科目担当教員同士で進捗状況を共有
- ・定期的に産学官連携委員会および学科内で学生支援の方針を協議し、課題を共有する

7. 単位認定の決定プロセス

① 成績評価の実施

各プロジェクト担当教員および連携企業が、学生の成績評価を実施し、評価結果を取りまとめる。

② 評価結果の提出・集約

各プロジェクト担当教員および連携企業が評価結果を「産学官連携委員会」に提出する。委員会事務局が評価結果を集約する。

③ 産学官連携委員会での審議

提出された評価結果をもとに、「産学官連携委員会」にて評価基準の整合性を確認し、審議を行う。必要に応じて、担当教員や連携企業から追加説明を受ける。

④ 単位取得の認定

審議の結果に基づき、「産学官連携委員会」が成績評価を決定する。

8. 守秘義務と安全管理

- ・実習施設の規定に従い、守秘義務を徹底
- ・実習中の安全管理体制を確認（避難経路・緊急時対応）

9. 事務手続き

- ・実習施設との連絡窓口を明確にする
- ・書類（事前書類、評価報告書等）の提出管理・保管を行う

資料22

【資料22】未来体験プログラム実習受入承諾書

No.	連携企業	実習先	承諾書	受入期間	実習受入人数
1	東日本電信電話株式会社	東京都調布市	有	4月～7月	110

資料23

【資料23】共生社会フィールドスタディーズ実習受入先一覧・実習受入承諾書

No.	連携企業	実習先	承諾書	受入期間	実習受入人数
1	株式会社三谷製作所	埼玉県ふじみ野市	有	8月～9月	2
2	株式会社長岡製作所	埼玉県ふじみ野市	有	8月～9月	5
3	株式会社プリケン	埼玉県ふじみ野市	有	8月～9月	10
4	認定特定非営利活動法人 さ いたまユースサポートネット	埼玉県さいたま市	有	8月～9月	10
5	有限会社 Nature Planet ネイ チャープラネット	栃木県日光市	有	8月～9月	4
6	ゲストハウス Leu.	栃木県那須塩原市	有	8月～9月	4
7	特定非営利活動法人 NICE (日本国際ワークキャンプセ ンター)	神奈川県横浜市	有	8月～9月	10
8	インターリハ株式会社	東京都北区	有	8月～9月	1
9	LocaliST 株式会社	神奈川県横須賀市	有	8月～9月	10
10	大谷清運株式会社	東京都葛飾区	有	8月～9月	10
11	三和電気株式会社	東京都品川区	有	8月～9月	3
12	株式会社ライフィ	東京都港区	有	8月～9月	2
13	株式会社吉村	東京都品川区	有	8月～9月	5
14	特定非営利活動法人日本ブ ラインドサッカー協会	東京都新宿区	有	8月～9月	2
15	株式会社フォーバル	東京都渋谷区	有	8月～9月	10
16	ふじみ野市役所	埼玉県ふじみ野市	有	8月～9月	4
17	フクダ電子東京販売株式会社	東京都文京区	有	8月～9月	1

資料24

【資料24】プロジェクトマネジメント演習実習受入先一覧・実習承諾書

No.	連携企業	実習先	承諾書	受入人数	受入期間
1	株式会社 フォーバル	東京都目黒区・渋谷区	有	11	4月～7月
2	大谷清運株式会社	東京都葛飾区・足立区	有	12	4月～7月
3	LocaliST 株式会社	神奈川県横須賀市	有	10	4月～7月
4	NPO 法人びーのびーの	神奈川県横浜市	有	15	4月～7月

No.	企業名	所在地
1	中根税務会計事務所 (有限会社ティー・エヌ・コンサルティング)	東京都豊島区
2	野口会計法務事務所	埼玉県北本市
3	株式会社TONEGAWA	東京都文京区
4	株式会社プリントバッグ	東京都台東区
5	株式会社キイストン	東京都港区
6	株式会社内田洋行	東京都中央区
7	株式会社東天紅	東京都台東区
8	イシイ株式会社	東京都千代田区
9	株式会社東和エンジニアリング	東京都千代田区
10	日本電算株式会社	東京都品川区
11	株式会社ソフテム	神奈川県川崎市
12	株式会社スーパーオフィス	東京都豊島区
13	日短マネーマーケット株式会社	東京都中央区
14	株式会社サイホーブロパティーズ	埼玉県さいたま市
15	株式会社角川アスキー総合研究所	東京都文京区
16	株式会社ミドルウッド (ホテルカーターRESORT&SPA)	東京都新宿区
17	越谷市役所	埼玉県越谷市
18	花扇 川久保紀子フラワースクール	群馬県高崎市
19	株式会社ウチダ人材開発センタ	東京都墨田区
20	フクダ電子株式会社	東京都文京区
21	株式会社松下産業	東京都文京区
22	蓼科情報株式会社	東京都北区
23	株式会社オンワード樫山	東京都港区
24	株式会社三松	東京都渋谷区
25	株式会社ヤエス	東京都中央区
26	ザ・テラスホテルズ株式会社 (ザ・ブセナテラス)	沖縄県那覇市
27	株式会社琉球ホテルリゾートオクマ オクマ プライベートビーチ&リゾート	沖縄県国頭郡
28	株式会社南西楽園リゾート	沖縄県宮古島市

No.	企業名	所在地
29	サンマリーナ・オペレーションズ株式会社	沖縄県国頭郡
30	(株)ホテルマネージメントジャパン ホテル日航アリビラ／ヨミタンリゾート沖縄	沖縄県中頭郡
31	ヒルトン東京ベイ	千葉県浦安市
32	ホテル花いさわ	山梨県笛吹市
33	東京ガーデンパレス	東京都文京区
34	株式会社ナクア ホテル&リゾーツ マネジメント ホテルエピナール那須	栃木県那須郡
35	片倉興産株式会社 かたくらシルクホテル	長野県諏訪市
36	株式会社ホテルオークラ東京ベイ	千葉県浦安市
37	株式会社東京ドームホテル	東京都文京区
38	コンパスグループ・ジャパン株式会社	東京都中央区
39	愛知株式会社	東京都中央区
40	NPO法人 環境ネットワーク・文京	東京都文京区
41	文京区役所	東京都文京区
42	株式会社マエダ	東京都北区
43	株式会社日本旅行	東京都新宿区
44	株式会社阪急交通社	東京都港区
45	足立区役所	東京都足立区
46	株式会社栄美通信	東京都中央区
47	株式会社JTB	東京都品川区
48	RYOZAN PARK	東京都豊島区
49	三昌商事株式会社	東京都港区
50	ランドマーク税理士法人	東京都千代田区
51	株式会社千代田	東京都荒川区
52	株式会社やまと	東京都渋谷区
53	株式会社北海館 京の宿 北海館お花坊	京都府京都市
54	株式会社 千手Soft	千葉県千葉市
55	ワタキューセイモア株式会社	京都府京都市
56	スタートグループ	東京都中央区

No.	企業名	所在地
57	株式会社栗原医療器械店	東京都中央区
58	トランコム株式会社	東京都港区
59	株式会社ココト	東京都港区
60	株式会社オンワード樫山	東京都港区
61	株式会社IHIエスキューブ	東京都江東区
62	トヨタエルアンドエフ東京株式会社	東京都品川区
63	株式会社共立メンテナンス	東京都千代田区
64	株式会社はとバス	東京都大田区
65	第工株式会社	東京都港区
66	株式会社シーイーシー	東京都港区
67	横浜グランドインターコンチネンタルホテル	神奈川県横浜市
68	アマン東京	東京都千代田区
69	キンプトン新宿東京	東京都新宿区
70	釜石市 総務企画部総合政策課	岩手県釜石市
71	有限会社宝来館	岩手県釜石市
72	株式会社 津田商店	岩手県釜石市
73	株式会社浜千鳥	岩手県釜石市

資料26

文京学院大学任期付専任教員就業規則（抜粋）

およそ私学は独自の建学の精神と気魄が脈々と今日の教育に生きるところにこそ存在の意義がある。

我が学院はこの自主性を高くかけ、しかも公共性を失わず、教育の理想の実現に向って邁進し、併せて大学任期付専任教員の人格と自主性を尊重しつつ共同の福祉をはかり、ともに我が学院の進展のために全力を發揮しうるよう関係諸法規の趣旨に則り、ここに文京学院大学任期付専任教員就業規則を制定して勤務の適正を期するものである。

われわれは本学院の社会的使命を真に自覚し誠意と勤勉とをもって各自の職責に専念し、互に調和協力してその成果をあげるよう努めなければならない。

第1章 総 則

（目的）

第1条 この規則は、学校法人文京学院（以下、「学院」という。）と期間の定めのある雇用契約を締結する大学任期付専任教員の労働条件、服務規律、その他の就業に関する基本的事項を定め、事業の確実な実施を図り、もって本学院と大学任期付専任教員との健全な関係に資することを目的とする。

- 2 この規則に定めた以外の事項は労働基準法およびその他の法令による。
- 3 この規則は、大学任期付専任教員の学問・研究の自由を尊重するものであり、また、教授会の教學上の権限を損なうものではない。
- 4 大学任期付専任教員について、大学の教員等の任期に関する法律（平成9年6月13日法律第82号）（以下「任期法」という。）第4条第1項各号及び第5条第2項の規定を受けてこの規則を定めるものである。

（意義及び適用範囲等）

第2条 この規則は大学任期付専任教員（以下、「教員」という。）に適用する。

- 2 任期とは有期雇用契約の期間と同義とし、学院と教員との雇用契約において定められた期間であって、学院との間で引き続き雇用契約が更新される場合を除き、当該期間の満了により退職することとなるものをいう。
- 3 教員の種類および呼称は次のとおりとする。
 - 一 特別任用指定教育職
大学院の任期付常勤教員
 - 二 特別任用教育職
大学任期付専任教員で審査により大学専任教員（任期無し）に移行することある。

三 特別任用教育指導職

- ① 定年退職後に継続して特定の授業等を受け持つ大学任期付特別任用教員
 - ② 任期付教職課程教員
 - ③ 各センター任期付特別任用教員
- 四 委嘱教員
定年退職後に継続して勤務する大学任期付常勤教員

五 特定助教

任期の定めがある助教、実習等の授業科目を担当する。

六 助手

教授、准教授、または助教の職務を助け、教育補助の関連する教務事務に従事する。

4 労働契約法（平成19年12月5日法律第128号）第18条及び任期法第7条の規定に基づき、期間の定めのない雇用契約（以下「無期雇用契約」という。）への転換に関する事項は、学校法人文京学院における無期雇用契約への転換に関する規程の定めるところによる。

5 この規則に定めのない事項は、別に規則を定めることがあり、または個別の雇用契約書をもって定めことがある。

（有期雇用契約の期間）

第3条 前条に規定する教員の有期雇用契約の期間、契約の更新の有無、更新の上限及び更新時の年齢については、原則として次に定めるところによる。

職名	有期雇用契約の期間	契約の更新の有無	更新の上限	更新時の年齢
特別任用指定教育職	個別に定める	有り	通算最長10年まで	68歳未満
特別任用教育職	5年	無し		68歳未満
定年退職後特別任用教育指導職 ①大学任期付特別任用教員	個別に定める	有り	通算最長10年まで	
特別任用教育指導職 ②大学任期付教職課程教員	3年	有り	1回まで	68歳未満
特別任用教育指導職 ③各センター任期付特別任用教員	個別に定める	有り	通算最長10年まで	
委嘱教員	1年	有り	通算最長10年まで	
特定助教（保健医療技術学部理学療法学科・作業療法学科）	2年	有り	助手（保健医療技術学部）の期間を含め9年以内とする。	68歳未満
助手	2年	有り	1回まで（ただし、再任の際の期間は2年以内とする。）	68歳未満
助手（保健医療技術学部）	5年	有り	2回まで（ただし、再任の際の期間は2年以内とする。）	68歳未満

2 前項の規定にかかわらず、次の各号に該当する場合は、この限りではない。

- 一 有期雇用契約の期間が満了した日とその次の有期雇用契約の期間の初日との間にこれらの契約期間のいずれにも含まれない期間（以下「空白期間」という。）

資料27

ヒューマン・データサイエンス学部 ドメインとデータ解析演習 A～G 実施要領（案）

1. 授業の目的

本学部では、実践科目の選択必修科目として「ドメインとデータ解析演習 A～G」（以下、本科目区分。）を配置しており、学生はドメインごとに必要とされるデータ解析手法を修得させる（表1）。

具体的には、トピックモデル、画像解析、音声解析、LLM（大規模言語モデル）、GIS（地理情報システム）、IoT とヘルスケア、IoT とまちづくりについて、親和性の高いドメインの具体的な事例を用いながらデータ解析を行う演習形式の授業を行う。2年次または3年次までに「ヒューマン・ドメイン科目」で身につけた社会課題を理解・把握する力を基に（表2）、実社会においてデータを収集し解析した上で、それを根拠に課題解決案を作成するための手法を身につけさせる。

本科目区分は、他の「データサイエンス科目」「ヒューマン・ドメイン科目」「プロジェクトマネジメント科目」と合わせ、「卒業研究」に必要とされる知識・技能修得につながるよう編成している。

表1 ドメインとデータ解析演習科目と履修条件

科目名	データ解析手法	履修条件 (記載の科目を単位修得すること)
ドメインとデータ解析演習 A	トピックモデル	トピックモデル概論
ドメインとデータ解析演習 B	画像解析	画像解析概論
ドメインとデータ解析演習 C	音声解析	音声解析概論
ドメインとデータ解析演習 D	LLM（大規模言語モデル）	自然言語解析概論
ドメインとデータ解析演習 E	GIS（地理情報システム）	時空間データ分析
ドメインとデータ解析演習 F	IoT とヘルスケア	IoT とヒューマンデータ
ドメインとデータ解析演習 G	IoT とまちづくり	IoT と GIS

表2 ドメイン別に適合するデータサイエンス科目・実践科目

ドメイン	対応する ドメインとデータ解析演習科目
ヘルスケア	「ドメインとデータ解析演習 A」（トピックモデル） 「ドメインとデータ解析演習 B」（画像解析） 「ドメインとデータ解析演習 C」（音声解析） 「ドメインとデータ解析演習 D」（LLM） 「ドメインとデータ解析演習 F」（IoT とヘルスケア）
地域づくり	「ドメインとデータ解析演習 E」（GIS） 「ドメインとデータ解析演習 D」（LLM） 「ドメインとデータ解析演習 G」（IoT とまちづくり）
異文化間 コミュニケーション	「ドメインとデータ解析演習 A（トピックモデル）」 「ドメインとデータ解析演習 C（音声解析）」

2. 授業運営体制

本科目区分は、「具体的な事例を用いながらデータ解析を行う演習形式の授業」であり、「実務経験から得られる具体的な事例」を重視している科目であることから、実務でのデータ分析の経験を持つ基幹教員以外の教員を配置する。その為、情報教育委員会（以下、本委員会。）にて適切な授業運営がなされるよう指揮・指導を行い、組織的な管理・運営を行う。

3. 本委員会の構成 および 本科目区分に対する役割

本委員会は下記にて構成を行う。

- ・教授会により任命された、工学または理学の学位を有する本学部の基幹教員
- ・学習支援本郷グループ マネジャー
- ・本学部教務グループ所属職員
- ・その他、委員長が必要と認めた者

※ 本科目区分を担当する「基幹教員以外の教員」は、審議の内容に応じて委員会に招集する。

※必要に応じて、専門的知見を有する学内外の教員・研究者を臨時に招聘することができる。

本委員会では本科目区分に対し、下記の役割を担う。

- ・各担当教員に対し、本科目のカリキュラム全体における役割の周知
- ・具体的な事例、使用するサンプルデータ、解析手法の確認、および調整
- ・成果物の評価に関する評価ルーブリックの作成、および配布
- ・授業運営上のフォロー体制の整備、および発生した問題に対する対応の検討
- ・受講学生の学修支援及び、情報の共有
- ・授業運営に対する振り返りの実施

4. 本委員会の科目区分への対応

■ 各授業期間開始前の対応（3月 / 9月）

各期の授業期間開始前に、各担当教員に対し授業実施計画についてヒアリングを行う。実施計画が本授業の目的に一致するかについて確認を行い、必要に応じて変更等を指示する。本科目区分は、卒業研究で用いるデータサイエンスの知識を修得させる科目である点について重点的に確認する。

また、取り上げる具体的な事例、使用するサンプルデータ、解析手法を確認し、科目区分内の他の授業とのバランス、卒業研究で用いられているデータサイエンスとの整合性について検討し、必要に応じて変更との指示、サンプルデータの作成支援を実施する。

■ 各授業期間中の対応（4月～7月 / 10月～1月）

各授業担当教員は授業運営上の問題が発生した場合、本委員会に申告し指示を仰ぐ。本委員会は申告の都度開催し、必要な対応を行う。また、期中に少なくとも1回以上、各科目担当教員より授業進捗状況の確認を行う。進捗確認の結果は各授業担当教員に共有し、必要に応じて是正指示を行う。

本期間中、情報教育委員会において、各学生の「卒業研究におけるテーマ設定、データサイエンスの活用」についての審査を行い、データサイエンスを用いた各ドメインに対するアプローチについて

ての指導を行う。本科目区分は卒業研究で用いるデータサイエンスの知識を修得させる科目であることから、これらの審査の結果を踏まえ、科目担当教員には情報をフィードバックし、適切な授業内容となる様に対応する。

また成果物の評価に関しても、本委員会が評価ルーブリックを作成・配布し、適正な評価が行われる様に対応する。

■ 各授業期間終了後の対応（8月／2月）

授業期間終了後に、各担当教員より授業状況を確認し振り返りを行う。

振り返りについては各授業担当教員にも共有する。また、ゼミナールI、II、卒業研究I、IIを担当する教員に対しても共有を行い、各ドメインとデータサイエンスを掛け合わせた研究実施に活用する。

5. 教員の役割

本科目区分を担当する教員は、本委員会からの指示・指導に従い授業運営を行う。

授業運営上の問題が発生した場合は、速やかに本委員会に報告し指示を受けなければならない。

6. 守秘義務と安全管理

本実施要領の実施においては、学内の規則・規程に従い、不利益のない取り扱いを徹底する。

また、本業務にて知りえた情報についての守秘義務が徹底されるよう、適切に取り扱う。

7. 庶務

本実施要領に係る事務処理は、ヒューマン・データサイエンス学部教務グループで担う。

以上

附 則

本実施要領は 令和8年4月1日より実施する。

資料28

研究助成基本規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、文京学院大学（以下、「本学」という。）における学術研究を促進、高揚するため、本学専任教員による研究を助成するにあたって、研究助成制度の基本規程を定める。

(研究助成制度の種類)

第2条 本学の研究助成制度は、次の各号に定める「内部研究費」及び「外部研究費」の各制度で構成する。

2 「内部研究費」とは、次の各項に定める研究助成制度のことを指す。

- (1) 個人研究助成制度
- (2) 学会出席等助成制度
- (3) 共同研究助成制度
- (4) 学長裁量助成制度
- (5) 在外研究員助成制度
- (6) 国内研究員助成制度
- (7) 出版助成金制度

3 「外部研究費」とは、次の各項に定める研究助成制度のことを指す。

- (1) 科学研究費助成制度
- (2) 受託研究助成制度
- (3) 寄附研究助成制度

4 国庫補助金である科学研究費は、適正に管理するため、科学研究費助成金等取扱い管理規程を別途設ける。

(研究助成制度の運営管理)

第3条 研究助成制度の運営管理については、次の各号の規程による。

- (1) 文京学院大学各種研究助成費等の取扱いに関する規程
- (2) 科学研究費助成金取扱い管理規程

2 研究助成制度は、第2条に掲げる助成制度の種類全体の体系と、各関連諸制度の趣旨、相互補完関係を配慮して、公正に運営するものとする。

(運営組織)

第4条 第2条第1項、第2項、第3号、第5号、第6号、第7号の運営管理等については、文京学院大学総合研究所学術振興委員会（以下、「振興委員会」という。）が行う。第2条第2項第4号の運営管理等については、学長裁量の選考委員会（以下、「選考委員会」という。）が行う。

2 振興委員会及び選考委員会は運営の状況および審議結果について、適時、大学運営会議及び理事会に報告するものとする。

(各種研究助成制度の支給限度額)

第5条 研究助成額（以下、「助成金」という。）は、次の各号を基準とし、文京学院大学各種研究助成費等の取扱いに関する規程に定める。

(1) 個人研究費の助成の支給限度額は、1人年額30万円（特定助教25万円、助手20万円）。

- (2) 学会出席等助成の支給限度額は、1人年額20万円（特定助教15万円、助手10万円）。
- (3) 共同研究助成の1件あたりの額は、年額100万円以内とする。文京学院大学各種研究助成費等の取扱いに関する規程第15条第1号および第3号による共同研究の場合は、この号を適用しない。
- (4) 学長裁量助成の支給限度額は、金額、件数とも応募内容によるが総額で300万円までとする。
- (5) 在外研究員の助成の支給限度額は、文京学院大学各種研究助成費等の取扱いに関する規程第35条第8項に基づき支給する。
- (6) 出版助成金の支給限度額は、各年度1件につき100万円までとする。

2 助成金の限度額で規定に定めのないものについては、年度毎に予算でこれを定める。

3 「外部研究費」については、資金配分機関の定めによる。

(結果の報告)

第6条 助成金の交付を受けた者は、遅滞なく、研究実績および助成金の使途の明細を学長に報告し、承認を受けなければならない。

(助成金の返還)

第7条 助成金交付の目的が達成される見込みのない時は、学長は、振興委員会あるいは選考委員会の議を経て、助成金の全部または一部を返還させることができる。

(改 正)

第8条 この規程の改正は、大学運営会議及び理事会の議を経るものとする。

附 則

- 1 この規程は、平成12年4月1日から施行する。
- 2 この規程は、平成14年4月1日から施行する。
- 3 この規程は、平成15年4月1日から施行する。
- 4 この規程は、平成16年4月1日から施行する。
- 5 この規程は、令和5年4月1日から施行する。

資料29

文京学院大学における各種研究助成費の取扱に関する規程

第1章 総則

(目的)

第1条 この規程は、研究助成基本規程の第2条に定める、文京学院大学（以下、「本学」という。）における「内部研究費」及び「外部研究費」の取扱いについて必要な事項を定めることを目的とする。

(定義)

第2条 この規程において、使用する用語の定義は、次の各号に定めるところによる。

- (1) 民間機関等 国、地方公共団体、その他法令で定める法人その他の者をいう。
- (2) 個人研究費 専任教員が学術研究のために必要とする研究経費をいう。
- (3) 学会出席等助成金 専任教員がその所属する学会もしくはこれに準ずる研究会等の出席する場合の助成金をいう。
- (4) 共同研究助成金 本学における学際的学術研究を高揚するため、大学院または学部の専任教員を中心とする学内または学外で行う共同研究を助成する研究経費をいう。
- (5) 学長裁量助成金 学内の教育改革に取り組む専任教員または組織(学部等)を財政的に支援することを目的とし、学長が予算計上する研究経費をいう。
- (6) 在外研究員 一定期間海外において、学術研究・調査に従事することを希望する専任教員の中から、適当と認められた者をいう。
- (7) 在外研究費 在外研究において、前号に定めた者へ支給されている研究経費をいう。
- (8) 国内研究員 専任教員の学位論文の作成及びその著書の刊行等を目的としている者をいう。
- (9) 出版助成金 学術研究成果の発表を助成・促進するための研究経費をいう。
- (10) 受託研究 民間機関等から委託を受けて、専任教員が公務として行う研究をいう。
- (11) 受託研究費 受託研究において、委託した民間機関等が負担する研究経費をいう。
- (12) 委託者 本学に研究等を委託しようとする者をいう。
- (13) 寄附研究 学外からの寄附金により行う研究で、これに要する寄附金を本学に寄附しようとする者（以下、「寄附者」という。）が負担し、当該研究結果を本学が寄附者に報告する研究をいう。
- (14) 間接経費 外部研究費による研究の実施に伴い、研究者の研究開発環境の改善や研究機関全体の機能の向上に活用するために本学が使用する経費をいう。
- (15) 内部研究費 外部研究費以外の本学が負担する研究経費をいう。
- (16) 外部研究費 民間機関等が負担する第10号及び第13号の研究経費をいう。

(適正使用)

第3条 専任教員は、内部研究費及び外部研究費をそれぞれの研究に必要な経費として適正に使用しなければならない。

第2章 個人研究助成

(助成の基準)

第4条 個人研究は、本学の教育研究上有意義であり、かつ本来の教育研究に支障をきたすおそれのないものでなければならない。

(助成の条件)

第5条 個人研究費の助成対象者は、本学専任教員とする。

- 2 個人研究費の支給限度額は、研究助成基本規程第5条第1号の定めに従い、1人年額30万円（特定助教25万円、助手20万円）とし、その残額を翌年度に繰り越すことはできないものとする。
- 3 在外研究員の出発前又は帰国後の年度途中の国内在勤期間の研究に対しては、年額30万円×当該年度の国内在勤月数（1ヶ月未満は切上げ）／12により算出した金額を限度として支給する。
- 4 個人研究費の使途は、研究用図書、研究用機器及び消耗品等の購入ならびに研究のための調査費等研究活動に直接使用する経費として認められるものに限る。
- 5 休職中の専任教員への研究費の助成は原則行わない。但し、産前産後休業、育児休業、介護休業による休職については、研究能力の維持ならびに復職後の教育活動に必要な範囲の研究費の助成（研究用図書、論文投稿、学会年会費など自宅を拠点に行われる自主的な研究に限る）を認める場合がある。その際、「個人研究助成支出計画書」（個人-1）及び「個人研究助成予定経費内訳書」（個人-2）を提出し、学部長の承認を得るものとする。
- 6 産前産後休業、育児休業、介護休業以外の事由（業務によらない傷病、事故等）により、当該年度すべての期間が休職となる場合、当該年度の個人研究費は原則として支給しない。

(申請)

第6条 個人研究費の助成を希望する専任教員は、研究実施年度の前年度末までに、「個人研究助成支出計画書」（個人-1）及び「個人研究助成予定経費内訳書」（個人-2）を学部長に提出しなければならない。

- 2 個人研究費の執行については、経理規程第13条の定めに従い申請を行うものとする。
- 3 専任教員が年度末に退職する場合の申請は、原則として12月末日までとする。但し、専任教員が12月より前の年度途中で退職する場合の申請は、退職日の1ヶ月前までとする。
- 4 機器等の個人研究備品等を学外へ持ち出す場合には、「備品等学外使用申請書」（共通-13）を総務グループに申請する。

(使用)

第7条 個人研究用図書、研究用機器及び消耗品等は、原則として事務局を通して購入するものとする。

- 2 機器備品等の購入によるその保証（保守）の期間は、原則1年以内とする。但し、特別な事情により1年以上の保証（保守）を契約した場合は、学校法人文京学院規程の物品等調達手続規程（以下、「物品等調達手続規程」という。）第17条第2項のとおり支払処理をしなければならない。
- 3 個人研究助成により購入した機器等の修理については、「修理自認書」（共通-10）を提出しなければならない。

- 4 ソフトウェアのライセンスを購入する場合は、その期間を原則1年以内とする。但し、特別な事情により1年以上のライセンス契約をした場合は、物品等調達手続規程第17条第2項のとおり支払処理をしなければならない。
- 5 請求書処理で、研究用図書、研究用機器及び消耗品等を購入する場合においては、物品等調達手続規程第16条第2項及び経理規程第13条に掲げる手続きにより処理するものとする。研究用図書、研究用機器及び消耗品等の購入の場合は、見積書およびカタログ類を添付する。(研究用図書、研究用機器及び消耗品等のうち、専門性の高い機器・消耗品(試薬品等)については、その用途等の概要を把握できる説明が付記されていることが望ましい。)
- 6 研究用図書をやむを得ず立替払い(自己調達)で自ら購入したときは、本学宛の領収書及びその詳細がわかる証憑類を合わせて提出するものとする。研究用機器及び消耗品等をやむを得ず立替払い(自己調達)で自ら購入したときは、本学宛の領収書及びその詳細がわかる証憑類を、経理規程第13条の定めに従い申請を行うものとする。
- 7 個人研究のため、緊急または専任教員が直接自分で購入するほうが便利な場合には、事務局を経由しないで研究用図書、研究用機器及び消耗品等を自己調達することができる。
- 8 前項により自己調達する場合は、現金支払い及びクレジットカード(法人カードを含む)の利用ができる。なお、現金あるいは個人のクレジットカードを利用する場合には、物品等調達手続規程第16条第2項及び第3項及び第4項に掲げる手続を行うものとする。但し、クレジットの精算対象利用期間は、国内が4月1日～翌年1月末、海外が4月1日～翌年3月末とする。
- 9 購入に際し、研究用図書、研究用機器及び消耗品等の領収書を必ず入手する。また、領収書の宛先は、所属学校名とする。
- 10 個人研究費の支給限度額を超えた研究用図書、研究用機器及び消耗品等については、費用の一部を自己負担することで購入することができる。但し、本規程9条第2項に定める研究用機器等は返還対象とする。
- 11 研究協力者を依頼する場合は、「研究協力者雇用契約書」(共通-3)、「研究協力者雇用届」(共通-5)を作成し提出しなければならない。報酬の単価は、科学研究費の規程に準ずるものとする。研究者は、「出勤表」(共通-4)により研究協力者の勤務日・勤務時間を記録し、報酬の支払いは、出勤表に基づき月末締め翌月末銀行振込を原則とする。
- 12 研究協力者の人件費については、経理規程第13条の定めに従い申請を行うものとする。また、本学からの振込に限るものとし、「研究協力者雇用契約書」(共通-3)及び「出勤表」(共通-4)を添付する。専任教員の立替払い(自己調達)ではできないものとする。
- 13 研究調査に伴う出張をする場合は、事前に「出張願」(共通-1)を学部長に提出し許可を得て、帰着後は「出張報告書」(共通-2)を提出しなければならない。研究調査に伴う出張費に関しては、学校法人文京学院旅費規程に従うものとする。
(研究成果の報告・公表)
- 第8条 個人研究費の助成を受け調査研究を実施した専任教員は、当該年度終了後1ヶ月以内に「個人研究助成概要報告書」(個人-3)を学部長に提出しなければならない。
- (帰属・返還)

第9条 この規程の適用を受けて購入した研究用機器等は、本学の所有とする。但し、専任教員は在任中各自これを保管し、その専用に供することができる。

2 専任教員は、退職して本学の専任教員でなくなったときは、その在任中この規程により購入した研究用機器等を返還しなければならない。但し、物品（物品の範囲については経理規程第60条の定めによる）はこの限りでない。

（学会出席等助成金との転用）

第10条 個人研究費は、年額10万円（特定助教・助手7万円）を限度として、学会出席等助成金への転用が認められるものとする。

2 大学院を兼担する専任教員は、学会出席等助成金を年額5万円を限度として個人研究費に転用することができる。

3 保健医療技術学部専任教員が、実験実習関係で使用するときに限り、学会出席等助成金を年額10万円（特定助教・助手7万円）を限度として個人研究費に転用することができる。

4 本条第1項、第2項、第3項の転用を行うときには、「転用申請書」（共通-8）を教務グループに提出し、それぞれ学部長または研究科委員長の承認を得るものとする。

（事務所管）

第11条 請求書払いによる購入申請、または立替精算による物品購入等の受付に係る事務は教務グループ、物品購入時の発注及び支払に係る事務は総務グループ、図書の発注及び支払に係る事務は図書館が担当する。

第3章 学会出席等助成

（助成の基準）

第12条 所属する学会、もしくはこれに準ずる研究会等への出席（以下、「学会等」という。）は、本学の教育研究上有意義であり、かつ本来の教育研究に支障をきたすおそれのないものでなければならぬ。

（助成の条件）

第13条 学会出席等助成金（以下、「学会費」という。）の助成対象者は、本学専任教員とする。

2 学会費は、研究助成基本規程第5条第2号の定めに従い、年額20万円（特定助教15万円、助手10万円）を限度として支給する。但し、在外研究員については、本規程34条第8項による在外研究費を支給するものとする。

3 学会費の支給は、支給を受けた助成金の総額が前項の限度額に達するまで分割して受け取ることができる。

4 学会等において研究発表（口頭発表・ポスター発表を問わない）をする場合には、年1回に限り1万円を別に支給することができる。

5 学会等への出席は、年2回、原則として1回の日数3日以内に限り公務と認めるものとする。但し、公務に支障のない場合の出席は、この限りでない。

6 在外研究員の出発前又は帰国後、年度途中の国内在勤期間の研究に対しては、年額20万円×当該年度の国内在勤月数（1ヶ月未満は切上げ）／12により算出した金額を限度として支給する。

(使 用)

第14条 学会費の支給を受けようとする者は、「出張願」(共通-1)に関係書類の写しを添付して教務グループに提出し、学部長の承認を得なければならない。

2 助成金額は、1回につき、次により算出した額とする。

交通費	宿泊費	日 当	参加費 ^(注)
普通運賃 実 費	1夜につき 10,000円	1日につき 3,000円	必要とする場合限度 10,000円

(注)参加費には当該学会に関わる報告要旨集その他資料代を含むことができる。

3 学会等への出席のため、その学会または他の機関から補助金が交付されるときは、前項により算出した金額からその額を控除した額とする。

4 本条第2項及び第3項により算出した額が、20万円(特定助教15万円、助手10万円)からすでに支給を受けた助成金の額を差し引いた額を超える場合は、その額とする。

5 1日につき3,000円の日当は申請しないとすることもできる。但し、申請しなかった額を本規程の第15条第2項及び第3項として使用することはできない。

6 助成金は、概算額を前渡しすることができる。

7 前項による前渡しを受けた者は、帰着後5日以内に精算しなければならない。

8 専任教員は、学会等への出張終了後、前号の精算と同時に、「出張報告書」(共通-2)を提出するものとする。学会等で発表を行っている場合には、その報告書をもってこれに替えることができる。

(個人研究費との転用)

第15条 学会費は、個人研究費を年額10万円(特定助教・助手7万円)を限度として転用することができる。

2 大学院を兼担する専任教員は、年額5万円を限度として、個人研究費への転用が認められるものとする。

3 保健医療技術学部専任教員が、実験実習関係で使用するときに限り、年額10万円(特定助教・助手7万円)を限度として個人研究費に転用することができる。

4 本条第1項、第2項、第3項の転用を行うときには、「転用申請書」(共通-8)を教務グループに提出し、それぞれ学部長または研究科委員長の承認を得るものとする。

(事務所管)

第16条 申請、受付に係る事務は教務グループ及び総務グループ、精算(仮払を含む)に係る事務は教務グループが担当する。

第4章 共同研究助成

(助成の基準)

第17条 共同研究は、本学の教育研究上有意義であり、かつ本来の教育研究に支障をきたすおそれのないものでなければならない。

2 本規程における共同研究とは、特定の研究課題について複数の者が共同で実施する研究をいい、次の各号のいずれかに該当していなければならない。

- (1) 本学内の学部、研究科、研究所等にわたる共同研究
- (2) 本学の学部内の複数研究者（非常勤講師も含む）による共同研究
- (3) 本学の自主性の下に、他大学、企業、研究所等（以下、「学外諸機関」という。）またはその学外諸機関に属する研究者との提携により行われる共同研究。但し、この共同研究の組織においては、特別の事情がない限り、本学専任教員が過半数であること。

(助成の条件)

第18条 共同研究助成金（以下、「共同助成」という。）の総額の限度は、研究助成基本規程第5条第3号の定めに従い、1件あたり年額100万円以内とする。但し、前条第2項第1号及び第3号による共同研究の場合はこの項を適用しない。

- 2 共同研究の期間は、1年とする。但し、初年度に複数年の研究計画を立て、初年度の研究成果の審査により継続して研究することが認められたときは、3年を限度として延長することができる。
- 3 共同研究助成制度の運営管理は、研究助成基本規程第4条による理事会の委任に基づき、総合研究規程第15条に定める文京学院大学総合研究所学術振興委員会（以下、「振興委員会」という。）が行う。
- 4 前項の規定にかかわらず、大学院関係者または学部関係者のみで審議することが適當であると委員長が判断した事項については、それぞれ、大学院研究科委員長及び大学院から選出された教授、または、各学部長及び各学部から選出された教授の参加は、これを省略することができる。
- 5 共同助成の交付をうける者及び交付する共同助成の額は、学長が振興委員会の議を経て、原則として前年度の3月末日までに決定する。
- 6 共同助成は、「共同研究助成経費申請書」（共同一1）に基づき支出する。他の目的への転用は原則としてできない。共同助成は研究活動に直接必要な経費にあてるものとし、その取り扱いについては、経理に関する諸規程によりこれを処理しなければならない。
- 7 予算の執行は、原則として当該年度の1月までに行う。但し、当初の研究計画において、2月以降の執行を予定していた場合、または事前に文京学院大学総合研究所（以下、「総合研究所」という。）に申し出があり、やむを得ないと判断された場合はこの限りではない。但し、クレジットの精算対象利用期間は、国内が4月1日～翌年1月末、海外が4月1日～翌年3月末とする。
- 8 交付を受けた共同助成の使途は、研究計画に則り、それぞれの研究に直接必要な研究用図書、研究用機器及び消耗品等の購入ならびに研究のための調査費等研究活動に直接使用する経費として認められるものに限る。なお、物品の購入、使用においては、物品等調達手続規程に従い手続を行うものとする。
- 9 学外諸機関との共同研究において学外者が本学の施設、設備等を使用する必要があるときは、研究者はあらかじめ学長の承認を得るものとする。但し、学内共同研究者と共同使用する場合はこの限りでない。

(申請)

第19条 共同助成の交付を受けようとするときは、共同研究の代表者を定め、原則として、前年度の1月末日までに「共同研究助成経費申請書」（共同一1）を学長に提出するものとする。

- 2 第17条第2項第1号の場合を除き、同一年度に申請できるのは一人1件とする。なお、研究代表者としての申請は、各号の研究とも一人1件までとする。
- 3 共同助成の交付を受けた後、研究計画等について執行期間の変更や予算表（「共同研究助成経費申請書」（共同-1）に付随）の50%を超える使途の変更等の重要な変更を行おうとするときは、「予算（金額・執行期間）変更申請書」（共通-9）及び「共同研究助成経費申請書」（共同-1）を提出し、学長の承認を受けなければならない。

(使 用)

第20条 共同助成を使用する場合は、物品等調達手続規程第16条第2項及び経理規程第13条に掲げる手続きにより処理するものとする。研究用図書等の購入の場合は、見積書およびカタログ類を添付する。（研究用図書等のうち、専門性の高い機器・消耗品（試薬品等）については、その用途等の概要を把握できる説明が付記されていることが望ましい。）

- 2 1個または1組が10万円を超える物品を購入する場合は、事前の稟議承認を必要とする。
- 3 共同助成により購入した機器等の修理については、「修理自認書」（共通-10）を提出しなければならない。
- 4 前項に記載のない定めについては、第7条第5項から第10項に定められた個人研究助成の使用に準ずる。
- 5 研究協力者を依頼する場合は、「研究協力者雇用契約書」（共通-3）、「研究協力者雇用届」（共通-5）を作成し提出しなければならない。報酬の単価は、科学研究費の規程に準ずるものとする。研究者は、「出勤表」（共通-4）により研究協力者の勤務日・勤務時間を記録し、報酬の支払いは、出勤表に基づき月末締め翌月末銀行振込を原則とする。
- 6 研究協力者の人件費については、経理規程第13条の定めに従い申請を行うものとする。また、本学からの振込に限るものとし、「研究協力者雇用契約書」（共通-3）及び「出勤表」（共通-4）を添付する。専任教員の立替払い（自己調達）ではできないものとする。
- 7 研究調査に伴う出張をする場合は、事前に「出張願」（共通-1）を学部長に提出し許可を得て、帰着後は「出張報告書」（共通-2）を提出しなければならない。研究調査に伴う出張費に関しては、学校法人文京学院旅費規程に従うものとする。

(振興委員会の招集と運営)

第21条 共同助成に関する振興委員会の招集と運営は、総合研究所規程第17条の定めるところによる。

(審議事項)

第22条 振興委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 共同助成を交付する共同研究の認定
- (2) 助成金額の査定
- (3) 研究報告の承認
- (4) その他必要と認める事項

(研究成果の報告・公表)

第23条 共同助成の交付を受けた共同研究の代表者は、翌年3月末日までに、「共同研究助成に関する報告書」（共同-2）及び経理規程第13条の定めに従い学長に報告し、承認を受けなければならぬ

い。なお、研究用図書、研究用機器及び消耗品等の購入実績については、物品等調達手続規程（第2章申請及び発注を除く）を適用する。

- 2 研究代表者は、研究期間終了後、振興委員会が開催する共同研究発表会（5月予定）で発表とともに10月末までに共同研究の成果を本学「文京学院大学総合研究所紀要」用原稿として総合研究所に提出するものとする。締め切り日までに提出しない場合には紀要に掲載しないことがある。但し、やむを得ない事由により公表できない場合は、以後の公表計画等を学長に事由発生次第速やかに提出するものとする。
- 3 特許あるいは外部の学術雑誌等へ掲載するなど特別な事情により、「文京学院大学総合研究所紀要」に研究成果の詳細は掲載しないことを認める場合がある。その場合には「紀要不掲載許可書」（共通-11）にまとめ、学長へ提出すること。
- 4 「紀要不掲載許可書」（共通-11）が承認された場合でも紀要に代えて研究成果の概要を記した原稿を総合研究所に提出するものとする。
- 5 継続研究が認められている場合であっても、各年度の研究成果の概要について共同研究発表会ならびに紀要で発表しなければならない。
- 6 紀要原稿または上記3・4項の概要を記した原稿を提出しなかった場合は、新たに共同研究助成に応募することはできないものとする。

(帰属・返還)

第24条 共同助成により購入した研究用図書及び研究用機器は、本学の所有とする。前条第2項に規定した研究報告終了後、大学に返還するものとする。但し、物品（物品の範囲については経理規程第60条の定めによる）はこの限りでない。

- 2 研究が進捗せず、①共同助成交付の目的が達成されなかった場合、②達成される見込みのない場合、学長は振興委員会の議を経て、共同助成の全部または一部を返還させることがある。

(事務所管)

第25条 申請及び交付、報告に係る事務は、総合研究所事務担当、受付、発注及び支払に係る事務は、教務グループ、総務グループ及び図書館が担当する。また、この規程に定めのない共同研究に関する事務処理は、原則として個人研究費に準ずるものとする。

第5章 学長裁量助成

(助成の基準)

第26条 学内の教育改革に取り組む専任教員または組織（学部等）を財政的に支援することを目的とした助成制度で、応募は専任教員とする。（一人でも複数での応募も可。）学部単位、学部を超えて複数学部によるもの、学生委員会、キャリア委員会、教務委員会等既存の組織として応募することもできる。

- 2 専任教員が応募する場合、応募チームの中に少なくとも1名の専任教員を代表者として加えなければならない。

3 各条文に定めるものの他、テーマ、申請方法・様式、応募期間、選考手順、予算の使用方法、報告書の提出その他学長助成に係る一連の必要な手続きは、各年度初めに募集要項にて提示する。その年度に取り組むべき教育改革テーマの設定は、毎年度初めに学長が行う。

(助成の条件)

第27条 学長裁量助成金（以下、「学長助成」という。）の支給限度額は、研究助成基本規程第5条第4号の定めに従い、毎年度一定額を計上する。当面の間、金額、件数とも応募内容によるが、一回計年度当たり総額で300万円までとする。

2 予算は、学内における公募による自由競争によって配分するものとする。

3 原則として「教育改革計画調書」（学裁-1）を提出後、選考を経て決定してから当該年度について支援が行なわれる。

(申請)

第28条 学長助成の交付を受けようとするときは、専任教員の代表者を定め、原則として、定められた期日までに「教育改革計画調書」（学裁-1）を、学長に提出するものとする。

2 採択後の予算執行は、「教育改革計画調書」（学裁-1）に基づいて行わなければならない。学長助成の交付を受けた後、研究計画等について執行期間の変更や予算表（「教育改革計画調書」（学裁-1）に付随）の50%を超える使途の変更等の重要な変更を行おうとするときは、「予算（金額・執行期間）変更申請書」（共通-9）及び「教育改革計画調書」（学裁-1）を提出し、学長の承認を受けなければならない。

(使用)

第29条 学長助成を使用する場合は、物品等調達手続規程第16条第2項及び経理規程第13条に掲げる手続きにより処理するものとする。研究用図書等の購入の場合は、見積書およびカタログ類を添付する。（研究用図書等のうち、専門性の高い機器・消耗品（試薬品等）については、その用途等の概要を把握できる説明が付記されていることが望ましい。）

2 1個または1組が10万円を超える物品を購入する場合は、事前の稟議承認を必要とする。

3 学長助成により購入した機器等の修理については、「修理自認書」（共通-10）を提出しなければならない。

4 前項に記載のない定めについては、第7条第5項から第10項に定められた個人研究助成の使用に準ずる。

5 研究協力者を依頼する場合は、「研究協力者雇用契約書」（共通-3）、「研究協力者雇用届」（共通-5）を作成し提出しなければならない。報酬の単価は、科学研究費の規程に準ずるものとする。研究者は、「出勤表」（共通-4）により研究協力者の勤務日・勤務時間を記録し、報酬の支払いは、出勤表に基づき月末締め翌月末銀行振込を原則とする。

6 研究協力者の人件費については、経理規程第13条の定めに従い申請を行うものとする。また、本学からの振込に限るものとし、「研究協力者雇用契約書」（共通-3）及び「出勤表」（共通-4）を添付する。専任教員の立替払い（自己調達）ではできないものとする。

7 研究調査に伴う出張をする場合は、事前に「出張願」（共通-1）を学部長に提出し許可を得て、帰着後は「出張報告書」（共通-2）を提出しなければならない。研究調査に伴う出張費に関しては、学校法人文京学院旅費規程に従うものとする。

(選考委員会)

第30条 選考委員会は次のとおりとする。

委員長：学長

委 員：理事長、副学長

選考委員会により書類選考、面接を経て採択されたものに予算を配分する。

(研究成果の報告・公表)

第31条 学長助成の交付を受けた代表者は、翌年度4月末までにその成果を「学長裁量経費に関する報告書」(学裁-2)及び経理規程第13条の定めに従い学長に報告し、承認を受けなければならない。なお、研究用図書、研究用機器及び消耗品等の購入実績については、物品等調達手続規程(第2章申請及び発注を除く)を適用する。また、文京学院大学総合研究所紀要に、教育改革の取り組みとして公表するとともに共同研究発表会において発表する。

(顕 彰)

第32条 共同研究発表会での報告を終えた後、学長は、選考委員会に諮り、特に本学の教育改革に寄与したと認められる優れた取組みに対して顕彰する。

(事務所管)

第33条 採択後の学長助成の事務管理は、共同研究費の取り扱いに準じて、総務グループ及び教務グループが行う。学部横断型の取り組みが採択された場合の事務は、各事務局が協力して行う。

第6章 在外研究助成

(助成の基準)

第34条 在外研究員(以下、「研究員」という。)は、一定期間、海外において学術研究・調査に従事することを希望する専任教員の中から適当と認められた者とする。

(助成の条件)

第35条 研究員の有資格者は、専任教員として原則勤続5年以上の者とする。

2 研究員の在外期間は、原則として1年間以内(年度をまたいで研究・複数の国での研究も可能)とする。但し、研究日程の調整上、出発から帰国までの日数が1年間以上になる場合は、帰国後の国内業務に支障がない7日間以内に限りこれを認めることがある。この場合においても在外研究期間は1年間とみなし、超過日程分の在外研究費を加給することはしない。

3 研究員になれる回数は、原則として一人1回、人数は年間2名とする。

4 研究員となった者は、研究期間終了後、最低3年間本学の専任教員として勤務しなければならない。

5 研究員は、授業その他の校務を免除され、一定期間研究に専念することができ、研究期間中の授業措置については、大学が準備する。

6 研究員の在外研究期間は、勤務年数として在職期間に算入する。

7 研究員の在外研究期間中の給与については、次のとおりとする。

(1) 本給は、その全額を支給する。但し、家族手当を除き、他の諸手当は支給しない。

(2) 定時昇給を行う。

(3) 在外研究期間中の賞与については、その全額を支給する。

8 在外研究費は、研究助成基本規程第5条第5号の定めに従い、旅費及び滞在費とする。

9 前項の規定により算出される在外研究費は、別に定める文京学院海外出張旅費規程及び本項各号に基づき支給する。

(1) 在外研究のため在外研究員が海外出張する場合、その往復の旅費は海外出張旅費規程によるものとし、表1により支給する。

(2) 滞在費は、宿泊費、食費、交通費（在留国内）等滞在に要する費用すべてを含むものとし、表2により支給する。滞在期間が、6ヶ月に満たないときは、表2-1の金額を6ヶ月で除した1ヶ月単位で計算し、滞在期間が、12ヶ月に満たないときは、表2-2の金額を12ヶ月で除した1ヶ月単位で計算するものとし、1ヶ月に満たない日数は、日割で計算した額を滞在費とする。但し、1ヶ月は30日として計算する。

(3) 支度金は、表3により支給する。

表1

教授・准教授・助教	旅 費
	ツーリストクラス

表2-1 在外期間6ヶ月

教授・准教授・助教	北米地域・欧州地域※	その他地域
	1,500,000円	1,200,000円

表2-2 在外期間12ヶ月

教授・准教授・助教	北米地域・欧州地域※	その他地域
	2,700,000円	2,100,000円

表3

教授・准教授・助教	学園から選任されて初めて海外主張をする者	同 海外出張が2回目以降の者
	150,000円	120,000円

※北米地域…北アメリカ大陸（メキシコ以南の地域を除く。）、グリーンランド、ハワイ諸島、バミューダ諸島及びグアム並びにそれらの周辺の島嶼（西インド諸島及びマリアナ諸島（グアムを除く。）を除く。）

※欧州地域…ヨーロッパ大陸（アゼルバイジャン、アルメニア、ウクライナ、ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、ジョージア、タジキスタン、トルクメニスタン、ベラルーシ、モルドバ及びロシアを含み、トルコを除く。）、アイスランド、アイルランド、英國、マルタ及び

キプロス並びにそれらの周辺の島嶼（アゾレス諸島、マディラ諸島及びカナリア諸島を含む。）

（申請）

第36条 研究員を希望する者は、原則として在外研究実施年度の前年度9月末日迄に、「在外研究申請書」等の必要書類を学部長に提出しなければならない。

（候補者の推薦と決定）

第37条 総合研究所規程第15条に定める振興委員会は、学部長の発議に基づき、研究員の候補者について審議し、学長に推薦する。但し、候補者の所属学部構成専任教員の欠員等学部の事情を勘案し、推薦しない場合がある。

2 学長は、教授会、大学運営会議の議を経て、理事長に推薦する。

3 理事長は、理事会の議を経て研究員を決定する。

（手続）

第38条 研究員は、遅くとも在外研究実施の2ヶ月前迄に、「在外研究費支払願」、「誓約書」及び「在外研究日程表」を、学部長を経て学長に提出しなければならない。

2 研究員は、帰国後直ちに「在外研究帰国情報」（様式第6号）を、学部長を経て学長に提出しなければならない。

3 在外研究員に選任された者は、在外研究申込み時の健康診断とは別に在外研究出発の1ヶ月前に学園が指定する検診機関で健康診断を受け、その結果を学園に診断書をもって、報告しなければならない。なお、検診に要する費用はその全額を学園が負担する。

（研究成果の報告・公表）

第39条 研究員は、在外期間の中間時点において「在外研究状況中間報告書」を、学部長を経て学長に提出しなければならない。

2 研究員は、帰国後3ヶ月以内に「研究概要報告書」を、学部長を経て学長に提出しなければならない。

（在外研究の中止・取消）

第40条 研究員は、不慮の疾病・負傷または都合により、在外研究を続けることができなくなった場合、速やかにその旨を学部長を経て学長に申し出て、その指示に従わなくてはならない。

2 在外研究を中断した場合には、既に支給された滞在費のうち残余期間に対応する額を返還しなければならない。

3 在外研究期間中といえども、学長が研究員を不適任と認めた場合には、学部長と諮りその者の在外研究を取り消し、帰国を命ずることができる。

（違約金）

第41条 研究員が、第34条第4項に違背したときは、疾病等やむを得ない場合を除き、既に本学から支給された在外研究費及び在外研究期間中の給与の半額に相当する額を規程違約金として支払わなければならない。

（事務所管）

第42条 研究員に関する事務は、教務グループが行う。

第7章 国内研究員助成

(助成の基準)

第43条 国内研究員（以下、「研究員」という。）は、専任教員の研究活動を促進し、大学全体の教育・研究水準の向上を図るため、学位論文の作成及びその著書の刊行等を目的とする。推薦するにあたっては、学位論文の作成及び著書の刊行を目的とする申請を優先するものとする。

(助成の条件)

第44条 研究員の有資格者は、専任教員として原則として勤続5年以上の者とする。

2 研究員の研究期間は、6ヶ月以内とし、毎年度4月1日もしくは10月1日から開始し、研究期間の长短にかかわらず、1回分として取り扱う。

3 研究員の人数は、原則として、年間2名とする。

4 研究員となった者は、研究期間終了後、最低3年間本学の専任教員として勤務しなければならない。

5 研究員は、授業その他の校務を免除され、一定期間研究に専念することができ、研究期間中の授業措置については、大学が準備する。但し、演習については、原則として、本人が授業を行わなければならない。

6 研究期間は、勤続年数として在職期間に算入する。

7 研究員の研究期間中の給与については、以下のとおりとする。

(1) 本給は、その全額を支給する。但し、家族手当を除き、他の諸手当は、原則として支給しない。

(2) 定時昇給を行う。

(3) 研究期間中の賞与については、その全額を支給する。

(申請)

第45条 研究員を希望する者は、原則として、実施研究期間の6ヶ月前迄に、学部長に「国内研究申請書」を提出する。

(候補者の推薦と決定)

第46条 総合研究所規程第15条に定める振興委員会は、学部長の発議に基づき、研究員の候補者について審議し、学長に推薦する。但し、候補者の所属学部構成専任教員の欠員等学部の事情を勘案し、推薦しない場合がある。

2 学長は、教授会、大学運営会議の議を経て、理事長に推薦する。

3 理事長は、理事会の議を経て、研究員を決定する。

(手続き)

第47条 研究員は、遅くとも研究実施の2ヶ月前迄に、「誓約書」及び「在外研究日程表」を、学部長を経て学長に提出しなければならない。

(研究成果の報告・公表)

第48条 研究員は、研究期間終了後、速やかに所定の「国内研究報告書」を、学部長を経て学長に提出しなければならない。

(事務所管)

第49条 研究員に関する事務は、教務グループが行う。

第8章 出版助成

(助成の基準)

第50条 出版助成の対象となるものは、本学の専任教員の研究成果で、次の各号のいずれかに該当するものでなければならない。

- (1) 学位論文を公開するための出版
- (2) 専門の学問領域における学術的価値を有し、かつ出版に値するもの

(助成の条件)

第51条 出版助成金（以下、「助成金」という。）は、研究助成基本規程第5条第6号の定めに従い、各年度1件につき100万円を限度とする。

2 助成金の交付を受ける件数は、原則として当該年度で2件以内とする。

(申請)

第52条 出版助成を申請する者は、前年度の9月末日までに所定の「出版助成計画書」及び「出版助成見積書」を学部長に提出しなければならない。

- 2 前項の「出版助成計画書」の提出に当たっては、予定出版社の選定とともに出版予定図書の原稿またはその写しを添付しなければならない。
- 3 過去に出版助成を受けた者は、再度申請する場合には、助成を受けた年度から5年以上経過しなければならない。

(助成の推薦と決定)

第53条 総合研究所規程第15条に定める振興委員会は、学部長の発議に基づき助成金の交付の候補者について審議し学長に推薦する。

- 2 振興委員会は前項の推薦にあたり、必要があると判断した場合には事前に学内外の専門の者の意見を聴取することができる。
- 3 学長は振興委員会、大学運営会議の議を経て理事長に推薦する。
- 4 理事長は、理事会の議を経て助成金の交付を受ける者を決定する。

(義務)

第54条 助成金の交付決定を受けた者は、当該年度中に図書の出版を完了しなければならない。

- 2 出版助成による学術図書には、「本書の出版は文京学院大学出版助成による」旨を明記しなければならない。
- 3 助成金の交付を受けた者は、出版後速やかに出版図書5部を添付して、所定の「出版助成金実績報告書」を学長に提出しなければならない。
- 4 助成金の交付を受けた者が、やむを得ない事由により「出版助成計画書」に重大な変更が生じた場合には、遅滞なく書面をもって変更内容及び変更理由を、学部長を経て学長に報告しなければならない。
- 5 助成金の交付を受けた者が、やむを得ない事由により出版が困難となった場合には、速やかに書面をもって中止の理由を、学部長を経て学長に報告しなければならない。

6 学長は、前項の報告があった場合には、振興委員会、大学運営会議に諮り、出版の中止を決定することができる。

(帰属・返還)

第55条 前条に定める義務に違反した場合には、振興委員会、大学運営会議に諮り、助成金の一部又は全部の返還を命ずることができる。

2 印税の取り扱いは、初版については大学に帰属するものとする。

(事務所管)

第56条 出版助成に関する事務は、教務グループが担当する。

第9章 受託研究助成

(受入の基準)

第57条 受託研究は、本学の教育研究及び臨床研究に有意義であり、業務に支障をきたすおそれがないと認められる場合に限り実施できるものとする。

(受入の条件)

第58条 民間機関等からの受入の条件は、次のとおりとする。

- (1) 受託研究は、委託者が一方的に中止することはできない。
- (2) 委託者は、受託研究費を当該研究の開始までに本学に払い込むものとする。この場合は、分割払い込みをすることができる。
- (3) 受託研究費により取得した設備備品は本学に帰属するものとする。また、委託者から提供を受けた機器設備等は、委託者から事前に別段の意思表示がない限り、本学に帰属するものとする。
- (4) 本学がやむを得ない事由により受託研究を中止し、又はその期間を延長する場合においても、本学はその責を負わず、また、原則として受託研究費は返還しない。
- (5) 本学に支払われた受託研究費は、返還しない。但し、不要又は余剰となった経費は、その金額を返還する。
- (6) 受託研究の結果、知的財産権・工業所有権等（特許権、実用新案権、意匠権及び商標及びこれらの権利を受ける権利をいう。）の権利が生じた場合は、この処置について本学と委託者の協議により決定する。
- (7) 受託研究に関する成果を公表するときは、その時期、方法、公表者等については本学と委託者が協議する。
- (8) 受託研究の研究期間は、原則として3ヶ月以上1年以内とする。ただし、特に必要のある場合は、あらためて契約を締結し、研究期間は最長5年を超えないものとする。

2 国の機関等からの受入の条件は、次のとおりとする。

委託者が国の機関もしくは公社、公庫、公団等政府関係機関又は地方公共団体である場合で、受託研究費が直接、当該研究等を行う者（以下「研究担当者」という。）に払い込まれるものについて、前項各号の規定により難しいときは、委託者の指定する契約条件によることができる。但し、受託研究の開始にあたっては学長の承認を得るものとし、当該研究が終了したときは、学長にその旨報告するものとする。

- 3 受託研究遂行のため学外研究者が本学の施設に入りする場合は、研究担当者が「学外研究者（受託・共同）施設等使用願」を学長に提出し、許可を得るものとする。
- 4 研究担当者は、学外研究者の学内における行動につき責任を負うものとする。

(申 請)

第59条 受託研究の申込みをしようとする委託者は、「受託研究申込書」に所定事項を記載し、原則として研究開始日の1ヶ月前までに研究担当者の属する分野等の責任者（以下、「研究責任者」という。）を経由し、当該研究責任者の属する学部長の承認を得て、学長に提出するものとする。

- 2 委託者が本学に研究を委託しようとするときは、「委託研究申込書」を学長宛に提出するものとする。

(承 認)

第60条 学長は、受託研究申込書に基づき、受託研究に関する審査委員会等の審査を経て、研究の意義、業務への支障の有無等を総合的に判断し、受託研究の受け入れの可否を決定する。

- 2 学長は、必要に応じ当該受託研究に関する研究担当者、研究責任者及び関連委員会等の意見を聞くことができる。
- 3 学長は、委託研究申込書の提出があった場合、当該研究等を行う者（以下「研究担当者」という。）及び関係者の意見を聴取して受託の可否を決定する。

(契約の締結)

第61条 受託研究の受入を決定したときは、本学と委託者の間で「受託研究契約書」により受託研究契約を締結するものとする。

- 2 前項の契約締結をもって委託者への承認通知とする。

(会計処理等)

第62条 受託研究費は、すべて学校会計に含めて取扱い、これにより取得する物品等は本学関係規程に基づいて処理しなければならない。

(研究完了報告)

第63条 研究担当者は、当該研究が終了したときは1ヶ月以内に「受託研究結果報告書」及び「受託研究費精算書」を学長に提出しなければならない。

- 2 学長は、委託者に受託研究の結果を前項の「受託研究結果報告書」をもって報告するものとする。

(事務所管)

第64条 学内においては、受託研究費の契約締結及び受領に係わる事務は教務グループ及び総務グループが担当し、受領した受託研究費の保管及び出金管理は総務グループが担当するものとする。
また、寄附金の受入に関する事務は教務グループ、経理に関する事務は総務グループにおいて処理する。

第10章 雜則

(改正)

第65条 この規程の改正は、大学運営会議及び理事会の議を経るものとする。

附 則

1. この規程は、研究助成基本規程の旧条文の各種研究規程を廃止し新たに定めるものとする。
2. この規程は、令和5年4月1日から施行する。
3. この規程は、令和6年4月1日から施行する。

資料30

文京学院大学総合研究所規程

(趣 旨)

第 1 条 学則第 55 条第 2 項に基づき、研究科、学部、学科および専攻に関する学問の研究、本学専任教員の学術に関する研究ならびに本学の教育を支援することを目的として、文京学院大学総合研究所を設置する。

(部 門)

第 2 条 研究所は、前条の目的を達成するために、次の部門を設ける。

- (1) 本学の大学、大学院の各学問領域にわたる理論的および実践的研究に関する部門（以下「学際的部門」という。）
- (2) 経営学に関する理論的および実践的研究に関する部門（以下「経営学部門」という。）
- (3) 人間学に関する理論的および実践的研究に関する部門（以下「人間学部門」という。）
- (4) 外国語学に関する理論的および実践的研究に関する部門（以下「外国語学部門」という。）
- (5) 保健医療技術学に関する理論的および実践的研究に関する部門（以下「保健医療技術部門」という。）

(活 動)

第 3 条 研究所は、部門ごとに、次の各号に掲げる活動を行う。

- (1) 各部門の理論的および実践的研究に関すること。
- (2) 教育・研究業績の発表および刊行に関すること。
- (3) 資料の収集、整理および保存に関すること。
- (4) 教育支援、教育環境整備および地域啓蒙活動（研究所公開講座、相談および治療を含む）に関すること。
- (5) その他目的実現に必要な事項に関すること。
- (6) 前各号の範囲で、部門ごとに内規を設けて、活動を推進することができる。

(所 在)

第 4 条 総合研究所は、主たる所在を本郷キャンパス内に置くものとする。

(組 織)

第 5 条 研究所に所長 1 名を置く。また、副所長 4 名およびそれぞれの部門に研究員を置くことができる。

2 各部門のなかで、研究テーマごとに主任研究員 1 名および客員研究員若干名を置くことができる。

(所 長)

第 6 条 所長は、研究所を代表し、その活動を統括する。

2 所長は、それぞれの大学院研究科委員長ならびに学部長が推薦する候補者の中から、学長が適任と思われる者を選び、これを任命する。

3 所長の任期は 2 年とする。ただし、再任を妨げない。

(副所長)

第 7 条 副所長は、所長を補佐し、担当する部門の諸事項を管掌する。

2 副所長は、各学部の学部長が務めるものとする。

(主任研究員)

- 第 8 条 主任研究員は、研究所の活動を分担して所管し、その遂行に責任をもって当たる。
- 2 主任研究員は、各研究テーマに 1 名を、運営委員会が推薦し、所長がこれを任命する。
 - 3 主任研究員の任期は 1 年とする。ただし、再任を妨げない。

(研究員)

- 第 9 条 研究員は、原則として本学専任教員をもって構成する。
- 2 研究員は、研究所の計画に基づき、研究、調査、教育、その他研究所の活動に関連する業務に従事する。

(客員研究員)

- 第 10 条 客員研究員（「運営委員会」の議を経て、各部門の研究テーマごとに指導員、調査員、研究所講師等の呼称を与えることがある。）は、研究所から付託された特定事項の研究、調査、教育、その他研究所の活動に関連する業務に従事する。
- 2 客員研究員は、本学院が設置する他の学校の専任教職員および本学非常勤教員または外部の研究・教育機関、企業・団体または個人の中から、研究所が特に必要と認めた人材を運営委員会が推薦し、所長がこれを任命する。
 - 3 客員研究員の任期は 1 年（年度の途中で任命する場合は、当該年度の 3 月 31 日まで。）とする。ただし、再任を妨げない。

(運営委員会)

- 第 11 条 研究所に運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(運営委員)

- 第 12 条 運営委員会は、大学院各研究科委員長、各学部長、研究所長をもって組織する。

(審議事項)

- 第 13 条 委員会は、次の事項を審議する。
- (1) 研究所の基本方針に関する事項
 - (2) 主任研究員および客員研究員の推薦に関する事項および客員研究員の職務に関する事項
 - (3) 活動の計画および研究所の運営に関する重要な事項
 - (4) その他研究所が必要と認める事項
- 2 委員会は、研究所長がこれを招集し、その議長となる。
 - 3 委員会は、委員の 2 分の 1 以上の出席をもって成立する。
 - 4 委員会の議決は、出席者の過半数の賛成による。
 - 5 委員会は必要に応じて、主任研究員、客員研究員その他必要と認める者を委員会に出席させ発言を求めることができる。

(学術振興委員会)

- 第 14 条 文京学院大学教員の学術を振興するため、学術振興委員会（以下「振興委員会」という）を設置する。
- 2 振興委員会は、研究助成基本規程第 4 条の定めに基づき、研究助成制度の運営業務についても併せて担当する。
 - 3 振興委員会は、理事会の委任に基づく研究助成制度の審議、推進その他の運営については、理事会の定める各助成規程に従い、制度の種類全体の体系と、各関連諸制度の趣旨、相互補完関係を配慮して、公正に運営するものとする。

(振興委員会の組織)

第15条 振興委員会は、次の者をもって組織する。

- (1) 総合研究所運営委員会の運営委員。
- (2) 各研究科専攻主任および各学部の教務委員長

2 振興委員会の委員長は、総合研究所長がこれにあたる。

(振興委員会の任務)

第16条 振興委員会は、次の事項について審議し、推進することを任務とする。

(学内学術研究の推進)

- (1) 共同研究助成制度の運営、共同研究申請の審査、共同研究費配分の査定、各研究の成果の評価と研究成果報告会の開催
- (2) 研究所の企画による共同研究の設定等
- (3) 在外研究員助成制度の運営
- (4) 特別研究者助成制度の運営
- (5) 出版助成制度の運営
- (6) 国内研究者助成制度の運営

(学外学術研究への参加推進)

- (7) 文部科学省「科研費」への応募推進
- (8) 学外研究機関等の研究への参加推進
- (9) 他大学との学術交流・共同研究への参加推進

(対外学術活動の後援)

- (10) 学会発表等の推進
- (11) 学会主催その他学会活動等の後援
- (12) 学内外講師による公開学術講演会の立案・開催
- (13) 文京学院大学研究図書シリーズ等の企画・出版

(その他)

- (14) その他学術振興に関わる諸事項
- 2 本条第1項第1号のうち、研究助成制度の運営については、別に定める各規程によるものとする。
- 3 研究報告会で発表された共同研究論文は、「文京学院大学総合研究所紀要」に掲載し、公表するものとする。

(振興委員会の運営)

第17条 委員長は、振興委員会を招集し、その議長となる。

- 2 振興委員会は、処理案件の発生または、振興委員会委員からの発議により開催する。
- 3 振興委員会は、委員の過半数の出席をもって成立する。
- 4 議事は、委員の合意を原則とし、合意が成立しない場合は、学長がこれを決するものとする。
- 5 振興委員会は、必要に応じ、委員以外の者を出席させて意見を聞くことができる。
- 6 振興委員会は、学外の関係諸団体または個人より、本学の個人または共同で行われる特定の研究に対して研究助成の申し出があった場合には、これを審議し受入が認められたときは、学長の承認を得るものとする。

(庶務)

第18条 委員会に関する事務は、総合研究所事務担当が行う。

(改 正)

第19条 本規程の改正は、大学院各研究科委員会および各学部教授会の議を経て理事会が決定するものとする。

附 則

- 1 この規程は、平成9年4月1日から施行する。
- 2 平成9年度予算の策定については、この規程にかかわらず4月以降に行う。
- 3 従前の共同研究助成規程は、本研究所に移管する。
- 4 この規程は、平成12年4月1日から施行する。
- 5 この規程は、平成13年4月1日から施行する。
- 6 この規程は、平成14年4月1日から施行する。
- 7 この規程は、平成15年4月1日から施行する。
- 8 この規程は、平成16年4月1日から施行する。
- 9 この規程は、平成18年4月1日から施行する。
- 10 この規程は、平成21年4月1日から施行する。
- 11 この規程は、平成24年4月1日から施行する。
- 12 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 13 この規程は、令和4年4月1日から施行する。

月曜日										火曜日										水曜日										木曜日									
学年	科目名	クラス	教員名	教室	科目区分	学年	科目名	クラス	教員名	教室	科目区分	学年	科目名	クラス	教員名	教室	科目区分	学年	科目名	クラス	教員名	教室	科目区分	学年	科目名	クラス	教員名	教室	科目区分										
1限	データサイエンスへのいざない	1	品田健・福垣俊介	D61	教養	1	情報リテラシーI	1	大西幸周	S0502	教養	2	システム設計論	1	仲田知弘	D61	DS	1	経営学入門	1	渡部吉昭	D61	プロマネ	1	未来体験プログラム	1	飯田開・井上絵里	D61	プロマネ										
	プログラミングIII	1	浅野俊幸	S0501	DS	1	情報リテラシーI	2	石村友二郎	S0604	教養	3	プロジェクトマネジメント演習	1	御器谷裕樹	S0502	プロマネ	2	シミュレーション論	1	仲田知弘	S0702	DS	2	都市論	1	岩館豊	S0602	ヒューマン・データサイエンス										
	プログラミングIII	2	仲田知弘	S0605	DS	1	情報リテラシーI	3	福垣俊介	S0703	教養	3	プロジェクトマネジメント演習	2	穴太克則	S0601	プロマネ	2	ジェンダー・イノベーションと地域社会	1	甲斐田きよみ	S0704	教養																
	プログラミングIII	3	御器谷裕樹	S0705	DS	2	ヘルスプロモーション	1	上田泰久	S0603	ヒューマン・データサイエンス	3	プロジェクトマネジメント演習	3	浜正樹	S0603	プロマネ																						
						3	サイバーセキュリティ概論	1	浜正樹	S0704	DS	3	プロジェクトマネジメント演習	4	飯田開	S0602	プロマネ																						
												3	プロジェクトマネジメント演習	5	中山哲晴	まちラボ	プロマネ																						
												3	プロジェクトマネジメント演習	6	磯真一郎	S0605	プロマネ																						
												3	プロジェクトマネジメント演習	7	井上紘理	S0701	プロマネ																						
												3	プロジェクトマネジメント演習	8	西岡隆輔	S0702	プロマネ																						
												3	プロジェクトマネジメント演習	9	貴井万里	S0703	プロマネ																						
												3	プロジェクトマネジメント演習	10	崎嶋東子	S0705	プロマネ																						
2限	プログラミングI	1	浅野俊幸	S0501	DS	2	フィットネス科学演習I	1	青木通	体育館	教養	1	初年次演習I	1	渡部吉昭	S0501	学科基礎	1	プログラミングI	1	浅野俊幸	S0501	DS	1	ジェンダー論	1	登丸あすか	S0602	教養										
	プログラミングI	2	御器谷裕樹	S0605	DS	3	ゼミナールI	1	仲田知弘	S0704	実践	1	初年次演習I	2	恒吉僚子	S0601	学科基礎	1	プログラミングI	2	御器谷裕樹	S0605	DS	2	データサイエンスと線形代数	1	石村光賀郎	S0502	DS										
	プログラミングI	3	小林隆貴	S0705	DS	3	ゼミナールI	2	浅野俊幸	S0604	実践	1	初年次演習I	3	中山哲晴	S0602	学科基礎	1	プログラミングI	3	小林隆貴	S0705	DS	2	データサイエンスと線形代数	2	井上紘理	S0603	DS										
	発達学概論	1	神作一実・飯田開	S0502	ヒューマン・データサイエンス	3	ゼミナールI	3	神作一実	S0501	実践	1	初年次演習I	4	貴井万里	S0605	学科基礎	2	心理学概論	1	泉水清志	S0704	ヒューマン・データサイエンス	2	データサイエンスと線形代数	3	戸坂義春	S0604	DS										
	社会調査法実践(質的)I	1	岩館豊	S0601	教養	3	ゼミナールI	4	飯島史朗	S0502	実践	1	初年次演習I	5	長野祐一郎	ものづくりラボ	実践	1	初年次演習I	6	甲斐田きよみ	S0702	学科基礎			2	質的データ分析	1	岩館豊	S0601	教養								
						3	ゼミナールI	6	恒吉僚子	S0601	実践	1	初年次演習I	7	井上紘理	S0703	学科基礎																						
						3	ゼミナールI	7	渡部吉昭	S0602	実践	1	初年次演習I	8	飯田開	S0705	学科基礎																						
						3	ゼミナールI	8	甲斐田きよみ	S0603	実践	2	統計処理演習	1	石村光賀郎	S0502	DS																						
						3	ゼミナールI	9	貴井万里	S0605	実践	2	統計処理演習	2	井上紘理	S0603	DS																						
						3	ゼミナールI	10	登丸あすか	S0701	実践	2	統計処理演習	3	石村友二郎	S0604	DS																						
3限	フィットネス科学	1	青木通	S0603	教養	4	卒業研究I	1	仲田知弘	S0704	実践	1	ドメインとデータサイエンス	1	浜正樹・穴太克則	D61	DS	1	キャリアデザインI	1	小山治	S0605	キャリア	2	メディア概論	1	登丸あすか	S0703	ヒューマン・データサイエンス										
	共生まちづくり論	1	崎嶋東子	S0602	ヒューマン・データサイエンス	4	卒業研究I	2	浅野俊幸	S0604	実践	2	生化学と栄養	1	飯島史朗	S0602	ヒューマン・データサイエンス	1	キャリアデザインI	2	小畠重隆	S0705	キャリア	2	データマイニング概論	1	穴太克則・浅野俊幸	S0704	DS										
	異文化間コミュニケーション	1	鶴奈保子	S0703	ヒューマン・データサイエンス	4	卒業研究I	3	神作一実	S0501	実践	3	トピックモデル概論	1	浅野俊幸	S0702	DS	3	企業会計II	1	渡部吉昭	S0604	プロマネ	3	量的データ分析	1	柳瀬公	S0601	教養										
	社会調査法実践(量的)I	1	岩館豊	S0601	教養	4	卒業研究I	4	飯島史朗	S0502	実践						3	ペイズ推定と意思決定	1	穴太克則	S0702	DS																	
						4	卒業研究I	5	長野祐一郎	ものづくりラボ	実践																												
						4	卒業研究I	6	恒吉僚子	S0601	実践																												
						4	卒業研究I	7	渡部吉昭	S0602	実践																												
						4	卒業研究I	8	甲斐田きよみ	S0603	実践																												
						4	卒業研究I	9	貴井万里	S0605	実践																												
						4	卒業研究I	10	登丸あすか	S0701	実践																												
4限	英語I	1	猪井貴子	S0502	教養	1	社会調査I	1	岩館豊	D61	教養	1	ヒューマンデータエンジニアリング演習I	1	長野祐																								

	月曜日				火曜日				水曜日				木曜日				金曜日								
	学年	科目名	クラス	教員名	教室	科目区分	学年	科目名	クラス	教員名	教室	科目区分	学年	科目名	クラス	教員名	教室	科目区分	学年	科目名	クラス	教員名	教室	科目区分	
1限	2	画像解析概論	1	水戸和幸	S0603	DS	1	情報リテラシーⅡ	1	大西幸周	S0502	教養	1	経済学	1	立福家徳	S0704	教養	1	地域づくり入門	1	甲斐田、岩館、仲田、井上、中山、崎	D61	ヒューマンドメイン	
							1	情報リテラシーⅡ	2	石村友二郎	S0604	教養	2	プロジェクトマネジメント概論	1	中山智晴、植村哲士	D61	プロマネ	2	自然言語解析概論	1	浅野俊幸	S0502	DS	
							1	情報リテラシーⅡ	3	福垣俊介	S0703	教養													
							2	バイオメカニクス	1	福井勉	S0603	ヒューマンドメイン													
2限	1	プログラミングⅡ	1	浅野俊幸	S0501	DS	2	フィットネス科学演習Ⅱ	1	青木道	体育館	教養	1	初年次演習Ⅱ	1	渡部吉昭	S0501	学科基礎	2	心身測定学	1	長野祐一郎	S0603	ヒューマンドメイン	
	2	プログラミングⅡ	2	御器谷裕樹	S0605	DS	3	ゼミナールⅡ	1	仲田知弘	S0704	実践	1	初年次演習Ⅱ	2	恒吉像子	S0601	学科基礎	2	パーソナルファイナンス	1	渡部吉昭	S0604	教養	
	1	プログラミングⅡ	3	小林隆貴	S0705	DS	3	ゼミナールⅡ	2	浅野俊幸	S0604	実践	1	初年次演習Ⅱ	3	中山智晴	S0602	学科基礎							
	2	リハビリテーション論	1	神作一実・飯田開	S0502	ヒューマンドメイン	3	ゼミナールⅡ	3	神作一実	S0501	実践	1	初年次演習Ⅱ	4	賀井万里	S0605	学科基礎							
	2	国際協力論	1	甲斐田きよみ	S0604	ヒューマンドメイン	3	ゼミナールⅡ	4	飯島史朗	S0502	実践	1	初年次演習Ⅱ	5	小山治	S0701	学科基礎							
	3	社会調査法実践(質的)Ⅱ	1	岩瀬豊	S0704	教養	3	ゼミナールⅡ	5	長野祐一郎	S0601	実践	1	初年次演習Ⅱ	6	甲斐田きよみ	S0702	学科基礎							
							3	ゼミナールⅡ	6	恒吉像子	S0601	実践	1	初年次演習Ⅱ	7	井上紹理	S0703	学科基礎							
							3	ゼミナールⅡ	7	渡部吉昭	S0602	実践	1	初年次演習Ⅱ	8	飯田開	S0705	学科基礎							
							3	ゼミナールⅡ	8	甲斐田きよみ	S0603	実践	2	時空間データ分析	1	磯真一郎	CTR1	DS							
							3	ゼミナールⅡ	9	賀井万里	S0605	実践													
3限	1	ヘルスケア入門	1	神作・飯島・長野・飯田	D61	ヒューマンドメイン	4	卒業研究Ⅱ	1	仲田知弘	S0704	実践	1	ヒューマンデータエンジニアリング演習Ⅱ	1	長野祐一郎	ものづくりラボ	DS	1	キャリアデザインⅡ	1	小山治	S0605	キャリア	
	2	地域政策論	1	端崎東子	S0602	ヒューマンドメイン	4	卒業研究Ⅱ	2	浅野俊幸	S0604	実践	1	比較文化論	1	賀井万里	S0603	ヒューマンドメイン	1	キャリアデザインⅡ	2	小磯重隆	S0705	キャリア	
	2	ICTシステム論	1	浜正樹	S0702	DS	4	卒業研究Ⅱ	3	神作一実	S0501	実践	2	生体検査学	1	飯島史朗	S0704	ヒューマンドメイン	2	企業会計Ⅰ	1	渡部吉昭	S0704	プロマネ	
	3	社会調査法実践(量的)Ⅱ	1	柳瀬公	S0704	教養	4	卒業研究Ⅱ	4	飯島史朗	S0502	実践													
							4	卒業研究Ⅱ	5	長野祐一郎	S0601	実践													
							4	卒業研究Ⅱ	6	恒吉像子	S0601	実践													
							4	卒業研究Ⅱ	7	渡部吉昭	S0602	実践													
							4	卒業研究Ⅱ	8	甲斐田きよみ	S0603	実践													
							4	卒業研究Ⅱ	9	賀井万里	S0605	実践													
							4	卒業研究Ⅱ	10	登丸あすか	S0701	実践													
4限	1	英語Ⅱ	1	諸井貴子	S0502	教養	1	社会調査法Ⅱ	1	岩瀬豊	D61	教養	1	データベースシステム概論	1	浜正樹	D61	DS	1	法字	1	市川直子	S0702	教養	
	1	英語Ⅱ	2	田中美貴	S0703	教養	2	IoTとGIS	1	西岡隆輔	CTR1	DS	2	環境ビジネス論	1	中山智晴	S0502	ヒューマンドメイン	2	ソーシャルメディア論	1	井上紹理	S0604	ヒューマンドメイン	
	2	ジェンダーと開発研究	1	甲斐田きよみ	S0604	ヒューマンドメイン	3	ヒューマンドメインとデータ解析演習A	1	御器谷裕樹	S0604	実践	2	比較文化論	1	賀井万里	S0604	ヒューマンドメイン	1	基礎統計学	1	浜正樹	S0602	DS	
	2	IoTとヒューマンデータ	1	長野祐一郎	ものづくりラボ	DS	3	ヒューマンドメインとデータ解析演習C	1	小林隆貴	S0703	実践	3	ヒューマンドメインとデータ解析演習E	1	磯真一郎	CTR4	実践	2	事業戦略論	1	渡部吉昭	S0704	プロマネ	
5限	2	ペイズ推定とデータサイエンス	1	穴太克則	S0502	DS	2	社会統計学Ⅱ	1	柳瀬公	D61	教養	1	機械学習入門	1	仲田知弘	S0602	DS	2	比較教育学	1	恒吉像子	S0703	ヒューマンドメイン	
	2	アフリカ地域研究	1	甲斐田きよみ	S0704	ヒューマンドメイン	2	データサイエンス特講Ⅱ	1	植村哲司	S0502	DS	1	機械学習入門	2	穴太克則	S0603	DS	1	ソーシャルメディア論	1	白井礼	S0604	ヒューマンドメイン	
							3	ヒューマンドメインとデータ解析演習B	1	小林隆貴	S0603	実践	1	機械学習入門	3	白井礼	S0604								

2029年度前期 講義室別コマ情報一覧

*オレンジ=新学部科目、青=その他4学部科目

講義室名	収容人数	曜日	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限
まちラボ		月曜								
		火曜		ゼミナールI	卒業研究I					
		水曜	プロジェクトマネジメント演習							
		木曜								
		金曜								
		土曜								
CTR1	40	月曜	コンピュータ会計	演習II		外国書講読			卒業研究I	
		火曜	卒業研究III	会計学		卒業研究I	アメリカ研究IIAB	イギリス研究IIAB	特別研究I・II	
		水曜		基礎演習	初年次ラボ			応用言語学研究IIAB		
		木曜			マナーと社会生活	国際ビジネスコミュニケーション研究II	国際ビジネスコミュニケーション研究II			
		金曜	卒業研究I	EnglishforSchoolPurposesa	ゼミナールa		経営統計		高齢者福祉とマネジメントI・II	高齢者福祉とマネジメントI・II
		土曜								
CTR2	40	月曜					プログラミング入門			
		火曜	プログラミング	プログラミング	コンピュータリテラシー	コンピュータリテラシー	情報処理演習a			
		水曜		基礎演習	Webプログラミング					
		木曜	Webプログラミング	Webプログラミング	コンピュータリテラシー		演習II			
		金曜		卒業研究a	ゼミナールa	経営統計	演習II			
		土曜								
CTR3	22	月曜				卒業研究I			データサイエンス研究I	
		火曜	卒業研究III		CoreEnglish I-a	卒業研究I	卒業研究I			
		水曜		基礎演習	初年次セミナーa					
		木曜								
		金曜	卒業研究I	卒業研究a	ゼミナールa	プログラミング言語				
		土曜								
CTR4	22	月曜			Speaking8a				英語教育学研究IIA	
		火曜	公衆衛生看護活動論	公衆衛生看護活動論	公衆衛生看護活動論	ドメインとデータ解析演習E	ドメインとデータ解析演習G			
		水曜		基礎ゼミ	初年次ラボ	公衆衛生看護活動論				
		木曜	公衆衛生看護管理論	公衆衛生看護管理論	公衆衛生看護管理論	公衆衛生看護管理論				
		金曜	公衆衛生看護活動論		社会調査法	公衆衛生看護管理論				
		土曜	財務諸表論研究I・II	財務諸表論研究I・II	財務諸表論演習1・2	財務諸表論演習1・2				
CTR5	54	月曜		コンピュータリテラシー	ビジネスソフト検定	ビジネスソフト検定	経営統計		卒業研究I	
		火曜	プログラミング	コンピュータリテラシー	CoreEnglish I-a	データ分析	演習II			
		水曜	コンピュータリテラシー	コンピュータリテラシー	初年次ラボ	コンピュータリテラシー				
		木曜			データサイエンス応用	財務会計	演習II			
		金曜	コンピュータリテラシー	コンピュータリテラシー	データベース実習	データベース実習				
		土曜								
CTR6	42	月曜	画像表現	画像表現	画像表現	画像表現				
		火曜		画像表現	アメリカ研究II					
		水曜		基礎演習						
		木曜	画像表現	映像表現基礎	ビジネスデザイン実習	映像表現基礎			映像表現法演習1・2	
		金曜	画像表現	画像表現	画像表現	教育福祉論	コンテンツ・マーチャンダイジング			
		土曜								
CTR7	20	月曜								
		火曜		ビジュアルデザイン制作	インターラクションデザイン	インターラクションデザイン				
		水曜		基礎演習	初年次ラボ					
		木曜		ビジュアルデザイン制作	ビジネスデザイン実習	Web制作実習I・Webデザイン制作	演習II		映像表現法I	
		金曜		Web制作実習I・Webデザイン制作	演習II	演習II	演習II		コンテンツマーケティング研究I	
		土曜	経営学II	経営学II						
ELL1	70	月曜	医療情報処理演習II							
		火曜			CoreEnglish I-a					
		水曜	情報処理演習a	情報処理演習a	初年次ラボ					
		木曜	TOEIC- IA	TOEIC- IA	マルチメディアイングリッシュA	マルチメディアイングリッシュA		統計学演習		
		金曜		卒業研究a	MediaEnglish		比較文化論I			
		土曜								
ELL2	40	月曜				韓国・朝鮮語初級総合a				
		火曜			CoreEnglish I-a					
		水曜	情報処理演習a	情報処理演習a	初年次ラボ					
		木曜	韓国・朝鮮語初級総合a			コミュニケーションのための英語I			医療英語特論	
		金曜	Speaking8a	卒業研究a	ゼミナールa			経営組織論I		
		土曜			BusinessPresentationinEnglish	卒業研究I	防災・リスクマネージメント論			
B-403	54	月曜			Speaking8a	IntegratedEnglishSkills- IA	IntegratedEnglishSkills- IA			
		火曜								
		水曜		基礎演習	初年次ラボ	スペイン語初級IA				
		木曜	韓国・朝鮮語初級IA	韓国・朝鮮語初級IA						
		金曜		卒業研究III	経営心理学					
		土曜	メディカル人材開発論II	メディカル人材開発論II	疫学・公衆衛生学特論					

2029年度前期 講義室別コマ情報一覧

*オレンジ=新学部科目、青=その他4学部科目

講義室名	収容人数	曜日	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限
B-404	36	月曜	ペイシック・イングリッシュⅠB	TOEIC-ⅠB		韓国・朝鮮語初級Ⅰ-a	韓国・朝鮮語上級a			
		火曜					簿記原理			
		水曜	WritingⅡ-a	基礎演習	TOEIC-ⅡA					
		木曜	GlobalCommunicativeEnglish-ⅠA		TOEIC-ⅡA	外国書講読	演習Ⅱ			
		金曜		卒業研究a	ゼミナールa					
		土曜								
B-405	36	月曜				GlobalCommunicativeEnglish-ⅠA	GlobalCommunicativeEnglish-ⅠA			
		火曜	WritingⅠ-a	WritingⅠ-a						
		水曜		スペイン語初級ⅠA	スペイン語中級a		スペイン語上級a			
		木曜	GlobalCommunicativeEnglish-ⅠA	TOEIC-ⅠA		スポーツ方法論				
		金曜	Speaking8a	EnglishforSchoolPurposesa	社会学	ESPa				
		土曜								
B-406	126	月曜	国際政治経済論a	経営学総論	経営学総論	韓国・朝鮮語初級Ⅰ-a	韓国・朝鮮語中級a			
		火曜	アメリカ文学a	経営組織	職業とキャリア	キャリアデザインⅣ				
		水曜	ソーシャルビジネス論	キャリア実践講座Ⅰ	初年次ラボ	ジェンダーと開発	イギリス文学a			
		木曜	コンテンツ制作論	CSR論	簿記原理基礎	組織行動				
		金曜	情報処理	流通とEC	アセスメントと看護技術Ⅰ	アセスメントと看護技術Ⅰ	基礎ゼミナールⅡ			
		土曜								
B-408	90	月曜				TOEIC-ⅠA	TOEIC-ⅠA			
		火曜	WritingⅠ-a	キャリアデザインⅢ	AmericanGovernment					
		水曜		基礎演習	初年次ラボ					
		木曜	TOEIC-ⅠA	TOEIC-ⅠA	経営戦略	マルチメディア・イングリッシュA	マルチメディア・イングリッシュA			
		金曜	ESPa	EnglishforSchoolPurposesa		アセスメントと看護技術Ⅰ				
		土曜	後)経営学Ⅱ	後)経営学Ⅱ						
B-410	84	月曜		中国ビジネス特講		法学	国際金融			
		火曜		キャリアデザインⅣ	イングリッシュ・コミュニケーションⅡA					
		水曜		基礎演習	初年次ラボ	TOEIC-ⅢA	イギリス史a			
		木曜	IntegratedEnglishSkills-ⅠA	IntegratedEnglishSkills-ⅠA	TOEIC-ⅡA	TOEIC-ⅡA	TOEIC-ⅢA			
		金曜	国際情勢	卒業研究a	基礎ゼミナールⅡ	日本語表現法入門	日本語学概論			
		土曜								
B-411	84	月曜	防災・リスクマネージメント論	キャリアデザイン演習Ⅲ	データサイエンス入門	外国書講読	演習Ⅱ			
		火曜		福祉ビジネス概論	経営戦略	AcademicWriting				
		水曜		基礎演習	初年次ラボ	簿記原理基礎				
		木曜	TOEIC-ⅠA		中国語コミュニケーションAⅠ	中国語ⅠA	演習Ⅱ			
		金曜	英語音声学・音韻論a	基礎ゼミナールⅡ	アニメジャパン	基礎ゼミナールⅡ	基礎ゼミナールⅡ			
		土曜								
B-412	24	月曜		スポーツ施設経営論		英語コミュニケーション特講Ⅱ-a	第二言語習得研究AB			
		火曜				日本語論文の書き方ⅠA				
		水曜		基礎演習	初年次ラボ					
		木曜								
		金曜		卒業研究a						
		土曜								
B-502	18	月曜				英語資格講座Ⅰ	演習Ⅱ			
		火曜		基礎ゼミa	初年次セミナーa					経営財務研究Ⅰ
		水曜		基礎ゼミa	初年次セミナーa					
		木曜		卒業研究a	ゼミナールa		演習Ⅱ			
		金曜	卒業研究a	ゼミナールa		卒業研究Ⅰ				
		土曜								
B-503	54	月曜				フランス語初級ⅠA	フランス語初級Ⅱ-a			
		火曜		中国語コミュニケーションBⅠ	中国語セミナーAⅠ	中国語コミュニケーションCⅠ				
		水曜		基礎演習	初年次ラボ					
		木曜	GlobalCommunicativeEnglish-ⅠA	中国語セミナーBⅠ	介護福祉士特講	外国書講読	演習Ⅱ		企業法研究Ⅰ・Ⅱ	企業法研究Ⅰ・Ⅱ
		金曜		卒業研究a	ゼミナールa					
		土曜	経営学Ⅰ	経営学Ⅰ	メディカルスタッフ経営Ⅰ・Ⅱ	メディカルスタッフ経営Ⅰ・Ⅱ				
B-504	54	月曜		演習Ⅱ	演習Ⅱ	演習Ⅱ	演習Ⅱ		経済学研究Ⅰ	
		火曜		CoreEnglishⅠ-a	イングリッシュ・コミュニケーションⅡA	イングリッシュ・コミュニケーションⅡA			国際ビジネス研究Ⅰ・Ⅱ	
		水曜		中国語セミナーAⅠ	初年次ラボ	TOEIC-ⅡA			フォレンジック会計Ⅰ・Ⅱ	
		木曜	簿記実践	簿記実践	TOEIC-ⅡA	TOEIC-ⅡA	演習Ⅱ			
		金曜		EnglishforSchoolPurposesa					管理会計論研究Ⅰ	
		土曜	法人税法特殊研究Ⅰ・Ⅱ	法人税法特殊研究Ⅰ・Ⅱ	法人税法演習2	法人税法演習2	法人税法演習1・2	法人税法特殊演習1・2		
B-506	36	月曜					演習Ⅱ			
		火曜			外国書講読				経営学研究Ⅰ・Ⅱ	
		水曜		基礎演習	初年次ラボ					
		木曜	中国語上級a	中国語中級a		外国書講読	演習Ⅱ			
		金曜		日本語コミュニケーションBⅠ	経営情報	キャリアデザインⅢ				
		土曜								

2029年度前期 講義室別コマ情報一覧

*オレンジ=新学部科目、青=その他4学部科目

講義室名	収容人数	曜日	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限
B-507	36	月曜	臨床検査管理情報解析学特論	臨床検査管理情報解析学特論		演習II	演習II			
		火曜								
		水曜		基礎演習	演習II					
		木曜	TOEIC- IA	TOEIC- IA						
		金曜		卒業研究a	ゼミナールa		比較文化論 I			
		土曜								
B-508	54	月曜				IntegratedEnglishSkills- IA	IntegratedEnglishSkills- IA		リーダーシップヒーリング	リーダーシップヒーリング
		火曜			英語リスニング・コミュニケーションII A	英語リスニング・コミュニケーションII A	GlobalCommunicativeEnglish- II A			
		水曜			初年次ラボ	スペイン語初級 IA	スペイン語初級 IA			
		木曜	韓国・朝鮮語初級 IA	韓国・朝鮮語初級 I-a	韓国・朝鮮語初級 IA	韓国・朝鮮語初級 IA				
		金曜	ESPa	中国語コミュニケーションB I	中国語コミュニケーションA I	中国語コミュニケーションA I				
		土曜	国際租税法研究 I・II	国際租税法研究 I・II			国際財務報告研究 I・II	国際財務報告研究 I・II		
B-512	84	月曜		日本国憲法	地域看護論	地域看護論	日本文化論	英語学a		
		火曜		キャリアデザインIV	キャリアデザインIII	西洋史				
		水曜	国際経済 I	流通とEC	情報ネットワーク社会	心理学 I	社会言語学a	人間共生論		
		木曜	GlobalCommunicativeEnglish- IA		人的資源管理	国際協力研究/多文化共生	応用言語学研究 I AB			
		金曜	外来看護学実習	外来看護学実習	外来看護学実習	比較教育学	イギリス文化論a			
		土曜								
B-513	84	月曜	ライフデザイン論	国際理解・地球市民教育論	コミュニケーション心理学	地域研究 I				
		火曜			経営戦略論	教育人間学	英語コミュニケーション特講II-a	第二言語習得研究A	特別研究 I II	
		水曜	フランス語初級 IA	基礎ゼミa	フランス語上級a	フランス語中級a	特別研究 I II	特別研究 I II	病院・介護事業経営	病院・介護事業経営
		木曜		哲学	経営戦略論	ConferenceEnglish	国際協力フィールドワーク I	教育社会学研究A		
		金曜		卒業研究a	ゼミナールa	異文化理解研究				
		土曜								
B-514	24	月曜					TOEFL講座a			
		火曜	基礎ゼミa			キャリアデザインII				
		水曜	Writing II-a	Reading I-a	Reading II-a			国際協力研究・多文化共生		
		木曜		アメリカ文化論a	演習II	演習II	日本語論文の書き方II A			
		金曜	卒業研究a	卒業研究a	ゼミナールa					
		土曜								
B-611	24	月曜							ソーシャルビジネス研究 I	
		火曜			演習II	外国書講読				
		水曜	日本語コミュニケーションA I	基礎演習	初年次ラボ			特別研究 I・II		
		木曜								
		金曜		基礎ゼミナールII	基礎ゼミナールII	基礎ゼミナールII	基礎ゼミナールII			
		土曜			租税法演習2	租税法演習2	租税法演習1	租税法演習1		
B-612	14	月曜							経営情報演習1・2	
		火曜							経営戦略研究 I・II	
		水曜		基礎ゼミa	初年次セミナーa					
		木曜	上級簿記	コンテンツ制作論	ビジネスデザイン実習	初年次ラボ	演習II			
		金曜		基礎ゼミナールII	基礎ゼミナールII	基礎ゼミナールII	基礎ゼミナールII			経営戦略演習1・2
		土曜								
B-613	84	月曜			簿記原理基礎	IntegratedEnglishSkills- IA	IntegratedEnglishSkills- IA			
		火曜		経営学経営学総論			演習II			
		水曜	上級簿記	基礎演習	初年次ラボ	中国語コミュニケーションA I	中国語コミュニケーションA I			
		木曜	TOEIC- IA	TOEIC- IA				演習II		
		金曜	Speaking8a	EnglishforSchoolPurposesa	経営学経営学総論					
		土曜	相続税法研究 I・II	相続税法研究 I・II	相続税法演習2	相続税法演習2	相続税法演習1	相続税法演習1		
B-614	84	月曜		英語リスニング・セミナーA	英語リスニング・セミナーA	GlobalCommunicativeEnglish- IA	GlobalCommunicativeEnglish- IA			
		火曜		健康の科学	健康の科学	健康の科学				
		水曜	簿記原理	簿記原理	初年次ラボ					
		木曜			介護福祉士特講	介護福祉士特講	介護福祉士特講			
		金曜			企業と社会	外国書講読	演習II			
		土曜								
B-615	20	月曜								
		火曜								
		水曜		基礎演習	初年次ラボ					
		木曜							人材・組織マネジメント研究I	
		金曜		基礎ゼミナールII		基礎ゼミナールII				
		土曜								
B-712	18	月曜								
		火曜								
		水曜			初年次ラボ					
		木曜	韓国・朝鮮語初級 IA	韓国・朝鮮語初級 IA						
		金曜							データサイエンス研究 I	
		土曜								

2029年度前期 講義室別コマ情報一覧

*オレンジ=新学部科目、青=その他4学部科目

講義室名	収容人数	曜日	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限
B-713	84	月曜			外国書講読	IntegratedEnglishSkills- IA	演習II			
		火曜		簿記原理基礎						
		水曜	民法		初年次ラボ					
		木曜		IntegratedEnglishSkills- IA	経営情報		演習II			
		金曜	簿記原理基礎	簿記原理基礎	日本語セミナーA I	日本語 IA			租税法研究 I	所得税法研究 I
		土曜	法人税法研究 I・II	法人税法研究 I・II	消費税法・消費税法演習1・2	消費税法・消費税法演習1・2	消費税法・消費税法演習1・2	消費税法・消費税法演習1・2		
B-714	84	月曜				TOEIC- IA	GlobalCommunicativeEnglish- IA			
		火曜	簿記実践	簿記実践	キャリアデザインIII					
		水曜		基礎演習	初年次ラボ	国際アカウンティング				
		木曜	GlobalCommunicativeEnglish- IA	GlobalCommunicativeEnglish- IA	エンタテインメントビジネス	近現代史				
		金曜	簿記原理基礎	簿記演習	キャリアデザイン I	キャリアデザイン I	キャリアデザイン I			
		土曜	消費税法研究 I・II	消費税法研究 I・II	消費税法研究 I・II	消費税法研究 I・II				
B-715	24	月曜			メンタルトレーニング論		特別研究 I II		卒業研究 I	
		火曜				演習II	外国書講読			
		水曜		基礎演習	初年次ラボ				人材・組織マネジメント演習1・2	
		木曜		外国書講読	演習II					
		金曜		卒業研究a						
		土曜		デジタルマーケティング	マーケティング演習1・2	マーケティング研究 I・II	演劇論			
B-812(ウイングホール)	255	月曜		経営者論	ファイナンスA	コンテンツディベロップメント	国際ビジネス取引			
		火曜	経営学総論	経営学総論	イギリス研究	簿記原理基礎	マーケティング概論a			
		水曜	キャリアデザインIII	民法	初年次ラボ	日本国憲法	法学			
		木曜	税法	財務管理論	ビジュアル・シンキング	ビジネスとデザイン	国際人的資源管理論 I			
		金曜	ビジネスとデザイン	ビジネスとデザイン	情報検定	情報検定				
		土曜								
三次元動作解析室	63	月曜								
		火曜		ゼミナール I	卒業研究 I					
		水曜								
		木曜								
		金曜								
		土曜								
D31	63	月曜			Speaking8a					
		火曜		Writing I -a					メディカル人材開発論 I・II	メディカル人材開発論 I・II
		水曜	Writing II -a		Reading II -a					
		木曜	健康の科学	健康の科学	環境とビジネス					
		金曜		卒業研究a	ゼミナールa					
		土曜								
D32	63	月曜	Speaking8a	児童心理学	児童英語教育論	中国語初級 I -a	中国語初級総合a			
		火曜		Writing I -a			教職)教育原理			
		水曜	基礎ゼミa	初年次セミナーa	Reading II -a					
		木曜		特別研究		CoolJapanICS				
		金曜		卒業研究a	ゼミナールa					
		土曜								
D41	63	月曜			Speaking8a	GlobalCommunicativeEnglish- IA	GlobalCommunicativeEnglish- IA			
		火曜		Writing I -a		特別活動の指導法	教職)教育課程論			
		水曜	Reading I -a	Reading I -a	初年次セミナーa		教職)教育心理学			
		木曜								
		金曜	ESPa	ESPa	ゼミナールa					
		土曜								
D42	63	月曜	Speaking8a		Speaking8a	IntegratedEnglishSkills- IA	IntegratedEnglishSkills- IA			
		火曜					教職)教育実習 I			
		水曜		Reading I -a	Reading II -a			教職)教職論		
		木曜		IntegratedEnglishSkills- IA		マルチメディア・イングリッシュA	マルチメディア・イングリッシュA			
		金曜	マルチメディア・イングリッシュA	ESPa	教職)英語科教育法VI					
		土曜								
D51	63	月曜	Speaking8a		Speaking8a					
		火曜								
		水曜	Reading I -a	基礎ゼミa	Reading II -a					
		木曜		国際マーケティング環境	アカデミック・ライティング	アカデミック・ライティング				
		金曜	ESPa	アセスメントと看護技術 I						
		土曜								
D52	63	月曜	英語科教育法	英語史a	Reading I -a					
		火曜								
		水曜	Writing II -a	Reading I -a	Reading II -a					
		木曜				イングリッシュ・コミュニケーションIII A	イングリッシュ・コミュニケーションIII A			
		金曜	ESPa	EnglishforSchoolPurposesa	AcademicReading					
		土曜								

2029年度前期 講義室別コマ情報一覧

*オレンジ=新学部科目、青=その他4学部科目

講義室名	収容人数	曜日	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限
D61(スカイホール)	187	月曜	データサイエンスへのいざない							
		火曜				社会調査法I	社会統計学I			
		水曜	システム設計論		ドメインとデータサイエンス					
		木曜	経営学入門			ヒューマンデータ可視化法				
		金曜	未来体験プログラム							
		土曜								
ものづくりラボ	40	月曜								
		火曜		ゼミナールI	卒業研究I		ドメインとデータ解析演習F			
		水曜				ヒューマンデータエンジニアリング演習I				
		木曜								
		金曜								
		土曜								
S0402	100	月曜		国際ビジネスコミュニケーション研究	グローバルビジネス戦略a	情報システム概論				
		火曜		組織とコミュニケーション	国際文化特講II-a	対照言語学a	BusinessPlanning	新・文明の旅総合講義		
		水曜	Literature	基礎ゼミa						
		木曜			英語学習理論					
		金曜	外来看護学実習	外来看護学実習	外来看護学実習	経営学I				
		土曜								
S0403	40	月曜		英語史a		特別研究			マーケティング概論	
		火曜		Writing I-a			国際ビジネス研究II-AB			
		水曜	アメリカ研究II-A	基礎ゼミa		英米外交研究AB	国際人権研究AB	国際人権研究AB	福祉医療の戦略経営I・II	福祉医療の戦略経営I・II
		木曜							DX基礎・応用	DX基礎・応用
		金曜	特別研究I・II	卒業研究a	ゼミナールa		国際ビジネスコミュニケーション研究I AB	英語教育学研究I A・B	英語教育学研究I A・B	
		土曜								
S0404	40	月曜				スペイン語初級II-a	スペイン語初級I-a			
		火曜		卒業研究a	ゼミナールa		アカデミック・ライティングA			
		水曜	基礎ゼミa	初年次セミナーa	Reading II-a			ジェンダーと開発研究社会開発研究		
		木曜			中国語初級II-a	中国語初級総合a	中国語初級I-a			
		金曜		EnglishforSchoolPurposesa	ゼミナールa					
		土曜								
S0405	40	月曜	国際経済論			アメリカ研究I				
		火曜	基礎ゼミa		日本語表現法応用I	日本語表現法入門				
		水曜	Writing II-a		Reading II-a			特別研究I・II		
		木曜			イギリッシュ・コミュニケーションII-A	イギリッシュ・コミュニケーションII-B			メディカルソーシャルワーク論	メディカルソーシャルワーク論
		金曜	ESPa	卒業研究a	ゼミナールa	卒業研究a	ゼミナールa	児童英語教育実習a		
		土曜								
S0501	45	月曜	プログラミングIII	プログラミングI						
		火曜		ゼミナールI	卒業研究I					
		水曜		初年次演習I						
		木曜		プログラミングI						
		金曜					共生社会フィールドスタディーズ			
		土曜								
S0502	120	月曜		発達学概論		英語I				
		火曜	情報リテラシーI	ゼミナールI	卒業研究I		データサイエンス特講I			
		水曜	プロジェクトマネジメント演習	統計処理演習						
		木曜								
		金曜		データサイエンスと線形代数						
		土曜								
S0504	329	月曜	データサイエンス入門	データサイエンス入門	データサイエンス入門	経営情報	経済学			
		火曜	会社法	広告戦略		商品開発				
		水曜	アカデミック・ライティング		国際政治経済論a		マーケティングリサーチ			
		木曜		グローバルマーケティング	グローバルマーケティング					
		金曜	アカデミック・ライティング	経営学総論	PR戦略	消費者行動	ScreenEnglisha			
		土曜								
S0601	45	月曜		社会調査法実践(質的)I	社会調査法実践(量的)I					
		火曜		ゼミナールI	卒業研究I					
		水曜	プロジェクトマネジメント演習	初年次演習I						
		木曜								
		金曜		質的データ分析	量的データ分析		共生社会フィールドスタディーズ			
		土曜								
S0602	84	月曜			共生まちづくり論					
		火曜		ゼミナールI	卒業研究I					
		水曜	プロジェクトマネジメント演習	初年次演習I	生化学と栄養	自然環境保護論	機械学習応用			
		木曜					教育社会学概論			
		金曜	都市論	ジェンダー論		マーケティング概論				
		土曜								

講義室名	収容人数	曜日	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限
S0603	144	月曜			フィットネス科学					
		火曜	ヘルスプロモーション	ゼミナールⅠ	卒業研究Ⅰ	宗教の世界史	ドメインとデータ解析演習B			
		水曜	プロジェクトマネジメント演習	統計処理演習			機械学習応用			
		木曜								
		金曜		データサイエンスと線形代数						
		土曜								
S0604	144	月曜								
		火曜	情報リテラシーⅠ	ゼミナールⅠ	卒業研究Ⅰ	ドメインとデータ解析演習A	ドメインとデータ解析演習D			
		水曜		統計処理演習			機械学習応用			
		木曜			企業会計Ⅱ					
		金曜		データサイエンスと線形代数						
		土曜								
S0605	60	月曜	プログラミングⅢ	プログラミングⅠ						
		火曜		ゼミナールⅠ	卒業研究Ⅰ					
		水曜	プロジェクトマネジメント演習	初年次演習Ⅰ						
		木曜		プログラミングⅠ	キャリアデザインⅠ					
		金曜								
		土曜								
S0701	45	月曜								
		火曜		ゼミナールⅠ	卒業研究Ⅰ					
		水曜	プロジェクトマネジメント演習	初年次演習Ⅰ						
		木曜								
		金曜					共生社会フィールドスタディーズ			
		土曜								
S0702	84	月曜					データサイエンスと物理			
		火曜		ゼミナールⅠ	卒業研究Ⅰ					
		水曜	プロジェクトマネジメント演習	初年次演習Ⅰ	トピックモデル概論					
		木曜	シミュレーション論		ペイズ推定と意思決定					
		金曜				人工知能(AI)応用Ⅰ				
		土曜								
S0703	144	月曜			異文化間コミュニケーション	英語Ⅰ	アジア地域研究			
		火曜	情報リテラシーⅠ	ゼミナールⅠ	卒業研究Ⅰ	ドメインとデータ解析演習C				
		水曜	プロジェクトマネジメント演習	初年次演習Ⅰ						
		木曜				哲学				
		金曜			メディア概論					
		土曜								
S0704	144	月曜				家族生活論				
		火曜	サイバーセキュリティ概論	ゼミナールⅠ	卒業研究Ⅰ					
		水曜					インターンシップ			
		木曜	ジェンダー・イノベーションと地域社会	心理学概論		キャリア特講Ⅰ	キャリア特講Ⅱ			
		金曜			データマイニング概論	日本国憲法				
		土曜								
S0705	60	月曜	プログラミングⅢ	プログラミングⅠ						
		火曜		ゼミナールⅠ	卒業研究Ⅰ					
		水曜	プロジェクトマネジメント演習	初年次演習Ⅰ						
		木曜		プログラミングⅠ	キャリアデザインⅠ					
		金曜								
		土曜								
S0803	8	月曜								
		火曜								
		水曜								
		木曜		ManagementandStrategy						
		金曜	公衆衛生看護活動論	公衆衛生看護活動論	公衆衛生看護活動論	公衆衛生看護活動論				
		土曜								
S0804	8	月曜	公衆衛生看護管理	公衆衛生看護管理	公衆衛生看護管理	公衆衛生看護管理				
		火曜	公衆衛生看護管理	公衆衛生看護管理	公衆衛生看護管理	公衆衛生看護管理				
		水曜	公衆衛生看護管理	公衆衛生看護管理	公衆衛生看護管理	公衆衛生看護管理				
		木曜	公衆衛生看護管理	公衆衛生看護管理	公衆衛生看護管理	公衆衛生看護管理				
		金曜	公衆衛生看護管理	公衆衛生看護管理	公衆衛生看護管理	公衆衛生看護管理				
		土曜								
S0806	144	月曜								
		火曜								
		水曜								
		木曜								
		金曜	人体の構造と機能Ⅰ	基礎ゼミナールⅡ	基礎ゼミナールⅡ	基礎ゼミナールⅡ				
		土曜	災害看護学	災害看護学	災害看護学	災害看護学				

講義室名	収容人数	曜日	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限
S0807	198	月曜		医療英語演習	地域看護論	地域看護論				
		火曜	臨床薬理学	臨床薬理学						
		水曜		看護展開論	看護展開論					
		木曜								
		金曜		医療英語演習	病理学	精神看護学				
		土曜	災害看護学	災害看護学	災害看護学	災害看護学				
体育館		月曜								
		火曜		フィットネス科学演習Ⅰ						
		水曜								
		木曜				スポーツ方法論				
		金曜								
		土曜								

2029年度後期 講義室別コマ情報一覧

*オレンジ=新学部科目、青=その他4学部科目

講義室名	収容人数	曜日	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限
まちラボ		月曜								
		火曜		ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅱ					
		水曜								
		木曜								
		金曜								
		土曜								
CTR1	40	月曜	コンピュータ会計	演習Ⅱ		外国書講読				
		火曜		イギリス文化論b	Core English I-b	IoTとGIS	社会調査実習Ⅱ			
		水曜		時空間データ分析	基礎演習					
		木曜	韓国・朝鮮語初級総合b		初年次ラボ	国際ビジネスコミュニケーション研究ⅡB			情報処理Ⅰ	情報処理Ⅰ
		金曜		卒業研究b	卒業研究Ⅳ	卒業研究Ⅱ	経営統計(多変量解析)			
		土曜								
CTR2	40	月曜		文の京生涯学習司養成講座	文の京生涯学習司養成講座	文の京生涯学習司養成講座	文の京生涯学習司養成講座			
		火曜		会計学(発展)	コンピュータリテラシー(応用)	簿記原理発展	比較文化論Ⅱ			
		水曜		基礎演習	Webプログラミング(応用)	コンピュータリテラシー(応用)				
		木曜	Webプログラミング(応用)	Webプログラミング(応用)	コンピュータリテラシー(応用)	社会調査法(基礎)	演習Ⅱ		企業法研究Ⅱ	企業法研究Ⅱ
		金曜	ネットワーク実習	卒業研究	ゼミナールb	経営統計(多変量解析)	演習Ⅱ(3年次)			
		土曜								
CTR3	22	月曜				卒業研究Ⅱ	韓国・朝鮮語初級総合b	教育の方法及び技術		
		火曜	卒業研究Ⅱ	キャリアインターンシップC	Core English I-b		演習Ⅱ			
		水曜		基礎演習	初年次セミナーb					
		木曜	卒業研究Ⅱ	卒業研究b	初年次セミナーb				医療情報学特論	
		金曜		卒業研究b		プログラミング言語				
		土曜								
CTR4	22	月曜								
		火曜			卒業研究Ⅳ	ドメインとデータ解析演習E				
		水曜		基礎ゼミb	初年次ラボ		ドメインとデータ解析演習G			
		木曜								
		金曜								
		土曜								
CTR5	54	月曜		コンピュータリテラシー(応用)	ビジネスソフト検定(Excel)	ビジネスソフト検定(Excel)				
		火曜	プログラミング(応用)	プログラミング(応用)	Core English I-b	コンピュータリテラシー(応用)	情報処理演習b			
		水曜	コンピュータリテラシー(応用)	コンピュータリテラシー(応用)	初年次ラボ				フォレンジック会計研究Ⅱ	フォレンジック会計研究Ⅱ
		木曜			データサイエンス実践	連結会計	演習Ⅱ	統計学(保健統計学含む)		
		金曜		卒業研究b	ゼミナールb					
		土曜			財務諸表論演習1・2	財務諸表論演習1・2				
CTR6	42	月曜	画像表現(応用)	画像表現(応用)	画像表現(応用)					
		火曜		画像表現(応用)						
		水曜		基礎演習						
		木曜		映像表現基礎(After Effects)	映像表現基礎(After Effects)	ビジネスデザイン実習				映像表現法演習1・2
		金曜	画像表現(応用)	画像表現(応用)	画像表現(応用)	演習Ⅱ				
		土曜								
CTR7	20	月曜								
		火曜			ビジュアルデザイン制作(インフォグラフ)	ビジュアルデザイン制作(インフォグラフ)				
		水曜		基礎演習	初年次ラボ					
		木曜		Web制作実習Ⅱ	映像表現基礎(Premiere Pro)	ビジネスデザイン実習	演習Ⅱ		映像表現法Ⅱ	
		金曜		Web制作実習Ⅱ	演習Ⅱ		演習Ⅱ			
		土曜								
ELL1	70	月曜								
		火曜			Core English I-b					
		水曜	情報処理演習b	情報処理演習b	初年次ラボ					
		木曜	TOEIC- I B	TOEIC- I B	マルチメディア・イングリッシュB	マルチメディア・イングリッシュB	イギリス史b			
		金曜	社会開発研究	介護予防運動法	Core English I-b	英語コミュニケーション特講Ⅱ-b	ジェンダー論			
		土曜								
ELL2	40	月曜								
		火曜			Core English I-b	福祉ビジネス演習				
		水曜	情報処理演習b	情報処理演習b	初年次ラボ					
		木曜			簿記会計学		コミュニケーションのための英語Ⅱ	統計学(保健統計学含む)		
		金曜		卒業研究b	ゼミナールb					
		土曜								
B-403	54	月曜			Speaking 8 b	Integrated English Skills- I B	Integrated English Skills- I B			
		火曜								
		水曜		基礎演習	初年次ラボ	スペイン語初級ⅠB				
		木曜	韓国・朝鮮語初級 I B	韓国・朝鮮語初級 I B						
		金曜								
		土曜			ホスピタリティ・マネジメント					

2029年度後期 講義室別コマ情報一覧

*オレンジ=新学部科目、青=その他4学部科目

講義室名	収容人数	曜日	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限
B-404	36	月曜	ペイシック・イングリッシュ I A	TOEIC- I A		韓国・朝鮮語初級 I B	韓国・朝鮮語上級 b			
		火曜				イギリス研究Ⅱ(文学/文化)B				
		水曜		基礎演習	初年次ラボ					
		木曜	Global Communicative English- I B		TOEIC- II B	外国書講読	演習II			
		金曜								
		土曜								
B-405	36	月曜		基礎ゼミb	初年次セミナーb	Global Communicative English- I B	Global Communicative English- I B			
		火曜	Writing I -b	Writing I -b		卒業研究IV				
		水曜		基礎ゼミb	スペイン語中級 b		スペイン語上級 b			
		木曜	Global Communicative English- I B	中国語セミナーB II		Social Development in Japan				
		金曜	Speaking 8 b	English for School Purposes b			マーケティング			
		土曜								
B-406	126	月曜			地域看護論	地域看護論	公衆衛生看護学概論			
		火曜			知的財産法		アニメーション論			
		水曜			初年次ラボ					
		木曜	Global Communicative English- I B		基礎ゼミナール II (NSA)		キャリアデザインII			
		金曜	教育社会学研究B	Religion in Japan		イギリス史b	世界の言語と文化			
		土曜								
B-408	90	月曜				TOEIC- I B	TOEIC- I B			
		火曜	Writing I -b	農村開発論	社会と倫理	グローバルビジネス戦略b				
		水曜		基礎演習	初年次ラボ		メディアコンテンツ論			
		木曜	TOEIC- I B	TOEIC- I B	ビジネスモデルと事業戦略	マルチメディア・イングリッシュB	マルチメディア・イングリッシュB			
		金曜	ESP b	English for School Purposes b	データリテラシー	異文化間教育学	国際協力フィールドワークII			
		土曜								
B-410	84	月曜				経営情報(応用)	金融・経済と法特講			
		火曜			イングリッシュ・コミュニケーションII B					
		水曜		基礎演習	初年次ラボ	TOEIC- III B				
		木曜	韓国・朝鮮語初級 I B	韓国・朝鮮語初級 I B	TOEIC- II B	TOEIC- II B	TOEIC- III B			
		金曜			国際情勢	国際関係論				
		土曜								
B-411	84	月曜	福祉ビジネス演習			外国書講読	演習II			
		火曜	ITプロマネ	簿記原理発展	工業簿記	工業簿記				
		水曜	地域子育て支援社会論	基礎演習	TOEIC- II B	TOEIC- II B				
		木曜	TOEIC- I B	TOEIC- I B	中国語コミュニケーションA II	中国語コミュニケーションA II	演習II			
		金曜		金融危機と資本市場	Anime Japan					
		土曜								
B-412	24	月曜								
		火曜	卒業研究II	キャリアインターンシップC	初年次セミナー	日本語論文の書き方 I B				
		水曜	卒業研究II	基礎演習	初年次ラボ	卒業研究II				
		木曜	Japanese Business	卒業研究b	卒業研究IV	アメリカ文化論b				
		金曜	卒業研究b	卒業研究b	ソーシャルビジネス論	ゼミナールb				
		土曜								
B-502	18	月曜					演習II			
		火曜								経営財務研究II
		水曜		基礎ゼミb	初年次セミナーb					
		木曜					演習II			
		金曜		卒業研究b	ゼミナールb					
		土曜								
B-503	54	月曜				フランス語初級 I B	フランス語初級 II -b			
		火曜		中国語コミュニケーションB II	中国語セミナーA II	中国語コミュニケーションC II	コンテンツマネジメント研究II	コンテンツマネジメント研究II		
		水曜		基礎演習	初年次ラボ					
		木曜			人材開発	外国書講読	演習II			
		金曜		卒業研究b	ゼミナールb					
		土曜	医療管理学 I	医療管理学 I	メディカルスタッフ経営学 I	メディカルスタッフ経営学 I				
B-504	54	月曜			演習II	演習II	演習II			経済学研究II
		火曜			Core English I -b	イングリッシュ・コミュニケーションII B	イングリッシュ・コミュニケーションII B			国際ビジネス研究II
		水曜		中国語セミナーA II	初年次ラボ					
		木曜	簿記実践	簿記実践	TOEIC- II B	TOEIC- II B	演習II			
		金曜		English for School Purposes b						
		土曜			法人税法演習2	法人税法演習2	法人税法特殊演習1・2	法人税法特殊演習1・2		
B-506	36	月曜	Speaking 8 b	法学	ビジネスライティング	デザインの経営史	演習II			
		火曜			外国書講読(日本語)		外国書講読			経営学研究II
		水曜		基礎演習	初年次ラボ					
		木曜	中国語上級 b	中国語中級 b			演習II			
		金曜	卒業研究b	日本語コミュニケーションB II	精神看護学実習	精神看護学実習				
		土曜								

2029年度後期 講義室別コマ情報一覧

*オレンジ=新学部科目、青=その他4学部科目

講義室名	収容人数	曜日	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限
B-507	36	月曜				演習II	演習II			
		火曜	外国文学	経営学II	国際人的資源管理論II					
		水曜		基礎ゼミb	演習II					
		木曜	TOEIC- I B	TOEIC- I B						
		金曜		卒業研究b	精神看護学実習	精神看護学実習				
		土曜								
B-508	54	月曜	Cool Japan	アメリカ研究II(文学/文化)B	社会開発研究	Integrated English Skills- I B	Integrated English Skills- I B			
		火曜			イングリッシュ・コミュニケーションII B	イングリッシュ・コミュニケーションII B	イングリッシュ・コミュニケーションII B			
		水曜	キャリアデザインIV	キャリアデザインIV	初年次ラボ	スペイン語初級I B	スペイン語初級I B			
		木曜	Integrated English Skills- I B	Integrated English Skills- I B	韓国・朝鮮語初級II -b	韓国・朝鮮語初級I B				
		金曜	マルチメディア・イングリッシュB	中国語コミュニケーションB II	中国語コミュニケーションA II	中国語コミュニケーションA II				
		土曜					国際財務報告研究I・II	国際財務報告研究I・II		
B-512	84	月曜		国際文化特講II -b	対照言語学b	ホスピタリティ・コミュニケーション論	ホテル・旅館論			
		火曜	国際政治経済論b		国際人権法	国際ビジネス特講I -b				
		水曜		数学的処理支援	数学的処理支援					
		木曜		国際マーケティング戦略	情報ネットワーク社会	心理学II	平和研究			
		金曜	翻訳入門		消費者行動	UI/UXデザイン				
		土曜	法人税法研究I・II	法人税法研究I・II	消費税法・消費税法演習1・2	消費税法・消費税法演習1・2	消費税法・消費税法演習1・2	消費税法・消費税法演習1・2		
B-513	84	月曜	Writing II -b	基礎ゼミb	ファイナンスB	グローバル社会と法	芸術II			
		火曜	アメリカ文学b	ビジュアルデザイン	American Government b	キャリアデザインI	マーケティング概論b			
		水曜		数学的処理支援	数学的処理支援		経済学			
		木曜	日中比較文化	英文契約書読解	サービスマーケティング	イギリス文学b	文京生涯学習司養成講座	文京生涯学習司養成講座	文京生涯学習司養成講座	
		金曜	ESP b	ESP b	情報セキュリティ概論	児童英語教育実習b	Screen English b			
		土曜								
B-514	24	月曜	英語科教育法II		Speaking 8 b	Integrated English Skills- I B	Integrated English Skills- I B		英語教育学研究II(ICTの活用)B	
		火曜		統合ゼミ				社会福祉施設論	社会福祉施設論	社会福祉施設論
		水曜	Writing II -b	Reading I -b	Reading II -b	卒業研究b	ゼミナールb	異文化理解研究B		
		木曜	Global Communicative English- I B			多文化共生研究	応用言語学研究I B		情報処理I	
		金曜	Speaking 8 b	English for School Purposes b	ゼミナールb			経営組織論II	経営組織論II	経営組織論II
		土曜								
B-611	24	月曜							ソーシャルビジネス研究II	
		火曜			演習II	外国書講読				
		水曜	日本語コミュニケーションA II	基礎演習	初年次ラボ					
		木曜			演習II	演習II	日本語論文の書き方II B			
		金曜							経営戦略研究II	経営戦略演習1・2
		土曜			租税法演習2	租税法演習2	租税法演習1	租税法演習1		
B-612	14	月曜							経営情報演習1・2	
		火曜								
		水曜		卒業研究b	ゼミナールb					
		木曜								
		金曜		卒業研究b	ゼミナールb					
		土曜								
B-613	84	月曜			簿記原理発展					
		火曜					演習II			
		水曜		基礎演習	初年次ラボ	中国語コミュニケーションA II	中国語コミュニケーションA II			
		木曜	貿易実務	貿易実務	コンテンツプロデュース論	ビジネスデザイン実習				
		金曜	Speaking 8 b	English for School Purposes b	Japanese Literature and Performing Arts					
		土曜	相続税法研究I・II	相続税法研究I・II	相続税法演習2	相続税法演習2	相続税法演習1	相続税法演習1		
B-614	84	月曜			CSRとコーポレート・ガバナンス	Global Communicative English- I B	Global Communicative English- I B			
		火曜	簿記実践(3)	簿記実践	人的資源管理論					
		水曜			初年次ラボ					
		木曜	TOEIC- I B	TOEIC- I B	基礎ゼミナールII (NSA)		演習II			
		金曜	精神看護学実習	精神看護学実習		外国書講読	演習II			
		土曜	法人税法特殊研究I・II	法人税法特殊研究I・II						
B-615	20	月曜				外国書講読	演習II			
		火曜	Writing I -b							
		水曜		基礎演習	初年次ラボ					
		木曜			介護福祉士特講		特別研究I・II			
		金曜	英語音声学・音韻論b							
		土曜								
B-712	18	月曜								
		火曜								
		水曜			初年次ラボ					
		木曜			基礎ゼミナールII				人材・組織マネジメント研究II	
		金曜						経営情報研究II	経営情報研究II	
		土曜								

2029年度後期 講義室別コマ情報一覧

*オレンジ=新学部科目、青=その他4学部科目

講義室名	収容人数	曜日	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限
B-713	84	月曜			外国書講読	Integrated English Skills- I B	演習Ⅱ			
		火曜	マーケティング	マーケティング	異文化コミュニケーション	キャリアデザインⅠ				
		水曜	民法	基礎演習	初年次ラボ					
		木曜		Integrated English Skills- I B	経営情報(基礎)		演習Ⅱ			
		金曜		簿記原理発展	日本語セミナーA II	日本語 I B			租税法研究Ⅱ	所得税法研究Ⅱ
		土曜								
B-714	84	月曜		イングリッシュ・セミナーB	イングリッシュ・セミナーB	TOEIC- I B	Global Communicative English- I B			
		火曜		演習Ⅱ						
		水曜		基礎演習	初年次ラボ					
		木曜	Global Communicative English- I B	Global Communicative English- I B	アジアビジネス特講	初年次ラボ				
		金曜	簿記原理発展	簿記演習(発展)	キャリアデザインⅡ	キャリアデザインⅡ	キャリアデザインⅡ			
		土曜								
B-715	24	月曜								
		火曜				演習Ⅱ	外国書講読			
		水曜		基礎演習	初年次ラボ				人材・組織マネジメント演習1・2	
		木曜		外国書講読	演習Ⅱ					
		金曜		コンテンツマーケティング研究I・II	マーケティング研究 I・II	マーケティング演習1・2				
		土曜								
B-812(ウイングホール)	255	月曜	マーケティング	マーケティング		ベンチャー経営論	経済学(マクロ)			
		火曜			フィールドスタディ I	PR戦略				
		水曜		民法(契約)	初年次ラボ	国際経済Ⅱ				
		木曜		経営分析	企業文化論					
		金曜		情報処理(応用)	情報検定	情報検定				
		土曜								
三次元動作解析室	63	月曜								
		火曜		ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅱ					
		水曜								
		木曜								
		金曜								
		土曜								
D31	63	月曜		地域研究Ⅱ	Speaking 8 b	コミュニケーション概論				
		火曜		日本語表現法入門						
		水曜	Writing II -b	国際ビジネスと法	Reading II -b	アメリカ研究 I (政治/社会)B				
		木曜	イギリス文化論b			日本語表現法応用 II	国際人権研究B			
		金曜	キャリア実践講座Ⅱ	卒業研究b	ゼミナールb					
		土曜								
D32	63	月曜	Speaking 8 b			中国語初級 I -b	中国語初級総合b			
		火曜	Business case method	Writing I -b						
		水曜	基礎ゼミb		Reading II -b	キャリアデザインⅠ				
		木曜	特別研究	特別研究		キャリア特講				
		金曜	流通とEC	卒業研究b	ゼミナールb					
		土曜								
D41	63	月曜			Speaking 8 b	Global Communicative English- I B	Global Communicative English- I B			
		火曜		Writing I -b			道徳教育の指導法			
		水曜	Reading I -b	Reading I -b	初年次セミナーb	教育実習の指導	教育相談	生徒指導論		
		木曜					特別支援教育			
		金曜	ESP b	ESP b	ゼミナールb					
		土曜								
D42	63	月曜	Speaking 8 b		Speaking 8 b	Integrated English Skills- I B	Integrated English Skills- I B			
		火曜		Writing I -b			教育行政学			
		水曜	Reading I -b	Reading I -b	Reading II -b					
		木曜		Integrated English Skills- I B		マルチメディア・イングリッシュB	マルチメディア・イングリッシュB			
		金曜		ESP b						
		土曜								
D51	63	月曜	Speaking 8 b	コーチング	Speaking 8 b	サイバーセキュリティー概論				
		火曜		Writing I -b			教職実践演習(中・高)			
		水曜	Reading I -b	基礎ゼミb	Reading II -b					
		木曜								
		金曜	ESP b							
		土曜								
D52	63	月曜		英語史b	Reading I -b					
		火曜		Writing II -b		英語科教育法 III	TOEFL講座 b			
		水曜		Reading I -b						
		木曜				イングリッシュ・コミュニケーションIII B	イングリッシュ・コミュニケーションIII B			
		金曜	ESP b	English for School Purposes b						
		土曜								

2029年度後期 講義室別コマ情報一覧

*オレンジ=新学部科目、青=その他4学部科目

講義室名	収容人数	曜日	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限
D61(スカイホール)	187	月曜			ヘルスケア入門					
		火曜				社会調査法Ⅱ	社会統計学Ⅱ			
		水曜	プロジェクトマネジメント概論			データベースシステム概論				
		木曜	地域づくり入門							
		金曜	異文化間コミュニケーション入門				DXマネジメント概論			
		土曜								
ものづくりラボ	40	月曜				IoTとヒューマンデータ	ドメインとデータ解析演習F			
		火曜		ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅱ					
		水曜			ヒューマンデータエンジニアリング演習Ⅱ					
		木曜								
		金曜								
		土曜								
S0402	100	月曜		国際ビジネスコミュニケーション研究Ⅰ	ITシステム論	Intercultural Communication				
		火曜								
		水曜		基礎ゼミb		英語資格講座Ⅰ	英語教育特講Ⅰ-b			
		木曜	コミュニケーション概論		児童英語教育教材論		社会言語学b			
		金曜		卒業研究b	ゼミナールb	国際観光ビジネス論				
		土曜								
S0403	40	月曜								
		火曜		Writing I -b			国際ビジネス研究ⅠB			
		水曜		基礎ゼミb	Reading II -b	英米外交研究B		福祉医療の戦略経営Ⅰ	福祉医療の戦略経営Ⅰ	福祉医療の戦略経営Ⅰ
		木曜								
		金曜	特別研究Ⅰ・Ⅱ	卒業研究b	ゼミナールb	Japanese Society	ジエンダー論	英語教育学研究ⅠB	英語教育学研究ⅠB	英語教育学研究ⅠB
		土曜			フィールドワーク特講	フィールドワーク特講				
S0404	40	月曜				スペイン語初級Ⅱ-b	スペイン語初級ⅠB			
		火曜				アメリカ研究ⅠB	アカデミック・ライティングB			
		水曜			Reading II -b	Reading II -b				
		木曜			中国語初級Ⅱ-b	中国語初級総合b	中国語初級Ⅰ-b			
		金曜		English for School Purposes b	ゼミナールb		Japan and International Community			
		土曜								
S0405	40	月曜			英語学b	韓国・朝鮮語初級ⅠB	韓国・朝鮮語中級 b	リーアルワークの基礎と展開	リーアルワークの基礎と展開	リーアルワークの基礎と展開
		火曜		基礎ゼミb	フランス語上級 b	フランス語中級 b	フランス語初級ⅠB			
		水曜	Writing II -b	チームマネジメント	Reading II -b		企業財務論	アメリカ研究ⅠB		
		木曜		卒業研究b	イングリッシュ・コミュニケーションⅡB	イングリッシュ・コミュニケーションⅠA				
		金曜	ESP b	卒業研究b	ゼミナールb		英語教育特講Ⅰ-b			
		土曜								
S0501	45	月曜		プログラミングⅡ						
		火曜		ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅱ					
		水曜		初年次演習Ⅱ						
		木曜								
		金曜					共生社会フィールドスタディーズ			
		土曜								
S0502	120	月曜		リハビリテーション論		英語Ⅱ	ペイズ推定とデータサイエンス			
		火曜	情報リテラシーⅡ	ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅱ		データサイエンス特講Ⅱ			
		水曜				環境ビジネス論				
		木曜	自然言語解析概論							
		金曜		データサイエンスと微積分						
		土曜								
S0504	329	月曜		ブランド戦略	データリテラシー	コンテンツ流通マーケティング	芸術Ⅱ			
		火曜	商法	国際経営戦略	国際経営論	AI概論				
		水曜			国際政治経済論b	アカデミック・ライティング	マーケティングリサーチ(実践)			
		木曜		税法(法人税)	ビジュアル・シンキング	人間の発達と健康Ⅱ				
		金曜	アカデミック・ライティング	広告戦略	社会学					
		土曜								
S0601	45	月曜								
		火曜		ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅱ					
		水曜		初年次演習Ⅱ						
		木曜								
		金曜					共生社会フィールドスタディーズ			
		土曜								
S0602	84	月曜			地域政策論					
		火曜		ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅱ					
		水曜		初年次演習Ⅱ						
		木曜								
		金曜			基礎統計学					
		土曜								

2029年度後期 講義室別コマ情報一覧

*オレンジ=新学部科目、青=その他4学部科目

講義室名	収容人数	曜日	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限
S0603	144	月曜	画像解析概論							
		火曜	バイオメカニクス	ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅱ		ドメインとデータ解析演習B			
		水曜			比較文化論		機械学習入門			
		木曜		心身測定学						
		金曜	音声解析概論	データサイエンスと微積分						
		土曜								
S0604	144	月曜		国際協力論		ジェンダーと開発研究				
		火曜	情報リテラシーⅡ	ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅱ	ドメインとデータ解析演習A	ドメインとデータ解析演習D			
		水曜				比較文化論	機械学習入門			
		木曜		パーソナルファイナンス		ソーシャルメディア論				
		金曜		データサイエンスと微積分						
		土曜								
S0605	60	月曜		プログラミングⅡ						
		火曜		ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅱ					
		水曜		初年次演習Ⅱ						
		木曜			キャリアデザインⅡ					
		金曜			基礎統計学					
		土曜								
S0701	45	月曜								
		火曜		ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅱ					
		水曜		初年次演習Ⅱ						
		木曜								
		金曜					共生社会フィールドスタディーズ			
		土曜								
S0702	84	月曜			ICTシステム論					
		火曜		ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅱ					
		水曜		初年次演習Ⅱ						
		木曜				法学				
		金曜				人工知能(AI)応用Ⅱ				
		土曜								
S0703	144	月曜				英語Ⅱ				
		火曜		ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅱ	ドメインとデータ解析演習C				
		水曜	情報リテラシーⅡ	初年次演習Ⅱ						
		木曜					比較教育学			
		金曜			メディアリテラシー					
		土曜								
S0704	144	月曜		社会調査法実践(質的)Ⅱ	社会調査法実践(量的)Ⅱ			アフリカ地域研究		
		火曜		ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅱ					
		水曜	経済学		生体検査学		インターンシップ			
		木曜			企業会計Ⅰ					
		金曜				事業戦略論				
		土曜								
S0705	60	月曜		プログラミングⅡ						
		火曜		ゼミナールⅡ	卒業研究Ⅱ					
		水曜		初年次演習Ⅱ						
		木曜			キャリアデザインⅡ					
		金曜			基礎統計学					
		土曜								
S0803	8	月曜								
		火曜								
		水曜			初年次セミナーb					
		木曜								
		金曜								
		土曜								
S0804	8	月曜								
		火曜								
		水曜								
		木曜								
		金曜								
		土曜								
S0806	144	月曜								
		火曜								
		水曜								
		木曜	微生物学	生体防御学	基礎ゼミナールⅡ	人間の発達と健康Ⅱ	統計学(保健統計学含む)			
		金曜	アセスメントと看護技術Ⅱ	アセスメントと看護技術Ⅱ	アセスメントと看護技術Ⅱ	アセスメントと看護技術Ⅱ	アセスメントと看護技術Ⅱ	アセスメントと看護技術Ⅱ		
		土曜	アセスメントと看護技術Ⅱ	アセスメントと看護技術Ⅱ	アセスメントと看護技術Ⅱ	アセスメントと看護技術Ⅱ	アセスメントと看護技術Ⅱ			

2029年度後期 講義室別コマ情報一覧

*オレンジ=新学部科目、青=その他4学部科目

講義室名	収容人数	曜日	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	8限
S0807	198	月曜		臨床検査学	公衆衛生看護学概論	地域看護論				
		火曜	アセスメントと看護技術Ⅳ	アセスメントと看護技術Ⅳ	疫学	疫学	アセスメントと看護技術Ⅳ	アセスメントと看護技術Ⅳ		
		水曜	在宅看護論	医療心理学	医療安全学	医療安全学				
		木曜	老年看護学	老年看護学	看護倫理学	臨床栄養学				
		金曜	社会福祉論	社会保障論	看護研究概論	在宅看護論				
		土曜	災害看護学	災害看護学	災害看護学	災害看護学				
体育館		月曜								
		火曜		フィットネス科学演習Ⅱ	スポーツ	スポーツ	スポーツ			
		水曜								
		木曜		スポーツ	スポーツ	スポーツ方法論				
		金曜								
		土曜								

タイトル（和）	収録数
朝日新聞クロスサーチ	3
会社四季報／バックナンバー・アーカイブス	1
週刊東洋経済／バックナンバー・アーカイブス	1
日経BP記事検索サービス	59
日経テレコン	4
メディカルオンライン	1,583
ヨミダス	1
小計	1,652

タイトル（洋）	収録数
AcademicOneFile	21,787
Cancerresearch	1
CINAHL	2,469
EBSCOhost	11281
JSTOR	2,868
Ovid	60
ProQuest	4,095
SienceDirect	2,761
The Wall Street Journal	1
Wiley	408
小計	45,731

合計	47,383
----	--------

資料33

文京学院大学 図書館資料収集・選定方針

(趣旨)

第 1 条 文京学院大学の建学の精神に基づき、文京学院大学 図書館（以下「図書館」という。）での教育・研究活動の維持・発展に資するために必要な適切な資料収集、コレクションの構築を目的として、収集・選定について、必要な事項を定めるものとする。

(基本方針)

第 2 条 図書館は、次の各号に掲げる内容に基づき資料収集の方針（以下「収集方針」という。）を定める。

- (1) 利用者の資料要求を基本とし、読書・学習・教育研究に資するための図書を収集する。
- (2) 大学院、学部、カリキュラムの構成、学問研究の動向に留意し、長期的展望に立って適正な蔵書構成の実現を図る。
- (3) 対立する学説や多様な見解の存在するテーマに関しては、各立場の資料を幅広く選書する。
- (4) 選択者の個人的な関心や好みに左右されることなく選書する。
- (5) 利用者からの蔵書要求に対しては迅速かつ誠意をもって対応する。
- (6) 図書の選書は、原則一部一冊とする。但し、図書館運営委員会で必要と認められた図書はその限りでない。また、指定図書となった資料は複本を一冊置く。

(収集対象)

第 3 条 この方針が対象とする資料は、次の各号に掲げる資料とする。

- (1) 図書。
- (2) 逐次刊行物。
- (3) 視聴覚資料。
- (4) 電子資料。
- (5) その他、図書館資料としてふさわしい資料。

(収集方法)

第 4 条 図書館資料の収集は、購入、寄贈、寄託の方法による。

(選定基準)

第 5 条 図書館での教育・研究活動の維持・発展に資するため、収集方針に基づき、選書基準を次の各号に掲げる通り定める。

- (1) 本学の学生、大学院生の学習・研究に必要な資料。
- (2) 本学の教員の教育・研究活動に必要な資料。
- (3) 本学の教育理念に関連する資料。
- (4) 本学のシラバスに記載された資料。
- (5) 学生、大学院生、教職員の教養の向上に資する資料。
- (6) 学生・大学院生の資格取得、就職活動に資する資料。
- (7) 本学の発行物。
- (8) 本学の教職員および関係者の著作資料。

(9) 参考図書及び二次資料。

(非選定基準)

第 6 条 次の各号に挙げる資料は原則選定しない。

- (1) 極端に特殊な分野に細分化されるもの。
- (2) 利用が著しく限定されるもの。
- (3) 政党、宗教、企業の主義、主張が強く、宣伝的なもの。
- (4) 旅行ガイド。(資料的価値の高いもの、学問、学習を除く)
- (5) 実用書。
- (6) 娯楽書的性格の強いもの。(学問、学習に関わるものは除く)
- (7) 大学図書館としての品位を損なうもの。

2 学習・研究に必要とされる場合には、図書館運営委員会で慎重に検討し、個別に判断する。

(選定の手続き)

第 7 条 選定手続きは、次の各号に掲げる方法により行われる。

- (1) 教員推薦資料。
- (2) シラバス掲載資料。
- (3) 利用者リクエスト資料。
- (4) 図書館選定資料。

(教員推薦資料の選定手続き)

第 8 条 本学の常勤・非常勤の教員より、専門的見地から、本学学生・教職員の教育・研究に資するとして推薦される資料を教員推薦資料として選定リストを作成する。

2 教員推薦資料の選定リストは、各学部の図書委員会が定めた方法にて取りまとめを行い、図書館事務局に提出する。

(シラバス掲載資料の選書手続き)

第 9 条 シラバスに掲載されている授業にて使用する資料は、原則として図書館事務局にてシラバス掲載資料として選定リストを作成する。

2 シラバスに掲載されているが、一般に流通しない資料は対象外とする。

(利用者希望資料の選書手続き)

第 10 条 利用者が図書館資料の購入を希望する場合は、指定の様式にて図書館宛てに購入のリクエストを行うことができる。

2 図書館では、受け付けたリクエストを図書館選定資料リストに含め、優先的に処理する。

(図書館選定資料の選書手続き)

第 11 条 教員推薦資料、シラバス掲載資料による選定数が一定数に満たない場合は、蔵書状況、収集方針、選定基準に照らし図書館事務局にて選定し、選定リストを作成する。

(その他の選書手続き)

第 12 条 図書館運営上必要と図書館長が特に認める場合は、状況に応じ適切な方法をもって選定手続きを行い、選定リストを作成する。

(各選定手続き後の対応)

第 13 条 選定手続きされた選定リストは、図書館事務局にて集約し、次の各号に掲げる処理を行い、

選定内容を適正化する。

- (1) 図書館資料収集・選定方針に適合する資料であるかを確認し、適合しない場合はリストより削除する。
 - (2) 収蔵済み資料であるか確認し、収蔵済みである場合はリストより削除する。ただし、図書館利用規程 第11条の指定図書に指定するものにあっては2部、教員から特に希望がある場合に限り3部を上限とし、収蔵済みであってもリストから削除を行わない。
 - (3) 収蔵する資料のバランスを保つため、過多となる分野の資料等をリストより削除する。
- 2 適正化された選定リストを元に図書館事務局にて資料の受け入れを行う。
 - 3 選書対象資料が逐次刊行物、及び期間を定めて利用許諾を得る電子資料の場合は、図書館運営委員会にて選定リストへの受け入れ有無を決裁する。

(資料の受け入れ)

第14条 第13条により作成された選定リストの内容については、次の各号いずれかで受け入れを行う。

- (1) 1件10万円未満のものについては学習支援グループマネジャーの判断により決裁する。
- (2) 10万円以上、20万円未満のものについては、図書館長の判断により決裁する。
- (3) 20万円以上のものについては図書館運営委員会にて決裁する。
- (4) 逐次刊行物は該当する学部の図書委員会にて決裁する。

(寄贈・寄託)

第15条 図書館では、図書館資料の寄贈、寄託を受け入れることができる。

- 2 寄贈、寄託で受け入れる資料についても選書方針、選定基準に従い、基準に満たない資料の受け入れは行わない。ただし、特に学習・研究に必要とされる場合には、図書館運営委員会で慎重に検討し、個別に判断する。
- 3 寄贈、寄託受け入れの可否は、受け入れようとする資料の分野に合致する学部の図書委員、もしくは図書委員より委任された者が決裁する。
- 4 貴重書、大口寄贈等、特別な資料の受け入れの場合は図書館運営委員会にて決裁する。
- 5 受け入れが決定した資料は、他の資料と同様の手続きにて受け入れを行う。

(除籍)

第16条 常に新鮮で適切な資料構成を維持するため、次の各号いずれかに該当する場合は除籍することができる。

- (1) 汚損、破損が激しく、補修不能の資料。
- (2) 蔵書点検において2年続けて行方不明となった資料。
- (3) 未返却のまま卒業、退学、除籍となり、4年経過した場合。
- (4) 貸出利用者の連絡先が不明となった場合。
- (5) 紛失届を受理し、再購入が不可能な資料。
- (6) 重複購入した資料で、複本措置が不要となった資料。
- (7) 内容が改定され、利用価値を失った資料。但し史料的価値のあるものを除く。
- (8) 資料としての価値を失い、保存の必要が無くなった資料。

(9) その他、除籍の措置が妥当とされる場合。

2 除籍対象となる資料の選定は図書館事務局が行い、図書館長が承認する。

(委任)

第17条 この方針に定めるもののほか、選書に関し必要な事項は図書館長が別に定める。

(改正)

第18条 収集方針は定期的に見直しを行い、本方針の改定は図書館運営委員会の議を経て図書館長が行う。

附 則

1 この規程は、平成31年 4月 1日から施行する。

2 この規程は、令和 4年 5月 11日から施行する。

資料34

資料購入予定リスト

No.	書名詳細	発行日	冊子版 価格		電子版 価格	
			見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
1	元気がでる学び力: 世の中の本質が見えてくる学びのヒント	2011.04	1,714	1,885	-	-
2	UX・情報設計から学ぶ計画づくりの道しるべ	2018.08	1,980	2,178	-	-
3	混合研究法入門: 質と量による統合のアート	2015.12	1,800	1,980	-	-
4	インフォメーション・アナリシス5&5: 世界が変わる学びの革命	2021.04	1,620	1,782	-	-
5	わかりやすい!IT基礎入門, 第4版	2023.09	1,620	1,782	-	-
6	情報のこころえ: 講義と演習	2023.04	2,160	2,376	-	-
7	教養としての「情報 I」: 大学入試導入で変わるITリテラシーの基準	2024.10	1,620	1,782	-	-
8	図解コレ1枚でわかる最新ITトレンド, 改訂第5版	2024.07	2,160	2,376	-	-
9	ステップアップ情報技術の教室: 探究・トレーニング・創造	2023.08	2,430	2,673	-	-
10	サイバーフィジカル: デジタル時代を「生き抜く」エンジニアの基礎教養	2022.06	2,160	2,376	-	-
11	情報リテラシー: Information Literacy, 第4版	2022.10	-	-	5,775	6,352
12	キッチン・インフォマティクス: 料理を支える自然言語処理と画像処理	2021.03	-	-	8,910	9,801
13	コグニティブインテラクション: 次世代AIに向けた方法論とデザイン	2022.07	-	-	10,560	11,616
14	ゲーム情報学概論: ゲームを切り拓く人工知能	2018.05	-	-	9,900	10,890
15	テンソルデータ解析の基礎と応用: テンソル表現、縮約計算、テンソル分解と低ランク近似(次世代信号情報処理シリーズ7)	2024.06	3,600	3,960	-	-
16	Pythonが動くGoogle ColabでAI自習ドリル: 独学できる24の主要アルゴリズム(データサイエンス・シリーズ)	2024.05	2,520	2,772	-	-
17	算数＆ラズパイから始めるディープ・ラーニング: CNN/RNN/AE/DQNで画像・音声・データ分析, 改訂TensorFlow版(データサイエンス・シリーズ)	2023.04	2,520	2,772	-	-
18	試せる45!人工知能アルゴリズム全集(データサイエンス・シリーズ)	2023.05	2,880	3,168	-	-
19	AI研究者と俳人: 人はなぜ俳句を詠むのか	2022.03	1,710	1,881	-	-
20	ChatGPTの先に待っている世界	2023.10	1,800	1,980	-	-
21	Copilotではじめる生成AI入門: Windows 11対応	2024.09	-	-	3,217	3,538
22	ChatGPT GPTsが作れるようになる本	2024.04	1,800	1,980	-	-
23	図解でわかるAIいちばん最初に読む本: いまさら他人に聞けない!	2024.06	1,710	1,881	-	-
24	AI技術史: 考える機械への道とディープラーニング(impress top gear)	2022.03	-	-	8,910	9,801
25	Deep Learning Javaプログラミング: 深層学習の理論と実装(impress top gear)	2016.10	-	-	11,220	12,342
26	Machine Learning実践の極意: 機械学習システム構築の勘所をつかむ!(impress top gear)	2017.11	-	-	11,220	12,342
27	Pythonで学ぶ画像認識: Image Recognition with Python(機械学習実践シリーズ)	2023.03	-	-	11,550	12,705
28	Pythonライブラリによる因果推論・因果探索〈概念と実践〉: 因果機械学習の鍵を解く(impress top gear)	2024.08	-	-	13,530	14,883
29	Python機械学習プログラミング: 達人データサイエンティストによる理論と実践, 第3版(impress top gear)	2020.10	-	-	13,200	14,520
30	Python機械学習プログラミング: PyTorch & scikit-learn編(impress top gear)	2022.12	-	-	13,860	15,246
31	Rではじめる機械学習: データサイズを抑えて軽量な環境で攻略法を探る(impress top gear)	2017.09	-	-	11,880	13,068
32	scikit-learn活用レシピ80+: Python機械学習ライブラリ(impress top gear)	2019.03	-	-	12,870	14,157
33	TensorFlowではじめるDeepLearning実装入門: 実務で役に立つ深層学習の知識を収録(impress top gear)	2018.02	-	-	8,580	9,438
34	TensorFlow機械学習クックブック: Pythonベースの活用レシピ60+(impress top gear)	2017.08	-	-	13,860	15,246
35	いちばんやさしいPython機械学習の教本: 人気講師が教える業務で役立つ実践ノウハウ, 第2版	2023.02	-	-	8,580	9,438
36	いちばんやさしい機械学習プロジェクトの教本: 人気講師が教える仕事にAIを導入する方法	2018.04	-	-	5,544	6,098

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
37	いちばんやさしい人工知能ビジネスの教本: 人気講師が教えるAI・機械学習の事業化	2017.06	-	-	5,478	6,025
38	エンジニアなら知っておきたいAIのキホン: 機械学習・統計学・アルゴリズムをやさしく解説	2019.01	-	-	7,260	7,986
39	ディープラーニング構築テンプレート: AIプロジェクトの必須事項と技術的指針 (impress top gear)	2020.09	-	-	8,910	9,801
40	ディープラーニング実装入門: PyTorchによる画像・自然言語処理 (impress top gear)	2020.12	-	-	11,880	13,068
41	できるChatGPT: GPT3.5対応	2023.07	-	-	5,280	5,808
42	マンガでわかる人工知能: All About Artificial Intelligence	2017.07	-	-	4,620	5,082
43	画像生成AI: GENERATIVE AI (先読み!IT×ビジネス講座 - 濃い内容がサクッと読める! -)	2023.03	-	-	4,950	5,445
44	自分専用AIを作ろう!カスタムChatGPT活用入門	2024.03	-	-	4,620	5,082
45	実践XAI 〈説明可能なAI〉: 機械学習の予測を説明するためのPythonコーディング (impress top gear)	2023.06	-	-	11,880	13,068
46	生成AIのなかみ: ゼロからわかるITほんき入門+マンガ	2024.09	-	-	5,940	6,534
47	生成AI推し技大全: ChatGPT+主要AI活用アイデア100選	2024.02	-	-	5,610	6,171
48	全容解説GPT: テキスト生成AIプロダクト構築への第一歩 (impress top gear)	2023.12	-	-	8,250	9,075
49	直感でわかる!Excelで機械学習: サンプルは、Excel版とPython版を解説	2019.12	-	-	7,260	7,986
50	これからのディープラーニングビジネス (未来IT図解)	2019.07	-	-	4,950	5,445
51	APIではじめるディープラーニング・アプリケーション開発: Google Cloud API活用入門	2020.01	-	-	10,560	11,616
52	Chainer v2による実践深層学習 (ディープラーニング) : 複雑なNNの実装方法	2017.09	-	-	8,250	9,075
53	Optunaによるブラックボックス最適化	2023.02	-	-	10,560	11,616
54	Pythonでつくる対話システム	2020.02	-	-	8,910	9,801
55	Pythonで学ぶ統計的機械学習	2018.11	-	-	9,240	10,164
56	Pythonで機械学習入門: 深層学習から敵対的生成ネットワークまで	2019.05	-	-	7,920	8,712
57	Pythonによる異常検知	2021.02	-	-	10,560	11,616
58	Pythonによる機械学習入門	2016.11	-	-	8,580	9,438
59	Pythonによる深層強化学習入門: ChainerとOpenAI Gymではじめる強化学習	2018.08	-	-	9,240	10,164
60	PyTorchによる物体検出	2020.09	-	-	9,900	10,890
61	TensorFlowによる深層強化学習入門: OpenAI Gym+PyBulletによるシミュレーション	2021.02	-	-	9,240	10,164
62	グラフニューラルネットワーク: PyTorchによる実装	2022.07	-	-	10,560	11,616
63	これだけは知っておきたいデータサイエンスの基本がわかる本	2018.03	1,800	1,980	-	-
64	スマールデータ解析と機械学習	2022.02	-	-	10,560	11,616
65	プログラミングなしではじめる人工知能: Microsoft Azure Machine Learning Studio (classic)	2020.09	-	-	9,240	10,164
66	やさしく学べるサポートベクトルマシン: 数学の基礎とPythonによる実践	2022.11	-	-	9,900	10,890
67	音楽で身につけるディープラーニング	2023.10	-	-	8,910	9,801
68	音声対話システム: 基礎から実装まで	2022.10	-	-	10,560	11,616
69	機械学習 (マシンラーニング) と深層学習 (ディープラーニング) : C言語によるシミュレーション	2016.05	-	-	8,580	9,438
70	機械学習 (マシンラーニング) と深層学習 (ディープラーニング) : Pythonによるシミュレーション	2018.05	-	-	8,250	9,075
71	機械学習ガイドブック: RとPythonを使いこなす	2019.06	-	-	8,250	9,075
72	機械学習トレーニングデータがわかる本	2023.07	-	-	7,920	8,712
73	強化学習と深層学習: C言語によるシミュレーション	2017.10	-	-	8,580	9,438

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
74	今日から使えるファインチューニングレシピ: AI・機械学習の技術と実用をつなぐ基本テクニック	2024.09	-	-	9,570	10,527
75	識別・予測・異常検知: Pythonと実例で学ぶ機械学習	2018.11	-	-	7,920	8,712
76	実装ディープラーニング	2016.11	-	-	10,560	11,616
77	深層学習とメタヒュリスティクス: ディープ・ニューラルエボリューション	2019.11	-	-	9,900	10,890
78	深層学習による画像認識の基礎: Foundations of Image Recognition with Deep Learning	2024.04	-	-	11,880	13,068
79	統計的機械学習: 生成モデルに基づくパターン認識 (Tokyo Tech Be - TEXT)	2009.09	-	-	9,240	10,164
80	動かしながら学ぶPyTorchプログラミング入門	2020.11	-	-	8,910	9,801
81	AIの心理学: アルゴリズミックバイアスとの関い方を通して学ぶビジネスパーソンとエンジニアのための機械学習入門	2021.10	2,700	2,970	-	-
82	Pythonではじめるオープンエンドな進化的アルゴリズム: 発散型の機械学習による多様な解の探索	2023.10	2,880	3,168	-	-
83	Pythonではじめる教師なし学習: 機械学習の可能性を広げるラベルなしデータの利用	2020.04	3,240	3,564	-	-
84	Python機械学習クックブック, 第2版	2024.08	3,420	3,762	-	-
85	PyTorchとfastaiではじめるディープラーニング: エンジニアのためのAIアプリケーション開発	2021.05	3,420	3,762	-	-
86	scikit - learn、Keras、TensorFlowによる実践機械学習, 第2版	2020.10	4,320	4,752	-	-
87	Scratchであそぶ機械学習: AIプログラミングのかんたんレシピ集	2022.07	1,980	2,178	-	-
88	Scratchではじめる機械学習: 作りながら楽しく学べるAIプログラミング, 第2版	2024.07	2,070	2,277	-	-
89	ウェブ最適化ではじめる機械学習: A/Bテスト、メタヒュリスティクス、バンディットアルゴリズムからペイズ最適化まで	2020.11	3,150	3,465	-	-
90	コンピュータビジョンのための実践機械学習: モデルアーキテクチャからMLOpsまで	2023.07	3,780	4,158	-	-
91	ゼロから作るDeep Learning: 5 生成モデル編	2024.04	3,240	3,564	-	-
92	ディープラーニング実践ガイド: クラウド、モバイル、ブラウザ、エッジデバイス向けAIアプリ開発入門	2023.04	4,050	4,455	-	-
93	機械学習システムデザイン: 実運用レベルのアプリケーションを実現する継続的反復プロセス	2023.08	3,960	4,356	-	-
94	機械学習デザインパターン: データ準備、モデル構築、MLOpsの実践上の問題と解決	2021.10	3,420	3,762	-	-
95	機械学習による実用アプリケーション構築: 事例を通じて学ぶ、設計から本番稼働までのプロセス	2021.04	2,520	2,772	-	-
96	仕事ではじめる機械学習, 第2版	2021.04	2,700	2,970	-	-
97	事例で学ぶ特微量エンジニアリング	2023.12	3,240	3,564	-	-
98	初めてのTensorFlow.js: JavaScriptで学ぶ機械学習	2022.06	3,240	3,564	-	-
99	生成Deep Learning: 絵を描き、物語や音楽を作り、ゲームをプレイする, 第2版	2024.08	3,960	4,356	-	-
100	動かして学ぶAI・機械学習の基礎: TensorFlowによるコンピュータビジョン、自然言語処理、時系列データの予測とデプロイ	2022.06	3,240	3,564	-	-
101	入門機械学習パイプライン: TensorFlowで学ぶワークフローの自動化	2021.09	3,420	3,762	-	-
102	Pythonで体験する深層学習: Caffe, Theano, Chainer, TensorFlow	2016.08	-	-	12,210	13,431
103	ボルツマンマシン: Boltzmann Machines (シリーズ情報科学における確率モデル 2)	2019.02	-	-	10,560	11,616
104	演習で学ぶMATLABによるディープラーニング: MATLAB examples	2024.03	2,880	3,168	-	-
105	音声・言語処理(電子情報通信レクチャーシリーズ C-8)	2015.05	2,160	2,376	-	-
106	音声音響インタフェース実践(メディア学大系 13)	2017.03	-	-	9,570	10,527
107	音声言語処理と自然言語処理: Spoken Language Processing and Natural Language Processing, 増補	2018.09	-	-	10,560	11,616
108	画像情報処理の基礎	2019.06	-	-	8,910	9,801
109	機械学習のための数学: Mathematics for Machine Learning	2024.08	2,880	3,168	-	-
110	入門パターン認識と機械学習	2014.04	-	-	10,560	11,616

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
111	入門機械学習による異常検知: Rによる実践ガイド	2015.03	-	-	12,540	13,794
112	異常検知からリスク管理へ (AI/データサイエンスライブラリ“基礎から応用へ” 2)	2022.08	1,980	2,178	-	-
113	深層学習からマルチモーダル情報処理へ (AI/データサイエンスライブラリ“基礎から応用へ” 3)	2022.11	2,340	2,574	-	-
114	組合せ最適化から機械学習へ: 劣モジュラ最適化とグラフマイニング (AI/データサイエンスライブラリ“基礎から応用へ” 1)	2022.06	1,800	1,980	-	-
115	Chainerで作るコンテンツ自動生成AIプログラミング入門	2017.12	-	-	18,810	20,691
116	MXNetで作るデータ分析AIプログラミング入門	2018.07	-	-	18,810	20,691
117	PyCaretで学ぶ機械学習入門	2023.10	3,276	3,603	-	-
118	そろそろ常識?マンガでわかる「Python機械学習」(マンガ×チャットスタイル解説書)	2021.10	2,106	2,316	-	-
119	作ってわかる! アンサンブル学習アルゴリズム入門	2019.06	-	-	18,810	20,691
120	手を動かして学ぶ生成AI使い方入門: A hands on introduction to using generative AI	2024.07	2,448	2,692	-	-
121	図解速習DEEP LEARNING	2019.05	-	-	13,255	14,580
122	超入門無料で使えるGoogle Gemini	2024.07	1,908	2,098	-	-
123	スパースモデリング: 理論、アルゴリズム、応用	2020.01	3,600	3,960	-	-
124	PythonによるAI・機械学習・深層学習アプリのつくり方: すぐに使える! 業務で実践できる!	2020.11	2,880	3,168	-	-
125	機械学習・深層学習による画像認識の基本と原理: ゼロからわかる、全体像が見える	2021.08	1,800	1,980	-	-
126	機械学習しませんか: わりと簡単、すぐ始められる	2020.01	2,340	2,574	-	-
127	ディープラーニング	2020.02	2,070	2,277	-	-
128	Google Gemini 1.5/LlamaIndex/LangChain人工知能プログラミング実践入門	2024.07	3,600	3,960	-	-
129	Unity ML-Agents実践ゲームプログラミング: Unityではじめる機械学習・強化学習	2022.12	3,240	3,564	-	-
130	AWSコンピュータービジョン開発の教科書 (Compass Data Science)	2024.03	3,132	3,445	-	-
131	JAX/Flaxで学ぶディープラーニングの仕組み: 新しいライブラリーと畳み込みニューラルネットワークを徹底理解 (Compass Data Science)	2023.02	-	-	9,537	10,490
132	Pythonによるディープラーニング (Compass Data Science)	2022.03	3,582	3,940	-	-
133	PyTorch実践入門: ディープラーニングの基礎から実装へ (Compass Data Science)	2021.01	3,258	3,583	-	-
134	データサイエンティストのための特微量エンジニアリング: 機械学習モデル構築のための特微量抽出実践レシピ (Compass Data Science)	2023.06	3,222	3,544	-	-
135	やさしく学ぶディープラーニングがわかる数学のきほん: アヤノ & ミオと学ぶディープラーニングの理論と数学、実装	2019.07	-	-	8,844	9,728
136	やさしく学ぶ機械学習を理解するための数学のきほん: アヤノ & ミオと一緒に学ぶ機械学習の理論と数学、実装まで	2017.09	-	-	7,095	7,804
137	解釈可能なAI: 機械学習モデルの解釈手法を実践的に理解する (Compass Programming)	2023.09	4,077	4,484	-	-
138	機械学習エンジニアリング: 機械学習システム構築のベストプラクティス&デザインパターン	2022.04	2,682	2,950	-	-
139	試して学ぶ機械学習入門: Pythonで作って、動かして身につける	2019.04	-	-	9,867	10,853
140	実践GAN: 敵対的生成ネットワークによる深層学習 (Compass Data Science)	2020.02	3,312	3,643	-	-
141	詳解ディープラーニング: TensorFlow/Keras・PyTorchによる時系列データ処理, 第2版 (Compass Data Science)	2019.11	-	-	9,350	10,285
142	AIプロジェクトマネージャのための機械学習工学 (設計技術シリーズ)	2023.01	2,700	2,970	-	-
143	Pythonディープラーニングシステム実装法: Kerasによる画像・一般データ分類システムの構築 (設計技術シリーズ)	2020.10	3,600	3,960	-	-
144	Pythonではじめる異常検知入門: 基礎から実践まで (エンジニア入門シリーズ)	2023.04	3,150	3,465	-	-
145	Pythonではじめる量子AI入門: 量子機械学習から量子回路自動設計まで (エンジニア入門シリーズ)	2024.08	3,240	3,564	-	-
146	Pythonと大規模言語モデルで作るリアルタイムマルチモーダル対話システム (エンジニア入門シリーズ)	2024.06	3,240	3,564	-	-
147	詳解強化学習の発展と応用: ロボット制御・ゲーム開発のための実践的理論 (設計技術シリーズ)	2024.03	3,240	3,564	-	-

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
148	ニューラルネットワークとディープラーニング（データサイエンス大系）	2022.03	3,240	3,564	-	-
149	音声・テキスト・画像のデータサイエンス入門（データサイエンス大系）	2024.04	1,980	2,178	-	-
150	AIセキュリティから学ぶディープラーニング（技術）入門	2021.01	3,150	3,465	-	-
151	ChatGPTのしくみと技術がこれ1冊でしっかりわかる教科書（図解即戦力）	2024.10	2,160	2,376	-	-
152	ITエンジニアのための機械学習理論入門、改訂新版	2021.07	2,412	2,653	-	-
153	ITエンジニアのための強化学習理論入門: Pythonで学ぶアルゴリズムの動作原理	2020.07	2,682	2,950	-	-
154	ITと数学: 機械学習の基礎知識をトレーニング (SoftwareDesign別冊)	2021.05	1,782	1,960	-	-
155	Rユーザのためのtidymodels〈実践〉入門: モダンな統計・機械学習モデリングの世界	2023.01	2,448	2,692	-	-
156	Vision Transformer入門: 新しいコンピュータビジョンの世界 (CVL - Computer Vision Library -)	2022.09	2,880	3,168	-	-
157	ディープラーニングを支える技術: 「正解」を導くメカニズム（技術基礎）(Tech×Books plusシリーズ)	2022.01	2,412	2,653	-	-
158	ディープラーニングを支える技術: 2 ニューラルネットワーク最大の謎 (Tech×Books plusシリーズ)	2022.05	2,682	2,950	-	-
159	はじめてのデジタル画像処理: 図解でわかる、増補改訂版	2018.03	2,322	2,554	-	-
160	画像センシングのしくみと開発がこれ1冊でしっかりわかる教科書 (図解即戦力・オールカラーの豊富な図解と丁寧な解説でわかりやすい! -)	2023.06	2,340	2,574	-	-
161	機械学習・統計処理のための数学入門: 基本演算からRプログラミングまで	2021.03	2,412	2,653	-	-
162	機械学習がわかる統計学入門: 統計学で読み解くAI、データサイエンス、機械学習どんどんわかる、見えてくる!	2021.07	1,980	2,178	-	-
163	機械学習を解説する技術: 予測力と説明力を両立する実践テクニック	2021.08	2,412	2,653	-	-
164	施策デザインのための機械学習入門: データ分析技術のビジネス活用における正しい考え方	2021.08	2,682	2,950	-	-
165	深層ニューラルネットワークの高速化: Accelerating Deep Neural Networks	2024.09	2,700	2,970	-	-
166	即戦力になるためのディープラーニング開発実践ハンズオン	2021.04	2,952	3,247	-	-
167	大規模言語モデル入門: Introduction to Large Language Models: 2 生成型LLMの実装と評価	2024.09	2,700	2,970	-	-
168	知識ゼロからの機械学習入門	2020.04	1,962	2,158	-	-
169	反実仮想機械学習: 機械学習と因果推論の融合技術の理論と実践	2024.04	2,880	3,168	-	-
170	6ステップでマスターする機械学習: Pythonによる丁寧な実践ハンズオン	2022.10	3,870	4,257	-	-
171	Federated Learning: プライバシー保護下における機械学習	2022.10	3,870	4,257	-	-
172	Human - in - the - Loop機械学習: 人間参加型AIのための能動学習とアノテーション	2023.12	-	-	21,780	23,958
173	ニューラルネットワーク入門（探検データサイエンス）	2024.06	-	-	11,220	12,342
174	画像処理の統計モデリング: 確率的グラフィカルモデルとスパースモデリングからのアプローチ（クロスセクショナル統計シリーズ 8）	2018.11	-	-	10,560	11,616
175	機械学習: 1 入門的基礎/パラメトリックモデル	2022.08	1,980	2,178	-	-
176	機械学習: 2 ノンパラメトリックモデル/潜在モデル	2022.08	2,160	2,376	-	-
177	機械学習: 3 数学事項：機械学習のいしづえ/演習問題解答	2022.08	1,620	1,782	-	-
178	機械学習アルゴリズム（探検データサイエンス）	2021.06	-	-	8,580	9,438
179	深層学習生成AIの基礎	2024.03	-	-	9,900	10,890
180	深層強化学習入門	2021.04	-	-	9,570	10,527
181	推薦システム: 統計的機械学習の理論と実践	2018.04	3,420	3,762	-	-
182	統計的機械学習の数理100問with Python (機械学習の数理100問シリーズ 2)	2020.04	-	-	9,900	10,890
183	統計的機械学習の数理100問with R (機械学習の数理100問シリーズ 1)	2020.04	-	-	9,900	10,890
184	量子コンピュータによる機械学習	2020.08	3,960	4,356	-	-

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
185	アンサンブル法による機械学習: 基礎とアルゴリズム	2017.06	-	-	13,860	15,246
186	データアナリティクスのための機械学習入門: アルゴリズム・実例・ケーススタディ (世界標準MIT教科書)	2022.08	-	-	26,400	29,040
187	はっきりわかるデータサイエンスと機械学習	2020.05	-	-	10,560	11,616
188	機械学習: MACHINE LEARNING	2022.10	-	-	26,400	29,040
189	図解深層学習: 数理で理解する基本原理	2023.12	-	-	11,550	12,705
190	超実践アンサンブル機械学習	2016.12	-	-	8,910	9,801
191	「Teachable Machine」による機械学習: ブラウザで手軽に機械学習モデルを作成 (I/O BOOKS)	2022.07	2,160	2,376	-	-
192	「機械学習」と「AI」のはなし: 自前のパソコンで「画像」「言語」「音声」の処理ができる! (I/O BOOKS)	2020.09	1,620	1,782	-	-
193	「機械学習・AI」のためのデータの自己組織化: 「大きなデータ」を「小さなデータの集まり」にして考える (I/O BOOKS)	2022.07	2,160	2,376	-	-
194	「機械学習・AI」のためのデータ処理入門: 「数値」「文字」「画像」「音声」…さまざまなデータが扱える! (I/O BOOKS)	2023.08	2,430	2,673	-	-
195	Pythonで学ぶ機械学習: ライブラリ (『Scikit - learn』『Keras』) で簡単実装! (I/O BOOKS)	2021.09	2,070	2,277	-	-
196	パソコンで「音」を処理する: 「録音」「再生」から「波形解析」までチェック! (I/O BOOKS)	2016.12	2,070	2,277	-	-
197	パッと学ぶ「機械学習」: 「機械学習プログラミング」が身近なものに! (I/O BOOKS)	2021.06	2,070	2,277	-	-
198	基礎からのニューラルネット: 人工知能の基盤技術 (I/O BOOKS)	2023.01	2,340	2,574	-	-
199	機械学習アルゴリズム入門: 類似性の科学 (I/O BOOKS)	2022.03	2,340	2,574	-	-
200	実務のための「機械学習」と「AI」: データの「構造/スケール化」と、「文字/数値データ」の解析 (I/O BOOKS)	2021.05	1,710	1,881	-	-
201	Pythonではじめるベイズ機械学習入門: Introduction to Bayesian Machine Learning with Python	2022.05	2,520	2,772	-	-
202	オンライン機械学習 (機械学習プロフェッショナルシリーズ)	2015.04	-	-	6,200	6,820
203	オンライン予測 (機械学習プロフェッショナルシリーズ)	2016.12	-	-	9,240	10,164
204	グラフニューラルネットワーク: Graph Neural Networks (機械学習プロフェッショナルシリーズ)	2024.04	2,700	2,970	-	-
205	スパース性に基づく機械学習 (機械学習プロフェッショナルシリーズ)	2015.12	-	-	9,240	10,164
206	ゼロからつくるPython機械学習プログラミング入門 (機械学習スタートアップシリーズ)	2020.08	2,700	2,970	-	-
207	ノンパラメトリックベイズ: 点過程と統計的機械学習の数理 (機械学習プロフェッショナルシリーズ)	2016.04	-	-	9,240	10,164
208	バンディット問題の理論とアルゴリズム (機械学習プロフェッショナルシリーズ)	2016.08	-	-	9,240	10,164
209	異常検知と変化検知 (機械学習プロフェッショナルシリーズ)	2015.08	-	-	6,200	6,820
210	確率的最適化 (機械学習プロフェッショナルシリーズ)	2015.08	-	-	6,200	6,820
211	機械学習のための連続最適化 (機械学習プロフェッショナルシリーズ)	2016.12	-	-	10,560	11,616
212	機械学習工学: Machine Learning Engineering (機械学習プロフェッショナルシリーズ)	2022.07	2,700	2,970	-	-
213	最適輸送の理論とアルゴリズム: Theory and Algorithms for Optimal Transport (機械学習プロフェッショナルシリーズ)	2023.01	2,700	2,970	-	-
214	深層学習: Deep Learning, 改訂第2版 (機械学習プロフェッショナルシリーズ)	2022.01	2,700	2,970	-	-
215	生命情報処理における機械学習: 多重検定と推定量設計 (機械学習プロフェッショナルシリーズ)	2015.12	-	-	9,240	10,164
216	劣モジュラ最適化と機械学習 (機械学習プロフェッショナルシリーズ)	2015.12	-	-	9,240	10,164
217	LightGBM予測モデル実装ハンドブック: モデル評価・精度改善・可視化実務活用のための (Pythonライブラリ定番セレクション)	2023.06	2,520	2,772	-	-
218	物体・画像認識と時系列データ処理入門: NumPy/TensorFlow2 (Keras) /PyTorchによる実装ディープラーニング, TensorFlow2/PyTorch対応第2版	2021.03	2,880	3,168	-	-
219	物体検出とGAN、オートエンコーダー、画像処理入門: PyTorch/TensorFlow2による発展的・実装ディープラーニング	2021.09	2,880	3,168	-	-
220	モデルベース深層学習と深層展開: Model - based deep learning and Deep unfolding	2023.06	3,240	3,564	-	-
221	デジタル動画像処理: 理論と実践	2018.07	-	-	1,650	1,815

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
222	しくみがわかる深層学習	2018.06	-	-	8,910	9,801
223	高校数学で学ぶディープラーニング: 画像認識への入門コース	2022.07	2,340	2,574	-	-
224	トコトンやさしい画像認識の本 (B&Tブックス 今日からモノ知りシリーズ)	2023.08	1,620	1,782	-	-
225	画像処理 (放送大学教材)	2024.03	2,070	2,277	-	-
226	技術者のための確率統計学: 大学の基礎数学を本気で学ぶ	2018.09	-	-	9,350	10,285
227	技術者のための線形代数学: 大学の基礎数学を本気で学ぶ	2018.08	-	-	9,350	10,285
228	情報モラル&情報セキュリティ: 40の事例でわかりやすく解説!, 改訂4版	2022.01	-	-	1,237	1,360
229	デジタルテクノロジー図鑑: 「次の世界」をつくる	2023.07	1,800	1,980	-	-
230	AI×Web3の未来: 光と闇が次世代の実業に変わるとき	2023.08	-	-	6,600	7,260
231	IoTのしくみと技術がこれ1冊でしっかりわかる教科書: IoT検定パワーユーザー対応版 (図解即戦力・豊富な図解と丁寧な解説で、知識0でもわかりやすい! -)	2020.03	1,782	1,960	-	-
232	IoTの知識地図: 設計・実装・運用のための必須知識をこれ一冊で	2024.04	2,340	2,574	-	-
233	超スマート社会を生きるための情報のセキュリティと倫理	2023.01	-	-	1,650	1,815
234	AIとオープンソースで真贋を見る目を養う: 素人の発想力・玄人の技術力	2022.10	-	-	5,500	6,050
235	IoTの教科書: IoTの全てを網羅した決定版	2017.08	2,430	2,673	-	-
236	ITサービスマネジメントの教科書: 一步進んだ知識があなたの武器になる!	2022.03	3,780	4,158	-	-
237	エンジニアが知っておきたい思考の整理術: 複雑な情報を〈理解する〉〈伝える〉テクニック	2023.12	-	-	7,260	7,986
238	プロジェクトを成功させる実践力が身につく本	2017.02	2,160	2,376	-	-
239	Lean UX: アジャイルなチームによるプロダクト開発, 第3版 (THE LEAN SERIES)	2022.08	2,430	2,673	-	-
240	エンジニアリングマネージャーのしごと: チームが必要とするマネージャーになる方法	2022.08	3,060	3,366	-	-
241	スタッフエンジニアの道: 優れた技術専門職になるためのガイド	2024.08	2,700	2,970	-	-
242	インフラエンジニアの教科書: The textbook of the infrastructure engineer, 改訂新版	2023.11	2,088	2,296	-	-
243	運用設計のセオリー: インフラから業務まで全整理	2023.11	3,240	3,564	-	-
244	わたし×IT=最強説: 女子＆ジェンダーマイノリティがITで活躍するための手引書	2023.03	1,530	1,683	-	-
245	プロフェッショナルプロダクトオーナー: プロダクトを効果的にマネジメントする方法	2024.07	3,600	3,960	-	-
246	AI・データ分析プロジェクトのすべて: ビジネス力×技術力=価値創出	2021.01	2,232	2,455	-	-
247	ITエンジニア残業ゼロの働き方: 現場で本当に使えた仕事効率化の法則95	2022.03	1,620	1,782	-	-
248	エンジニアのためのマネジメント入門	2023.03	2,160	2,376	-	-
249	システム障害対応の教科書: A GUIDEBOOK TO SYSTEM FAILURE RESPONSE, 改訂新版	2024.04	2,520	2,772	-	-
250	プロジェクトの失敗はだれのせい?: 紛争解決特別法務室“トップ”中林麻衣の事件簿	2016.04	1,512	1,663	-	-
251	ゼロトラストセキュリティ実践ガイド: A Practical Guide to Zero Trust Security	2024.01	-	-	9,900	10,890
252	情報セキュリティ, 改訂2版 (IT Text)	2022.02	-	-	9,900	10,890
253	ポートスキャナ自作ではじめるネットワーキングテスト: Linux環境で学ぶ: 攻撃者の思考	2023.09	2,610	2,871	-	-
254	実践Keycloak: OpenID Connect、OAuth 2.0を利用したモダンアプリケーションのセキュリティー保護	2022.10	3,420	3,762	-	-
255	セキュリティエンジニアの教科書: The textbook of the security engineer, 改訂新版	2024.04	2,358	2,593	-	-
256	ネットワーキングテストの教科書, 第2版 (ハッカーの技術書)	2024.05	3,420	3,762	-	-
257	セはセキュリティのセ: 情報セキュリティ入門, 第3版	2024.03	1,530	1,683	-	-
258	今さら聞けないIT・セキュリティ必須知識: クイズでわかるトラブル事例	2024.05	1,620	1,782	-	-

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
259	入門セキュリティコンテスト: CTFを解きながら学ぶ実戦技術	2022.12	2,412	2,653	-	-
260	TEXTBOOK情報セキュリティ	2024.08	-	-	6,930	7,623
261	よくわかる最新サイバーセキュリティ対策の基本: セキュリティ担当者&経営者のための基礎知識(図解入門・How-to-Visual Guide Book)	2023.02	1,620	1,782	-	-
262	最前線に立つプロが教えるセキュリティの基礎	2023.12	2,700	2,970	-	-
263	ランサムウェア対策実践ガイド: 攻撃手法を理解し適切に対処しよう!(Compass Security)	2023.09	3,024	3,326	-	-
264	よくわかる世界のサイバー犯罪: フェイクニュース、スパイウェア、個人情報の流出から身を守る(I/O BOOKS)	2024.04	2,430	2,673	-	-
265	Notion AIハック: 仕事と暮らしを劇的にラクにする72の最強アイデア	2024.06	1,620	1,782	-	-
266	Python最速データ収集術: スクレイピングでWeb情報を自動で集める(IT×仕事術)	2022.02	1,620	1,782	-	-
267	Rによる自動データ収集: Webスクレイピングとテキストマイニングの実践ガイド	2017.06	5,400	5,940	-	-
268	これで使える実践Webスクレイピング: Pythonで学ぶWeb情報収集(広島修道大学テキストシリーズ)	2024.05	2,430	2,673	-	-
269	Python2年生スクレイピングのしくみ: 体験してわかる!会話でまなべる!, 第2版(2年生)	2024.05	1,980	2,178	-	-
270	よくわかるDX時代のICTリテラシー: 知っておきたいICTの基礎知識	2023.10	-	-	5,197	5,716
271	情報リテラシー	2022.03	-	-	4,950	5,445
272	情報リテラシー: 入門編	2022.03	-	-	2,475	2,722
273	情報リテラシー: 総合編	2022.02	-	-	6,187	6,805
274	情報リテラシー: アプリ編	2022.03	-	-	4,455	4,900
275	Figmaで作るUIデザインアイデア集: サンプルで学ぶ35のパターン	2024.07	-	-	9,240	10,164
276	情報リテラシー教科書: Windows 11/Office 2021対応版	2022.11	-	-	6,270	6,897
277	情報リテラシー教科書: Windows 11/Office+Access 2021対応版	2022.11	-	-	7,920	8,712
278	入門情報処理: データサイエンス、AIを学ぶための基礎	2022.01	-	-	8,580	9,438
279	入門ソーシャルデータ: ソーシャルウェブのデータマイニング, 第2版	2014.06	3,240	3,564	-	-
280	意思決定を助ける情報可視化技術: ビッグデータ・機械学習・VR/ARへの応用	2018.04	-	-	7,590	8,349
281	コンピュータサイエンス入門: コンピュータ・ウェブ・社会, 第2版(Computer Science Library 1)	2023.01	1,890	2,079	-	-
282	コンピュータと情報システム, 第3版(Information & Computing ex.48)	2022.11	1,800	1,980	-	-
283	指標・特徴量の設計から始めるデータ可視化学入門: データを洞察につなげる技術	2023.12	2,340	2,574	-	-
284	UXデザイン100の原則	2023.09	3,060	3,366	-	-
285	詳解AWS CloudFormation (Compass Infrastructure)	2024.06	3,258	3,583	-	-
286	デジタルネイティブのための情報リテラシー	2024.03	2,250	2,475	-	-
287	教養としてのデータ・情報リテラシー	2024.04	2,520	2,772	-	-
288	Google Cloudのしくみと技術がこれ1冊でしっかりわかる教科書, 改訂2版(図解即戦力)	2024.09	2,340	2,574	-	-
289	ゼロからわかるAWS超入門: はじめてのクラウド, 改訂新版(かんたんIT基礎講座)	2024.05	2,448	2,692	-	-
290	データドリブンの極意: Tableauブートキャンプで学ぶデータを「読む」「語る」力	2021.07	2,448	2,692	-	-
291	ビッグデータを支える技術: ラップトップ1台で学ぶデータ基盤のしくみ, 増補改訂(WEB+DB PRESS plusシリーズ)	2021.02	2,880	3,168	-	-
292	プロ直伝 伝わるデータ・ビジュアル術: Excelだけでは作れないデータ可視化レシピ	2019.05	1,962	2,158	-	-
293	縁の下のUIデザイン: 小さな工夫で大きな効果をもたらす実践TIPS&テクニック(WEB+DB PRESS plusシリーズ)	2023.05	2,682	2,950	-	-
294	マインドインタラクション: AI学者が考える『ココロ』のエージェント	2019.08	-	-	7,260	7,986
295	新しいヒューマンコンピュータインタラクションの教科書: 基礎から実践まで	2023.02	2,160	2,376	-	-

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
296	わかりやすいコンピュータ概論	2023.10	-	-	6,325	6,957
297	レクチャーマルチメディア: 基礎からわかる音・画像・映像の情報処理 (情報工学レクチャーテキスト QKC-11)	2022.04	2,250	2,475	-	-
298	ヒューマンインターフェース (放送大学教材)	2023.03	3,150	3,465	-	-
299	数値の処理と数値解析、改訂版 (放送大学教材)	2022.03	2,520	2,772	-	-
300	プロセス・オブ・UI/UX: PROCESS OF UI/UX: UXデザイン編 実践形式で学ぶリサーチからユーザー調査・企画・要件定義・改善まで	2024.05	1,980	2,178	-	-
301	プロセス・オブ・UI/UX: PROCESS OF UI/UX: UIデザイン編 実践形式で学ぶワイヤーフレームからビジュアルデザイン・開発連携まで	2024.05	2,250	2,475	-	-
302	図解まるわかり仮想化のしくみ	2024.05	1,620	1,782	-	-
303	はじめて学ぶ数理・データサイエンス・AI	2023.12	-	-	4,950	5,445
304	よくわかるMicrosoft Access 2021: Office 2021/Microsoft 365対応: 基礎	2023.02	-	-	5,197	5,716
305	よくわかるMicrosoft Access 2021: Office 2021/Microsoft 365対応: 応用	2023.02	-	-	5,197	5,716
306	よくわかるPythonデータ分析入門: はじめてでもつまずかないNumPy/Pandas/Matplotlib	2024.07	-	-	5,197	5,716
307	1週間でMySQLの基礎が学べる本	2021.09	-	-	8,580	9,438
308	BigQueryではじめるSQLデータ分析: GA4 & Search Console & Googleフォーム対応	2024.07	-	-	9,240	10,164
309	pandasライブラリ活用入門: データクリーニング/前処理など一連の分析プロセスをマスター!, 第2版 (impress top gear)	2023.09	-	-	12,540	13,794
310	The Kaggle Book: データ分析競技実践ガイド & 精銳31人インタビュー (impress top gear)	2023.02	-	-	12,870	14,157
311	The Kaggle Workbook: 機械学習・深層学習の実例と練習問題 (impress top gear)	2023.10	-	-	8,580	9,438
312	スッキリわかるSQL入門: ドリル256問付き!, 第4版	2024.02	-	-	9,240	10,164
313	データ分析に強くなるSQLレシピ: 小規模データの前処理・分析の書き方 & テクニック	2024.08	-	-	8,910	9,801
314	できるAccess 2021: Office 2021 & Microsoft 365両対応	2023.03	-	-	6,534	7,187
315	集中演習SQL入門: Google BigQueryではじめるビジネスデータ分析 (できるDigital Camp)	2021.02	-	-	9,240	10,164
316	データ・スマート: Excelではじめるデータサイエンス入門	2017.09	3,420	3,762	-	-
317	Pythonデータエンジニアリング入門: 高速化とデバイスデータアクセスの基本と応用	2020.04	3,240	3,564	-	-
318	Pythonによるデータマイニングと機械学習	2019.08	-	-	10,560	11,616
319	Pythonによるデータ解析入門	2018.11	-	-	8,910	9,801
320	Rによるデータマイニング入門	2015.11	-	-	9,570	10,527
321	Rによるやさしいテキストマイニング: 機械学習編	2017.09	-	-	9,240	10,164
322	データサイエンス短期集中コース: データサイエンスのワークフローとアプリケーションを開発・最適化するための知識を学ぶ!	2020.12	3,240	3,564	-	-
323	データベースシステム: ビッグデータ社会の基幹技術を学ぶ, 改訂2版	2020.04	2,880	3,168	-	-
324	実戦データマイニング: AIによる株と為替の予測	2018.06	-	-	8,580	9,438
325	IPythonデータサイエンスクックブック: 対話型コンピューティングと可視化のためのレシピ集, 第2版	2019.05	3,780	4,158	-	-
326	Pythonデータサイエンスハンドブック: Jupyter、NumPy、pandas、Matplotlib、scikit-learnを使ったデータ分析、機械学習, 第2版	2024.02	3,960	4,356	-	-
327	Pythonではじめるデータラギング: データの入手、準備、分析、プレゼンテーション	2017.04	3,330	3,663	-	-
328	Rではじめるデータサイエンス, 第2版	2024.06	3,870	4,257	-	-
329	SQLクックブック: データベースエキスパート、データサイエンティストのための実践レシピ集, 第2版	2022.02	3,600	3,960	-	-
330	SQLではじめるデータ分析: クエリで行う前処理、時系列解析、コホート分析、テキスト分析、異常検知	2023.01	3,060	3,366	-	-
331	SQLポケットガイド	2024.07	2,340	2,574	-	-
332	ゼロからはじめるデータサイエンス: Pythonで学ぶ基本と実践, 第2版	2020.04	3,060	3,366	-	-

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
333	データエンジニアリングの基礎: データプロジェクトで失敗しないために	2024.03	3,600	3,960	-	-
334	データサイエンス講義	2014.10	2,700	2,970	-	-
335	データサイエンス設計マニュアル	2020.01	3,420	3,762	-	-
336	データベースリライアビリティエンジニアリング: 回復力のあるデータベースシステムの設計と運用	2021.04	3,060	3,366	-	-
337	データ保護完全ガイド: あらゆるデータの保全と回復を可能にする	2023.12	3,600	3,960	-	-
338	実践AWSデータサイエンス: エンドツーエンドのMLOpsパイプライン実装	2021.10	3,420	3,762	-	-
339	初めてのSQL, 第3版	2021.07	2,520	2,772	-	-
340	詳説データベース: ストレージエンジンと分散データシステムの仕組み	2021.07	3,420	3,762	-	-
341	推薦システム実践入門: 仕事で使える導入ガイド	2022.05	2,880	3,168	-	-
342	大規模データ管理: データ管理と活用のためのモダンなデータアーキテクチャパターン, 第2版	2024.06	3,420	3,762	-	-
343	データベースの基礎: MariaDB/MySQL対応, 改訂版	2021.07	-	-	7,920	8,712
344	フルスタックJavaScriptとPython機械学習ライブラリで実践するソーシャルビッグデータ: 基本概念・技術から収集・分析・可視化まで	2019.02	-	-	10,560	11,616
345	リレーションナルデータベースの実践的基礎, 改訂版	2020.10	-	-	8,250	9,075
346	基礎から学ぶデータマイニング	2013.04	-	-	6,600	7,260
347	基礎から学ぶ推薦システム: 情報技術で嗜好を予測する	2022.07	-	-	14,850	16,335
348	実践Pythonによるデータベース入門: MySQL,MongoDB,CouchDBの基本操作からアプリプログラミングまで	2020.08	-	-	10,890	11,979
349	データサイエンティストのためのデータベース基礎 (ライブラリデータサイエンス講義ノート 7)	2024.07	1,890	2,079	-	-
350	データベース入門, 第2版 (Computer Science Library 14)	2021.02	1,755	1,930	-	-
351	データ科学入門: データに基づく意思決定の基礎: 1 (ライブラリデータ科学 1)	2022.04	1,710	1,881	-	-
352	データ科学入門: 2 特徴記述・構造推定・予測 (ライブラリデータ科学 2)	2023.03	1,800	1,980	-	-
353	データ科学入門: 3 モデルの候補が複数あるときの意思決定 (ライブラリデータ科学 3)	2024.04	1,710	1,881	-	-
354	リレーションナルデータベース特別講義: データモデル・SQL・管理システム・データ分析基盤 (Information & Computing 125)	2024.03	2,250	2,475	-	-
355	Pythonで学ぶテキストマイニング入門	2022.08	-	-	17,710	19,481
356	Pythonと実データで遊んで学ぶデータ分析講座	2019.08	-	-	16,115	17,726
357	データサイエンスの森Kaggleの歩き方: データサイエンス&機械学習のためのポータルサイトの利用ガイド	2019.11	-	-	14,520	15,972
358	データマイニングエンジニアの教科書	2019.07	-	-	15,015	16,516
359	データサイエンス100本ノック: 構造化データ加工編ガイドブック	2022.04	3,240	3,564	-	-
360	データサイエンス	2020.01	1,620	1,782	-	-
361	データとデザイン: 人とデータのつなぎかた	2024.01	2,340	2,574	-	-
362	Kaggle Grandmasterに学ぶ機械学習実践アプローチ: Pythonコードで丁寧に解説! (Compass Data Science)	2021.08	2,421	2,663	-	-
363	Kaggleコンペティションチャレンジブック: Pythonによる機械学習実戦分析 (Compass Data Science)	2020.12	3,132	3,445	-	-
364	Looker導入ガイド: データ分析BIツール	2022.08	2,952	3,247	-	-
365	データ分析力を育てる教室	2022.06	-	-	6,437	7,080
366	はじめての知識グラフ構築ガイド	2024.09	3,258	3,583	-	-
367	わかりやすいデータ解析入門: C++による演習, 第2版	2019.11	2,205	2,425	-	-
368	Kaggleで磨く機械学習の実践力: 実務×コンペが鍛えたプロの手順	2022.06	2,700	2,970	-	-
369	いきなりはじめるPHP: 新・ワクワク・ドキドキの入門教室, 改訂版	2024.05	1,800	1,980	-	-

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
370	実践データ分析の教科書: 現場で即戦力になるデータサイエンスの勘所	2021.08	2,340	2,574	-	-
371	データマイニング手法: 営業、マーケティング、CRMのための顧客分析: 予測・スコアリング編, 3訂版	2014.03	2,340	2,574	-	-
372	データマイニング手法: 営業、マーケティング、CRMのための顧客分析: 探索的知識発見編, 3訂版	2014.03	2,520	2,772	-	-
373	データサイエンス技術: 山口大学データサイエンスライブラリ, 第2版	2022.03	1,620	1,782	-	-
374	データサイエンティスト教程応用	2021.10	2,250	2,475	-	-
375	データサイエンティスト教程基礎: 2 現代数学の指標	2023.06	2,160	2,376	-	-
376	3ステップでしっかり学ぶMySQL入門, 改訂第3版	2024.02	2,340	2,574	-	-
377	Access VBAコードレシピ集: スグに使えるテクニック622	2023.09	2,520	2,772	-	-
378	Access効率UPスキル大全 (今すぐ使えるかんたんbiz)	2024.05	1,980	2,178	-	-
379	AIデータサイエンスリテラシー入門: 基礎学習, 改訂新版	2024.09	1,512	1,663	-	-
380	Kaggleで勝つデータ分析の技術	2019.10	2,952	3,247	-	-
381	MySQL運用・管理〈実践〉入門: 安全かつ高速にデータを扱う内部構造・動作原理を学ぶ	2024.06	2,520	2,772	-	-
382	PythonユーザのためのJupyter〈実践〉入門, 改訂版	2020.09	2,952	3,247	-	-
383	RユーザのためのRStudio〈実践〉入門: tidyverseによるモダンな分析フローの世界, 改訂2版	2021.06	2,682	2,950	-	-
384	SQLのしくみと書き方がこれ1冊でしっかりわかる本 (図解即戦力)	2024.08	1,800	1,980	-	-
385	SQL緊急救命室: 非効率なコードを改善せよ! (WEB+DB PRESS plusシリーズ)	2024.09	2,880	3,168	-	-
386	エンジニアのためのデータ分析基盤入門: データ活用を促進する! プラットフォーム & データ品質の考え方	2022.03	2,448	2,692	-	-
387	はじめてのAIリテラシー: 基礎テキスト, 改訂新版	2024.09	1,512	1,663	-	-
388	ビジネスパーソンのためのSQL入門: データ分析力を高める	2023.03	1,800	1,980	-	-
389	業務アプリ作成のためのAccess VBA実践サンプル集: 仕事の現場で即使える	2024.08	2,340	2,574	-	-
390	仕事の現場で即使えるAccess実践マスターガイド	2023.12	2,448	2,692	-	-
391	手を動かしながら学ぶビジネスに活かすデータマイニング	2014.09	1,782	1,960	-	-
392	標準SQL+データベース入門: RDBとDB設計、基本の力 (Tech × Books plus)	2024.10	2,340	2,574	-	-
393	Rではじめるソーシャルメディア分析: Twitterからニュースサイトまで	2019.12	4,230	4,653	-	-
394	Rで学ぶデータ・プログラミング入門: RStudioを活用する	2012.10	2,880	3,168	-	-
395	モダンSQL: データ管理から分析へ	2023.11	-	-	15,840	17,424
396	推薦システム: マトリクス分解の多彩なすがた (統計学One Point 22)	2022.12	-	-	7,590	8,349
397	大規模データのマイニング	2014.07	4,950	5,445	-	-
398	データサイエンスの作法: データを活かし切る科学のツボ	2020.12	-	-	6,600	7,260
399	データ仮説構築: データマイニングを通して	2017.09	-	-	8,250	9,075
400	データ分析とデータサイエンス: DATA ASSAY & DATA SCIENCE	2015.12	-	-	11,550	12,705
401	ファーストステップAI・データサイエンスの基礎	2024.09	-	-	8,250	9,075
402	スッキリわかる数理・データサイエンス・AI	2024.09	-	-	8,250	9,075
403	データマイニングがわかる本: 大量のデータから「知識」「情報」を発掘する! (I/O BOOKS)	2010.12	2,070	2,277	-	-
404	Kaggleに挑む深層学習プログラミングの極意	2023.01	2,340	2,574	-	-
405	PythonではじめるKaggleスタートブック (実践Data Scienceシリーズ)	2020.03	1,800	1,980	-	-
406	データサイエンスはじめの一歩: FIRST STEPS IN DATA SCIENCE	2024.08	1,800	1,980	-	-

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
407	データ解析におけるプライバシー保護(機械学習プロフェッショナルシリーズ)	2016.08	-	-	9,900	10,890
408	データサイエンスリテラシー:応用事例と演習から学ぶ「誰も」が身につけたい力	2022.04	-	-	6,325	6,957
409	Accessのデータベースのツボとコツがゼッタイにわかる本: 2021/2019/Microsoft 365対応(最初からそう教えてくれればいいのに!)	2023.03	1,980	2,178	-	-
410	pandas & Plotly 2D/3Dデータビジュアライゼーション実装ハンドブック: データサイエンティストや機械学習エンジニアのための(Pythonライブラリ定番セレクション)	2024.07	2,970	3,267	-	-
411	Python実践データ分析100本ノック、第2版	2022.06	2,160	2,376	-	-
412	Python実践データ分析課題解決ワークブック	2024.04	2,160	2,376	-	-
413	Python実践データ分析入門キホンの5つの型: 基本型のパターンを正しく身につければどんな応用も怖くない	2022.12	1,800	1,980	-	-
414	Python統計分析&機械学習マスタリングハンドブック: 機械学習エンジニアのための実践解説(Python定番セレクション)	2023.05	2,430	2,673	-	-
415	よくわかる最新Oracleデータベースの基本と仕組み: DBエンジニア&情シスのための基礎知識、第6版(図解入門・How・nual・Visual Guide Book)	2024.03	1,800	1,980	-	-
416	分散SQLクエリエンジンTrino徹底ガイド	2024.03	3,240	3,564	-	-
417	実学としてのデータベース: 基礎から実践まで(新・数理/工学ライブラリ 情報工学=3)	2022.08	1,665	1,831	-	-
418	pandasタックブック: Pythonによるデータ処理のレシピ	2019.02	3,780	4,158	-	-
419	Pythonによる実務で役立つデータサイエンス練習問題200+: 1 アナリティクスの基礎・可視化と実践的テクニック	2023.05	-	-	8,910	9,801
420	Pythonによる実務で役立つデータサイエンス練習問題200+: 2 科学計算の基礎と予測・最適化	2023.05	-	-	10,890	11,979
421	Pythonによる実務で役立つデータサイエンス練習問題200+: 3 機械学習・深層学習	2023.05	-	-	8,910	9,801
422	やってみようアンケートデータ分析: 選択式回答のテキストマイニング流分析	2024.06	-	-	9,240	10,164
423	Python,Rで学ぶデータサイエンス(DIGITAL FOREST)	2020.11	2,160	2,376	-	-
424	Access 2021: 基礎(セミナーテキスト)	2022.12	2,070	2,277	-	-
425	Access 2021: 応用(セミナーテキスト)	2023.03	2,160	2,376	-	-
426	次世代高速オープンソースRDB Tsurugi: Tsurugi公式解説書	2023.10	4,860	5,346	-	-
427	データベース、改訂版(放送大学教材)	2023.03	3,330	3,663	-	-
428	MySQL徹底入門: MySQL 8.0対応、第4版	2020.07	-	-	13,310	14,641
429	SQL1年生データベースのしくみ: SQLiteで体験してわかる!会話でまなべる!(1年生)	2023.10	-	-	7,150	7,865
430	イラストでそこそこわかるSQL: SELECT文と並び替え・集約のきほんのきまで	2020.07	-	-	9,020	9,922
431	おうちで学べるデータベースのきほん: Learn at Home : Basics of Database、第2版	2024.08	2,160	2,376	-	-
432	マルチクラウドデータベースの教科書: クラウドロックインを乗り越えるデータベースの構築ノウハウ	2024.08	3,060	3,366	-	-
433	絵で見てわかるSQL Serverの仕組み	2020.09	-	-	9,350	10,285
434	図解まるわかりデータベースのしくみ	2021.01	-	-	6,050	6,655
435	達人に学ぶDB設計徹底指南書、第2版	2024.08	2,520	2,772	-	-
436	1週間でシステム開発の基礎が学べる本	2023.06	-	-	7,854	8,639
437	情報システムの分析と設計(IT Text)	2022.02	-	-	9,900	10,890
438	プロフェッショナルPython: ソフトウェアデザインの原則と実践(impress top gear)	2021.11	-	-	9,900	10,890
439	軽量Alpine LinuxによるDockerコンテナ構築術: Creating your own container with Alpine Linux(impress top gear)	2021.07	-	-	10,560	11,616
440	機械学習エンジニアのための知財&契約ガイド	2020.07	-	-	7,590	8,349
441	実践ソフトウェアエンジニアリング	2021.12	-	-	26,400	29,040
442	Kubernetesパターン: クラウドネイティブアプリケーションのための再利用可能パターン	2024.09	3,240	3,564	-	-
443	ソフトウェアアーキテクチャ・ハードバージ: 分散アーキテクチャのためのトレードオフ分析	2022.10	3,420	3,762	-	-

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
444	ソフトウェアアーキテクチャの基礎: エンジニアリングに基づく体系的アプローチ	2022.03	3,420	3,762	-	-
445	ソフトウェア設計のトレードオフと誤り: プログラミングの際により良い選択をするには	2023.05	3,420	3,762	-	-
446	ドメイン駆動設計をはじめよう: ソフトウェアの実装と事業戦略を結びつける実践技法	2024.07	3,240	3,564	-	-
447	マイクロサービスアーキテクチャ, 第2版	2022.11	3,600	3,960	-	-
448	実用Git	2024.03	3,780	4,158	-	-
449	入門継続的デリバリー: テストからリリースまでを安全に自動化するソフトウェアデリバリーのプロセス	2024.04	3,420	3,762	-	-
450	脳に収まるコードの書き方: 複雑さを避け持続可能にするための経験則とテクニック	2024.06	3,060	3,366	-	-
451	フリーソフトを用いた音声処理の実際	2018.12	-	-	10,890	11,979
452	関数型ドメインモデリング: ドメイン駆動設計とF#でソフトウェアの複雑さに立ち向かおう	2024.06	3,060	3,366	-	-
453	ABOUT FACE: インタラクションデザインの本質	2024.08	5,391	5,930	-	-
454	AIリスク・マネジメント: 信頼できる機械学習ソフトウェアへの工学的方法論	2022.12	-	-	9,240	10,164
455	ソフトウェア工学から学ぶ機械学習の品質問題	2020.11	-	-	9,240	10,164
456	ゾンビスクラムサバイバルガイド: 健全なスクラムへの道	2022.09	-	-	9,900	10,890
457	ソフトウェア工学の基礎: Foundations of Software Engineering, 改訂新版	2022.06	-	-	12,870	14,157
458	Fluentd実践入門: 統合ログ基盤のためのデータ収集ツール (WEB+DB PRESS plusシリーズ)	2022.10	2,880	3,168	-	-
459	Software Design総集編: 2018~2023	2024.10	2,160	2,376	-	-
460	ソフトウェア開発にChatGPTは使えるのか?: 設計からコーディングまでAIの限界を探る	2023.07	2,880	3,168	-	-
461	読みやすいコードのガイドライン: 持続可能なソフトウェア開発のために	2022.11	2,250	2,475	-	-
462	良いコード/悪いコードで学ぶ設計入門: 保守しやすい成長し続けるコードの書き方	2022.05	2,682	2,950	-	-
463	「Adobe Audition」ではじめる音声編集: 「歌声」から「ゲーム効果音」まで! (I/O BOOKS)	2016.12	1,710	1,881	-	-
464	Audacityではじめる音声編集: 「切り貼り」「ノイズ除去」「ピッチ変更」「エフェクト」… (I/O BOOKS)	2016.02	2,070	2,277	-	-
465	ゼロから学ぶGit/GitHub: 現代的なソフトウェア開発のために	2024.04	2,160	2,376	-	-
466	Good Code,Bad Code: 持続可能な開発のためのソフトウェアエンジニアの思考	2023.02	3,240	3,564	-	-
467	OSCクロニクル: オープンソースカンファレンス年代記	2024.09	1,620	1,782	-	-
468	セキュアなソフトウェアの設計と開発: 脊威モデリングに基づく普遍的アプローチ	2023.09	3,420	3,762	-	-
469	犯罪検査技術を活用したソフトウェア開発手法: フォレンジックアプローチによるソースコード分析	2024.10	2,970	3,267	-	-
470	上流から下流まで生成AIが変革するシステム開発	2024.09	2,340	2,574	-	-
471	要求工学 (放送大学大学院教材)	2024.03	2,790	3,069	-	-
472	アーキテクトの教科書: 値値を生むソフトウェアのアーキテクチャ構築	2024.07	2,520	2,772	-	-
473	実践マイクロサービスAPI: どのようにマイクロサービスを構築し、APIを使ってそれらを統合・推進するのか (Programmer's SELECTION)	2023.10	3,420	3,762	-	-
474	動かして学ぶ!Git入門: バージョン管理の基本をしっかり習得 (NEXT ONE 新定番の技術をしっかり学べる)	2021.11	-	-	7,920	8,712
475	新しいLinuxの教科書, 第2版	2024.04	2,700	2,970	-	-
476	できるCopilot in Windows: Windows 11/10対応	2024.04	-	-	5,610	6,171
477	オペレーティングシステム (工学基礎シリーズ)	2022.09	-	-	8,910	9,801
478	Efficient Linuxコマンドライン: 開発と自分に磨きをかけるLinuxのテクノロジー	2023.11	2,700	2,970	-	-
479	詳解システム・パフォーマンス, 第2版	2023.01	5,400	5,940	-	-
480	入門eBPF: Linuxカーネルの可視化と機能拡張	2023.12	2,700	2,970	-	-

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
481	入門モダンLinux: オンプレミスからクラウドまで、幅広い知識を会得する	2023.04	2,520	2,772	-	-
482	基礎からしっかり学ぶLinux入門	2022.01	2,412	2,653	-	-
483	試して理解Linuxのしくみ: 実験と図解で学ぶOS、仮想マシン、コマンドの基礎知識、増補改訂版	2022.10	2,880	3,168	-	-
484	自作OSで学ぶマイクロカーネルの設計と実装: マイクロカーネルの深淵を知り、骨太なスキルを身に付ける	2023.06	3,240	3,564	-	-
485	Linuxカーネルの教科書: 動かしながらゼロから学ぶ、第2版	2024.07	2,880	3,168	-	-
486	コマンドラインの黒い画面が怖いんです。: 新人エンジニアのためのコマンドが使いこなせる本	2024.04	1,980	2,178	-	-
487	PyTorch自然言語処理プログラミング: word2vec/LSTM/seq2seq/BERTで日本語テキスト解析! (impress top gear)	2021.03	-	-	9,240	10,164
488	BERTによる自然言語処理入門: Transformersを使った実践プログラミング	2021.06	-	-	8,910	9,801
489	Javaで学ぶ自然言語処理と機械学習	2018.09	2,340	2,574	-	-
490	自然言語処理と深層学習: C言語によるシミュレーション	2017.03	-	-	8,250	9,075
491	自然言語処理の基礎 (IT Text)	2022.08	-	-	9,900	10,890
492	機械学習エンジニアのためのTransformers: 最先端の自然言語処理ライブラリによるモデル開発	2022.08	3,600	3,960	-	-
493	AI翻訳革命: あなたの仕事に英語学習はもういらない	2022.08	1,620	1,782	-	-
494	生成AIをWord & Excel & PowerPoint & Outlookで自在に操る超実用VBAプログラミング術	2024.02	-	-	7,590	8,349
495	文科系のためのコンピュータリテラシー: Microsoft Officeによる、第8版 (Information & Computing ex.49)	2023.12	1,782	1,960	-	-
496	誰でも作れるセンスのいいパワポ: PowerPointデザインテクニック	2023.02	-	-	5,940	6,534
497	ChatGPT API × Excel VBA自動化仕事術: AIとワークシートを連携させるテクニック (できるビジネス)	2023.09	-	-	7,260	7,986
498	できるイラストで学ぶ入社1年目からのExcel VBA、増強改訂版	2024.02	-	-	6,864	7,550
499	仕事がはかかるPython & Excel自動処理全部入り、改訂2版 (できる全部入り)	2024.08	-	-	7,260	7,986
500	Python in Excelではじめるデータ分析入門	2024.08	2,160	2,376	-	-
501	Excel集計・抽出テクニック大全集、改訂新版	2023.08	2,880	3,168	-	-
502	たった1日で即戦力になるExcelの教科書、改訂第3版	2024.03	1,620	1,782	-	-
503	たった1秒で仕事が片づくExcel自動化の教科書、改訂第3版	2024.03	1,800	1,980	-	-
504	工学のためのVBAプログラミング: 数値計算編	2024.04	-	-	6,649	7,313
505	よくわかるJavaScript入門: はじめてでもつまずかないJavaScriptプログラミング	2024.09	-	-	5,197	5,716
506	よくわかるJava入門: はじめてでもつまずかないJavaプログラミング	2023.10	-	-	5,197	5,716
507	よくわかるPython入門	2022.09	-	-	5,197	5,716
508	シリコンバレー流プログラマーが教えるPythonプロフェッショナル大全	2022.08	2,340	2,574	-	-
509	C言語〈完全〉入門	2022.06	2,430	2,673	-	-
510	Java〈完全〉入門	2024.03	2,412	2,653	-	-
511	Pythonで学ぶはじめてのプログラミング入門教室: 「数」と「計算」でプログラミングの本質を理解する!	2023.12	1,980	2,178	-	-
512	これからのJavaScriptの教科書: モダンJavaScriptを基礎から実用レベルまで	2024.06	2,880	3,168	-	-
513	確かな力が身につくC#「超」入門、第3版	2023.11	2,430	2,673	-	-
514	確かな力が身につくPython「超」入門、第2版	2022.03	2,160	2,376	-	-
515	新・解きながら学ぶC言語、第2版	2022.02	1,980	2,178	-	-
516	新・明解C言語: 中級編、第2版	2022.09	2,250	2,475	-	-
517	新・明解Pythonで学ぶアルゴリズムとデータ構造	2020.01	2,160	2,376	-	-

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
518	アルゴリズムの基礎: Introduction to Algorithms, 第3版	2023.09	2,700	2,970	-	-
519	1週間でPythonの基礎が学べる本	2020.03	-	-	7,920	8,712
520	ChatGPT API × Pythonで始める対話型AI実装入門: GPT-3.5 & GPT-4対応	2023.10	-	-	8,250	9,075
521	Go言語100Tips: ありがちなミスを把握し、実装を最適化する (impress top gear)	2023.08	-	-	11,880	13,068
522	MuleSoftで学ぶAPIシステム連携ガイドブック	2023.06	-	-	11,220	12,342
523	Pythonで学ぶアルゴリズムの教科書: 一生モノの知識と技術を身につける	2021.03	-	-	8,085	8,893
524	Pythonで学ぶ音源分離: Sound Source Separation with Python (機械学習実践シリーズ)	2020.08	-	-	11,550	12,705
525	Pythonで学ぶ音声合成: Text - to - speech with Python (機械学習実践シリーズ)	2021.08	-	-	11,550	12,705
526	Python基礎 & 実践プログラミング: プロへのスキルアップ+プロジェクトサンプル (impress top gear)	2020.02	-	-	11,880	13,068
527	Scalaスケーラブルプログラミング, 第4版 (impress top gear)	2021.06	-	-	15,180	16,698
528	インタプリタの作り方: 言語設計/開発の基本と2つの方式による実装	2023.10	-	-	17,820	19,602
529	エンジニアのためのChatGPT活用入門: AIで作業負担を減らすためのアイデア集	2023.12	-	-	8,250	9,075
530	スッキリわかるJava入門: 實践編, 第4版	2024.02	-	-	9,900	10,890
531	スラスラ読めるJavaScriptふりがなプログラミング, 増補改訂版	2022.08	-	-	6,534	7,187
532	スラスラ読めるPythonふりがなプログラミング, 増補改訂版	2021.07	-	-	6,534	7,187
533	つなげば動く!Pythonふりがなプログラミングパターン文例80	2020.07	-	-	7,260	7,986
534	パソコンで楽しむ自分で動かす人工知能: やってみて、理解する!	2017.08	-	-	5,346	5,880
535	プログラマーなら知っておきたい40のアルゴリズム: 定番・最新系をPythonで実践! (impress top gear)	2021.10	-	-	11,880	13,068
536	生成AI時代の新プログラミング実践ガイド: Pythonで学ぶGPTとCopilotの活用ベストプラクティス	2024.02	-	-	9,900	10,890
537	初心者からちゃんとしたプロになるPython基礎入門	2023.05	-	-	8,580	9,438
538	ChatGPTによるPythonプログラミング入門: AI駆動開発で実現する社内業務の自動化	2024.06	-	-	7,590	8,349
539	C言語によるプログラミング: Programming in C: 基礎編, 第3版	2020.11	-	-	7,920	8,712
540	MESHではじめるIoTプログラミング: 〈うれしい〉 〈たのしい〉 〈おもしろい〉 を創作しよう	2019.05	2,070	2,277	-	-
541	Pythonで学ぶはじめてのAIプログラミング: 自然言語処理と音声処理	2020.09	-	-	8,910	9,801
542	Pythonによるアルゴリズム入門	2020.09	-	-	10,560	11,616
543	サウンドエフェクトのプログラミング: Cによる音の加工と音源合成	2012.10	-	-	8,580	9,438
544	プログラミングElixir, 第2版	2020.11	-	-	11,220	12,342
545	実践JavaScript!: プログラミングを楽しみながらしっかり身につける	2024.03	-	-	9,900	10,890
546	Binary Hacks Rebooted: 低レイヤの世界を探検するテクニック89選	2024.08	3,600	3,960	-	-
547	C#クックブック: プロフェッショナル開発者のためのモダンレシピ	2023.02	3,240	3,564	-	-
548	C++ソフトウェア設計: 高品質設計の原則とデザインパターン	2023.10	3,600	3,960	-	-
549	Effective Python: Pythonプログラムを改良する90項目, 第2版	2020.07	3,240	3,564	-	-
550	Go言語による分散サービス: 信頼性、拡張性、保守性の高いシステムの構築	2022.08	2,880	3,168	-	-
551	Head Firstデザインパターン: 頭とからだで覚えるデザインパターンの基本, 第2版	2022.06	4,320	4,752	-	-
552	Python Distilled: プログラミング言語Pythonのエッセンス	2023.10	3,240	3,564	-	-
553	Pythonクイックリファレンス, 第4版	2024.06	4,320	4,752	-	-
554	Pythonチュートリアル, 第4版	2021.01	1,620	1,782	-	-

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
555	PythonとJavaScriptではじめるデータビジュアライゼーション	2017.08	3,420	3,762	-	-
556	Rustの練習帳: コマンドラインツールの作成を通してRustを学ぶ	2024.01	3,240	3,564	-	-
557	Rクックブック, 第2版	2020.01	3,240	3,564	-	-
558	インタラクティブ・データビジュアライゼーション: D3.jsによるデータの可視化	2014.02	2,520	2,772	-	-
559	オブジェクト設計スタイルガイド	2023.07	2,880	3,168	-	-
560	サイバーセキュリティプログラミング: Pythonで学ぶハッカーの思考, 第2版	2022.04	2,880	3,168	-	-
561	ハイパーモダンPython: 信頼性の高いワークフローを構築するモダンテクニック	2024.09	3,060	3,366	-	-
562	ハイパフォーマンスPython, 第2版	2023.04	3,510	3,861	-	-
563	プログラミングC#, 第8版	2021.06	4,320	4,752	-	-
564	プログラミングRust, 第2版	2022.01	4,320	4,752	-	-
565	プログラミング言語AWK, 第2版	2024.05	2,970	3,267	-	-
566	プログラミング文体練習: Pythonで学ぶ40のプログラミングスタイル	2023.06	2,700	2,970	-	-
567	マステリングGhidra: 基礎から学ぶリバースエンジニアリング完全マニュアル	2022.05	4,320	4,752	-	-
568	マステリングLinuxシェルスクリプト: Linuxコマンド、bashスクリプト、シェルプログラミング実践入門	2022.12	2,700	2,970	-	-
569	ルールズ・オブ・プログラミング: より良いコードを書くための21のルール	2023.08	2,520	2,772	-	-
570	ロバストPython: クリーンで保守しやすいコードを書く	2023.03	3,240	3,564	-	-
571	効率的なGo: データ指向によるGoアプリケーションの性能最適化	2024.02	4,320	4,752	-	-
572	実用Go言語: システム開発の現場で知っておきたいアドバイス	2022.04	3,240	3,564	-	-
573	初めてのGo言語: 他言語プログラマーのためのイディオマティックGo実践ガイド	2022.09	3,240	3,564	-	-
574	詳解Rustアトミック操作とロック: 並行処理実装のための低レイヤプログラミング	2023.11	2,880	3,168	-	-
575	退屈なことはPythonにやらせよう: ノンプログラマーにもできる自動化処理プログラミング, 第2版	2023.03	3,510	3,861	-	-
576	並行プログラミング入門: Rust、C、アセンブリによる実装からのアプローチ	2021.08	2,880	3,168	-	-
577	C++基本プログラミング講座: 安心で安全なC++プログラム開発の手引き	2024.06	2,520	2,772	-	-
578	FFTWと音響処理: FFTWライブラリの利用とWAVファイルの扱い	2017.07	2,880	3,168	-	-
579	Pythonサウンド・オーディオプログラミング: MIDIとWAVEサウンドのプログラミング	2023.11	1,800	1,980	-	-
580	Pythonで学ぶWAVプログラミング	2020.08	3,600	3,960	-	-
581	Pythonで文書処理: 資料のPDF化、文字認識、検索、その他さまざまな作業をプログラミングで解決	2021.10	3,060	3,366	-	-
582	Pythonライブラリの使い方: GUIから機械学習プログラミングまで, 第2版	2023.01	3,240	3,564	-	-
583	WAVプログラミング: C言語で学ぶ音響処理, 増補版	2011.08	3,780	4,158	-	-
584	アセンブリWAVプログラミング: SIMDによる高速化と音響処理	2010.07	3,420	3,762	-	-
585	やさしいAIプログラミング入門: Pythonで学ぶAIの仕組みと応用	2024.08	2,160	2,376	-	-
586	やさしいインターフェリタの作り方入門: Pythonで学ぶ言語とインターフェリタの設計と実装	2024.10	2,340	2,574	-	-
587	IoT言語AJANで学ぶ本格I/O制御入門: 初心者向け: EtherCAT編 (ガリバーBOOKS)	2024.07	3,582	3,940	-	-
588	IoT言語AJANで実現現場のDXみえる化入門 (ガリバーBOOKS)	2023.12	1,800	1,980	-	-
589	IoT言語AJANハンドブック	2020.12	3,582	3,940	-	-
590	IoT言語AJANハンドブック: Vol.2	2022.12	4,050	4,455	-	-
591	1から始めるJuliaプログラミング	2020.04	-	-	8,910	9,801

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
592	MATLABで学ぶ実践画像・音声処理入門	2019.09	-	-	8,580	9,438
593	Pythonで学ぶ実践画像・音声処理入門	2018.04	-	-	8,250	9,075
594	Pythonによるアルゴリズムとデータ構造の基礎	2020.06	-	-	8,580	9,438
595	Pythonによるアルゴリズム設計: Algorithm Design with Python	2022.09	-	-	8,580	9,438
596	Python版つくって学ぶProcessingプログラミング入門	2020.01	-	-	7,920	8,712
597	デジタル音響信号処理入門: Pythonによる自主演習(音響入門シリーズB-4)	2022.10	-	-	7,590	8,349
598	プログラムがコンピュータで動く仕組み: ハードウェア記述言語・CPUアーキテクチャ・アセンブラー・コンバイラ超入門	2021.11	-	-	8,580	9,438
599	楽しく学ぶみんなのCプログラミング: 基礎からしっかり学ぼう (Information & Computing 121)	2020.12	2,160	2,376	-	-
600	ChatGPTによるプログラム制御入門: Introduction to program control using ChatGPT	2024.01	3,114	3,425	-	-
601	Pythonでデータを視覚化する: Google Colabで簡単に!	2023.03	-	-	14,740	16,214
602	いちばんやさしいPython入門教室: 豊富なカラー図解とイラストで超わかる!, 改訂第2版	2023.09	2,232	2,455	-	-
603	Python+JSONデータ活用の奥義: 公共データ取得&活用からAI作成まで。	2023.01	2,700	2,970	-	-
604	Pythonでつくるデスクトップアプリ: メモ帳からスケレイビング・生成AI利用まで	2024.07	2,700	2,970	-	-
605	生成AI・ChatGPTでPythonプログラミング アウトプットを10倍にする!: GPT4 & GPT3.5対応	2023.08	2,700	2,970	-	-
606	エキスパートPythonプログラミング, 改訂4版	2023.07	3,510	3,861	-	-
607	関数型デザイン: 原則、パターン、実践	2024.05	3,420	3,762	-	-
608	OpenAI GPT-4/ChatGPT/LangChain人工知能プログラミング実践入門	2023.06	3,240	3,564	-	-
609	OpenAI Gym/Baselines深層学習・強化学習人工知能プログラミング実践入門: レトロゲーム、Unityゲーム、マインクラフト、スタークラフト2、ロボット制御、FX・株トレードを攻略	2020.02	2,880	3,168	-	-
610	ChatGPTで身につけるPython: AIと、目指せプロ級!	2024.05	2,151	2,366	-	-
611	きれいなPythonプログラミング: クリーンなコードを書くための最適な方法 (Compass Programming)	2022.02	2,952	3,247	-	-
612	プログラマーのためのVisual Studio Codeの教科書: 業界標準エディターで、より自在に、効率的にコードを操る!, 改訂2版 (Compass Programming)	2024.06	2,511	2,762	-	-
613	競技プログラミングの鉄則: アルゴリズム力と思考力を高める77の技術 (Compass Algorithms)	2022.09	3,042	3,346	-	-
614	実践力をアップするPythonによるアルゴリズムの教科書 (Compass Algorithms)	2023.06	-	-	9,834	10,817
615	実践力を身につけるPythonの教科書, 第2版	2024.09	2,421	2,663	-	-
616	大規模データセットのためのアルゴリズムとデータ構造 (Compass Algorithms)	2024.07	3,420	3,762	-	-
617	AIプラットフォームとライブラリによる生成AIプログラミング	2024.05	2,340	2,574	-	-
618	Python/JavaScriptによるOpenAIプログラミング	2023.08	-	-	7,150	7,865
619	データ可視化プログラミング (データサイエンス大系)	2021.03	1,800	1,980	-	-
620	作りながら丁寧に学ぶPythonプログラミング入門	2022.05	2,160	2,376	-	-
621	プログラミング言語の形式的意味論入門	2023.01	4,050	4,455	-	-
622	Azure OpenAI ServiceではじめるChatGPT/LLMシステム構築入門 (エンジニア選書)	2024.02	2,880	3,168	-	-
623	C++ポケットリファレンス, 改訂第5版 (Pocket Reference)	2024.05	2,880	3,168	-	-
624	C言語によるはじめてのアルゴリズム入門, 改訂第5版	2023.10	2,700	2,970	-	-
625	C言語プログラミングの初步の初步 (新・標準プログラマーズライブラリ)	2024.09	2,520	2,772	-	-
626	Pythonコードレシピ集: スグに使えるテクニック302	2021.02	2,412	2,653	-	-
627	Pythonでチャレンジするプログラミング入門: もう挫折しない!10の壁を越えてプログラマーになろう	2023.02	1,980	2,178	-	-
628	Pythonで学ぶアルゴリズムとデータ構造徹底理解 (新・標準プログラマーズライブラリ)	2024.03	2,448	2,692	-	-

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
629	Pythonによる「プログラミング的思考」入門: プログラマーなら知っておきたい必須の知識	2024.05	2,340	2,574	-	-
630	Pythonによるはじめてのアルゴリズム入門: アルゴリズム解説書の決定版!	2024.01	2,880	3,168	-	-
631	Pythonによる問題解決のためのアルゴリズム設計技法	2020.11	3,132	3,445	-	-
632	Pythonプログラミング完全入門: ノンプログラマーのための実務効率化テキスト	2021.08	2,880	3,168	-	-
633	Python実践レシピ: Python Practical Recipes	2022.02	2,430	2,673	-	-
634	Python実践入門: 言語の力を引き出し、開発効率を高める (WEB+DB PRESS plusシリーズ)	2020.02	2,682	2,950	-	-
635	Rubyコードレシピ集: スグに使えるテクニック290	2024.09	3,060	3,366	-	-
636	Rustで作るプログラミング言語: コンパイラ/インタプリタの基礎からプログラミング言語の新潮流まで	2024.06	3,060	3,366	-	-
637	Rが生産性を高める: データ分析ワークフロー効率化の実践	2022.02	2,610	2,871	-	-
638	Visual Studioバーフェクトガイド, 改訂新版	2024.07	2,700	2,970	-	-
639	VTuberサーが教える!Python初心者のコード/プロのコード	2024.08	2,340	2,574	-	-
640	これからはじめるPython入門講座: 文法から機械学習までの基本を理解	2023.01	2,430	2,673	-	-
641	コンセプトから理解するRust	2022.02	2,880	3,168	-	-
642	サウンドプログラミング入門: 音響合成の基本とC言語による実装 (Software Design plusシリーズ)	2013.03	2,682	2,950	-	-
643	シェルスクリプト基本リファレンス: #!/bin/shで、ここまでできる, 改訂第4版 (Tech×Books plusシリーズ)	2024.05	2,430	2,673	-	-
644	バーフェクトRust (PERFECT SERIES 11)	2023.03	3,420	3,762	-	-
645	プログラミング言語大全: Encyclopedia of Programming Languages	2020.05	1,620	1,782	-	-
646	プロになるJava: 仕事で必要なプログラミングの知識がゼロから身につく最高の指南書	2022.04	2,682	2,950	-	-
647	プロを目指す人のためのTypeScript入門: 安全なコードの書き方から高度な型の使い方まで (Software Design plusシリーズ)	2022.05	2,682	2,950	-	-
648	現場のPython: Webシステム開発から、機械学習・データ分析まで (WEB+DB PRESS plusシリーズ)	2024.09	2,880	3,168	-	-
649	作って学ぶコンピューターアーキテクチャ: LLVMとRISC-Vによる低レイヤプログラミングの基礎	2022.07	3,240	3,564	-	-
650	試してわかるPython〈基礎〉入門 (新・標準プログラマーズライブラリ)	2021.12	2,412	2,653	-	-
651	「PureData」はじめめるサウンド・プログラミング: 「音」「映像」のための「ビジュアル・プログラミング」言語 (I/O BOOKS)	2015.02	1,710	1,881	-	-
652	PythonによるOpenCV4画像処理プログラミング+Webアプリ入門	2021.11	3,600	3,960	-	-
653	WPF/C#によるOpenCV 4プログラミング: リッチなUIと高度な画像処理の融合	2023.07	3,780	4,158	-	-
654	実践OpenCV 4 for Python: 画像映像情報処理と機械学習	2021.01	3,780	4,158	-	-
655	マンガとイラストでわかる!GPU最適化入門	2021.03	1,980	2,178	-	-
656	OpenCVはじめようディープラーニングによる画像認識: OpenCV 4対応	2022.05	3,060	3,366	-	-
657	画像処理アルゴリズム入門: 「フィルタ処理」「情報取得」の〈仕組み〉〈実践〉〈応用〉 (I/O BOOKS)	2018.03	2,070	2,277	-	-
658	OpenCVによる画像処理入門: Introduction to Image Processing with OpenCV, 改訂第3版	2022.12	2,520	2,772	-	-
659	ProcessingによるCGとメディアアート	2018.12	2,880	3,168	-	-
660	1冊ですべて身につくHTML & CSSとWebデザイン入門講座, 第2版	2024.03	2,115	2,326	-	-
661	1冊ですべて身につくJavaScript入門講座	2023.03	2,286	2,514	-	-
662	Amazon Bedrock生成AIアプリ開発入門: AWS深掘りガイド	2024.06	3,150	3,465	-	-
663	この一冊で全部わかるWeb技術の基本, 第2版 (イラスト図解式・わかりやすさにこだわった -)	2024.07	1,620	1,782	-	-
664	LangChain完全入門: 生成AIアプリケーション開発がはかかる大規模言語モデルの操作方	2023.10	-	-	9,570	10,527
665	スッキリわかるサーブレット & JSP入門, 第4版	2024.04	-	-	9,900	10,890

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
666	ノーコードシフト: プログラミングを使わない開発へ	2021.06	-	-	5,280	5,808
667	業界1年生が必ず身に付けたいウェブ制作・運用のリテラシー: 業界1年生	2024.09	-	-	7,260	7,986
668	デジタルメディアデザイン見本帳: WebデザインからUI・空間体験・メタバースまで	2023.06	-	-	12,540	13,794
669	初心者からちゃんとしたプロになるWebデザイン基礎入門, 改訂2版	2023.10	-	-	8,580	9,438
670	JavaScript基礎ドリル穴埋め式	2020.11	-	-	6,600	7,260
671	RubyではじめるWebアプリの作り方: 開発の流れをつかみ、コマンドラインからWebアプリ実装までを体験して学ぶ	2021.11	-	-	10,890	11,979
672	AWSではじめる生成AI: RAGアプリケーション開発から、基盤モデルの微調整、マルチモーダルAI活用までを試して学ぶ	2024.07	3,060	3,366	-	-
673	ハッキングAPI: Web APIを攻撃から守るためのテスト技法	2023.03	3,600	3,960	-	-
674	図解まるわかりWeb技術のしくみ	2021.04	-	-	6,050	6,655
675	WAYS OF BEING人間以外の知性	2024.05	3,510	3,861	-	-
676	AIに意識は生まれるか: Will AI be conscious?	2023.10	1,800	1,980	-	-
677	Pythonで学ぶ効果検証入門: Learn Impact Evaluation With Python	2024.05	-	-	9,900	10,890
678	スケジューリング実務標準	2009.10	3,429	3,771	-	-
679	ISO21500から読み解くプロジェクトマネジメント	2018.11	2,250	2,475	-	-
680	プロジェクトマネジメントハンドブック: PROJECT MANAGEMENT HANDBOOK	2009.09	8,550	9,405	-	-
681	プロジェクトマネジメント標準PMBOK入門: PMBOK第7版対応版, 第5版	2022.11	-	-	7,260	7,986
682	PMBOKには書いていないプロジェクトマネジメントの技術	2020.11	1,512	1,663	-	-
683	ストーリーでつかむ!プロジェクトマネジメントの原則	2022.09	1,512	1,663	-	-
684	ビジネスプロデューサーの仕事: 多彩なタレントを束ねプロジェクトを成功に導く	2022.01	-	-	6,600	7,260
685	計画力の鍛え方: チームでも、個人でも、ムダなく滞らせらず結果を出す	2018.07	-	-	4,620	5,082
686	ゼロから身につくプロジェクトを成功させる本:はじめてのプロジェクトマネジメント	2023.08	1,620	1,782	-	-
687	リーダーになったら最初に読むプロジェクトを成功させる技術!: 図解とマンガでわかる(マジビジPRO)	2013.10	-	-	5,280	5,808
688	グローバル人材に贈るプロジェクトマネジメント	2013.07	2,250	2,475	-	-
689	PMBOK第7版の知識と手法がこれ1冊でしっかりわかる教科書(図解即戦力)	2024.10	1,800	1,980	-	-
690	よく分かるPower BI: データを可視化して業務効率化を成功させる方法	2023.10	-	-	7,260	7,986
691	ゼロトラストアーキテクチャ入門: Introduction to Zero Trust Architecture	2023.04	2,178	2,395	-	-
692	Outside Insight: 競争優位を導く「ネットデータ活用」戦略	2019.06	2,070	2,277	-	-
693	AIビジネス大全: How to introduce AI for your business	2022.12	2,250	2,475	-	-
694	サイバーセキュリティ戦記: NTTグループの取組みと精鋭たちの挑戦	2023.06	1,980	2,178	-	-
695	Microsoft Power BI〈実践〉入門: BI初心者でもすぐできる!リアルタイム分析・可視化の手引きとリファレンス	2023.10	2,340	2,574	-	-
696	BIツールを使ったデータ分析のポイント	2023.07	2,160	2,376	-	-
697	Microsoft Power BIの教科書: 基本操作からレポート作成までわかる!, 第2版	2023.08	1,980	2,178	-	-
698	ISO/IEC 27001情報セキュリティマネジメントシステム〈ISMS〉構築・運用の実践, 第2版	2024.01	2,610	2,871	-	-
699	個人情報保護マネジメントシステム導入・実践ガイドブック: JIS Q 15001: 2023	2024.02	4,050	4,455	-	-
700	AIOps入門: AIを用いてIT運用の効率化・高度化を実現させるための手法	2023.02	1,998	2,197	-	-
701	ITアーキテクト入門: Introduction to Information Technology Architect	2024.09	2,898	3,187	-	-
702	エンジニアじゃない人が欲しいシステムを手に入れるためにすべきこと: What non-engineers should do to get the system they want	2024.10	1,980	2,178	-	-

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
703	ITプロジェクトの危険予知訓練: 100の失敗事例に学ぶ!!	2009.11	2,340	2,574	-	-
704	エンジニアが学ぶ金融システムの「知識」と「技術」, 第2版	2023.11	-	-	10,120	11,132
705	ディープラーニング入門: Pythonではじめる金融データ解析 (FinTechライブラリー)	2018.05	-	-	11,880	13,068
706	Web調査の簡易作成・管理システム : QCAS: 教育・研究のための携帯電話・パソコンによる	2011.09	1,800	1,980	-	-
707	計量社会学入門: 社会をデータでよむ	2015.12	2,520	2,772	-	-
708	アンケート調査の計画と解析	2022.02	2,610	2,871	-	-
709	図解アンケート調査と統計解析がわかる本: 調査設計から調査票の作成、実査、集計、分析技術まで, 新版	2012.01	1,890	2,079	-	-
710	プロジェクト学習で始めるアクティブラーニング入門: テーマ決定からプレゼンテーションまで, 改訂	2019.12	-	-	6,600	7,260
711	未来を創る「プロジェクト学習」のデザイン	2018.09	2,250	2,475	-	-
712	データサイエンティストのための数学基礎: ベクトルからベイズ統計まで (ライブラリデータサイエンス講義ノート 6)	2024.04	1,890	2,079	-	-
713	数式をプログラムするってつまりこういうこと: Pythonによるデータ分析のための数学再入門	2020.09	2,520	2,772	-	-
714	Designing Math.: 数学とデザインをむすぶプログラミング入門	2022.01	2,250	2,475	-	-
715	形式論理と計算可能性: Formal Logic and Computability (東京大学工学教程 情報工学)	2024.09	2,160	2,376	-	-
716	Pythonで学ぶ線形代数学	2020.04	2,880	3,168	-	-
717	やさしく語る線形代数 (数学チュートリアル)	2012.10	-	-	7,590	8,349
718	ガイダンス線形代数 (ライブラリ新数学基礎テキスト TK1)	2021.12	1,665	1,831	-	-
719	幾何学的な線形代数: 基礎概念から幾何構造まで (SGCライブラリ 168)	2021.05	1,890	2,079	-	-
720	線形代数を基礎とする応用数理入門: 最適化理論・システム制御理論を中心に (SGCライブラリ 187)	2023.10	2,520	2,772	-	-
721	高校レベルからはじめる!やさしくわかる線形代数	2022.03	1,800	1,980	-	-
722	編入を目指す線形代数	2024.03	3,240	3,564	-	-
723	大学1年生もバッタリ分かる線形代数入門	2021.07	1,890	2,079	-	-
724	スバラシク実力がつくと評判の演習線形代数キャンパス・ゼミ, 改訂8	2023.10	1,962	2,158	-	-
725	スバラシク実力がつくと評判の線形代数キャンパス・ゼミ: 大学の数学がこんなに分かる!単位なんて楽に取れる!, 改訂12	2024.06	2,142	2,356	-	-
726	初めから解ける演習線形代数キャンパス・ゼミ: 大学数学入門編	2024.01	1,800	1,980	-	-
727	初めから学べる線形代数キャンパス・ゼミ: 大学数学入門編	2023.11	1,800	1,980	-	-
728	行列 Matrix: グラスマンに学ぶ線形代数入門, 第2版	2020.05	1,980	2,178	-	-
729	線形代数学, 第2版	2022.02	1,800	1,980	-	-
730	線形代数入門, 第2版	2024.03	1,575	1,732	-	-
731	応用がみえる線形代数 (Iwanami Mathematics)	2020.02	-	-	7,920	8,712
732	線形代数: LINEAR ALGEBRA (理工系の数学入門コース新装版)	2019.11	2,340	2,574	-	-
733	線形代数: LINEAR ALGEBRA (理工系の基礎数学新装版)	2022.11	2,970	3,267	-	-
734	線形代数演習: LINEAR ALGEBRA (理工系の数学入門コース/演習新装版)	2020.04	2,700	2,970	-	-
735	信号処理のための線形代数入門: 特異値解析から機械学習への応用まで	2019.11	-	-	9,240	10,164
736	数値線形代数の数理とHPC (シリーズ応用数理 第6巻)	2018.08	-	-	14,850	16,335
737	線形の世界: 線形代数学への入り口 (早稲田大学全学基盤教育シリーズ)	2023.03	-	-	5,610	6,171
738	線形代数の基礎講義: Introduction to Linear Algebra	2017.04	-	-	7,260	7,986
739	大学新入生のための線形代数入門	2014.10	-	-	6,600	7,260

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
740	スッキリわかる線形代数: 解法テクニックつき	2011.01	-	-	8,250	9,075
741	ストラング: 教養の線形代数 (世界標準MIT教科書)	2023.03	-	-	18,480	20,328
742	ストラング: 線形代数イントロダクション (世界標準MIT教科書)	2015.12	-	-	26,400	29,040
743	ストラング: 線形代数とデータサイエンス (世界標準MIT教科書)	2021.10	-	-	24,750	27,225
744	基礎からスッキリわかる線形代数: アクティブ・ラーニング実践例つき	2019.05	-	-	8,580	9,438
745	Response微分積分 & 線型代数	2022.01	-	-	6,050	6,655
746	アントンのやさしい線型代数, 新装版	2020.01	2,610	2,871	-	-
747	行列と幾何学: 図を見てわかる線形代数, 復刻版	2022.12	-	-	5,775	6,352
748	新修線形代数, 新装版	2023.10	-	-	8,250	9,075
749	線型空間と線型写像 (現数Select No.7)	2024.04	-	-	7,425	8,167
750	線型代数と固有値問題: スベクトル分解を中心に, 新装版改訂増補	2019.10	-	-	8,525	9,377
751	線型代数の発想: 数学ターミナル, 新訂2版	2023.02	-	-	8,800	9,680
752	線型代数対話: 第1巻 圏論的集合論	2021.03	-	-	5,775	6,352
753	線型代数対話: 第2巻 モノイドの線型代数	2022.03	-	-	4,950	5,445
754	線型代数対話: 第3巻 量系のテンソル積	2023.05	-	-	7,150	7,865
755	線型代数対話: 第4巻 自然数論	2024.09	-	-	5,500	6,050
756	対話・おもしろ線形代数	2020.03	-	-	5,225	5,747
757	Pythonでしっかり学ぶ線形代数: 行列の基礎から特異値分解まで	2023.01	2,340	2,574	-	-
758	カーラーテキスト線形代数	2013.11	-	-	4,200	4,620
759	単位が取れる線形代数ノート, 改訂第2版 (単位が取れるシリーズ)	2020.11	-	-	7,200	7,920
760	線形代数, 新版 改訂版 (新版数学シリーズ)	2021.07	-	-	4,950	5,445
761	線形代数演習, 新版 改訂版 (新版数学シリーズ)	2021.07	-	-	2,365	2,601
762	文系のための線形代数・微分積分: 数学の面白さ/はじめての線形代数/はじめての微分積分/数学史(専門基礎ライブラリー)	2011.01	-	-	5,500	6,050
763	テキストブック線形代数	2019.07	-	-	3,960	4,356
764	ライブ感あふれる線形代数講義: Lectures on Linear Algebra	2024.02	2,160	2,376	-	-
765	手を動かしてまなぶ線形代数	2015.11	-	-	4,125	4,537
766	手を動かしてまなぶ線形代数: 続	2021.11	-	-	4,620	5,082
767	線形代数学入門: 平面上の1次変換と空間図形から	2016.02	-	-	3,960	4,356
768	線形代数講義: Lectures on Linear Algebra	2020.01	2,880	3,168	-	-
769	Pythonハンズオンによるはじめての線形代数	2021.09	2,160	2,376	-	-
770	線形代数, 第2版 (高専テキストシリーズ)	2021.11	-	-	4,675	5,142
771	線形代数, 第2版 (工学系数学テキストシリーズ)	2021.12	-	-	5,225	5,747
772	線形代数: ベクトルからベクトル空間・線形写像まで	2017.09	-	-	7,150	7,865
773	線形代数と幾何: ベクトル・行列・行列式がよくわかる	2015.09	-	-	6,050	6,655
774	線形代数: 大学教養 (数研講座シリーズ)	2019.12	2,250	2,475	-	-
775	線形代数: 大学教養 (チャート式シリーズ)	2020.05	2,520	2,772	-	-
776	線形代数の基礎: 大学教養 (数研講座シリーズ)	2021.12	2,250	2,475	-	-

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
777	線形代数の基礎: 大学教養 (チャート式シリーズ)	2022.05	2,520	2,772	-	-
778	ステップ&チェック線形代数 (新・数理/工学ライブラリ 理工基礎数学=1)	2023.11	1,755	1,930	-	-
779	線形代数, 第2版 (LIBRARY工学基礎 & 高専TEXT T2)	2022.11	1,485	1,633	-	-
780	新線形代数: Linear Algebra, 改訂版	2021.11	-	-	5,445	5,989
781	すぐわかる線形代数, 改訂新版	2023.10	1,980	2,178	-	-
782	線形代数講義: 行列のヒミツがわかる!使える!	2013.12	-	-	9,570	10,527
783	文系学部のための線形代数と微分積分	2022.02	-	-	8,250	9,075
784	明解線形代数, 改訂版	2015.03	-	-	8,910	9,801
785	線形代数概論: Linear Algebra	2023.01	3,420	3,762	-	-
786	線形代数学30講, 改訂増補版	2023.03	1,800	1,980	-	-
787	線形代数学講義, 増補版	2023.01	2,250	2,475	-	-
788	明解線形代数, 改訂版	2024.03	1,890	2,079	-	-
789	要点明解線形数学, 3訂版	2022.04	2,250	2,475	-	-
790	線形代数 (理工数学シリーズ)	2024.02	1,800	1,980	-	-
791	Pythonで動かして学ぶ!あたらしい線形代数の教科書: 線形代数の基本をPythonプログラムとセットでしっかり学べる! (AI & TECHNOLOGY)	2023.08	-	-	9,350	10,285
792	多変数の制御・解析・最適化に使える行列論	2022.01	-	-	15,180	16,698
793	固有値計算と特異値計算 (計算力学レクチャーコース)	2019.12	-	-	13,860	15,246
794	理系のための行列・行列式: めざせ!理論と計算の完全マスター (数学のかんどころ・ここがわかれれば数学はこわくない! - 2)	2011.06	-	-	5,610	6,171
795	線形代数 行列と行列式: 大学入門ドリル	2010.07	-	-	4,858	5,343
796	基礎からの微分積分	2014.03	-	-	7,920	8,712
797	微積分学入門, 改訂	2018.02	-	-	7,590	8,349
798	微分積分講義テキスト: Textbook for Calculus Courses	2017.08	-	-	8,250	9,075
799	アトラクティブ微分積分学 (ライブラリ新数学基礎テキスト T2)	2024.04	2,025	2,227	-	-
800	コア・テキスト微分積分, 第2版 (ライブラリ数学コア・テキスト 2)	2022.11	1,665	1,831	-	-
801	ふたたびの微分・積分: 眠っていた数学脳がよみがえる!	2014.04	-	-	7,260	7,986
802	妥協しないデータ分析のための微積分+線形代数入門: 定義と公式、その背景にある理由、考え方から使い方まで完全網羅!	2024.10	2,520	2,772	-	-
803	中学レベルからはじめる!やさしくわかる微分積分	2024.09	2,160	2,376	-	-
804	微分と積分: 基本から応用まで、「知識ゼロ」から理解できる (Newtonプレミア保存版シリーズ)	2023.02	2,855	3,140	-	-
805	1変数の微分積分	2020.03	3,240	3,564	-	-
806	2変数の微分積分	2021.03	1,980	2,178	-	-
807	学び楽しむ微積分	2020.11	3,060	3,366	-	-
808	スバラシク実力がつくと評判の演習微分積分キャンバス・ゼミ, 改訂7	2023.10	1,917	2,108	-	-
809	スバラシク実力がつくと評判の微分積分キャンバス・ゼミ: 大学の数学がこんなに分かる!単位なんて楽に取れる!, 改訂10	2024.06	2,142	2,356	-	-
810	初めから解ける演習微分積分キャンバス・ゼミ: 大学数学入門編	2024.01	1,800	1,980	-	-
811	初めから学べる微分積分キャンバス・ゼミ: 大学数学入門編	2023.11	1,800	1,980	-	-
812	わかりやすい微分積分	2020.02	2,250	2,475	-	-
813	根底から理解する微分積分学入門, 第2版	2022.01	2,070	2,277	-	-

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
814	基礎からの微分積分学入門、第4版	2024.03	2,250	2,475	-	-
815	学生のためのデータリテラシー: データの読み方から分析結果の伝え方まで	2021.03	-	-	4,950	5,445
816	Excelで手を動かしながら学ぶ数理最適化: ベストな意思決定を導く技術	2023.07	-	-	5,940	6,534
817	統計学の基礎から学ぶExcelデータ分析の全知識: 現場で役立つ本物のExcelスキル(できるビジネス)	2021.03	-	-	5,940	6,534
818	Excelで学ぶ多変量解析入門: 次世代の解析手法「拡張型数量化1類」を解説、新装版	2023.08	-	-	10,890	11,979
819	ExcelとRによる例題で学ぶ統計モデル・データ解析入門: 最小2乗法から最尤法へ	2024.05	-	-	10,560	11,616
820	Java & Python最適化・制約充足の問題解法: Problem solving for optimization and constraint satisfaction with Java and Python	2022.11	-	-	11,880	13,068
821	Pythonではじめる数理最適化: ケーススタディでモデリングのスキルを身につけよう、第2版	2024.03	-	-	9,900	10,890
822	Python意思決定の数理入門: Mathematics of Decision Making with Python	2022.08	-	-	11,220	12,342
823	Rで学ぶデータサイエンス: データマイニングの基礎から深層学習まで	2018.07	-	-	8,250	9,075
824	RとPythonで学ぶ統計学入門	2021.05	-	-	9,900	10,890
825	Rによるデータ分析のレシピ: SCIENCE AND ENGINEERING Recipes	2020.11	-	-	7,920	8,712
826	Rによる極値統計学	2020.05	3,600	3,960	-	-
827	フリー統計ソフトEZR〈Easy R〉でカンタン統計解析: サラっとできる!	2020.11	-	-	8,580	9,438
828	マンガでわかる数理最適化	2024.05	-	-	8,580	9,438
829	因果推論: 基礎から機械学習・時系列解析・因果探索を用いた意思決定のアプローチ	2024.03	-	-	13,860	15,246
830	今こそExcelで学ぶ統計解析入門	2024.08	-	-	8,250	9,075
831	凸解析と最適化理論	2021.09	-	-	10,560	11,616
832	Juliaによる数理最適化	2023.05	-	-	10,560	11,616
833	経営科学のための確率統計入門	2022.06	-	-	9,240	10,164
834	組合せ最適化への招待: モデルとアルゴリズム (SGCライブラリ 192)	2024.07	2,160	2,376	-	-
835	ネットワーク科学入門: Pythonで学ぶデータ分析とモデリング	2023.12	4,050	4,455	-	-
836	わかりやすい統計学: データサイエンス応用	2023.02	-	-	7,920	8,712
837	確率・統計: 1 (東京大学工学教程 基礎系数学)	2013.10	1,980	2,178	-	-
838	確率・統計: 2 (東京大学工学教程 基礎系数学)	2018.01	2,250	2,475	-	-
839	確率・統計: 3 (東京大学工学教程 基礎系数学)	2020.08	2,700	2,970	-	-
840	Pythonで学ぶ確率統計(探検データサイエンス)	2023.10	-	-	10,560	11,616
841	データサイエンスのための確率統計(探検データサイエンス)	2021.07	-	-	8,910	9,801
842	確率と統計: 一から学ぶ数理統計学(数学のかんどころ・ここがわかれれば数学はこわくない! - 39)	2021.07	-	-	6,270	6,897
843	測度論からの数理統計学: Mathematical Statistics from the Measure Theoretical Point of View	2023.09	-	-	8,250	9,075
844	ベイズ最適化: 適応的実験計画の基礎と実践	2023.08	-	-	12,540	13,794
845	最適化のための強化学習(Pythonによる問題解決シリーズ3)	2024.09	2,880	3,168	-	-
846	AMOS、EQS、CALISによるグラフィカル多変量解析: 目で見る共分散構造分析、新装版	2020.08	-	-	8,250	9,075
847	ゼロからできるMCMC: マルコフ連鎖モンテカルロ法の実践的入門	2020.06	2,700	2,970	-	-
848	確率統計、新版 改訂版(新版数学シリーズ)	2021.03	-	-	4,950	5,445
849	確率統計演習、新版 改訂版(新版数学シリーズ)	2021.03	-	-	2,365	2,601
850	確率統計: Probability and Statistics、第2版(高専テキストシリーズ)	2022.12	-	-	4,950	5,445

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
851	確率統計: PROBABILITY AND STATISTICS, 第2版 (工学系数学テキストシリーズ)	2023.06	-	-	4,950	5,445
852	確率統計入門: モデル化からその解析へ	2020.03	-	-	6,050	6,655
853	数理計画入門: 最適化の数理モデルとアルゴリズム, 第3版	2024.10	2,970	3,267	-	-
854	ゲーム理論トレーニング: あなたの頭を「勝負頭脳」に切り換える, 新版	2024.05	1,530	1,683	-	-
855	BayoLinkSで実践するベイジアンネットワーク	2023.07	-	-	11,220	12,342
856	Rで学ぶVAR実証分析: 時系列分析の基礎から予測まで, 改訂2版	2024.06	4,500	4,950	-	-
857	実践時系列解析: 統計と機械学習による予測	2021.09	3,240	3,564	-	-
858	時系列解析入門: 線形システムから非線形システムへ, 第2版 (SGCライブラリ 160)	2020.06	1,980	2,178	-	-
859	Pythonによる時系列予測 (Compass Data Science)	2023.10	3,420	3,762	-	-
860	Rによる時系列モデリング入門	2020.12	-	-	12,540	13,794
861	基礎からわかる時系列分析: Rで実践するカルマンフィルタ・MCMC・粒子フィルタ (Data Science Library)	2018.04	3,582	3,940	-	-
862	ファジィ時系列解析 (統計学One Point 8)	2018.07	-	-	7,260	7,986
863	時系列解析 (統計学One Point 4)	2017.09	-	-	7,260	7,986
864	イベント時系列解析入門 (統計スポットライト・シリーズ 6)	2023.05	-	-	8,580	9,438
865	実験計画と分散分析のはなし: 効率よい計画とデータ解析のコツ, 第3版	2024.04	1,980	2,178	-	-
866	科学技術計算のためのPython: 確率・統計・機械学習	2016.12	-	-	13,200	14,520
867	1週間で学べる!Julia数値計算プログラミング: Julia Programming for Numerical Computation : A One - week Course	2022.06	2,700	2,970	-	-
868	Python科学技術計算: 物理・化学を中心に (DIGITAL FOREST)	2023.11	4,680	5,148	-	-
869	現場で使える!Python科学技術計算入門: NumPy/SymPy/SciPy/pandasによる数値計算・データ処理手法 (AI & TECHNOLOGY)	2020.05	-	-	11,550	12,705
870	あたらしい脳科学と人工知能の教科書 (AI & TECHNOLOGY)	2021.01	-	-	10,120	11,132
871	ひたすら楽して音響信号解析: MATLABで学ぶ基礎理論と実装	2021.02	-	-	8,580	9,438
872	感性工学とAI、VRへの応用	2021.10	2,250	2,475	-	-
873	技術者のプロマネ!「ミッション遂行力」入門 (B&Tブックス)	2013.02	1,980	2,178	-	-
874	インダストリーX.0: 製造業の「デジタル価値」実現戦略	2017.09	1,800	1,980	-	-
875	グラフ信号処理の基礎と応用: ネットワーク上データのフーリエ変換, フィルタリング, 学習 (次世代信号情報処理シリーズ 5)	2023.01	-	-	12,540	13,794
876	M2M/IoT教科書 (インプレス標準教科書シリーズ)	2015.05	4,230	4,653	-	-
877	実践IoT: 小規模システムの実装からはじめるIoT入門	2018.09	-	-	9,240	10,164
878	ネットワーク自動化とプログラマビリティ: 次世代ネットワークエンジニアのためのスキルセット	2022.02	3,510	3,861	-	-
879	IoTシステム開発スタートアップ: プロトタイプで全レイヤをつなぐ	2017.05	2,340	2,574	-	-
880	ワイヤレスIoTプランナーテキスト: 「MCPCワイヤレスIoTプランナー検定基礎」対応: 基礎編, 第2版	2022.07	1,800	1,980	-	-
881	IoTエンジニア養成読本: IoTシステムの複雑な全体像をひもとく情報満載!, 改訂新版 (Software Design plus ガッチャリ!最新技術)	2019.07	1,692	1,861	-	-
882	マスタリングTCP/IP: 情報セキュリティ編, 第2版	2022.06	-	-	10,560	11,616
883	AWSネットワーク入門: Introducing Amazon Virtual Private Cloud Connectivity, 第2版 (impress top gear)	2022.10	-	-	9,240	10,164
884	画像処理と画像認識: AI時代の画像処理入門	2022.10	-	-	10,230	11,253
885	IoTデバイス設計・実装: AVRマイコンとPythonではじめよう	2015.09	-	-	7,590	8,349
886	進化するヒトと機械の音声コミュニケーション	2015.09	37,800	41,580	-	-
887	みんなのIoT: Learning IoT with Python & Raspberry Pi	2018.02	2,052	2,257	-	-

No.	書名詳細	発行日	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)
888	Pythonによる時系列分析: 予測モデル構築と企業事例	2023.06	-	-	13,200	14,520
889	確率思考の戦略論: USJでも実証された数学マーケティングの力	2016.05	2,880	3,168	-	-
890	データサイエンティストの秘密ノート: 35の失敗事例と克服法	2016.11	1,620	1,782	-	-
891	AI・データ分析モデルのレシピ (SCIENCE AND ENGINEERING Recipes)	2021.06	-	-	8,580	9,438
892	データドリブンマーケティングがうまくいく仕組み	2023.04	1,692	1,861	-	-
893	データサイエンティスト養成読本: ビジネス活用編 ビジネスを成功に導くデータ分析組織とは? (Software Design plusシリーズ 10年先も役立つ力をつくる)	2018.11	1,782	1,960	-	-
894	データサイエンティスト養成読本: R活用編 ビジネスデータ分析の現場で役立つ知識が満載! (Software Design plus 10年先も役立つ力をつくる)	2015.01	1,782	1,960	-	-
895	データサイエンティスト養成読本: 機械学習入門編 ビッグデータ時代のビジネスを支える最新知識が満載! (Software Design plusシリーズ 10年先も役立つ力をつくる)	2015.10	2,052	2,257	-	-
896	データサイエンティスト養成読本: プロになるためのデータ分析力が身につく!, 改訂2版 (Software Design plusシリーズ 10年先も役立つ力をつくる)	2016.09	1,782	1,960	-	-
897	データサイエンティスト養成読本: 登竜門編 データ分析の新常識/ビギナーのための必須スキルが満載! (Software Design plusシリーズ 10年先も役立つ力をつくる)	2017.04	1,782	1,960	-	-
898	最強囮碁AIアルファ碁解体新書: アルファ碁ゼロ対応, 増補改訂版 (AI & TECHNOLOGY)	2018.07	-	-	9,680	10,648
899	音声言語処理入門: 図解・音声・動画でわかる	2024.04	2,520	2,772	-	-
900	環境と健康データ～リスク評価のデータサイエンス～(データサイエンス・シリーズ)	2002/06/25	3,150	3,465	-	-
901	Rによる環境データの統計分析～森林分野での応用～(シリーズ<統計科学のプラクティス> 7)	2012/01/30	3,150	3,465	-	-
902	環境問題の数理科学入門	2010/09/29	2,430	2,673	-	-
903	シリーズG I S<第5巻> 社会基盤・環境のためのG I S	2009/03/20	3,420	3,762	-	-
904	地理空間情報を活かす授業のためのGIS教材 改訂版	2021/11/01	2,340	2,574	-	-
905	地理情報科学～GISスタンダード～	2015/03/01	2,700	2,970	-	-
906	Rではじめよう!生態学・環境科学のためのデータ分析超入門	2024/06/28	2,970	3,267	-	-
907	GIS地理情報システム(やさしく知りたい先端科学シリーズ 8)	2021/08/20	1,620	1,782	-	-
908	最新GIS<地理情報システム>のビジネス活用がよくわかる本～各種データを位置情報と紐づけ可視化～(図解入門ビジネス)	2022/10/28	1,530	1,683	-	-
909	デジタルヘルスケア(やさしく知りたい先端科学シリーズ 5)	2020/02/20	1,620	1,782	-	-
910	事例で学ぶ経済・政策分析のためのGIS入門	2022/10/12	3,150	3,465	-	-
911	業務で使うQGIS Ver.3完全使いこなしガイド 改訂版	2022/11/01	6,120	6,732	-	-
	小計		1,512,501		3,185,799	
	消費税		151,250		318,579	
	合計		1,663,751		3,504,378	

資料35

雑誌購入予定リスト

No.	商品名	出版社名	見積価格 (税抜)	見積価格 (税込)	刊期	年間発 刊回数
1	シミュレーション 季刊 (冊子)	日本シミュレーション学会	11,880	13,068	季刊	4
2	可視化情報学会誌 (本誌のみ) 年3回 (冊子)	可視化情報学会	6,247	6,871	年3回	3
3	人工知能 隔月 (冊子)	オーム社	12,960	14,256	隔月	6
4	電気学会誌 月刊 (冊子)	オーム社	27,000	29,700	月刊	12
5	電子情報通信学会誌 月刊 (冊子)	オーム社	27,054	29,759	月刊	12
6	月刊 統計 (冊子)	日本統計協会	9,720	10,692	月刊	12
7	ソフトウェアデザイン 月刊 (冊子)	技術評論社	15,336	16,869	月刊	12
8	インターフェース 月刊 (冊子)	C Q出版株式会社	14,040	15,444	月刊	12
9	トランジスタ技術 月刊 (冊子)	C Q出版株式会社	11,212	12,333	月刊	12
10	経営情報学会誌 季刊 (冊子)	国際文献社	11,389	12,527	季刊	4
	小計		146,838			
	消費税		14,683			
	合計		161,521			

資料36

大學組織職務權限規程

第 1 章 總 則

(趣旨)

第 1 条 この規程は、文京学院大学（以下「本学」という。）の組織および職務権限を明確に定め、その管理運営の適正を期することを目的とする。

(基 本)

第 2 条 本学の管理運営に関しては、法令、寄附行為、就業規則、学則その他別段の定めがある場合のほか、この規程の定めるところによる。

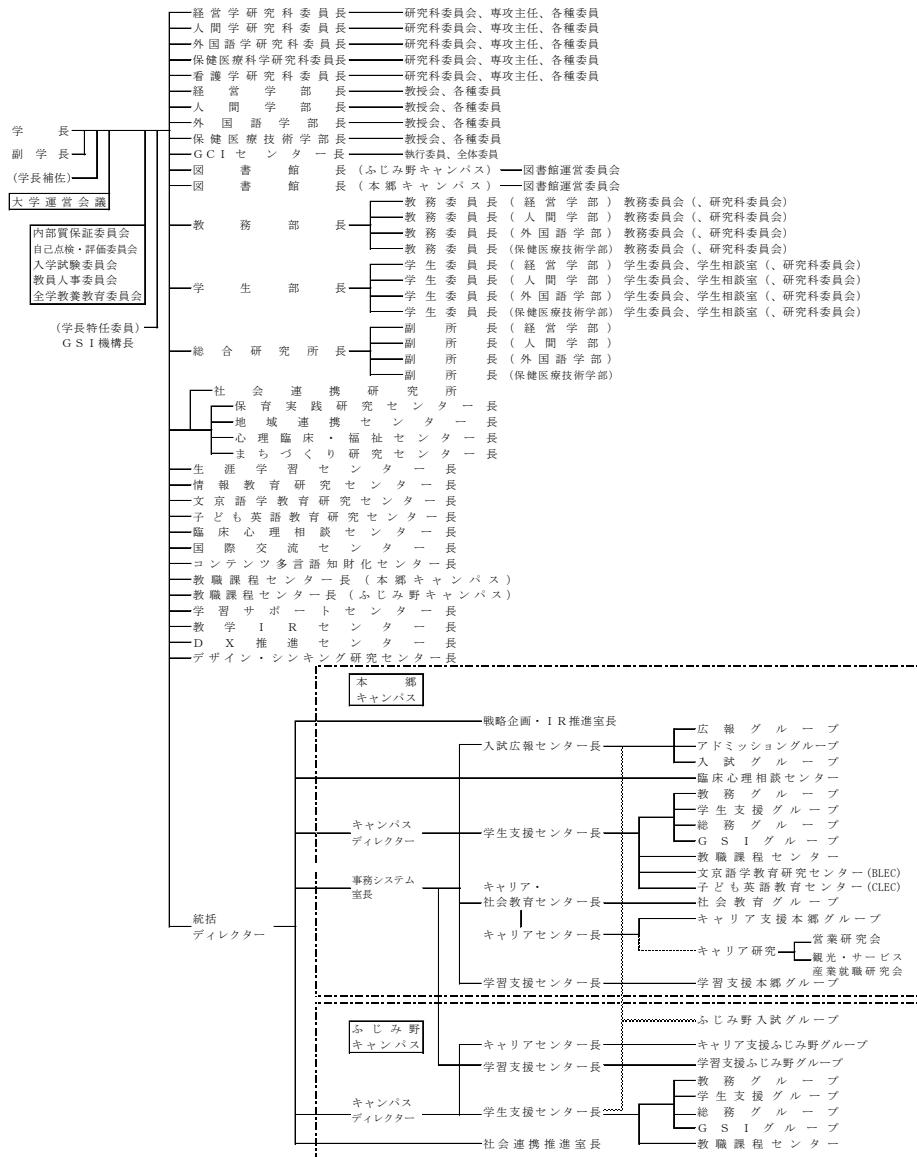
(職員)

第 3 条 本学の職員は学則の定めるところによる。

第 2 章 運營組織

(運営組織)

第 4 条 本学の運営組織を次のとおり定める。



(教育・研究組織)

第 5 条 本学の基本組織を次のとおり定める。

1 研究科、学部・学科および専攻

大学院 経営学研究科	経営学専攻
大学院 人間学研究科	人間学専攻、心理学専攻
大学院 外国語学研究科	英語コミュニケーション専攻
大学院 保健医療科学研究科	保健医療科学専攻
大学院 看護学研究科	看護学専攻
経営学部	経営コミュニケーション学科
人間学部	コミュニケーション社会学科
	児童発達学科
	人間福祉学科
	心理学科
外国語学部	英語コミュニケーション学科
保健医療技術学部	理学療法学科
	作業療法学科
	臨床検査学科
	看護学科

2 図書館

(1) 図書館については、別に定める規程による。

3 研究所等

(1) 総合研究所については、別に定める規程による。

(2) 生涯学習センターについては、別に定める規程による。

(3) 情報教育研究センターについては、別に定める規程による。

(4) 保育実践センターについては、別に定める規程による。

(5) 文京語学教育研究センターについては、別に定める規程による。

(6) 子ども語学教育センターについては、別に定める規程による。

(7) 心理臨床・福祉センターについては、別に定める規程による。

(8) 臨床心理相談室については、別に定める規程による。

(9) G S I 機構及びG C I センターについては、別に定める規程による。

(10) 国際交流センターについては、別に定める規程による。

(11) コンテンツ多言語知財化センターについては、別に定める規程による。

(12) 地域連携センターについては、別に定める規程による。

(13) 教職課程センターについては、別に定める規定による。

(14) まちづくり研究センターについては、別に定める規程による。

(15) 学習サポートセンターについては、別に定める規程による。

(16) 教学I Rセンターについては、別に定める規程による。

(17) D X推進センターについては、別に定める規程による。

(18) 社会連携研究所については、別に定める規程による。

(19) デザイン・シンキング研究センターについては、別に定める規程による。

4 大学に大学運営会議、研究科に研究科委員会、学部に教授会を置く。

第 3 章 大学に属する職員および職務

(学長)

第 6 条 学長は、大学の校務を掌り、所属の職員その他を統督し、この大学を代表する。

2 学長は、理事会の推薦に基づき理事長が任命する。

3 学長の任期は、4年とする。ただし、再任を妨げない。

(副学長)

第 7 条 本学に、副学長を置くことができる。

2 副学長は、学長を補佐し、学長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 副学長は、学長の推薦に基づき理事長が任命する。

4 副学長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(学長補佐)

第 8 条 学長の職務を補佐するため、学長補佐を置くことがある。

2 学長補佐は、学長に命じられた諸事項を遂行する。

3 学長補佐は、大学教職員のうちから学長の推薦に基づき、理事長が任命する。

4 学長補佐の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

(研究科委員長)

第 9 条 大学院研究科に研究科委員長を置く。

2 研究科委員長は、学長を補佐し、当該研究科の諸事項を管掌する。

3 研究科委員長は、大学院担当の教授のうちから学長の推薦に基づき理事長が任命する。

4 研究科委員長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(学部長)

第 10 条 学部に学部長を置く。

2 学部長は、学長を補佐し、当該学部の諸事項を管掌する。

3 学部長は、教授のうちから学長の推薦に基づき理事長が任命する。

4 学部長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(図書館長)

第 11 条 図書館長は、学長の命を受け所管事項を掌り、図書館を代表する。

2 図書館長は、教授のうちから学長の推薦に基づき理事長が任命する。

3 図書館長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(学科長)

第 12 条 学科に学科長を置くことができる。

2 学科長は、当該学科の教授のうちから、学長が学部長と合議のうえ、理事長に推薦し、理事長がこれを任命する。学科運営上特に必要な場合は、准教授をもってこれに充てることがある。

3 学科長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(学部長補佐)

第 13 条 学部に学部長補佐を臨時に置くことができる。

2 学部長補佐は、学部長を補佐する。

3 学部長補佐は、学長の推薦に基づき理事長が任命する。

4 学部長補佐の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(教務部長)

- 第14条 教務部長は、学長の命を受け所管事項を掌る。
- 2 教務部長は、教授のうちから学長の推薦に基づき理事長が任命する。
 - 3 教務部長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(学生部長)

- 第15条 学生部長は、学長の命を受け所管事項を掌る。
- 2 学生部長は、教授のうちから学長の推薦に基づき理事長が任命する。
 - 3 学生部長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(研究所長、副所長、主任研究員および研究員)

- 第16条 研究所に、研究所長、副所長、主任研究員および研究員を置く。
- 2 前項の職務・選任方法・任期等については、研究所規程による。

(G S I 機構長、G C I センター長、国際交流センター長)

- 第17条 G C I センターにセンター長、国際交流センターにセンター長を置く。全体の統括と連携を図るため、G S I (グローバルスタディーズ・インスティテュート)機構長を学長特任委員として配置し、副学長相当の権限を与える。
- 2 前項の職務・選任方法・任期等については、各センター規程による。

(生涯学習センター所長、副所長および事務職員)

- 第18条 生涯学習センターに、所長、副所長および事務職員を置く。
- 2 前項の職務・選任方法・任期等については、センター規程による。

(情報教育研究センター長、副センター長、主任研究員、研究員および事務職員)

- 第19条 情報教育研究センターに、センター長、副センター長、主任研究員、研究員および事務職員を置く。
- 2 前項の職務・選任方法・任期等については、センター規程による。

(文京語学教育研究センター長および職員)

- 第20条 語学教育研究センターに、センター長および職員を置く。
- 2 前項の職務・選任方法・任期等については、センター規程による。

(子ども英語教育センター長および職員)

- 第21条 子ども英語教育センターに、センター長および職員を置く。
- 2 前項の職務・選任方法・任期等については、センター規程による。

(心理臨床・福祉センター長および職員)

- 第22条 心理臨床・福祉センターに、センター長および職員を置く。
- 2 前項の職務・選任方法・任期等については、センター規程による。

(臨床心理相談室長および職員)

- 第23条 臨床心理相談室に、室長および職員を置く。
- 2 前項の職務・選任方法・任期等については、センター規程による。

(保育実践研究センター長および職員)

- 第24条 保育実践研究センターに、センター長および職員を置く。
- 2 前項の職務・選任方法・任期等については、センター規程による。

(コンテンツ多言語知財化センター長および職員)

- 第25条 コンテンツ多言語知財化センターに、センター長および職員を置く。
- 2 前項の職務・選任方法・任期等については、センター規程による。

(地域連携センター長および職員)

第26条 地域連携センターに、センター長および職員を置く。

2 前項の職務・選任方法・任期等については、センター規程による。

(教職課程センター長および職員)

第27条 教職課程センターに、センター長及び職員を置く。

2 前項の職務・選任方法・任期等については、センター規程による。

(まちづくり研究センター長および職員)

第28条 まちづくり研究センターに、センター長および職員を置く。

2 前項の職務・選任方法・任期等については、センター規程による。

(学習サポートセンター長および職員)

第29条 学習サポートセンターに、センター長および職員を置く。

2 前項の職務・選任方法・任期等については、センター規程による。

(教学I Rセンター長および職員)

第30条 教学I Rセンターに、センター長および職員を置く。

2 前項の職務・選任方法・任期等については、センター規程による。

(D X推進センター長および職員)

第31条 D X推進センターに、センター長および職員を置く。

2 前項の職務・選任方法・任期等については、センター規程による。

(社会連携研究所長および職員)

第32条 社会連携研究所に、研究所長および職員を置く。

2 前項の職務・選任方法・任期等については研究所規程による。

(デザイン・シンキング研究センター長および職員)

第33条 デザイン・シンキング研究センターに、センター長および職員を置く。

2 前項の職務・選任方法・任期等についてはセンター規程による。

(専攻主任および各種委員会委員長および委員)

第34条 大学院研究科に専攻主任を置く。

2 専攻主任は、当該専攻の教務をつかさどる。

3 専攻主任は、研究科長が任命する。

4 専攻主任の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

5 大学院研究科の各種委員会の委員長および委員または担当、大学または学部の各種委員会の委員長および委員または担当の選任方法・任期・職務については、それぞれの規程で示すところによる。

(学長特任委員)

第35条 学長の特任事項を遂行するため、学長特任委員を置くことがある。

2 学長特任委員は、学長に委嘱された事項を遂行する。

3 学等特任委員は、大学教職員のうちから、学長が任命する。

4 学長特任委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(教員)

第36条 教授は、建学の精神に遵い学生を教授し、その研究を指導したは研究に従事する。

2 准教授は、教授の職務を助けまたは教授に準ずる職務に従事する。

3 助教は、教授または准教授に準ずる職務に従事する。

4 助手は、教授、准教授または助教の職務を助ける。

(事務局統括ディレクター・キャンパスディレクター・キャンパスディレクター補佐)

第37条 大学事務局は、学生を支援することを第一の目的とし、学生の支援センター制として運営する。

- 2 事務局には責任者として統括ディレクター（統括ディレクター（事務局長））を置く。また、キャンパスを円滑に運営するため各キャンパスにキャンパスディレクターを置く。また、キャンパスディレクター補佐を置く場合がある。統括ディレクターに事故あるときは、キャンパスディレクターがその職務を代行する。
- 3 統括ディレクターおよびキャンパスディレクターは、学長の命を受け事務局各支援センターを運営し、所属センター長を指揮監督する。キャンパスディレクター補佐はキャンパスディレクターを補佐する。
- 4 統括ディレクター・キャンパスディレクター・キャンパスディレクター補佐は、理事会の承認を得て理事長が任命する。

(事務システム室長)

第38条 統括ディレクターのもとに事務システム室長を置く。

- 2 事務システム室長は、学長および統括ディレクターの命を受け、事務系システムに関する事項を行い。所属職員を指揮監督する。
- 3 事務システム室長は、事務職員のうちから理事長が任命する。

(社会連携推進室長)

第39条 統括ディレクターのもとに社会連携推進室長を置く。

- 2 社会連携推進室長は、学長および統括ディレクターの命を受け、社会連携事業に関する事項を行い、所属職員を指揮監督する。
- 3 社会連携推進室長は、事務職員のうちから理事長が任命する。

(戦略企画・IR推進室)

第40条 統括ディレクターのもとに戦略企画・IR推進室長を置く。

- 2 戦略企画・IR推進室長は、学長および統括ディレクターの命を受け、戦略企画・IR推進室に関する事項を行い。所属職員を指揮監督する。
- 3 戦略企画・IR推進室長は、事務職員のうちから理事長が任命する。

(事務局各支援センター長)

第41条 キャンパスディレクターのもとに事務局各支援センター長を置く。

- 2 事務局各支援センター長は、キャンパスディレクターを補佐し、キャンパスディレクターに事故あるときは、その職務を代行する。また、センター長のもとにセンター長補佐を置くことがある。
- 3 事務局各支援センター長は、学長および統括ディレクター、キャンパスディレクターの命を受け、学生支援（教務事務に関する事項、学生生活に関する事項、国際交流に関する事項、大学の庶務・会計事務・施設設備に関する事項）、学生のキャリア支援（就職、資格取得等に関する事項）、学習支援（図書館に関する事項、情報教育研究に関する事項）、社会教育に関する事項（大学院学生の教務に関する事項、社会人の生涯学習に関する事項、各官庁等からの委託訓練学習等に関する事項）、学生募集（学生募集・入試・広報に関する事項）、その他関連する事項を行い、各所属センター員を指揮監督する。
- 4 事務局各支援センター長及びセンター長補佐は、事務職員のうちから理事会の承認を

得て理事長が任命する。

(室長、次長、主幹、主事等)

第42条 事務局各支援センターには、室長、次長、主幹、主事等を置くことができる。

2 室長、次長、主幹、主事等は、事務職員のうちから理事長が任命する。

(マネジャー)

第43条 事務局各支援センターには、担当する業務文章に基づき、グループを置く。各グループには、マネジャーを置く。また、マネジャー補佐を置くことがある。

2 マネジャーは、各支援センター長の命を受け所管事務を掌り、所属員を指揮監督する。マネジャーは、事務職員のうちから理事長が任命する。

3 各グループ部には、そのグループの代表となるマネジャーの他に、業務を特定した特命マネジャーを置くことがある。また、各グループを統括するための統括マネジャーを置く場合がある。

4 統括マネジャーおよび特命マネジャー、マネジャー補佐は、事務職員のうちから理事長が任命する。

(アシスタントマネジャー、チーフ)

第44条 各グループにアシスタントマネジャーおよびチーフ等を置くことができる。

2 アシスタントマネジャー、チーフ等は、マネジャーの命を受けて所管業務を処理する。
3 アシスタントマネジャー、チーフ等は、事務職員のうちから理事長が任命する。

(事務職員および技術職員)

第45条 事務職員および技術職員は、本学の教務事務に関する事項および学生の大学生活およびキャリア指導に関する事項、大学の庶務・会計事務に関する事項、図書館に関する事項、情報教育に関する事項、国際交流に関する事項、社会人教育に関する事項、学生募集・入試広報に関する事項、地域連携に関する事項、事務システムに関する事項、その他大学運営に関する事項を行い、学生を支援する。

(学生寮の寮監)

第46条 学生寮の寮監は、学生寮に関する職務を行う。

2 寮監は、専任教員の中から理事長が任命する。

(用務職員)

第47条 用務職員は、本学の教育施設・設備の清掃、維持補修、その他所属センター長の指示により職務を遂行する。

(職員の採用、配置)

第48条 職員の採用は、理事会の承認を得て理事長が行う。

2 職員の各サービスセンター等への配置は、理事長が行う。

(職員の勤務部署の移動)

第49条 職員の事務局各支援センター間の配置転換を行う場合は、理事長の承認を得て、ディレクターが行う。

2 職員の各グループ間の配置転換を行う場合は、ディレクターの承認を得て、各支援センター長が行う。

3 職員の担当業務の変更を行う場合は、各支援センター長の承認を経て、各マネジャーが行う。

4 配置転換、移動、担当変更に関する記録は、各長が報告書としてまとめ、法人事務局

総務部長に届ける。

(職員の異動)

第50条 職員の昇格、降格については理事会の承認を経て理事長が行う。

(中途採用者の任期)

第51条 任期の付された役職に中途で就任した者の任期は、前任者の残存期間とする。

第4章 管理者の職務権限

(学長)

第52条 学長は、本法人設立の趣旨ならびに建学の精神、理事会で定められた方針ならびに計画を体し、その他規則、規程等に従い大学の業務を管理する責任があり、その遂行に必要な権限を有する。

(副学長)

第53条 副学長は、大学の方針、規則、規程ならびに承認された計画に従って大学の業務を推進し、学長を補佐する責任があり、その業務の遂行に必要な権限を有する。

2 副学長は、その職務の遂行にあたっては、学長の指導を受け助言を仰ぐものとする。

(研究科委員長および学部長、学科長)

第54条 研究科委員長および学部長は、大学の方針、規則、規程ならびに承認された計画に従って当該研究科または学部内の業務を管理する責任があり、その業務の遂行に必要な権限を有する。

2 研究科委員長および学部長は、その職務の遂行にあたっては、学長の指導を受け助言を仰ぐものとする。

3 学部の必要性によって学部に学科長が置かれた場合、学科長は当該学部長を補佐し、当該学科の運営にあたる。学科長は、大学・学部の方針、規則、規程ならびに承認された計画等に従って当該学科の業務を遂行する任あたる。

(学長補佐および学長特任委員)

第55条 学長補佐および学長特任委員は、大学の方針、規則、規程ならびに承認された計画に承認された計画に従って大学の業務を推進し、学長を助ける。

2 学長補佐および学長特任委員は、その職務の遂行にあたっては、学長の指導を受け助言を仰ぐものとする。

3 学長補佐および学長特任委員は、学長に委嘱された範囲で、その職務遂行の権限を有する。

(図書館長)

第56条 図書館長は、大学の方針、規則、規程等ならびに承認された計画に従って所管業務を管理する責任があり、その業務の遂行に必要な権限を有する。

2 図書館長は、その職務の遂行に当っては、学長の指導を受け助言を仰ぐものとする。

3 図書館長は、研究科委員長、学部長および統括ディレクター（事務局長）との協調を常に心掛けねばならない。

(教務部長)

第57条 教務部長は、大学の方針、規則、規程等ならびに承認された計画に従って所管業務を管理する責任があり、その業務の遂行に必要な権限を有する。

2 教務部長は、その職務の遂行に当っては、学長の指導を受け助言を仰ぐものとする。

3 教務部長は、研究科委員長、学部長および統括ディレクター（事務局長）との協調を常に心掛けねばならない。

(学生部長)

第58条 学生部長は、大学の方針、規則、規程等ならびに承認された計画に従って所管業務を管理する責任があり、その業務の遂行に必要な権限を有する。

2 学生部長は、その職務の遂行に当っては、学長の指導を受け助言を仰ぐものとする。

3 学生部長は、研究科委員長、学部長および統括ディレクター（事務局長）との協調を常に心掛けねばならない。

(研究所長他付属機関等の長)

第59条 研究所長他付属機関等の長は、大学の方針、規則、規程等ならびに承認された計画に従って所管業務を管理する責任があり、その業務の遂行に必要な権限を有する。

2 研究所長他付属機関等の長は、その職務の遂行に当っては、学長の指導を受け助言を仰ぐものとする。

3 研究所長他付属機関等の長は、研究科委員長、学部長および統括ディレクター（事務局長）との協調を常に心掛けねばならない。

(統括ディレクターおよびキャンパスディレクター)

第60条 統括ディレクターおよびディレクターは、大学の方針、規則、規程等ならびに承認された計画に従って所管業務を管理する責任があり、その業務の遂行に必要な権限を有する。

2 統括ディレクターおよびディレクターは、その職務の遂行に当っては、学長の指導を受け関係部門との協調を常に心掛けねばならない。

(事務システム室長)

第61条 事務システム室長は、大学の方針、規則、規程等ならびに承認された計画に従って所管業務を管理する責任があり、その業務の遂行に必要な権限を有する。

2 事務システム室長は、その職務の遂行に当っては、統括ディレクターの指導を受け関係部門との協調を常に心掛けねばならない。

(社会連携推進室長)

第62条 社会連携推進室長は、大学の方針、規則、規程等ならびに承認された計画に従って所管業務を管理する責任があり、その業務の遂行に必要な権限を有する。

2 社会連携推進室長は、その職務の遂行に当っては、統括ディレクターの指導を受け関係部門との協調を常に心掛けねばならない。

(戦略企画・IR推進室長)

第63条 戦略企画・IR推進室長は、大学の方針、規則、規程等ならびに承認された計画に従って所管業務を管理する責任があり、その業務の遂行に必要な権限を有する。

2 戦略企画・IR推進室長は、その職務の遂行に当っては、統括ディレクターの指導を受け関係部門との協調を常に心掛けねばならない。

(事務局各支援センター長)

第64条 事務局各支援センター長は、大学の方針、規則、規程等ならびに承認された計画に従って所管業務を管理する責任があり、その業務の遂行に必要な権限を有する。

2 事務局各支援センター長は、その職務の遂行に当っては、キャンパスディレクターの指導を受け関係部門との協調を常に心掛けねばならない。

(室長、次長、主幹、主事等)

第65条 室長、次長、主幹、主事等は、大学の方針、規則、規程等ならびに承認された計画に従って所管業務を管理する責任があり、その業務の遂行に必要な権限を有する。

2 室長、次長、主幹、主事等は、その職務の遂行に当っては、キャンパスディレクターならびに直属の支援センター長の指導を受け関係部門との協調を常に心掛けねばならない。

(マネジャー)

第66条 マネジャーは、事務局の方針、規則、規程等ならびに承認された計画に従い、キャンパスディレクターおよび支援センター長の指導の下に、分掌業務の遂行管理する責任を負い、その遂行に必要な権限を有する。

2 マネジャーは、その職務遂行に当って、関係部門との協調を常に心掛けねばならない。
3 グループに統括マネジャーを置く場合は、統括マネジャーが全体を掌握し、指揮する。
4 グループに特命マネジャーを置く場合は、特命マネジャーは、グループのマネジャーの計画の下に業務を遂行する。

(アシスタントマネジャー、チーフ)

第67条 アシスタントマネジャー、チーフは、事務局の方針、規則、規程等ならびに承認された計画に従い、マネジャーの指導の下に分掌業務の遂行管理する責任を負う。

(その他)

第68条 この規程の改定は、理事会の承認を必要とする。

附 則

- 1 この規程は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 この規程は、平成4年4月1日から施行する。
- 3 この規程は、平成5年4月1日から施行する。
- 4 この規程は、平成7年4月1日から施行する。
- 5 この規程は、平成9年4月1日から施行する。
- 6 この規程は、平成11年4月1日から施行する。
- 7 この規程は、平成12年4月1日から施行する。
- 8 この規程は、平成13年4月1日から施行する。
- 9 この規程は、平成14年4月1日から施行する。
- 10 この規程は、平成15年4月1日から施行する。
- 11 この規程は、平成16年4月1日から施行する。
- 12 この規程は、平成17年4月1日から施行する。
- 13 この規程は、平成18年4月1日から施行する。
- 14 この規程は、平成19年4月1日から施行する。
- 15 この規程は、平成20年4月1日から施行する。
- 16 この規程は、平成21年4月1日から施行する。
- 17 この規程は、平成22年4月1日から施行する。
- 18 この規程は、平成24年4月1日から施行する。
- 19 この規程は、平成26年4月1日から施行する。
- 20 この規程は、平成27年4月1日から施行する。

- 2 1 この規程は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 2 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 3 この規程は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 4 この規程は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 5 この規程は、令和3年10月1日から施行する。
- 2 6 この規程は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 7 この規程は、令和5年4月1日から施行する。

資料37

文京学院大学学長選考規程

(目的)

第1条 この規程は、文京学院大学学長の選考及び解任に関する必要な事項を定める。

(任期)

第2条 学長の任期は、4年とする。ただし、再任を妨げない。

2 学長は、その任期満了の場合においても後任者が任命されるまではなおその地位にとどまり、学長の職務を行うものとする。

(選考の時期)

第3条 理事会は、次の各号の一つに該当する場合に学長候補者の選考を行う。

一 学長の任期が満了するとき。

二 学長が辞任を申し出たとき。

三 学長が欠員になったとき。

四 学長が解任されたとき。

2 前項第一号に該当する場合は、学長候補者の選考は任期満了の4か月前までに終了するよう開始するものとする。前項第二号、第三号および第四号に該当する場合は、速やかに選考を開始しなければならない。

(学長の選考)

第4条 理事会が学長候補者を選考し、第6条に規定する学長選考諮問会議の意見を聞いたうえで決定する。

2 理事会は、選考に際して面接または文書にて候補者の所信表明を求めることができる。

(選考基準)

第5条 学長候補者は、人格が高潔で、学識が優れ、かつ、大学全体の教育研究活動を適切かつ効果的に指導・運営することができる能力を有する者でなければならない。

(学長選考諮問会議)

第6条 学長選考諮問会議は、次の委員をもって組織する。

一 学長

二 副学長

三 各学部長および各研究科長

四 大学事務局長（統括ディレクター）

五 法人事務局長

六 理事長が指名する理事2名

2 学長選考諮問会議に議長を置き、学長をもって充てる。学長が次期学長候補者となっている場合は、理事長が議長を指名する。

(学長の任命)

第7条 学長の任命は、理事長が行う。

(学長の解任)

第8条 次の各号の一つに該当すると認められる場合、理事会は学長の解任審議を行う。

一 心身の故障のため職務の遂行に堪えないと認められるとき。

二 職務上の義務に著しく違反したとき。

三 職務の執行が適当でないため法人の業績が悪化し、職務の継続が適当でないと認めるとき。

四 その他学長たるに適しないと認めるとき。

(解任の審査請求)

第 9 条 学長の解任審査請求は、次の各号の一つに該当する場合に行うことができる。

一 前条第二号、第三号および第四号による解任の審査について、学長選考諮問会議の3分の2以上の決議により、解任審査請求があるとき。

二 理事会の3分の2以上の議決により、解任審査の必要を認めたとき。

2 理事会は、前項の請求または議決があったときは、速やかに解任の審議を行う。

(意見陳述機会の付与)

第 10 条 理事会は、解任の審議を行うにあたり、学長に対し、予め意見陳述の機会を付与するものとする。

(解任の決定)

第 11 条 理事会は、第8条各号のいずれかに該当すると認めた場合は、理事総数の3分の2以上の議決をもって学長を解任することができる。ただし、当該議事につきあらかじめ書面をもって意思表示した者は、出席者とみなす。

2 理事が当該学長となっている場合は、当該理事は議決に加わることが出来ない。

(規程の改廃)

第 12 条 この規程の改廃は、理事会が決定する。

附　　則

この規程は、平成20年4月1日より施行する。

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

資料38

学長裁定規程

(趣旨・目的)

第1条 本規則は、文京学院大学の教育研究に関する重要な事項が適切かつ効率的に行われるよう学校教育法第93条第2項第3号において学長が定めるべきものとされた事項を定める。

(該当する教授会)

第2条 本学において学校教育法第93条第2項第3号の教授会に該当する教授会とは、全学教授会、学部教授会、研究科委員会とする。

(学長裁定事項)

第3条 学長裁定事項とは、文京学院大学学則及び大学院学則第10条1)、2)を除き教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聞くことが必要なものとして学長が定めるもので、以下のものとする。

- 1) 学部学則・大学院学則の変更の発議に関する事項
- 2) 教育及び研究に関する重要な事項
- 3) 教育課程に関する事項
- 4) 教員人事の発議に関する事項
- 5) 懲戒による退学処分等の学生に対する不利益処分に関する事項
- 6) 学部・研究科に関する重要な事項
- 7) その他、学校教育法93条2項3号の学長の定める事項

(教授会等の対応)

第4条 前条の項目については、教授会等は専門的観点から遅滞なく審議を行い、その結果を学部長または研究科委員長が学長に報告する。

(改正)

第5条 本規程の改正は、学長が決定するものとする。

- 2) 学長は本規程の改正を行うときには、教授会の意見を聴きその意見を参酌するものとする。また、改正の内容についてあらかじめ理事会に報告するものとする。

附 則

1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。

内部質保証委員会規程

(趣 旨)

- 第 1 条 本規程は、学則第1条の趣旨を踏まえて、国際社会に対して本学の大学教育（学士課程教育・大学院教育）の質の保証を行なっていくための内部作業に当ること、また大学教育の水準を示して本学の大学教育の質の保証、向上および教育・研究の改善を図っていくことを目的とする。
- 2 本学における質の保証、教育・研究の改善に資する自己点検・評価を行なうこととする。

(組 織)

- 第 2 条 内部質保証委員会（以下「委員会」という）は、大学教育全般の質の保証、向上および教育・研究の改善に資する自己点検・評価を掌る組織として、大学各学部から選出した教員、および職員をもって組織する。
- 2 本第2条第1項を遂行するため、委員会は、各学部、各研究科および全学的な委員会に関連する作業部会を設けることができる。委員会はこの運営を取りまとめる。

(委員長)

- 第 3 条 委員会の委員長は、学長が指名する。
- 2 作業部会の長は、本委員会の委員長が指名する。

(招 集)

- 第 4 条 委員会は、原則として、毎月1回の開催とする。
- 2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。
- 3 作業部会は、作業部会長が作業部会ごとに招集し、その議長となる。開催日程は作業部会で計画を立て開催をする。
- 4 作業部会間での合同開催においては、委員会を中心に委員長が合同会議を招集する。また、作業部会長は、他の作業部会との合同会議開催を委員長へ申し出ることができる。

(定足数と議決方法)

- 第 5 条 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。
- 2 委員会の議決は、出席委員の過半数によるものとし、可否同数のときは議長がこれを決定する。

(作業部会)

- 第 6 条 委員会は、第2条に規定する、大学教育全般の質の保証、向上および教育の改善に資する自己・評価を実施するために、次の作業部会を置く。

- (1) 外国語学部作業部会
- (2) 経営学部作業部会
- (3) 人間学部作業部会
- (4) 保健医療技術学部作業部会
- (5) 大学院外国語学研究科作業部会
- (6) 大学院経営学研究科作業部会
- (7) 大学院人間学研究科作業部会
- (8) 大学院保健医療科学研究科作業部会
- (9) 大学院看護学研究科作業部会
- (10) 大学院福祉医療マネジメント研究科作業部会
- (11) 全学教務委員会作業部会
- (12) 全学学生委員会作業部会

- (13) 学生募集戦略作業部会
- (14) 併設校高校連携教育作業部会
- (15) キャリア戦略作業部会
- (16) 研究推進作業部会
- (17) 教育推進作業部会
- (18) 教育施設等作業部会
- (19) 社会連携・社会貢献作業部会
- (20) 広報作業部会
- (21) 教職課程作業部会

2 各作業部会は、他の部会と連携、調整を図りながら部会ごとに自己点検・評価ならびにベンチマークに関する事項を行う。

3 各作業部会の運営に関しては、作業部会を統括する作業部会長に一任する。

(審議事項)

第 7 条 委員会は、次の事項を審議、実行する。

- (1) 大学教育全般の質の保証に関する事項
 - (2) 大学全体の自己点検・自己評価の実施計画・基本方針の策定
 - (3) 大学全体の自己点検・自己評価の結果に基づく分析・検証、改善措置の提言
 - (4) 大学教育の水準を示し、本学の大学教育向上のために教学 I R データに基づく分析・検証、改善措置の提言
 - (5) 作業部会で行った自己点検・自己評価についての分析・検証改善提案
 - (6) 自己点検・自己評価の結果の公表、報告書の作成、教職員への周知
 - (7) 全学 FD・SD の実施に関する事項
 - (8) 外部評価懇談会に関する事項
 - (9) 外部機関による認証評価の受審に関する事項
 - (10) 大学全体の教育関連データを用いた個人情報に関わる研究費等の倫理審査
 - (11) その他、上記に関連する事項
- 2 作業部会は、次の事項を審議、実行する。
- (1) 各作業部会に関する、自己点検・評価の実施計画、基本方針の策定
 - (2) 各作業部会に関する、自己点検・評価の分析、検証ならびに内部質保証委員会への報告
 - (3) 各作業部会に関する、教学 I R データに基づく分析・検証、内部質保証委員会への報告
 - (4) 外部機関による認証評価の受審に関する事項

(外部評価懇談会)

第 8 条 本学の自己点検・評価の結果を外部評価懇談会へ提示し、外部評価委員による評価を受ける。

- 2 内部質保証委員長は、外部評価懇談会を開催し外部評価委員による評価を受ける機会を原則、年1回設定し外部からの評価を受ける。
- 3 外部評価委員からの評価を受けた内容は、内部質保証委員会が点検・評価を行い、委員長が学長（大学運営会議）へ諮る。検証・評価・報告された内容については本学ホームページにて公表する。

(報告及び改善)

第 9 条 委員会ならびに作業部会の重要な審議結果は、委員長が大学運営会議に報告する。

- 2 学長は、前項により委員会が提出した報告書に基づき、改善を要すると認める事項に

については、大学運営会議の議を経て、委員会に対して、次に掲げる事項を含めて適切な措置を取らなければならない。

- (1) 改善の勧告又は命令
- (2) 改善支援の勧告又は命令
- (3) 改善プログラム作成の勧告又は命令
- (4) 改善目標設定の勧告又は命令
- (5) その他改善に有効と思われる措置

3 学長は、前項に掲げる措置のうち、理事会の承認が必要なものについては、承認を得る手続きを取らなければならない。

(情報の公開)

第10条 委員会は自己点検・評価の結果、ならびに、外部評価等を本学ホームページ上で公開をする。

(庶務)

第11条 議事録作成他、委員会及び作業部会に関する事務は、委員長が指名した職員が行う。

(補則)

第12条 その他内部質保証の実施に関する事項は、委員会が必要に応じて定める。

(改正)

第13条 本規程の改正は、大学運営会議の議を経て理事会が決定する。

附 則

- 1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 3 この規程は、令和3年4月1日から施行する。
- 4 この規程は、令和5年4月1日から施行する。
- 5 この規程は、令和6年4月1日から施行する。

資料40

文京学院大学F D・S D規程

(趣 旨)

第 1 条 この規程は、大学設置基準第25条の2及び本学学則第2条に基づいて、文京学院大学教員の授業の内容及び方法の改善、事務職員の業務の向上・改善を図るための組織的な研修及び研究の実施について定める。

教職員は、学士課程教育の実践に直接又は間接に携わり、相互に連携して管理運営等を担うことが求められており、教学経営にあたっては、学士課程教育の実践と管理運営を担う教職員の資質と能力に負うところが極めて大きいという認識に立ちって、教職員の職能開発に着目し、ファカルティ・ディベロップメント（以下、「FD」という。）やスタッフ・ディベロップメント（以下、「SD」という。）について、それぞれの改善充実の方策を含めてこの規定によるものとする。なお、教職員の協働関係の確立という観点からは、FDやSDの場や機会を峻別する必要は無く、目的に応じて柔軟な取組をしていくことが望まれることから、FD・SD規程として、一つの規程で定めるものとする。

(目 的)

第 2 条 FD・SDは、次の各号に掲げる目的のために実施する。

- (1) 教職員が、自立的かつ定期的に自己の教育研究活動や業務を見直すことによって、教職員自身の意識改革を促すとともに、本学の教育研究活動や業務等の活性化とレベルの向上を図る。
- (2) 組織として定期的、総合的に研修を行うことによって、本学全体および学部・学科の教育目標の実現と事務職員の業務課題の改善に資する。
- (3) FD・SDを通じて、社会に対して本学の高等教育機関としての教育研究の質を保証する。
- (4) FDとは、大学および大学院の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究のことをいう。
- (5) SDとは、大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その教職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修のことをいう。ただし、FDに該当する研修は除く。

(対象者)

第 3 条 FDの対象者は、本学常勤の教育職員のうち、教授、准教授、講師、助教および助手とする。事務職員が参加することも可とする。

- 2 SDの対象者は、事務職員のほか、教授等の教員や学長等の大学執行部、技術職員等も含むものとする。
- 3 実務家教員や非常勤教員に対するFDの場や機会の提供についても配慮する。
4. 学生による授業評価の結果を分析・検討したうえで、授業の改善を図るためにFDを実施する場合には、学生の代表者または学外者に参画を求めることができるものとする。

(種 類)

第 4 条 以下の組織でFD・SDを実施する。

- (1) 学校法人が企画実施する教職員研修会（SD研修）
- (2) 学校法人が企画実施する職員研修（初任者研修、一般職員研修、中堅職員研修、管

理職員研修等) (S D研修)

(3) 全学F D委員会が企画運営する全学F D研修

(4) 各学部ごとに企画運営する学部F D研修

(F D組織)

第 5 条 学部F D委員会は、各学部で選出された委員によって組織し、各学部F Dについて企画運営する。委員の中から学部長が指名した1名を委員長とする。

2 学部F D委員会は、少なくとも年2回以上開催する会議において、具体的な研修内容について協議するものとする。

3 全学F D委員会は、学部F D委員会の統合組織として各学部のF D委員会の委員長をもって組織し、学部F D委員会の活動を統括するとともに、全学F Dについて企画運営する。委員の中から学長が指名した1名を委員長とする。

(定期的な研修)

第 6 条 学校法人が企画実施する教職員研修会は、原則として9月、12月の年2回実施し、以下の内容を中心に行う。

(1) 学院の理念・方針に係わる研修等

(2) 教員職員の共通の事項についての研修等

(3) 高等教育機関の環境、情勢など分析・研究に関する研修

(4) 学内の共通の関心事について内部の発表者による研修

(5) 教育の質的転換に関する中央教育審議会答申(平成24年8月28日)に沿った研修

・答申内容の共通理解の形成のための研修

・教育の質的転換に関する他大学の取組事例の紹介に関する研修

・自大学の取組状況や学生の学修時間の現状の共有等に関する研修

(6) その他上記に関連する研修

2 全学F D委員会が企画運営する全学F D研修は、少なくとも年1回以上実施し、以下の内容を中心に行う。

(1) 学部の垣根を越えて全学に必要な教育全般に関する研究

(2) 中教審答申等研究など研究、学士力育成などの研究、AP・CP・DPについての研究

(3) その他上記に関連する研修

3 各学部ごとに企画運営する学部F D研修は、少なくとも年2回以上実施し、以下の内容を中心に行う。

(1) 当該学部に必要な教育方法に関する研修

(2) 学生が主体的に学ぶ学習方法の研究に関する研修

(3) 教育法の事例研究

(4) その他上記に関連する研修

(今後の改善方策)

第 7 条 学士課程教育における三つの方針（学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針）に関する共通理解を確立し、教員各自の教育実践の在り方を主体的に見直す場としてF Dを機能させ、活性化を図る。その際、大学全体、学部・学科等のそれぞれの段階において、F Dに関する効果的な役割・機能分担を図る。F Dの実施内容・方法について、一方向の講義だけに偏るのではなく、双方向的なワークショップ、教員相互の授業参観や相互評価などを積極的に取り入れる。成績評価や学生による授業

評価の結果について、FDの場や機会における議論や分析の対象とし、授業や教育課程、評価方法の組織的な改善に生かしていく。

FDの実施に当たって、多様な参加者へのきめ細かな配慮をする。新任教員の参加に特に配慮し、できるだけすべての新任教員がFDに参加するよう努める。

常勤の研究者教員のみならず、大学の実情に応じ、実務家教員や非常勤教員に対するFDの場や機会の提供についても配慮する。その際、単に授業の改善にとどまらず、上記の三つの方針に関する共通理解を確立することに留意する。テーマに応じて、職員の積極的な参画を促す。

個々の教員の授業改善に向けた努力を支援する体制を整える。教員の求めに応じて授業の実態を診断し、具体的な助言を行うコンサルテーションの充実に努める。優れた教育実践を行う教員に対し、例えば、顕彰や教育方法改善に向けた援助を行うことを検討する。

学生による授業評価の結果を分析・検討したうえで、授業の改善を図るためにFDを実施する場合には、学生の代表者または学外者に参画を求めることができるものとする。その場合、学生又は学外者が参画するFDとは、学生の代表者を教育改善委員として任命している、企業等から授業改善への助言を求めていたりなど、学生の代表者等や学外者が授業改善に係るFD活動に参画し、具体的な改善方策等について学生や学外者の意見を聴取する機会を設けているものとする。

教員の人事・採用に当たっての業績評価について、研究面に偏ることなく、教育面を一層重視する。大学として、自学の教員に求める役割・責務、専門性等を学内外に明らかにする。評価に際しては、教員の自己評価を取り入れる（教員は、学生による授業評価の結果を自らの評価に反映させる）。評価の対象として、例えば、優れた教科書や教材の作成についても積極的に位置付ける。FDに関する積極的な取組についても、適切と認める場合は評価の対象とする。さらに、授業改善に向けた様々な努力や成果を適切に評価する観点から、教員が教育業績の記録を整理・活用する仕組み（いわゆるティーチング・ポートフォリオ）の導入・活用を積極的に検討する。教員の役割の機能分化（教育・研究・社会貢献など）に対応した教員評価の工夫について研究する。大学院修了者を教員として採用する際、審査に当たって、TA（ティーチング・アシスタント）としての教育実績を適切に評価する。

教育研究上の目的に応じて、大学院における大学教員養成機能（プレFD）の強化を図る。教授法のワークショップやTAセミナーなどを積極的に実施する。有効なプログラムを単位認定したり、他大学でのインターンを組織的に実施したりすることも、大学の実情に応じて検討する。

教員と協働する専門性の高い職員の育成に向け、SDの機会と場を充実する。学内でSDの充実を図るとともに、職員の自己啓発（例えば、関連する学会活動や研究会への参加、大学院での学習・資格の取得など）の努力を積極的に奨励・支援するとともに、職能開発の成果を適切に評価する。職場内研修（OJT）として、大学経営への参画を通じ、職員が能力を発揮する機会を確保する。

(改 正)

第8条 本規程の改正は、大学運営会議の議を経て理事会が決定するものとする。

附 則

- 1 この規程は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 この規程は、平成27年4月1日から施行する。
3. この規程は、令和元年7月1日から施行する。
4. この規程は、令和4年4月1日から施行する。
5. この規程は、令和6年4月1日から施行する。